

患者層別化マーカー探索技術の開発
【上位事業：次世代治療・診断実現のための創
薬基盤技術開発事業】

終了時評価報告書

2025年3月

産業構造審議会 イノベーション・環境分科会
イノベーション小委員会 評価ワーキンググループ

はじめに

研究開発の評価は、研究開発活動の効率化・活性化、優れた成果の獲得や社会・経済への還元等を図るとともに、国民に対して説明責任を果たすために、極めて重要な活動であり、このため、経済産業省では、「国の研究開発評価に関する大綱的指針」（平成28年12月21日、内閣総理大臣決定）等に沿った適切な評価を実施すべく「経済産業省研究開発評価指針」（令和4年10月改正）を定め、これに基づいて研究開発の評価を実施している。

経済産業省において実施している「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業」は、個別差を踏まえたより効能の高い治療を実現する「個別化医療」を推進するために、医薬品が奏功する患者と奏功しない患者を層別化できるバイオマーカーの研究開発を行うとともに、新モダリティとして注目される次世代抗体医薬品、核酸医薬品、マイクロバイーム制御医薬品等の研究開発を行っている。これらにより、患者の方々のQOL（Quality of Life）を向上させるとともに、治療の適正化による医療費増加の抑制を図ることを目指し、2015年度より実施しているものである。

今般、省外の評価者より本事業にかかる事業実施の意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋・目標達成状況・マネジメントの妥当性について、経済産業省研究開発評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準を踏まえて評価いただき、その評価結果としてとりまとめられた「患者層別化マーカー探索技術の開発 終了時評価報告書」の原案について、産業構造審議会 イノベーション・環境分科会 イノベーション小委員会評価ワーキンググループ（座長：鈴木 潤 政策研究大学院大学教授）において審議し、了承した。

本書は、これらの評価結果を取りまとめたものである。

2025年3月

産業構造審議会 イノベーション・環境分科会
イノベーション小委員会 評価ワーキンググループ

【本終了時評価の審議経過】

◆ 外部評価者による評価（意見聴取）

【実施時期】

2024年12月2日～2024年12月6日

【外部評価者】

| | |
|-------|--|
| 油谷 浩幸 | 東京大学先端科学研究センター ゲノムサイエンス&メディシン分野 シニアリサーチフェロー |
| 鈴木 由香 | 東北大学病院 臨床研究推進センター 副センター長兼国際部門長 |
| 大門 良仁 | メディップコンサルティング合同会社 代表社員 |
| 津本 浩平 | 東京大学大学院工学系研究科 教授 |
| 松川 泰久 | Veneno Technologies 株式会社 事業開発担当 取締役 |

（五十音順）

◆ 産業構造審議会イノベーション・環境分科会イノベーション小委員会

評価ワーキンググループ（2025年3月7日）

・ 研究開発事業に関する終了時評価報告書案について

【本研究開発評価に係る省内関係者】

| | | | | |
|--------|-------------|---------|---------|-------|
| 事業担当課長 | 商務・サービスグループ | 生物化学産業課 | 課長 | 下田 裕和 |
| 評価担当部署 | イノベーション・環境局 | 研究開発課 | 技術評価調整官 | 大隅 一聡 |

目次

- 【事業情報】 1
- 第1章 外部評価者からの評価結果 4
 - 1. 評点法による評価結果 5
 - 2. 評価コメント 6
 - 3. 評価コメントに対する対処方針・見解 9
- 第2章 評価ワーキンググループの所見とその対処方針 12
- 第3章 評価対象事業に係る資料 16

【事業情報】

| | | | | | | | |
|-----------------|----------------------------------|--|---------|---------|-----------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 事業名 | | 患者層別化マーカー探索技術の開発 【上位事業：次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業】 | | | | | |
| 担当部署 | | 経済産業省 商務・サービスグループ 生物化学産業課 | | | | | |
| 事業期間 | | 2019 年度 ～ 2023 年度 評価時期：事前（2018 年度）、中間（2021 年度）、終了時（2024 年度） | | | | | |
| 予算額 | | 2019 年度 | 2020 年度 | 2021 年度 | 2022 年度 | 2023 年度 | 総額 |
| | （予算） | 14.8 億円 | 16.1 億円 | 16.1 億円 | 12.8 億円 | 10.4 億円 | 70.2 億円 |
| | （執行） | 14.8 億円 | 16.1 億円 | 16.1 億円 | 16.7 億円 (うち調整費:1.3.9 億円) | 13.4 億円 (うち調整費:3.0 億円) | 77.1 億円 (うち調整費:6.9 億円) |
| 上位施策及び KPI | | 健康・医療戦略（令和 2 年 3 月 27 日閣議決定、令和 3 年 4 月 9 日一部変更） ・新モダリティ・先進手法に関する採択課題の割合 75% ・創薬等の効率化に資する先進手法の開発状況 ・創薬等の効率化に資する先進手法の企業導出件数 120 件 【上位施策】産構審の政策評価：政策テーマ 4 ③ 目標①新規サービスの創出・拡大（ヘルスケア・医療・福祉／バイオ）に該当 | | | | | |
| 事業目的 | | 抗がん剤等に使われる医薬品には、患者の体質によっては効果が発揮されたり全く発揮されなかったりするものが多く存在する。治療の観点からも医療費の観点からも、効果がなく副作用の強い医薬品を使用し続けることは全く好ましくなく、適切な薬剤を適切な患者に届けることが重要である。それらの効果の有無については、患者の体内にあるバイオマーカーによって大きく左右される。患者の体内にある薬剤の効果の有無を層別化するマーカーを探索する中で、マーカー探索における基盤技術の開発を行い、個別化医療の推進を目指す。 | | | | | |
| 事業内容 | | 患者の QOL 向上や医療費の削減のため、さらには新薬の臨床試験成功率の向上を目指し、特定の医薬品が有効な患者を予め区別することができるバイオマーカーの探索基盤技術の開発を行い、診断薬／診断機器の開発を推進するために、以下の研究開発課題を実施している。 （研究開発項目①） がん免疫モニタリングによる患者層別化を行う基盤技術の開発 （研究開発項目②） 医療ニーズの高い特定疾患・薬剤に対する患者層別化基盤技術の開発 （研究開発項目③） 潜在疾患マーカー同定による新規創薬基盤技術のフィージビリティ研究 | | | | | |
| アウトカム指標 | | | | アウトカム目標 | | 達成状況 | |
| 短期目標 2023 年度 | 新規マーカーを活用した診断薬／診断機器の PMDA への相談件数 | | | 1 件 | | 5 件（達成） | |

| | | | |
|-----------------|--|----------|---|
| 長期目標 2028 年度 | 層別化マーカー探索技術の開発成果に基づく診断薬／診断機器の薬事申請件数 | 1 件 | 現状 0 件であるが、事業終了後も薬事申請を目指して性能評価試験等を行っているバイオマーカーが 5 件あり、現時点では目標が達成される見込みである。 |
| 短期目標 2023 年度 | 臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数 | 2 件（累計） | 0 件（未達） |
| 長期目標 2028 年度 | | 14 件（累計） | 現状 12 件の予定であり未達見込みである。他方、同一のバイオマーカーであっても複数の異なる癌腫に適用できる場合もあり、目標を達成できる可能性もある。 |
| アウトプット指標 | | アウトプット目標 | 達成状況 |
| 中間目標 2021 年度 | 同定・検証された新規層別化マーカー数 | 3 件 | 9 件（達成） |
| 最終目標 2023 年度 | | 10 件 | 23 件（達成） |
| 中間目標 2021 年度 | 新規バイオマーカー探索技術の開発数 | 4 件 | 5 件（達成） |
| 最終目標 2023 年度 | | 10 件 | 15 件（達成） |
| マネジメント | AMED ・ 契約管理、研究計画の確認、年度初めの予算配分案の作成を行う。予算増減の必要な項目があれば対応を検討し、経済産業省に提案する。 ・ 月 2～4 回程度の進捗会議（PSP0 会議）の主催と、各課題担当者との直接のやり取りを通じて、課題毎の進捗状況の管理を行う。 ・ 事業の成果について事業外に発信する場合（成果報告会等）の企画・開催を行う。 ・ 3 年目に外部有識者によるステージゲート審査（中間評価）を行う。 PS・P0 ・ 連携領域全体の課題を把握し、担当する連携領域の運営や領域間の協力の推進等の高度な専門的調整を行う。 ・ 研究機関や企業とのネットワークを生かし、事業成果の導出先の創出に協力する。 プロジェクトリーダー ・ 採択者の代表として、テーマ毎の研究開発目的と達成度、実用化・事業化の見込みを確認し、目標達成に向けた指導を行う。 ・ PSP0 からの依頼に応じて速やかに各テーマへの指導等を行う。 | | |
| プロジェクトリーダー等 | 一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム（JBIC） 上田 龍三 | | |
| 実施体制 | METI（定額補助）⇒AMED（委託）⇒大学・民間企業等 | | |

| | | |
|--|---------|---|
| | 研究開発項目① | JBIC 上田 龍三 |
| | 研究開発項目② | 神奈川県立がんセンター 笹田 哲朗、国立長寿医療 研究センター 中村 昭範、金沢大学 金子 周一 |
| | 研究開発項目③ | 産業総合研究所 夏目 徹 |

第 1 章 外部評価者からの評価結果

1. 評点法による評価結果

| 評価項目・評価基準 | 各外部評価者の評価 | | | | | 評点 |
|--------------------------|-----------|---|---|---|---|-----|
| 1. 意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋 | | | | | | |
| (1) アウトカム達成までの道筋 | B | B | B | B | A | 2.2 |
| (2) 知的財産・標準化戦略 | A | B | A | B | A | 2.6 |
| 2. 目標及び達成状況 | | | | | | |
| (1) アウトカム目標及び達成見込み | B | B | B | B | B | 2.0 |
| (2) アウトプット目標及び達成状況 | B | B | A | A | A | 2.6 |
| 3. マネジメント | | | | | | |
| (1) 実施体制 | B | B | B | A | A | 2.4 |
| (2) 研究開発計画 | B | B | A | A | A | 2.6 |

| 《判定基準》 |
|-----------------------------------|
| A：評価基準に適合し、非常に優れている。 |
| B：評価基準に適合しているが、より望ましくするための改善点もある。 |
| C：評価基準に一部適合しておらず、改善が必要である。 |
| D：評価基準に適合しておらず、抜本的な改善が必要である。 |

（注）評点は A=3、B=2、C=1、D=0 として事務局が数値に換算・平均して算出。

2. 評価コメント

本項では、外部評価者からの全てのコメントを参考として列記している。

(1) 意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋

【肯定的意見】

- 本プロジェクトが着目したがん免疫治療の層別化マーカー開発は、現在も世界的な課題として研究開発が進められており、テーマ選定として時宜を得たものであった。今後さらに空間解析など先進的解析技術や AI を用いて腫瘍細胞と免疫細胞の両面からの研究開発が望まれる。
- 「アウトカム達成までの道筋」において、中間評価での意見を踏まえ、適切な時期をとらえて見直しをしたことを評価できる。
- 本事業における知財戦略は、産学連携の好例であり、事業会社を巻き込んだバランスの取れた特許出願がなされている。また、競争力の中核を担うバイオマーカーを特許で保護するクローズ戦略と、共通基盤技術を論文等で公開するオープン戦略の組み合わせは、知財による保護と利活用を両立する効果的なモデルとなっている。
- 本事業の意義は高く、その成果に強い期待が寄せられる一方で、KPI 等の設定が難しい内容が包含されていたように思われる。中間評価において、相当の議論がなされ、適切な修正が図られたことも読み取れ、一定の評価が与えられる。幅広いステークホルダーへの情報発信や事業終了後の自立化については、その先端性から困難な面を含むことは否めない。これらについて、不十分であった可能性も高いが、問題点として具体的に強く指摘できるレベルではない、と考える。
- 知的財産・標準化戦略については、臨床関連との強い連携を継続して実施する必要がある、十分な取り組みを目指していたものと評価したい。
- 将来像に向けた、課題設定、技術開発、規制対応、標準化などの取り組みが網羅されており、さらに、官民の役割分担も明確化されていることは評価できる。
- 中間評価の指摘を踏まえて、プレーヤーとなる企業等へのインタビューやその他のアプローチにより、企業や社会のニーズが高い疾患に着目した課題設定が行われた点も高く評価できる。

【問題点・改善点・今後への提言】

- 対象とされたがんや認知症は多様な疾患であり、特定の治療に対する応答性を予測するための症例コホートの準備が一部の課題で十分ではなかった。特に認知症においては薬剤開発競争が激化するなかで製薬企業との連携が進むことが期待される。
- アウトカム目標の見直しについて、層別化マーカー開発→PMDA 相談→薬事申請・承認のタイムラインを踏まえ、PMDA 相談件数を入れたことを評価できる。一方、開発された層別化マーカーについては、ある程度の精度上の信頼度がないとフェーズⅢでの利用は難しいと思われる。今後は、開発のタイムラインを念頭に当初の目標設定を検討すると、より実態に即した評価指標になるのではないかと考える。

- 事業スタート後に新興感染症が進捗を遅延させ、結果として、体制立て直しに時間を要したことはやむを得ない。

(2) 目標及び達成状況

【肯定的意見】

- マーカー開発における特許出願件数においては、国際特許を含めアウトプット目標を達成している。開発した層別化マーカーを用いた臨床試験による創薬の推進が期待される。
- 400件を超える論文発表（うち査読付き論文は85%以上）や103件の特許出願（うち外国出願が76件）は、本事業の研究開発力と国際競争力を強く裏付けているといえ、我が国のグローバル・イノベーション促進に向けての好事例と考える。
- アウトカム指標のなかで、新規マーカーを活用したPMDAへの相談件数、層別化マーカー探索技術の開発成果に基づく薬事申請件数が到達見込みである点を高く評価したい。中間評価時における修正は妥当であったと考えられ、修正値に対する対応は評価できる。
- アウトプットに関しては、全く問題は感じられず、当初目標を上回る達成状況にあり、高く評価できる。
- 特許出願数、論文数、学会等発表数に関しては、十分な成果が上がっていることを示しており、この点も高く評価したい。
- アウトプット目標の設定に当たり、実用化が見込まれるマーカーシーズを持つ研究チームを選択することで目標達成確度を高めており、さらに、派生する新規マーカーも取得できた点が高く評価できる。

【問題点・改善点・今後への提言】

- 複数のテーマにおいて患者検体を用いた実証試験の実施が遅れ、現在も継続中であり、薬事申請に至った案件はない。事業開始早々にコロナ禍に見舞われたことを差し引いても当初のアウトカム目標はやや過大であった。組織検体と血液検体のペア検体など、開発されたマーカーの科学的根拠を検証可能な検体が確保されることも重要と思われる。
- PMDA相談件数を目標に設定したことは適切と考えるが、相談はどのような開発フェーズでも可能であること、いろいろな相談メニューがあることなどを踏まえると、アウトカム目標値（1件）はやや甘い目標であると思われる。実際には、5件の相談を実施したが、目標値の妥当性の観点を踏まえ、B評価とした。
- アウトカム目標の中で、特に臨床試験フェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数については、相当に目標値の設定が難しい側面があり、事業評価時に未達であったとしても、一概に低評価とはできない側面がある。むしろ、事業終了後の継続的な取り組みにより12という目標が最終的に達成されることを期待したい。
- アウトカム目標について、診断薬/診断機器の薬事申請は、診断技術がバリデーション

された後、申請に必要なデータを取得する必要がある、短期目標のフェーズⅢへの応用は時間的問題で目標達成はできなかったことは残念である。しかしながら、開発が進んでいる12件とその適用拡大により長期目標で挽回する可能性があり、期待している。

- 今後の事業においては、診断薬/診断機器の薬事申請のプロセスを考慮したやや足の長い計画が望まれる。

(3) マネジメント

【肯定的意見】

- 研究開発項目①については研究代表者により適切なマネジメントが行われ、当初の目標がほぼ達成された。中間評価時にアウトカム目標についても再設定が行われた。
- 結果はほぼ達成されていることから、実施体制に大きな問題はなかったと理解した。
- 実施体制に関しては、目標達成に向けて適切に構築されており、全く問題は感じられない。研究データの管理・利活用についても、十分配慮がなされている。
- 各研究開発グループの計画と進捗はおおよそ順調であり、目標を完全に達成できたグループに関しては特に高く評価できる。
- 進捗管理は適切に行われていたと判断できる。
- モチベーションを高める仕組み、ステージゲート方式等の設定、運用は妥当であり、問題は全く感じられない。
- マーカー探索に必要な要素技術を体系的に取り入れており、マーカー探索を立体的に組み合わせて進めている点で評価できる。
- ステージゲートによる個別事業の絞り込みと競争を生み出すシステムは、これまでの事業と異なり、目標達成に向けた努力と緊張を生み出すことに成功していると言える。

【問題点・改善点・今後への提言】

- 研究開発項目②の課題においては予算規模も小さいこと、テーマも多様であり、研究事業内での連携も困難であったと思われる。採択時の課題選定、研究体制の構築については検討の余地があると思われた。
- 医療費の高騰が懸念されている日本において、患者層別化マーカー開発の意義は大きいと考える。本事業での研究成果が実用化され、医療に貢献することを祈念する。
- 更なるオープン・クローズ戦略の策定及び実行には、規制当局側で規制を実際に作成した経験豊富な人材（厚労省、PMDA、AMED等の現役又は出身者）と知財人材（製薬企業等の出身者）の密な連携が不可欠。
- 患者層別化マーカーの開発において、バイオロジーに基づくマーカーのコンセプトは不変のものであるが、サンプル採取や測定技術は日々進歩しており、4年の事業期間中にも変化する可能性があり、実用化の壁となりうることが考えられる。特に、ゲノム解析のプラットフォームなどでは遅れている。今回の事業はいい方向で進んでいるこ

とから、今後もバイオマーカーの探索事業のみならず、測定プラットフォームの開発研究への助成を引き続き希望する。

3. 評価コメントに対する対処方針・見解

(1) 意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋

| 問題点・改善点・今後への提言 | 対処方針・見解 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 対象とされたがんや認知症は多様な疾患であり、特定の治療に対する応答性を予測するための症例コホートの準備が一部の課題で十分ではなかった。特に認知症においては薬剤開発競争が激化するなかで製薬企業との連携が進むことが期待される。 | <p>実施機関である国立長寿医療研究センター等において、疾患サンプルの確保や症例コホートの整備を行ったが、パンデミックの影響により、想定した数量の確保には到達できなかった。なお、開発技術について製薬企業が進める認知症コホートと事業外での連携を実施しており、事業終了後においても、製薬企業と連携して開発が進むと想定している。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ● アウトカム目標の見直しについて、層別化マーカー開発→PMDA 相談→薬事申請・承認のタイムラインを踏まえ、PMDA 相談件数を入れたことを評価できる。一方、開発された層別化マーカーについては、ある程度の精度上の信頼度がないとフェーズⅢでの利用は難しいと思われる。今後は、開発のタイムラインを念頭に当初の目標設定を検討すると、より実態に即した評価指標になるのではないかと考える。 | <p>今後、新たな事業を立ち上げる際には、有識者へのヒアリングとともに、開発のタイムラインを念頭において、実態に即した適切なアウトプット、アウトカム目標を設定するよう心がけることとしたい。</p> |

(2) 目標及び達成状況

| 問題点・改善点・今後への提言 | 対処方針・見解 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 複数のテーマにおいて患者検体を用いた実証試験の実施が遅れ、現在も継続中であり、薬事申請に至った案件はない。事業開始早々にコロナ禍に見舞われたことを差し引いても当初のアウトカム目標はやや過大であった。組織検体と血液検体のペア検体など、開発されたマーカーの科学的根拠を検証可能な検体が確保されることも重要と思われる。 ● PMDA 相談件数を目標に設定したことは適切と | <p>今後、新たな事業を立ち上げ、アウトプット、アウトカム目標を設定する際には、有識者へのヒアリング等を通じて、設定しようとする指標の定義を正確に規定するとともに、実態に即した目標件数を設定することを心がけることとしたい。また、長期アウトカム目標については、AMED とともに事業終了後もフォローアップすることにより、目標達成できるように努めたい。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>考えるが、相談はどのような開発フェーズでも可能であること、いろいろな相談メニューがあることなどを踏まえると、アウトカム目標値（1件）はやや甘い目標であると思われる。実際には、5件の相談を実施したが、目標値の妥当性の観点を踏まえ、B評価とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アウトカム目標の中で、特に臨床試験フェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数については、相当に目標値の設定が難しい側面があり、事業評価時に未達であったとしても、一概に低評価とはできない側面がある。むしろ、事業終了後の継続的な取り組みにより12という目標が最終的に達成されることを期待したい。 ● アウトカム目標について、診断薬/診断機器の薬事申請は診断技術がバリデーションされた後、申請に必要なデータを取得する必要がある、短期目標のフェーズⅢへの応用は時間的問題で目標達成はできなかったことは残念である。しかしながら、開発が進んでいる12件とその適用拡大により長期目標で挽回する可能性があり、期待している。 ● 今後の事業においては、診断薬/診断機器の薬事申請のプロセスを考慮したやや足の長い計画が望まれる。 | |
|--|--|

(3) マネジメント

| 問題点・改善点・今後への提言 | 対処方針・見解 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 研究開発項目②の課題においては予算規模も小さいこと、テーマも多様であり、研究事業内での連携も困難であったと思われる。採択時の課題選定、研究体制の構築については検討の余地があると思われる。 ● 更なるオープン・クローズ戦略の策定及び実行には、規制当局側で規制を実際に作成した経験豊富な人材（厚労省、PMDA、AMED等の現役又 | <p>今後、新しい事業を立ち上げる際には、事業全体が有機的に連携し最大の成果を創出できるよう、ヒアリング等の調査を実施し、新規事業における研究開発課題、研究実施体制、予算配分等についてAMEDとも十分に検討した上で、公募することを心がけることとしたい。</p> |

| | |
|---|--|
| は出身者）と知財人材（製薬企業等の出身者）の密な連携が不可欠。 | |
| ● 医療費の高騰が懸念されている日本において、患者層別化マーカー開発の意義は大きいと考える。本事業での研究成果が実用化され、医療に貢献することを祈念する。 | 本事業での患者層別化マーカーにおける研究成果が実用化され、医療に貢献できるよう、事業終了後も、AMED とともに本事業のフォローアップをしていく。 |
| ● 患者層別化マーカーの開発において、バイオロジーに基づくマーカーのコンセプトは不変のものであるが、サンプル採取や測定技術は日々進歩しており、4年の事業期間中にも変化する可能性があり、実用化の壁となりうることが考えられる。特に、ゲノム解析のプラットフォームなどでは遅れている。今回の事業はいい方向で進んでいることから、今後もバイオマーカーの探索事業のみならず、測定プラットフォームの開発研究への助成を引き続き希望する。 | 今後は、事業実施期間中においても、技術変化についてアンテナを立て、実施事業と関連が深く、助成が必要な研究については、実施事業に新たな価値を付加するためにも、場合によっては新たに公募し事業の研究実施体制に追加するなど柔軟な対応を心がけることとしたい。 |

第 2 章 評価ワーキンググループの所見と その対処方針

終了時評価（2024 年度）

| 所見 | 対処方針 |
|--|--|
| 本事業が社会実装につながるためのフォローアップ、サポートスキームはあるか。 | 現状、本事業の後継事業は検討していないが、本事業発の複数の有望なバイオマーカーについては、すでに臨床研究の体制を調整しており、引き続き AMED でフォローアップするとともに、迅速な実用化に結びつくことが可能な他の AMED 事業などがあれば当該事業につなげるなど、本事業での研究成果がいち早く実用化されるようサポートすることとしたい。 |
| プロジェクト設計時に、個別のテーマ設定とアウトプット、アウトカム目標の整合性を考慮すべきではないか。 | 今後、新たな事業を立ち上げ、アウトプット目標、アウトカム目標を設定する際には、有識者等へのヒアリング等を通じて、実態に即した目標を設定するとともに、当該目標の達成のために必要な研究開発項目を、研究開発のタイムライン等を念頭に置きつつ、適切に設定するよう心がけたい。 |

中間評価（2021 年度）

| 所見 | 対処方針 |
|--|---|
| アウトカム目標、特に「臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数」は過大な目標と思えるが、まだ中間段階であり目標を達成するための戦略を練り直して取り進めていただきたい。 | 診断機器メーカー等へのヒアリングを通じて現実的な目標を定めつつも、事業実施者と診断機器メーカー等と目標を達成するための戦略の練り直す場を設け、当該戦略を検討する。 |
| 終了時評価において目標未達の場合は、なぜそのような目標が設定されたのか、事業取り進めに何が不足していたのかが分かるような情報を収集しておいていただきたい。 | 終了時評価において目標未達の場合には、不足していた情報の収集に心がけ、今後の研究開発事業に生かす。 |

事前評価（2018 年度）

| 所見 | 対処方針 |
|--|--|
| <p>＜研究開発の実施・マネジメント体制等の妥当性＞</p> <p>学会、厚生労働省、産業界、ユーザー間の連携と、リーダーの選任を含めたAMED のマネジメント体制が重要なので、十分に留意して進めること。</p> | <p>技術シーズを有するアカデミア、シーズを実用化につなげる診断薬・診断機器メーカー、製薬企業、病院等のユーザー、及び規制当局である厚生労働省・PMDA の意見や考えを反映する形で研究開発計画を策定するとともに、執行にあたっては、AMED を中心としてこれら関係者が密に意見交換を行い、研究開発の方向性を検討する委員会を設けます。また、本事業を統括するリーダーは、規制・技術の両面で知見が深い、産業界への橋渡しの経験を有する等の基準で選定し、その指揮のもと AMED とともに、知財・データ管理を含めた適切なマネジメント体制を構築します。</p> |
| <p>＜研究開発内容及び事業アウトプットの妥当性＞</p> <p>情報共有する場合の患者情報等のデータの取り扱いを慎重に行い、ビッグデータを含めた解析等について留意して進めること。</p> | <p>医療情報の取扱いについては、2018 年 5 月 11 日に施行された「次世代医療基盤法」に基づいて、匿名加工することを前提に、円滑かつ公正な利活用の仕組みが整備されたところであり、本事業では、患者情報を含むデータについて、同法に基づく利活用を必要に応じて検討した上で、インフォームドコンセントの取得、収集・保存・活用、質の確保等に関するデータマネジメントプランを策定し、セキュリティの担保されたデータの共有・解析を実行します。この際、本事業で得られるビッグデータを十分に利活用できるよう、優れたデータ改正技術者等が参画する体制を構築します。</p> |
| <p>＜当省（国）が実施することの必要性＞</p> <p>国際競争力を高めるため、今後のライフサイエンス戦略に有効に貢献できるよう取り進めること。</p> | <p>本事業は、創薬産業全体で層別化マーカー開発を活性化することにより、臨床開発の成功率を高め、同産業の国際競争力向上に寄与するもの</p> |

| 所見 | 対処方針 |
|----|--|
| | <p>であり、マネジメント体制、データの取扱い等の点に留意しながら、研究開発成果の最大化を図り、今後のライフサイエンス戦略において重要な位置づけとなる寄与・貢献を果たすべく取り組んで参ります。</p> |

第 3 章 評価対象事業に係る資料

患者層別化マーカー探索技術の開発
【上位事業：次世代治療・診断実現のための
創薬基盤技術開発事業】
(終了時評価)
評価用資料

2024年11月19日
商務・サービスグループ 生物化学産業課

事業基本情報

1

| | | | | | | |
|------|---|--------|--------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 事業名 | 患者層別化マーカー探索技術の開発 【上位事業：次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業】 | | | | | |
| 事業期間 | 2019年度～ 2023年度 評価時期：事前（2018年度）、中間（2021年度）、終了時（2024年度） | | | | | |
| 予算額 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 総額 |
| (予算) | 14.8億円 | 16.1億円 | 16.1億円 | 12.8億円 | 10.4億円 | 70.2億円 |
| (実績) | 14.8億円 | 16.1億円 | 16.1億円 | 16.7億円 (うち調整費：3.9億円) | 13.4億円 (うち調整費：3.0億円) | 77.1億円 (うち調整費：6.9億円) |
| 実施体制 | METI（定額補助） → AMED（委託） → 大学・民間企業等 | | | | | |
| 事業目的 | <p>抗がん剤等に使われる医薬品には、患者の体質によっては効果が発揮されたり全く発揮されなかったりするものが多く存在する。治療の観点からも医療費の観点からも、効果がなく副作用の強い医薬品を使用し続けることは全く好ましくなく、適切な薬剤を適切な患者に届けることが重要である。それらの効果の有無については、患者の体内にあるバイオマーカーによって大きく左右される。患者体内にある薬剤の効果の有無を層別化するマーカーを探索する中で、マーカー探索における基盤技術の開発を行い、個別化医療の推進を目指す。</p> <p>なお、本事業は、産構審の政策評価：政策テーマ4③ 目標①新規サービスの創出・拡大（ヘルスケア・医療・福祉／バイオ）と関連している。</p> | | | | | |

医療の課題として、効果の高い画期的な治療薬であっても、ニボルマブをはじめとする抗がん剤等には、半分以上の患者には奏効しないものが多く存在することにより、個人の体質に合わない高額な医薬品の繰り返しの投与の結果患者の体力が消耗したり、治療が長期化したりする中で、患者のQOL（Quality of Life）の低下や、労働生産性の低下、医療費の増大につながるというものが、個人差を踏まえたより効能の高い治療を目指す「個別化医療」の実現が求められている。

医薬品が奏功する患者と医薬品が奏効しない患者とを仕分ける技術、すなわち、層別化する技術の開発を行い、各個人に適した治療を提供することができれば、患者のQOL向上に加えて無駄な投薬を削減することも可能となり、医療費の適正化にも資する。

したがって、新規の医薬品と、当該医薬品の効果を判別できる患者層別化マーカーとがセットで開発され、効果を奏すると見込まれる患者に対して適切に医薬品が処方される医療の実現により、患者のQOLが向上するとともに、医療経済が適正化されている状態が、目指すべき将来像である。

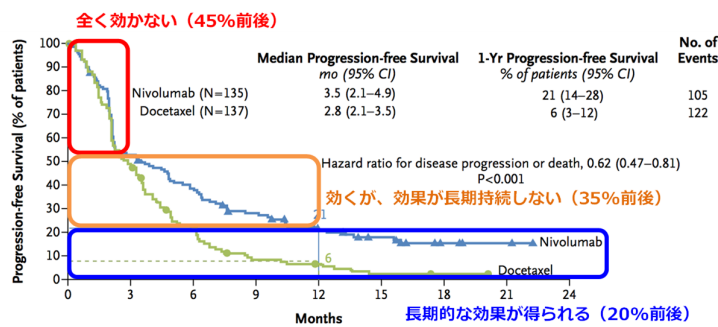


図1.進行非小細胞性肺癌におけるニボルマブの奏効率
出典：Julie.BらによるFigureを経済産業省にて改変

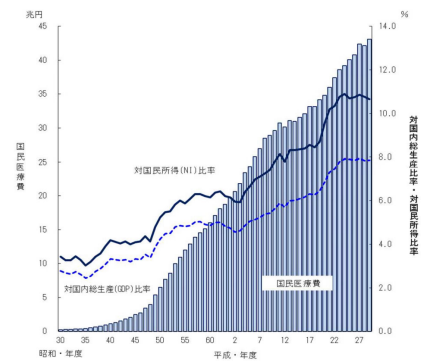
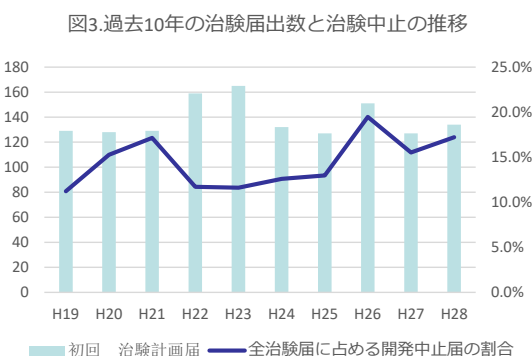


図2.国民医療費等の年次推移
出典：厚生労働省資料

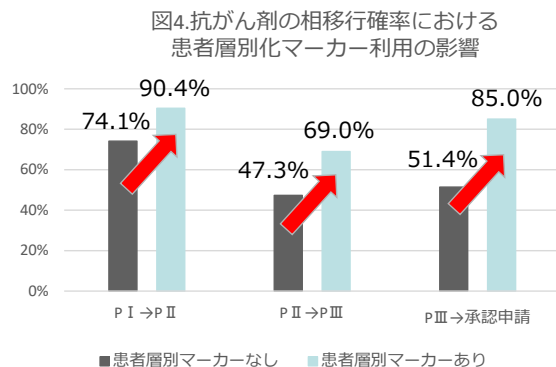
事業の概要（本事業の意義（社会的価値・経済的価値））

患者層別化マーカーは早期臨床試験以降、治療に至るまで利用される重要なバイオマーカー（人の身体の状態を客観的に測定し評価するための指標）である。がん領域臨床試験の各フェーズにおける患者層別化マーカーの効果については、抗がん剤を利用することで各フェーズの移行確率が上昇し、特に企業開発費の約50%を占める後期臨床試験（フェーズⅡ、Ⅲ）での効果が高い結果が報告されている。このことから、患者層別化マーカーは、患者に適した治療の選択と実行が実現できるのみではなく、新薬の探索段階、臨床試験で医薬品の開発効率や成功率の向上に寄与することができる。

個別化医療が最も期待されている抗がん剤の世界の市場規模は約1500億USドル（国内は約2兆円、2022年時点）で、今後も年10%以上の伸びが期待されているところ、本事業の成果として開発される層別化マーカーによって、臨床試験の成功率が高まり、日本発の抗がん剤のシェアを現在より0.1%上昇できれば、少なくとも年200億円を超える経済効果が見込まれる。また、本事業の成果により、抗がん剤の平均奏効率を5%高めることができれば、国内で無駄な医療に使用されている医療費を少なくとも年1000億円削減できる。さらに、がんの罹患に伴う我が国の年間労働損失は最大1兆8千億円と試算されており、本事業の成果として、個々のがん患者に対する効果的な治療が可能となり、上記損失の1%を削減できれば年200億円程度の経済効果を発揮する。



（出典）製薬協Data Book 2017



（出典）医薬産業政策研究所「医薬品開発におけるバイオマーカーの役割」(2013)

- 本事業では、有望マーカーシーズに基づく診断薬・診断機器につなげる研究開発を行い、患者層別化において実用化に至っていないバイオマーカーの探索技術（免疫細胞解析、リン酸解析、取得データの数理解析等）を開発することに特徴を有する。
- 国の他事業は「腫瘍組織」のゲノム解析を行い層別化を行うところ、本事業では人間の「免疫状態」をモニタリングすることで層別化を行うという点で異なる。
- 本事業内の2021年度に終了した課題（新たな肝がんリスクマーカー）では、本事業での研究成果に基づき、他省庁事業（文科省事業「次世代がん医療加速化研究事業」、厚労省事業「肝炎等克服緊急対策研究事業」）での採択につながり、他の固形がんへの応用展開が図られるなど、他省庁事業と連携を行っている。

| 民間・海外の状況 | 国の他事業 | 本事業 |
|--|--|--|
| <div>・疾患サンプルを提供する医療機関や薬事承認に関する規制当局等、多くの機関との連携が必須であり、企業が単独で実施することは困難なため、民間によるマーカー開発は進んでいない。</div> <div>・米国NIHの CIMAC-CIDCは、マスマイトメトリーやRNAシーケンスなど新しい技術とデータ解析により、がん免疫療法の研究と初期段階の臨床試験をサポートするリソースとしての機能が期待されている。</div> <div>・米国ではアルツハイマー病（AD）の予防・治療の対象として重要な軽度認知障害（MCI）などの早期段階を、画像診断やバイオマーカーを用いて精密に評価するADNIが進んでいる。</div> | <div>・腫瘍組織のゲノム解析を行い、患者ごと・細胞ごとのゲノム変異を薬効のマーカーとする「ゲノム医療」に関する事業が大半（文科省事業「ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業」、厚労省事業「ゲノム創薬基盤推進研究事業」）。</div> <div>・腫瘍細胞のゲノム変異に基づく層別化は、腫瘍の発生・進展に大きな影響を与える変異以外の変異では高精度な層別化は困難。</div> | <div>・腫瘍細胞ではなく、人間の免疫状態をモニタリングすることで層別化を行うというコンセプトは従来の事業とは全く異なる。</div> <div>・血液等の体液から診断可能な層別化マーカーが実現すれば、国際競争力を有する低侵襲、低コストな診断薬/診断機器を開発可能。</div> |

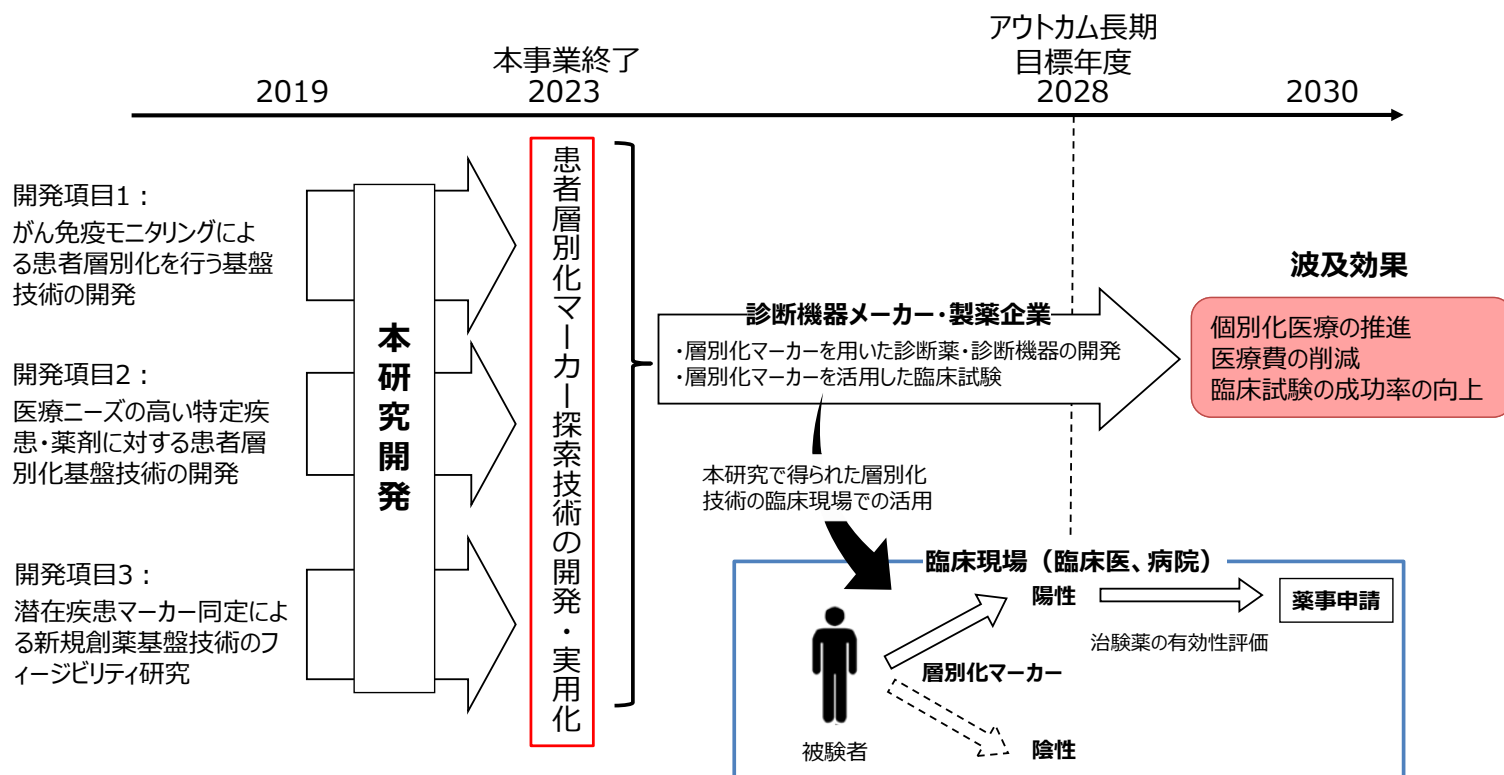
| 前回評価時（令和3年度）の問題点・改善すべき点 | 対処状況 |
|---|---|
| <div>（評価検討会）</div> <div>① バイオマーカーの開発は、個別化医療をはじめとして、医薬品開発等にも有用となるが、どのような疾患について層別化マーカーを探索すべきかを考慮すべきである。現在わが国で開発されている医薬品・診断薬についての取組がなされてきているが、特に病態と治療薬との関係から必要性の高い疾患や治療薬に利用可能な分野を優先して取り組むべきである。</div> <div>② A）シーズ提案、B）協力企業、C）実証機関（臨床研究実施）を各々独立して公募し、経済産業省が主体となってマッチングを行うと、シーズの掘り起こしや新たな産学連携、客観的な技術評価につながり、ユニークな事業展開が見込める。</div> | <div>（前回評価時の対処方針）</div> <div>① 病態と治療薬との関係から必要性の高い疾患や治療薬に注力して開発するバイオマーカーを選定すべきであり、公募前に製薬企業、診断機器企業等に広くヒアリングを実施して開発するバイオマーカーを選定すべきであった。今後、本事業と同様に特定の疾患に対しての開発事業がある際には、事前にプレイヤーとなる企業にヒアリング等を実施し、企業や社会のニーズが高い疾患に着目した課題設定を心がける。</div> <div>② 今後の公募の際には、企業とアカデミア等とがユニークな視点で事業展開ができるよう、シーズ提案、協力企業、実証機関（臨床研究実施）を各々独立して募集し、経済産業省が主体となってマッチングを行うスキームなどの採用も検討する。</div> <div>（現在の対処状況）</div> <div>① 前回と同様ではあるが、今後、本事業と同様に特定の疾患に対しての開発事業がある際には、事前にプレイヤーとなる企業にヒアリング等を実施し、企業や社会のニーズが高い疾患に着目した課題設定を心がける。</div> <div>② 前回と同様ではあるが、今後の公募の際には、企業とアカデミア等とがユニークな視点で事業展開ができるよう、シーズ提案、協力企業、実証機関（臨床研究実施）を各々独立して募集し、経済産業省が主体となってマッチングを行うスキームなどの採用も検討する。</div> |

| 前回評価時（令和3年度）の問題点・改善すべき点 | 対処状況 |
|--|--|
| <p>（評価WG）</p> <p>① アウトカム目標、特に「臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数」は過大な目標と考えるが、まだ中間段階であり目標を達成するための戦略を練り直して取り進めていただきたい。</p> <p>② 終了時評価において目標未達の場合は、なぜそのような目標が設定されたのか、事業取り進めに何が不足していたのかが分かるような情報を収集しておいていただきたい。</p> | <p>（前回評価時の対処方針）</p> <p>① 診断機器メーカー等へのヒアリングを通じて現実的な目標を定めつつも、事業実施者と診断機器メーカー等と目標を達成するための戦略の練り直す場を設け、当該戦略を検討する。</p> <p>② 終了時評価において目標未達の場合には、不足していた情報の収集に心がけ、今後の研究開発事業に生かす。</p> <p>（現在の対処状況）</p> <p>① ご指摘を踏まえて、事業者へのヒアリングを通じて、アウトカム目標を再設定した。（11頁参照）</p> <p>② アウトカム目標の短期目標「臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数 2件」において目標未達（0件）であった。本目標は、患者層別化マーカーが新薬の臨床試験の成功率を高めることができるという知見を元に、医薬品業界全体として層別化マーカーを使用する方向に向かっているかを図るために設定した目標である。①にもあるように前回評価時に目標が高すぎると指摘があったため、目標を再設定したところであるが、それでもなお目標未達となってしまった。コロナ禍や予期せぬトラブル対応のため、事業期間内に目標としていた性能評価試験が完了しなかったことが目標未達の一の原因と考えられる。一方で、事業者は事業終了後においても最終的な実用化を目指して、性能評価試験等を実施している状況であり、アウトカム目標の長期目標「臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数 14件」において目標が達成できることを期待している。</p> |

評価項目 1. 意義・アウトカム(社会実装)達成までの道筋

アウトカム指標

層別化マーカー探索技術の開発成果に基づく診断薬/診断機器の薬事申請件数・・・2028年度末までに1件
臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数（累積）・・・2028年度末までに14件



1-2. 知的財産・標準化戦略

- 効率的・効果的な事業推進のため、医療分野の研究開発及びその環境整備の中核的な役割を担う機関である日本医療研究開発機構（AMED）から民間企業等への委託事業（バイドール適用）として実施。
- AMEDのマネジメント能力を活用し、研究計画の策定・実施及びその結果や、関連事業との連携について報告を受け、相談しながら事業を進める。また、受託者が当初から持つ知的財産権（BIP（Background Intellectual Property））及び本事業で生じた知的財産権（FIP（Foreground Intellectual Property））を含む知的財産に関する取り決めを公募時に応募者に提示することで、実施者に知的財産の管理を明らかにする。成果を活用するユーザーからなるユーザーフォーラムの設置等の事業成果の普及を促す仕組みについても、AMEDと相談しつつ整備する。
- 原則としては、各事業者において、競争力のコアとなる領域を特定し、競争領域については秘匿または特許等の知的財産権で確保すべき部分はクローズ化する一方、層別化マーカー探索技術等の共通基盤技術については、論文等で世界に公開することでオープン化し、一層の技術の高度化が進むようにする。
- 標準化戦略としては、開発された患者層別化マーカー探索技術により同定された新規層別化マーカーの、治療ガイドラインへの掲載や規格化を通じて規制へ関与し、KOL（当該領域で影響力を有する医師）や学会等への働きかけを並行して実施することで、安全・安心の医療を患者に提供する、また製品・サービスの安全性と品質向上の相補的な取組を可能にし、診断薬・治療薬等の市場競争において優位性を確保する。

評価項目 2. 目標及び達成状況

中間評価時の事業概要と評価概要

11

- ※本事業は、中間評価時からアウトカム目標を整理、変更したため、中間評価時のアウトカム目標が現在のものと異なっている。
- ※中間評価時、評価WGにてアウトカム目標が高すぎるとの意見があったため、事業者へのヒアリングを通じて短期目標、最終目標を再設定した。
- ※具体的には、アウトカム指標「層別化マーカー探索技術の開発成果に基づく診断薬/診断機器の薬事申請件数」については、最終目標を1件とし、短期目標として新たに「層別化マーカー探索事業で見出された新規マーカーを活用した診断薬・診断機器について、PMDAへの相談件数 1件」を設定。また、アウトカム指標「臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数」については、短期目標を2件、最終目標を14件とした。

＜中間評価当時のアウトカム指標・目標＞

短期目標：層別化マーカー探索技術の開発成果に基づく診断薬/診断機器の薬事申請件数 1件
最終目標：層別化マーカー探索技術の開発成果に基づく診断薬/診断機器の薬事申請件数 3件
短期目標：臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数 20件
最終目標：臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数 60件

【中間評価当時の問題点・改善すべき点】

アウトカム目標、特に「臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数」は**過大な目標**と考えるが、まだ中間段階であり目標を達成するための戦略を練り直して取り進めていただきたい。

【中間評価当時の対処方針】

診断機器メーカー等へのヒアリングを通じて現実的な目標を定めつつも、事業実施者と診断機器メーカー等と目標を達成するための戦略の練り直す場を設け、当該戦略を検討する。

2-1. アウトカム目標及び達成見込み

評価項目2

12

| アウトカム指標 | | アウトカム目標 | 達成見込み |
|--|-------------------------------------|---------|--|
| 短期目標 2023年度 | 新規マーカーを活用した診断薬・診断機器のPMDAへの相談件数 | 1件 | 5件（達成） |
| 長期目標 2028年度 | 層別化マーカー探索技術の開発成果に基づく診断薬/診断機器の薬事申請件数 | 1件 | 現状0件であるが、事業終了後も薬事申請を目指して引き続き性能評価試験等を続けているバイオマーカーが5件あり、現時点では目標が達成される見込みである。 |
| 短期目標 2023年度 | 臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数 | 2件（累積） | 0件（未達） |
| 長期目標 2028年度 | | 14件（累積） | 現状12件の予定であり未達見込みである。他方、同一のバイオマーカーであっても複数の異なる癌種に適用できる場合もあり、目標を達成できる可能性もある。 |
| <p>（設定理由・根拠）</p> <p>同定された新規層別化マーカーの一部について企業が主体となって診断薬・診断機器として臨床研究がなされ、見出されたマーカー発のシーズから診断薬・診断機器につながることを想定して設定。</p> <p>実用化が見込まれるマーカーシーズを持つ3グループ程度を採択したうえで、それぞれのシーズから薬事申請に繋げることを想定し、「層別化マーカー探索技術の開発成果に基づく診断薬/診断機器の薬事申請件数」を2028年度までに累計3件と設定したが、中間評価時の評価WGにて目標が高すぎるとの意見があったため、事業者へのヒアリングを通じて2028年度までに1件と再設定するとともに、PMDAへの相談により適切な助言を得ることが将来の薬事申請へつながることから、短期目標として「新規マーカーを活用した診断薬・診断機器のPMDAへの相談件数」を1件と再設定。</p> <p>がん領域における新有効成分含有のバイオ医薬品の薬事承認数は年平均30件程度であり、臨床試験のフェーズⅢから薬事承認される医薬品の割合を50%とすると、フェーズⅢに入る医薬品は年60件程度と想定される。事業が終了する2023年度までにフェーズⅢで層別化マーカーを利用する割合を医薬品全体の4%（現時点では1～2%）まで引き上げることを想定し、「臨床試験のフェーズⅢで層別化マーカーを利用した件数」を2023年度までに累計2件、2028年度までに累計14件（60件×0.04(%)×5(年)+2023年度までの累計2件）と設定。</p> <p>（計測方法）</p> <p>事業者からのヒアリングで行う。</p> | | | |

費用対効果

本事業に要した国費総額は約77億円である。
 個別化医療が最も期待されている抗がん剤の世界の市場規模は約1500億USD（国内は約1兆円、2022年時点）で、今後も年10%以上の伸びが期待されているところ、本事業の成果として開発される層別化マーカーによって、臨床試験の成功率が高まり、日本発の抗がん剤のシェアを現在より0.1%上昇できれば、少なくとも年200億円を超える経済効果が見込まれる。また、本事業の成果により、抗がん剤の平均奏効率を5%高めることができれば、国内で無駄な医療に使用されている医療費を少なくとも年1000億円削減できる。さらに、がんの罹患に伴う我が国の年間労働損失は最大1兆8千億円と試算されており、本事業の成果として、個々のがん患者に対する効果的な治療が可能となり、上記損失の1%を削減できれば年200億円程度の経済効果を発揮する。

2-2-1. アウトプット目標及び達成状況

評価項目2

13

| アウトプット指標 | | アウトプット目標 | 達成状況 |
|---|--------------------|----------|---------|
| 中間目標 2021年度 | 同定・検証された新規層別化マーカー数 | 3件 | 9件（達成） |
| 最終目標 2023年度 | | 10件 | 23件（達成） |
| 中間目標 2021年度 | 新規バイオマーカー探索技術の開発数 | 4件 | 5件（達成） |
| 最終目標 2023年度 | | 10件 | 15件（達成） |
| <div>（目標の設定理由・根拠） 実用化が見込まれるマーカーシーズを持つ3グループ程度を採択した場合、それぞれのマーカーシーズを基に、さらに細かく層別化できる新規マーカーが5年間で4個ずつ程度見つかること、及び失敗するケースもあることを想定し（有識者からヒアリングした結果）、2023年度までに累計で10個と設定。臨床検体の収集が進むにつれて、加速化されると予測されるため、各年度で以下の個数を想定（2019年度 0個、2020年度 1個、2021年度 2個、2022年度 3個、2023年度 4個）。</div> <div>特許を取得可能なレベルの探索技術として、例えば免疫細胞解析、リン酸化解析、エピゲノム解析のそれぞれについて、高精度にマーカーを同定する計算技術が2件程度、検体の処理技術を含む解析技術が2件程度開発されることを想定し、2023年度までに累計で10件と設定。</div> <div>（未達成の原因分析と今後の見通し） 上記のとおり、未達成の指標は存在しない。</div> <div>（計測方法） 事業者からのヒアリングにより行う。</div> | | | |

- 血清ラミニンγ2測定診断薬の海外展開を見越したベトナムとの共同研究を行ったほか、ベトナムやモンゴルからの留学生の受け入れており、人材育成につながった。

| 年度 | 論文数 | 発表 | 国内特許出願 | 国外特許出願 | PCT出願 |
|--------|--------------------|------|--------|--------|-------|
| 2019年度 | 50件 (うち査読38件) | 44件 | 0件 | 0件 | 0件 |
| 2020年度 | 81件 (うち査読72件) | 75件 | 3件 | 18件 | 3件 |
| 2021年度 | 123件 (うち査読102件) | 127件 | 3件 | 19件 | 4件 |
| 2022年度 | 71件 (うち査読52件) | 111件 | 10件 | 13件 | 5件 |
| 2023年度 | 95件 (うち査読83件) | 162件 | 11件 | 7件 | 7件 |

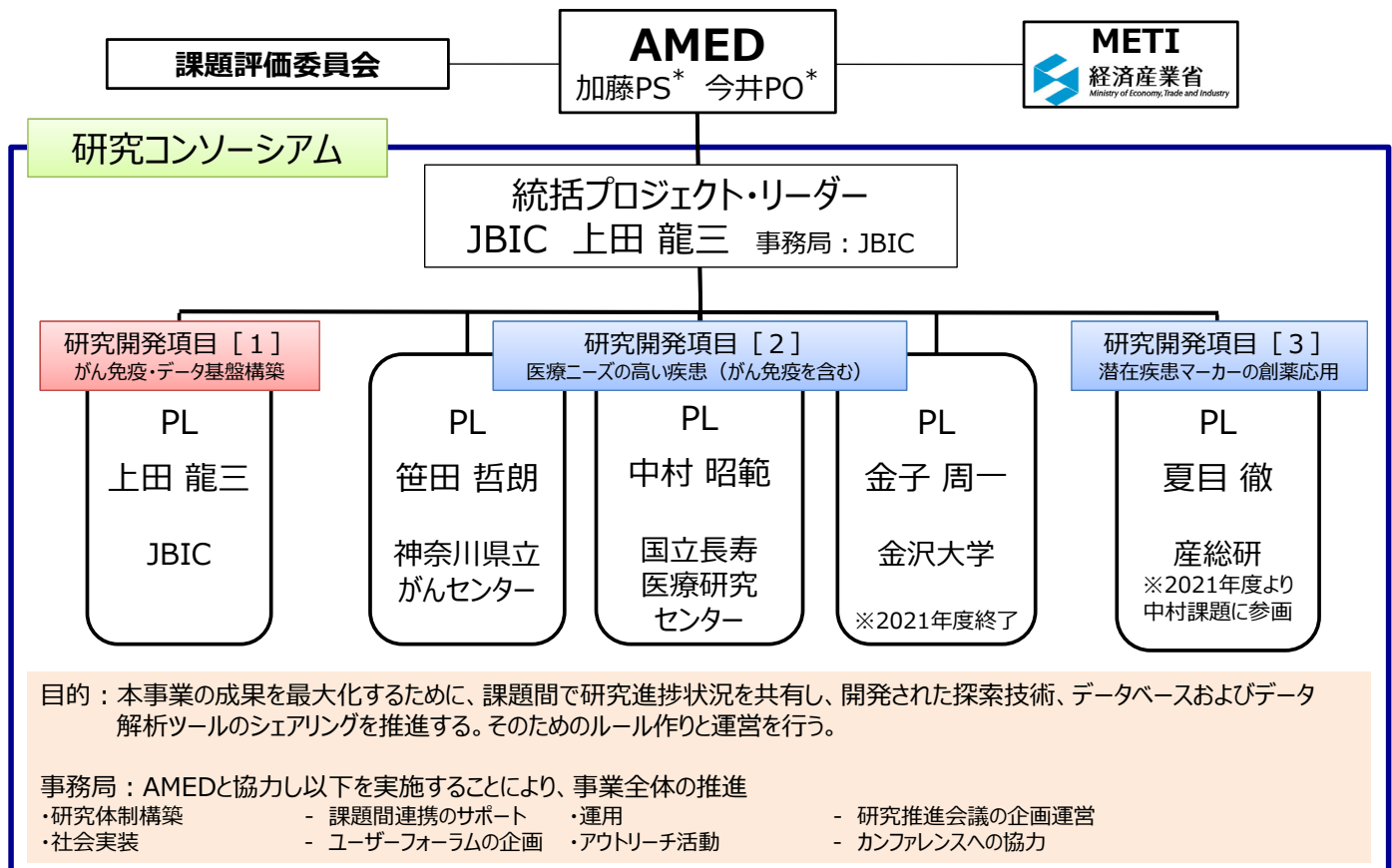
※2024年10月集計時点
※詳細は別添参照

評価項目3. マネジメント

3-1-1. 実施体制

評価項目3

17

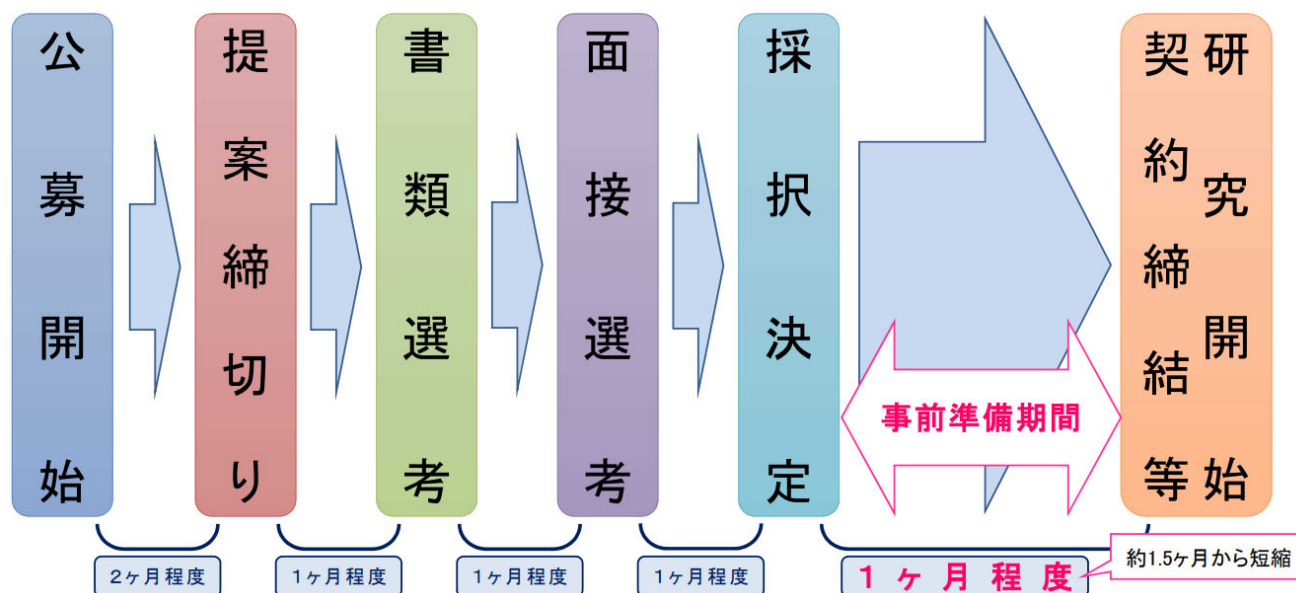


PL:研究開発代表者、JBIC:一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム

※2022年度より、今井PS、久保庭PO、東條POの体制に変更

- 公募はAMEDのHP上での周知の他、研究開発事業に関連のある事業者等には直接コンタクトをとり周知をしている。
- 交付条件については、研究成果の最大化に資する補助率・対象経費等を確認している。
- 採択プロセスは以下のとおり。AMEDでは、最先端の科学、その社会的意義を熟知している方を評価委員として選定し、評価委員に対して利益相反マネジメントを実施することで、評価の公正性及び透明性を担保している。

AMEDにおける公募から研究開始までの標準的なスケジュール

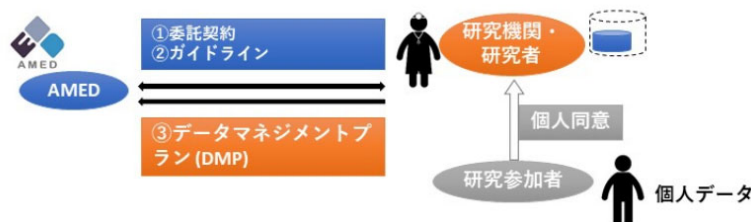


3-1-3. 研究データの管理・利活用

- AMEDでは、①委託契約、②利活用に係るガイドライン、③データマネジメントプランによる研究開発データの利用権限・利用条件の明確化をしている。
- 研究開発データの公開・共有の方法に関して、研究機関は、AMED との間で締結する委託研究開発契約等に基づき、個別の状況又はデータの性質等に応じて、研究開発データごとに、「AMED 研究データ利活用に係るガイドライン」に定める①非制限公開、②制限公開、③制限共有、④非公開のいずれかの方法を選択し、AMED の承認を得た上で当該方法に従って公開・共有を行われる。

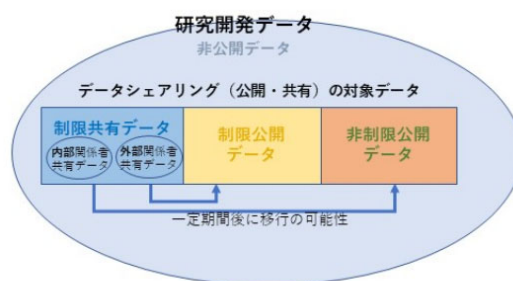
全体の整理

①～③による研究開発データの利用権限・利用条件の明確化



①委託契約における研究開発データの位置づけ

②③により公開・共有の対象となるデータ



3-2-1. 研究開発計画と進捗状況①

免疫応答モニタリングによるがん免疫の全容理解に基づく新規層別化マーカーの開発

研究開発代表者：上田 龍三

- ・ 研究開発項目 2 つは達成率100%を達成、2 つは未達成。
- ・ 免疫チェックポイント阻害剤の治療効果予測が可能な新規の末梢血及びがん局所バイオマーカーを見いだしたとともに、新規の臓器保存液（細胞回収液）を開発・上市する等一部具体的な社会実装に向けた取組が進展した一方、見いだしたバイオマーカーの性能評価試験が事業期間内に完了しなかった。
- ・ 今後は、本事業で開発されたバイオマーカーの性能評価試験が完了し薬事承認・実用化された後、治療ガイドラインへ採用されることに期待。

| | | FY2019 | | | | FY2020 | | | | FY2021 | | | | FY2022 | | | | FY2023 | | | | FY2024 | | | | 達成率 |
|--------------------------------------|----|--------|--|--|--|--------|--|--|--|--------|--|--|--|--------|--|--|--|--------|--|--|--|--------|--|--|--|------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 事業終了 | | | | | | | | |
| 研究開発 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発項目 1 | 予定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 90% |
| がん患者末梢血免疫細胞解析による免疫システム全容の数理的理解 | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発項目 2 | 予定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100% |
| がん局所免疫評価による腫瘍微小環境解析に基づくがん免疫応答調節機構の解明 | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発項目 3 | 予定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 90% |
| 体系的がん免疫データベースとデータ解析ツールとの一体化システム開発 | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発項目 4 | 予定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100% |
| 患者層別マーカー実用化のための診断機器開発と検証 | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

3-2-1. 研究開発計画と進捗状況②

アミノ酸プロファイルによるがん免疫微小環境の代謝リプログラミング評価とがん免疫治療患者層別化技術の開発

研究開発代表者：笹田 哲朗

- 研究開発項目 4 つ全てにおいて、目標未達成。
- 探索的・検証的臨床試験を実施することにより、アミノ酸プロファイルによるICI患者層別化の有用性とそのメカニズムを裏付けるデータを得た一方、コロナ禍により対象患者リクルート遅延により事業期間内の性能検証試験の完了が不可能となったとともに、PMDA相談の結果現状だと薬事申請は困難と判断し、まずは自由診療検査としての実用化を目指すことになった。
- 今後は、薬事承認の可能性を含め薬事戦略・開発戦略を再検討することに期待。

| | | FY2019 | FY2020 | FY2021 | FY2022 | FY2023 | FY2024 | |
|--|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 研究開発 | | | | | | | 事業終了 | 達成率 |
| 研究開発項目 1 | 予定 | | | | | | | 80% |
| アミノ酸プロファイルを用いたICI 治療患者 層別化技術の最適化 | 実績 | | | | | | | |
| 研究開発項目 2 | 予定 | | | | | | | 80% |
| マウス移植腫瘍モデルでのアミノ酸プロファ イルとICI 効果の相関メカニズムの解明 | 実績 | | | | | | | |
| 研究開発項目 3 | 予定 | | | | | | | 80% |
| アミノ酸プロファイルを用いたICI 治療患者 層別化技術の実用化 | 実績 | | | | | | | |
| 研究開発項目 4 | 予定 | | | | | | | 90% |
| 高精度または簡便・低コストなアミノ酸プロ ファイル新規診断薬・医療機器の開発 | 実績 | | | | | | | |

3-2-1. 研究開発計画と進捗状況③

血液バイオマーカーによる認知症の統合的層別化システムの開発

研究開発代表者：中村 昭範

- ・ 研究開発項目 2 つは達成率100%を達成、1 つは未達成。
- ・ 複数のバイオマーカーを組み合わせることで、現状の認知症の患者層別化手法であるPET検査費用を削減できる可能性を見出した一方、血液Aβバイオマーカー測定の段階で複数のトラブルが発生し、事業期間内の性能評価試験の完了が不可能となった。
- ・ 今後は、本事業で開発されたバイオマーカーについての性能評価試験が完了され、薬事承認されることに期待。

| | | FY2019 | FY2020 | FY2021 | FY2022 | FY2023 | FY2024 | |
|---|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 研究開発 | | | | | | | 事業終了 | 達成率 |
| 研究開発項目 1 | 予定 | | | | | | | 85% |
| 血液Aβバイオマーカーの実用化に必要な 前向き研究 | 実績 | | | | | | | |
| 研究開発項目 2 | 予定 | | | | | | | 100% |
| その他の認知症関連の血液バイオマーカー (タウ病理、神経変性、その他の病理等) のシーズの検証及び新規探索 | 実績 | | | | | | | |
| 研究開発項目 3 | 予定 | | | | | | | 100% |
| 複数の血液バイオマーカーによる認知症の 統合的層別化システムの開発 | 実績 | | | | | | | |

3-2-1. 研究開発計画と進捗状況④

新たな肝がん高危険群患者層別化マーカーの開発実用化研究

研究開発代表者：金子 周一

- ・ 研究開発項目 5 つ全てにおいて、達成率100%を達成。
- ・ 特に、慢性C型肝炎患者において、画像診断よりも優れた肝発がんを予測する腫瘍マーカーを発見。
- ・ 今後は、慢性C型肝炎のみならず、その他のB型肝炎、NASH等の肝がん発症リスクを有する患者群において、その発症を予測できるバイオマーカーの同定に期待。

| | | FY2019 | FY2020 | FY2021 | FY2022 | FY2023 | FY2024 | |
|--------------------------------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 研究開発 | | | | | 事業終了 | | | 達成率 |
| 研究開発項目 1 | 予定 | | | | | | | 100% |
| 血清 LG2m を用いた肝発がん予測研究 | 実績 | | | | | | | |
| 研究開発項目 2 | 予定 | | | | | | | 100% |
| LG2m 発現制御機構の解明と新たな肝発がんバイオマーカーの探索 | 実績 | | | | | | | |
| 研究開発項目 3 | 予定 | | | | | | | 100% |
| LG2m のバイオロジー研究 | 実績 | | | | | | | |
| 研究開発項目 4 | 予定 | | | | | | | 100% |
| 血清 LG2 m を測定する診断薬等の開発 | 実績 | | | | | | | |
| 研究開発項目 5 | 予定 | | | | | | | 100% |
| LAMC2 融合遺伝子（LG2m F）を標的としたがん診断治療薬等の開発 | 実績 | | | | | | | |

潜在疾患マーカー同定による新規創薬基盤技術のフュージビリティ研究

研究開発代表者：夏目 徹

- ・ 研究開発項目 7つは達成率100%を達成、1つは未達。
- ・ ロボティクス技術やAI技術等を活用した潜在疾患マーカー同定のための基盤技術の有効性を検証するとともに、当該基盤技術を用いて認知症における新規の潜在疾患マーカー候補の同定に成功した一方、1つの研究開発項目において検証実験を実施した結果、再現性が確認できなかったため研究継続を断念することになった。
- ・ 今後は、確立した基盤技術の実用化に向けて、諸課題に対応するための研究開発や他の疾患への応用に期待。

| | | FY2019 | | FY2020 | | 達成率 | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--|--------|--|--------|--|-----|-----------------------------|----------------------------|----|----|--|--|--|--|--|--|-----|------|
| 研究開発 | | | | 事業終了 | | | 研究開発項目 5 | | 予定 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 脳由来エクソソームの単離・解析技術の確立・検証・標準化 | | 実績 | | | | | | | | 30% | |
| 研究開発項目 1 | | 予定 | | | | | 100% | 研究開発項目 6 | | 予定 | | | | | | | | 100% |
| ロボティクスによるマルチオミクス解析の標準化、プロトコル確立 | | 実績 | | | | | | デジタル画像/デバイスによるバイオマーカー活用の検証 | | 実績 | | | | | | | | |
| 研究開発項目 2 | | 予定 | | | | | 100% | 研究開発項目 7 | | 予定 | | | | | | | | 100% |
| プロテオーム解析 | | 実績 | | | | | | PLR プラットフォーム技術の実装と検証 | | 実績 | | | | | | | | |
| 研究開発項目 3 | | 予定 | | | | | 100% | 研究開発項目 8 | | 予定 | | | | | | | | 100% |
| メタボローム解析 | | 実績 | | | | | | 潜在疾患マーカーに関わる技術調査 | | 実績 | | | | | | | | |
| 研究開発項目 4 | | 予定 | | | | | 100% | | | | | | | | | | | |
| AI 技術による統計解析の確立・検証 | | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | |

3-2-2. 進捗管理

進捗管理の体制

| | 役割 |
|------------------------------------|--|
| A M E D | <ul style="list-style-type: none"> ○契約管理、研究計画の確認、年度初めの予算配分案の作成を行う。予算増減の必要な項目があれば対応を検討し、経済産業省に提案する。 ○月2～4回程度の進捗会議（PSPO会議、PSPOおよび必要に応じて個別課題担当者を招集）の主催と、各課題担当者との直接のやりとりを通じて、課題毎の進捗状況の管理を行う。 ○事業の成果について事業外に発信する場合（成果報告会等）の企画・開催を行う。 |
| プログラムスーパーバイザ（PS） プログラムオフィサー（PO） | <ul style="list-style-type: none"> ○研究開発課題の評価及び業務運営に関して見識を有する専門家を配置。 ○連携分野全体の課題を把握し、担当する連携分野の運営や分野間の協力の推進等の高度な専門的調整を行う。 ○研究機関や企業とのネットワークを生かし、事業成果の導出先の創出に協力する。 ○PS：加藤 紘（山口大学；～2022年7月）、今井 浩三（北海道大学；2022年10月～） ○PO：今井 浩三（北海道大学；～2022年9月）、久保庭 均（バイオインダストリー協会；2022年4月～）、東條 有伸（東京医科歯科大学；2022年4月～） |
| プロジェクトリーダー（PL） | <ul style="list-style-type: none"> ○採択者の代表として、テーマ毎の研究開発目的と達成度、実用化・事業化の見込みを確認し、目標達成に向けた指導を行う。 ○PSPOからの依頼に応じて速やかに各テーマへの指導等を行う。 |

進捗管理スケジュール

| 2018fy | 2019fy | 2020fy | 2021y | 2022fy | 2023fy | 2024fy |
|---------------|---|--------|--|--------|--------|--------------------------------------|
| 8月 経産省事前評価 | 5月 公募開始 8月 採択審査委員会 11月 キックオフ会議 | | 7月 研究開発推進会議 11月 AMED中間評価 1-2月 経産省中間評価 | | | 7月 AMED事後評価※ 10-12月 経産省事後評価 |

※<https://www.amed.go.jp/program/list/11/01/005> r5 jigo.html

- 事業開始3年目にAMEDで行う中間評価をステージゲートとし、KPI（アウトカム・アウトプット）の達成状況を確認する。ステージゲート時点において、アウトプットについて一定の成果が出ており、アウトカムについて達成の目途が立っていれば、事業を継続する。
- 個別事業のアウトプットについて、AMEDにおける中間評価によって達成状況を確認し、成果が著しいものについては増額を検討する。参加者にとっては成果に応じて後半年度の事業規模を拡大できることとなり、モチベーションを高める仕組みとなる。一方で、達成状況が著しく遅れている事業については、研究内容の見直し、あるいは中止も含めて厳正に判断することとしている。

別添参照

別添1. 論文リスト

| 番号 | 年度 | 題名 |
|------|------|---|
| 上田-1 | 2019 | 257.Fukutake M, Ochiai D, Masuda H, Abe Y, Sato Y, Otani T, Sakai S, Aramaki-Hattori N, Shimoda M, Matsumoto T, Miyakoshi K, Kanai Y, Kishi K, Tanaka M. Human amniotic fluid stem cells have a unique potential to accelerate cutaneous wound healing with reduced fibrotic scarring like a fetus. Hum Cell, 2019, 32, 51-63, doi: 10.1007/s13577-018-0222-1. |
| 上田-2 | 2019 | 256.Okuma Y, Morikawa K, Tanaka H, Yokoyama T, Itani H, Horiuchi K, Nakagawa H, Takahashi N, Bessho A, Soejima K, Kishi K, Togashi A, Kanai Y, Ueda K, Horimoto K, Matsutani N, Seki N. Prospective exosome-focused translational research for afatinib study of non-small cell lung cancer patients expressing EGFR (EXTRA study). Thorac Cancer, 2019, 10, 395-400, doi: 10.1111/1759-7714.12923. |
| 上田-3 | 2019 | 255.Takenouchi T, Shimada H, Uehara T, Kanai Y, Takahashi T, Kosaki K. A paradoxical thrombogenic mutation in factor II at the target site of arthropod bleeding toxin. Eur J Med Genet, 2019, 62, 93-5, doi: 10.1016/j.ejmg.2018.06.003. |
| 上田-4 | 2019 | 254.Hatano M, Ojima H, Masugi Y, Tsujikawa H, Hiraoka N, Kanai Y, Shimada K, Shinoda M, Sakamoto M. Steatotic and nonsteatotic scirrhou hepatocellular carcinomas reveal distinct clinicopathological features. Hum Pathol, 2019, 86, 222-32, doi: 10.1016/j.humpath.2018.11.024. |
| 上田-5 | 2019 | 253.Matsuzaki J, Suzuki H, Shimoda M, Mori H, Fukuhara S, Miyoshi S, Masaoka T, Iwao Y, Kanai Y, Kanai T. Clinical and endoscopic findings to assist the early detection of duodenal adenoma and adenocarcinoma. United European Gastroenterol J, 2019, 7, 250-60, doi: 10.1177/2050640618817689. |
| 上田-6 | 2019 | 252.Saito Y, Muramatsu T, Kanai Y, Ojima H, Sukeda A, Hiraoka N, Arai E, Sugiyama Y, Matsuzaki J, Uchida R, Yoshikawa N, Furukawa R, Saito H. Establishment of patient-derived organoids and drug screening for biliary tract carcinoma. Cell Rep, 2019, 27, 1265-76, doi: 10.1016/j.celrep.2019.03.088. |
| 上田-7 | 2019 | 251.Makabe T, Arai E, Hirano T, Ito N, Fukamachi Y, Takahashi Y, Hirasawa A, Yamagami W, Susumu N, Aoki D, Kanai Y. Genome-wide DNA methylation profile of early-onset endometrial cancer: Its correlation with genetic aberrations and comparison with late-onset endometrial cancer. Carcinogenesis, 2019, 40, 611-23, doi: 10.1093/carcin/bgz046. |
| 上田-8 | 2019 | Tsumura K, Arai E, Tian Y, Shibuya A, Nishihara H, Yotani T, Yamada Y, Takahashi Y, Miyagi Maeshima A, Fujimoto H, Nakagawa T, Kume H, Homma Y, Yoshida T, Kanai Y. Establishment of permutation for cancer risk estimation in the urothelium based on genome-wide DNA methylation analysis. Carcinogenesis, 2019, 40, 1308-19, doi: 10.1093/carcin/bgz112. |
| 上田-9 | 2019 | Hayashi T, Sano K, Ichimura T, Kanai Y, Zharhary D, Aburatani H, Yaegashi N, Konishi I. Characteristics of Leiomyosarcoma: Induction of Hematogenous Metastasis by Isolated Uterine Mesenchymal Tumor Stem-like Cells. Anticancer Res, 2020, 40, 1255-65, doi: 10.21873/anticanres.14067. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 上田-10 | 2019 | Shima T, Shimoda M, Shigenobu T, Ohtsuka T, Nishimura T, Emoto K, Hayashi Y, Iwasaki T, Abe T, Asamura H, Kanai Y. Infiltration of tumor-associated macrophages is involved in tumor programmed death-ligand 1 expression in early lung adenocarcinoma. <i>Cancer Sci</i> , 2020, 111, 727-38, doi: 10.1111/cas.14272. |
| 上田-11 | 2019 | Yoshida T, Ri M, Fujinami H, Oshima Y, Tachita T, Marumo Y, Sasaki H, Kinoshita S, Totani H, Narita T, Masaki A, Ito A, Kusumoto S, Ishida T, Komatsu H, Iida S.: Impact of chromosomal abnormalities on the efficacy of lenalidomide plus dexamethasone treatment in patients with relapsed/refractory multiple myeloma. <i>Int J Hematol</i> . 2019 Aug;110(2):228-236. |
| 上田-12 | 2019 | Watanabe M, Kanao K, Suzuki S, Muramatsu H, Morinaga S, Kajikawa K, Kobayashi I, Nishikawa G, Kato Y, Zennami K, Nakamura K, Tsuzuki T, Yoshikawa K, Ueda R, Sumitomo M.: Increased infiltration of CCR4-positive regulatory T cells in prostate cancer tissue is associated with a poor prognosis. <i>Prostate</i> . 2019 Oct;79(14):1658-1665. doi: 10.1002/pros.23890. |
| 上田-13 | 2019 | Maekawa K, Ri M, Nakajima M, Sekine A, Ueda R, Tohkin M, Miyata N, Saito Y, Iida S.: 5 Serum lipidomics for exploring biomarkers of bortezomib therapy in patients with multiple myeloma. <i>Cancer Sci</i> . 2019 Oct;110(10):3267-3274. doi: 10.1111/cas.14178. |
| 上田-14 | 2019 | Sakamoto Y, Fujii K, Murase S, Nakano S, Masaki A, Murase T, Kusumoto S, Iida S, Utsunomiya A, Ueda R, Ishida T, Inagaki H.: CCR4 is rarely expressed in CCR4-mutated T/NK-cell lymphomas other than adult T-cell leukemia/lymphoma. <i>Int J Hematol</i> . 2019 Oct;110(4):389-392. doi: 10.1007/s12185-019-02728-5. |
| 上田-15 | 2019 | Kusumoto S, Tanaka Y, Suzuki R, Watanabe T, Nakata M, Sakai R, Fukushima N, Fukushima T, Moriuchi Y, Itoh K, Nosaka K, Choi I, Sawa M, Okamoto R, Tsujimura H, Uchida T, Suzuki S, Okamoto M, Takahashi T, Sugiura I, Onishi Y, Kohri M, Yoshida S, Kojima M, Takahashi H, Tomita A, Atsuta Y, Maruyama D, Tanaka E, Suzuki T, Kinoshita T, Ogura M, Ueda R, Mizokami M.: Ultra-high sensitivity HBsAg assay can diagnose HBV reactivation following rituximab-based therapy in patients with lymphoma. <i>J Hepatol</i> . 2020 Mar 16:S0168-8278(20)30167-7. doi: 10.1016/j.jhep.2020.03.009. |
| 上田-16 | 2019 | Wong RWJ, Tan TK, Amanda S, Ngoc PCT, Leong WZ, Tan SH, Asamitsu K, Hibi Y, Ueda R, Okamoto T, Ishida T, Iida S, Sanda T.: Feed-forward regulatory loop driven by IRF4 and NF- κ B in adult T-cell leukemia/lymphoma. <i>Blood</i> . 2020 Mar 19;135(12):934-947. doi: 10.1182/blood.2019002639. |
| 上田-17 | 2019 | Saito M, Ishii T, Urakawa I, Matsumoto A, Masaki A, Ito A, Kusumoto S, Suzuki S, Takahashi T, Morita A, Inagaki H, Iida S, and Ishida T.: Robust CD8+ T cell proliferation and diversification after mogamulizumab in patients with adult T cell leukemia-lymphoma. <i>Blood Adv</i> . In press. (corresponding author) |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 上田-18 | 2019 | Nejo T, Matsushita H, Karasaki T, Nomura M, Saito K, Tanaka S, Takayanagi S, Hana T, Takahashi S, Kitagawa Y, Koike T, Kobayashi Y, Nagae G, Yamamoto S, Ueda H, Tatsuno K, Narita Y, Nagane M, Ueki K, Nishikawa R, Aburatani H, Mukasa A, Saito N, Kakimi K. Reduced Neoantigen Expression Revealed by Longitudinal Multiomics as a Possible Immune Evasion Mechanism in Glioma. <i>Cancer Immunol Res.</i> 2019, 7(7):1148-1161. doi: 10.1158/2326-6066.CIR-18-0599. |
| 上田-19 | 2019 | Tatsuno K, Midorikawa Y, Takayama T, Yamamoto S, Nagae G, Moriyama M, Nakagawa H, Koike K, Moriya K, Aburatani H. Impact of AAV2 and Hepatitis B Virus Integration Into Genome on Development of Hepatocellular Carcinoma in Patients with Prior Hepatitis B Virus Infection. <i>Clin Cancer Res.</i> 2019, 25(20):6217-6227. doi: 10.1158/1078-0432.CCR-18-4041. |
| 上田-20 | 2019 | Yamamoto S, Midorikawa Y, Nagae G, Tatsuno K, Ueda H, Moriyama M, Takayama T, Aburatani H. Spatial and temporal expansion of intrahepatic metastasis by molecularly-defined clonality in multiple liver cancers. <i>Cancer Sci.</i> 2020, 111(2):601-609. doi: 10.1111/cas.14282. |
| 上田-21 | 2019 | ICGC/TCGA Pan-Cancer Analysis of Whole Genomes Consortium. Pan-cancer analysis of whole genomes. <i>Nature.</i> 2020, 578(7793):82-93. doi: 10.1038/s41586-020-1969-6. |
| 上田-22 | 2019 | Doi T, Muro K, Ishii H, Kato T, Tsushima T, Takenoyama M, Oizumi S, Gemmoto K, Suna H, Enokitani K, Kawakami T, Nishikawa H, Yamamoto N.: A phase 1 study of the anti-CC chemokine receptor 4 antibody, mogamulizumab, in combination with nivolumab in patients with advanced or metastatic solid tumors. <i>Clin Cancer Res.</i> 25(22):6614-6622. 2019. doi: 10.1158/1078-0432.CCR-19-1090. |
| 上田-23 | 2019 | Tokunaga A, Sugiyama D, Maeda Y, Warner AB, Panageas KS, Ito S, Togashi Y, Sakai C, Wolchok JD, Nishikawa H: Selective inhibition of low-affinity memory CD8+ T cells by corticosteroids. <i>J Exp Med.</i> 216(12):2701-2713 2019 doi: 10.1084/jem.20190738. |
| 上田-24 | 2019 | Minoura K, Abe K, Maeda Y, Nishikawa H, Shimamura T. Model-based cell clustering and population tracking for time-series flow cytometry data. <i>BMC Bioinformatics.</i> 2019 Dec 27;20(Suppl 23):633. doi: 10.1186/s12859-019-3294-3. |
| 上田-25 | 2019 | Umemoto K, Togashi Y, Arai Y, Nakamura H, Takahashi S, Tanegashima T, Kato M, Nishikawa T, Sugiyama D, Kojima M, Gotohda N, Kuwata T, Ikeda M, Shibata T, Nishikawa H. The potential application of PD-1 blockade therapy for early-stage biliary tract cancer. <i>Int Immunol.</i> 2019 Dec 23. pii: dxz080. doi: 10.1093/intimm/dxz080. |
| 上田-26 | 2019 | Tanaka A*, Nishikawa H*, Noguchi S* (*equally contributed), Sugiyama D, Morikawa H, Takeuchi Y, Ha D, Shigeta N, Kitawaki T, Maeda Y, Saito T, Shinohara Y, Kameoka Y, Iwaisako K, Monma F, Ohishi K, Karbach J, Jäger E, Sawada K, Katayama N, Takahashi N, Sakaguchi S.: Tyrosine kinase inhibitor imatinib augments tumor immunity by depleting effector regulatory T cells. <i>J Exp Med.</i> 217(2): 2020. doi: 10.1084/jem.20191009. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 上田-27 | 2019 | Sugiyama E, Togashi Y, Takeuchi Y, Shinya S, Tada Y, Kataoka K, Tane K, Sato E, Ishii G, Goto K, Shintani Y, Okumura M, Tsuboi M, Nishikawa H. Blockade of EGFR improves responsiveness to PD-1 blockade in EGFR-mutated non-small cell lung cancer. Sci Immunol. 2020 Jan 31;5(43). pii: eaav3937. doi: 10.1126/sciimmunol.aav3937. |
| 上田-28 | 2019 | Sasaki A, Nakamura Y, Togashi Y, Kuno H, Hojo H, Kageyama S, Nakamura N, Takashima K, Kadota T, Yoda Y, Mishima S, Sawada K, Kotani D, Kawazoe A, Kuboki Y, Taniguchi H, Kojima T, Doi T, Yoshino T, Yano T, Kobayashi T, Akimoto T, Nishikawa H, Shitara K. Enhanced tumor response to radiotherapy after PD-1 blockade in metastatic gastric cancer. Gastric Cancer. 2020 Mar 16. doi: 10.1007/s10120-020-01058-4. |
| 上田-29 | 2019 | Manabe, T., Yasuda, H., Terai, H., Kagiwada, H., Hamamoto, J., Ebisudani, T., Kobayashi, K., Masuzawa, K., Ikemura, S., Kawada, I., Hayashi, Y., Fukui, K., Horimoto, K., Fukunaga, K., Soejima, K.: IGF2 autocrine-mediated IGF1R activation is a clinically relevant mechanism of osimertinib resistance in lung cancer. MOL CANCER RES, 549-559, 18, 2020. |
| 上田-30 | 2019 | Kagamu H, Kaira K. Efficacy of PD-1 blockade therapy and T cell immunity in lung cancer patients. Immunol Med 2020;43(1):10-5 doi 10.1080/25785826.2019.1710427. |
| 上田-31 | 2019 | Kagamu H, Kitano S, Yamaguchi O, Yoshimura K, Horimoto K, Kitazawa M, et al. CD4(+) T-cell Immunity in the Peripheral Blood Correlates with Response to Anti-PD-1 Therapy. Cancer Immunol Res 2020;8(3):334-44 doi 10.1158/2326-6066.CIR-19-0574. |
| 上田-32 | 2019 | 石田 高司：モガムリズマブ (特集 造血器腫瘍に対する新しい標準治療・開発中の治療薬) -- (成人T細胞白血病(ATL)). 腫瘍内科 = Clinical oncology 24(6), 632-637, 2019-12 |
| 上田-33 | 2019 | 河村大輔; 石川俊平. 病理組織像の類似症例検索システム「Luigi」. Medical Technology 2020, 48 (3), 236-237. |
| 上田-34 | 2019 | 柘植彩花, 西川博嘉：【第I部 免疫学の基礎知識】第20章 免疫チェックポイント阻害薬のすべて. 免疫・炎症病態x治療Update, 173-183, 2019 |
| 上田-35 | 2019 | 福岡聖大、西川博嘉：腫瘍免疫研究の最近の進歩「7. 腸内細菌叢とがん免疫応答」. 医学のあゆみ, 2019.10; 271(2): 187-191 |
| 上田-36 | 2019 | 大植祥弘、西川博嘉：シリーズ がん"最前線"(12-6)「がん免疫療法」. 医療の広場, 2019.11; 59(11): 4-10 |
| 上田-37 | 2019 | 大植祥弘、西川博嘉：20. 異分野先端技術融合による薬剤抵抗性を標的とした革新的複合治療戦略の開発. 医学のあゆみ, 2019.11; 271(9): 888-894 |
| 上田-38 | 2019 | 杉山栄里、西川博嘉：Immunology Q&A 「腫瘍内の遺伝子変異量よりも遺伝子変異の質が免疫チェックポイント阻害剤の効果を予測する上で重要との報告があります。遺伝子変異の質とはどういったもののでしょうか?」. Thoracic Oncology Perspectives(TOP), 2019.11vol.03: 5-6 |
| 上田-39 | 2019 | 川添彬人、西川博嘉：日本から発信されたサイエンスNo.19「PD-1阻害によって増幅したPD-1+制御性T細胞は癌の急速な悪化を促進する」. 消化器病学サイエンス, 3(4): 48(240)-50(242) |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 上田-40 | 2020 | Hayashi T, Sano K, Ichimura T, Kanai Y, Zharhary D, Aburatani H, Yaegashi N, Konishi I. Characteristics of leiomyosarcoma: Induction of hematogenous metastasis by isolated uterine mesenchymal tumor stem-like cells. <i>Anticancer Res.</i> 2020, 40, 1255-65, doi: 10.21873/anticancerres.14067. |
| 上田-41 | 2020 | Sato Y, Ochiai D, Abe Y, Masuda H, Fukutake M, Ikenoue S, Kasuga Y, Shimoda M, Kanai Y, Tanaka M. Prophylactic therapy with human amniotic fluid stem cells improved survival in a rat model of lipopolysaccharide-induced neonatal sepsis through immunomodulation via aggregates with peritoneal macrophages. <i>Stem Cell Res Ther.</i> 2020, 11, 300, doi: 10.1186/s13287-020-01809-1. |
| 上田-42 | 2020 | Makiuchi S, Yoshida H, Ishikawa M, Kojima N, Kanai Y, Kato T. Primary Peritoneal Low-grade Serous Carcinoma in a Patient With Lynch Syndrome: A Case Report. <i>Int J Gynecol Pathol.</i> 2020, 39, 327-32, doi: 10.1097/PGP.0000000000000622. |
| 上田-43 | 2020 | Marumo T, Hoshino J, Kawarazaki W, Nishimoto M, Ayuzawa N, Hirohama D, Yamanouchi M, Ubara Y, Okaneya T, Fujii T, Yuki K, Atsumi Y, Sato A, Arai E, Kanai Y, Shimosawa T, Fujita T. Methylation pattern of urinary DNA as a marker of kidney function decline in diabetes. <i>BMJ Open Diabetes Res Care.</i> 2020, 8, e001501, doi: 10.1136/bmjdr-2020-001501. |
| 上田-44 | 2020 | Watanabe T, Honda T, Totsuka H, Yoshida M, Tanioka M, Shiraishi K, Shimada Y, Arai E, Ushima M, Tamura K, Yoshida T, Kanai Y, Kohno T. Simple prediction model for homologous recombination deficiency in breast cancers in adolescents and young adults. <i>Breast Cancer Res Treat.</i> 2020, 182, 491-502, doi: 10.1007/s10549-020-05716-0. |
| 上田-45 | 2020 | Shima T, Shimoda M, Shigenobu T, Ohtsuka T, Nishimura T, Emoto K, Hayashi Y, Iwasaki T, Abe T, Asamura H, Kanai Y. Infiltration of tumor-associated macrophages is involved in tumor programmed death-ligand 1 expression in early lung adenocarcinoma. <i>Cancer Sci.</i> 2020, 111, 727-38, doi: 10.1111/cas.14272. |
| 上田-46 | 2020 | Tian Y, Arai E, Makiuchi S, Tsuda N, Kuramoto J, Ohara K, Takahashi Y, Ito N, Ojima H, Hiraoka N, Gotoh M, Yoshida T, Kanai Y. Aberrant DNA methylation results in altered gene expression in non-alcoholic steatohepatitis-related hepatocellular carcinomas. <i>J Cancer Res Clin Oncol.</i> 2020, 146, 2461-77, doi: 10.1007/s00432-020-03298-4. |
| 上田-47 | 2020 | Yang M, Arai E, Takahashi Y, Totsuka H, Chiku S, Taniguchi H, Katai H, Sakamoto H, Yoshida T, Kanai Y. Cooperative participation of epigenomic and genomic alterations in the clinicopathological diversity of gastric adenocarcinomas: significance of cell adhesion and epithelial-mesenchymal transition-related signaling pathways. <i>Carcinogenesis.</i> 2020, 41, 1473-84, doi: 10.1093/carcin/bgaa079. |
| 上田-48 | 2020 | Fujimoto M, Arai E, Tsumura K, Yotani T, Yamada Y, Takahashi Y, Maeshima AM, Fujimoto H, Yoshida T, Kanai Y. Establishment of diagnostic criteria for upper urinary tract urothelial carcinoma based on genome-wide DNA methylation analysis. <i>Epigenetics.</i> 2020, 15, 1289-301, doi: 10.1080/15592294.2020.1767374. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 上田-49 | 2020 | Shimoda M, Ohtsuka T, Okada Y, Kanai Y. Stromal metalloproteinases: Crucial contributors to the tumor microenvironment. <i>Pathol Int.</i> 2021, 71, 1-14, doi: 10.1111/pin.13033. |
| 上田-50 | 2020 | Ohmomo H, Komaki S, Ono K, Sutoh Y, Hachiya T, Arai E, Fujimoto H, Yoshida T, Kanai Y, Sasaki M, Shimizu A. Evaluation of clinical formalin-fixed paraffin-embedded tissue quality for targeted-bisulfite sequencing. <i>Pathol Int.</i> 2021, 71, 135-40, doi: 10.1111/pin.13054. |
| 上田-51 | 2020 | Endo Y, Fujimoto M, Ito N, Takahashi Y, Kitago M, Gotoh M, Hiraoka N, Yoshida T, Kitagawa Y, Kanai Y, Arai E. Clinicopathological impacts of DNA methylation alterations on pancreatic ductal adenocarcinoma: prediction of early recurrence based on genome-wide DNA methylation profiling. <i>J Cancer Res Clin Oncol.</i> 2021, 147, 1341-54, doi: 10.1007/s00432-021-03541-6. |
| 上田-52 | 2020 | Hamada K, Tian Y, Fujimoto M, Takahashi Y, Kohno T, Tsuta K, Watanabe SI, Yoshida T, Asamura H, Kanai Y, Arai E. DNA hypermethylation of the ZNF132 gene participates in the clinicopathological aggressiveness of "pan-negative"-type lung adenocarcinomas. <i>Carcinogenesis.</i> 2021, 42, 169-79, doi: 10.1093/carcin/bgaa115. |
| 上田-53 | 2020 | Imaizumi Y, Iwanaga M, Nosaka K, Ishitsuka K, Ishizawa K, Ito S, Amano M, Ishida T, Uike N, Utsunomiya A, Ohshima K, Tanaka J, Tokura Y, Tobinai K, Watanabe T, Uchimaru K, Tsukasaki K; for collaborative investigators. Prognosis of patients with adult T-cell leukemia/lymphoma in Japan: A nationwide hospital-based study. <i>Cancer Sci.</i> 2020 Dec;111(12):4567-4580. |
| 上田-54 | 2020 | Totani H, Shinjo K, Suzuki M, Katsushima K, Mase S, Masaki A, Ito A, Ri M, Kusumoto S, Komatsu H, Ishida T, Inagaki H, Iida S. Autocrine HGF/c-Met signaling pathway confers aggressiveness in lymph node adult T-cell leukemia/lymphoma. <i>Oncogene.</i> 2020 Aug;39(35):5782-5794. |
| 上田-55 | 2020 | Wong R, Tan TK, Amanda S, Ngoc PCT, Leong WZ, Tan SH, Asamitsu K, Hibi Y, Ueda R, Okamoto T, Ishida T, Iida S, Sanda T. Feed-forward Regulatory Loop Driven by IRF4 and NF- κ B in Adult T-cell Leukemia/Lymphoma. <i>Blood.</i> 2020;135(12):934-947. |
| 上田-56 | 2020 | Fujii K, Sakamoto Y, Masaki A, Murase T, Tashiro Y, Yonekura K, Utsunomiya A, Ito A, Kusumoto S, Iida S, Ueda R, Ishida T, Inagaki H. Immunohistochemistry for CCR4 C-terminus predicts CCR4 mutations and mogamulizumab efficacy in adult T-cell leukemia/lymphoma. <i>J Pathol Clin Res.</i> 2021 Jan;7(1):52-60. |
| 上田-57 | 2020 | Saito M, Ishii T, Urakawa I, Matsumoto A, Masaki A, Ito A, Kusumoto S, Suzuki S, Takahashi T, Morita A, Inagaki H, Iida S, and Ishida T. Robust CD8+ T cell proliferation and diversification after mogamulizumab in patients with adult T cell leukemia-lymphoma. <i>Blood Adv.</i> 2020 May 26;4(10):2180-2191. |
| 上田-58 | 2020 | Masaki A, Ishida T, Maeda Y, Ito A, Suzuki S, Narita T, Kinoshita S, Yoshida T, Ri M, Kusumoto S, Komatsu H, Inagaki H, Ueda R, Choi I, Suehiro Y, Iida S. Clinical significance of tryptophan catabolism in follicular lymphoma. <i>Hematol Oncol.</i> 2020 Dec;38(5):742-753. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 上田-59 | 2020 | Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Takeshita M, Iwasaki H, Kentaro Yonekura K, Tashiro Y, Ito A, Kusumoto S, Utsunomiya A, Iida S, Ueda R, Inagaki H. Clinical significance of CD28 gene-related activating alterations in adult T-cell leukemia/lymphoma. <i>Br J Haematol.</i> 2021 Jan;192(2):281-291. |
| 上田-60 | 2020 | Yonekura K, Kusumoto S, Choi I, Nakano N, Ito A, Suehiro Y, Imaizumi Y, Yoshimitsu M, Nosaka K, Ohtsuka E, Hidaka M, Jo T, Sasaki H, Moriuchi Y, Ogata M, Tatetsu H, Ishitsuka K, Miyazaki Y, Ueda R, Utsunomiya A, Ishida T. Mogamulizumab for adult T-cell leukemia-lymphoma: A multicenter prospective observational study. <i>Blood Adv.</i> 2020 Oct 27;4(20):5133-5145. |
| 上田-61 | 2020 | Yamamoto S, Midorikawa Y, Nagae G, Tatsuno K, Ueda H, Moriyama M, Takayama T, Aburatani H. Spatial and temporal expansion of intrahepatic metastasis by molecularly-defined clonality in multiple liver cancers. <i>Cancer Sci.</i> , 2020, 111(2):601-609. |
| 上田-62 | 2020 | Midorikawa Y, Yamamoto S, Tatsuno K, Renard-Guillet C, Tsuji S, Hayashi A, Ueda H, Fukuda S, Fujita T, Katoh H, Ishikawa S, Covington KR, Creighton CJ, Sugitani M, Wheeler DA, Shibata T, Nagae G, Takayama T, Aburatani H. Accumulation of Molecular Aberrations Distinctive to Hepatocellular Carcinoma Progression. <i>Cancer Res.</i> , 2020, 80(18):3810-3819. |
| 上田-63 | 2020 | Shirai K, Nagae G, Seki M, Kudo Y, Kamio A, Hayashi A, Okabe A, Ota S, Tsutsumi S, Fujita T, Yamamoto S, Nakaki R, Kanki Y, Osawa T, Midorikawa Y, Tateishi K, Ichinose M, Aburatani H. TET1 upregulation drives cancer cell growth through aberrant enhancer hydroxymethylation of HMGA2 in hepatocellular carcinoma. <i>Cancer Sci.</i> in press. |
| 上田-64 | 2020 | Umemoto K, Togashi Y, Arai Y, Nakamura H, Takahashi S, Tanegashima T, Kato M, Nishikawa T, Sugiyama D, Kojima M, Gotohda N, Kuwata T, Ikeda M, Shibata T, Nishikawa H. The potential application of PD-1 blockade therapy for early-stage biliary tract cancer. <i>Int Immunol.</i> 2020 Apr 12;32(4):273-281. doi: 10.1093/intimm/dxz080 |
| 上田-65 | 2020 | Bando H, Kotani D, Tsushima T, Hara H, Kadowaki S, Kato K, Chin K, Yamaguchi K, Kageyama S, Hojo H, Nakamura M, Tachibana H, Wakabayashi M, Fukutani M, Togashi Y, Fuse N, Nishikawa H, Kojima T. TENERGY: multicenter phase II study of Atezolizumab monotherapy following definitive Chemoradiotherapy with 5-FU plus Cisplatin in patients with unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma. <i>BMC Cancer.</i> 2020 Apr 20;20(1):336. doi: 10.1186/s12885-020-06716-5. |
| 上田-66 | 2020 | Fukuoka S, Hara H, Takahashi N, Kojima T, Kawazoe A, Asayama M, Yoshii T, Kotani D, Tamura H, Mikamoto Y, Hirano N, Wakabayashi M, Nomura S, Sato A, Kuwata T, Togashi Y, Nishikawa H, Shitara K. Regorafenib Plus Nivolumab in Patients With Advanced Gastric or Colorectal Cancer: An Open-Label, Dose-Escalation, and Dose-Expansion Phase Ib Trial (REGONIVO, EPOC1603). <i>J Clin Oncol.</i> 2020 Jun 20;38(18):2053-2061. doi: 10.1200/JCO.19.03296. Epub 2020 Apr 28. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 上田-67 | 2020 | Murate K, Maeda K, Nakamura M, Sugiyama D, Wada H, Yamamura T, Sawada T, Mizutani Y, Ishikawa T, Furukawa K, Ohno E, Honda T, Kawashima H, Miyahara R, Ishigami M, Nishikawa H, Fujishiro M. Endoscopic Activity and Serum TNF- α Level at Baseline Are Associated With Clinical Response to Ustekinumab in Crohn's Disease Patients. <i>Inflamm Bowel Dis</i> . 2020 Oct 23;26(11):1669-1681. doi: 10.1093/ibd/izaa086. |
| 上田-68 | 2020 | Kumagai S, Togashi Y, Sakai C, Kawazoe A, Kawazu M, Ueno T, Sato E, Kuwata T, Kinoshita T, Yamamoto M, Nomura S, Tsukamoto T, Mano H, Shitara K, Nishikawa H. An Oncogenic Alteration Creates a Microenvironment that Promotes Tumor Progression by Conferring a Metabolic Advantage to Regulatory T Cells. <i>Immunity</i> . 2020 Jul 14;53(1):187-203.e8. doi: 10.1016/j.immuni.2020.06.016. Epub 2020 Jul 7. |
| 上田-69 | 2020 | Kawazoe A, Kuboki Y, Shinozaki E, Hara H, Nishina T, Komatsu Y, Yuki S, Wakabayashi M, Nomura S, Sato A, Kuwata T, Kawazu M, Mano H, Togashi Y, Nishikawa H, Yoshino T. Multicenter phase 1/2 Trial of napabucasin and pembrolizumab in patients with metastatic colorectal cancer (EPOC1503/SCOOP Trial). <i>Clin Cancer Res</i> . 2020 Nov 15;26(22):5887-5894. doi: 10.1158/1078-0432.CCR-20-1803. Epub 2020 Jul 21. |
| 上田-70 | 2020 | Kumagai S, Togashi Y, Kamada T, Sugiyama E, Nishinakamura H, Takeuchi Y, Vitaly K, Itahashi K, Maeda Y, Matsui S, Shibahara T, Yamashita Y, Irie T, Tsuge A, Fukuoka S, Kawazoe A, Udagawa H, Kirita K, Aokage K, Ishii G, Kuwata T, Nakama K, Kawazu M, Ueno T, Yamazaki N, Goto K, Tsuboi M, Mano H, Doi T, Shitara K, Nishikawa H. The PD-1 expression balance between effector and regulatory T cells predicts the clinical efficacy of PD-1 blockade therapies. <i>Nat Immunol</i> . 2020 Nov;21(11):1346-1358. doi: 10.1038/s41590-020-0769-3. Epub 2020 Aug 31. |
| 上田-71 | 2020 | Nagasaki J, Togashi Y, Sugawara T, Itami M, Yamauchi N, Yuda J, Sugano M, Ohara Y, Minami Y, Nakamae H, Hino M, Takeuchi M, Nishikawa H. The critical role of CD4+ T cells in PD-1 blockade against MHC-II-expressing tumors such as classic Hodgkin lymphoma. <i>Blood Adv</i> . 2020 Sep 8;4(17):4069-4082. doi: 10.1182/bloodadvances.2020002098. |
| 上田-72 | 2020 | Abe K, Minoura K, Maeda Y, Nishikawa H, Shimamura T. Model-based clustering for flow and mass cytometry data with clinical information. <i>BMC Bioinformatics</i> . 2020 Sep 17;21(Suppl 13):393. doi: 10.1186/s12859-020-03671-7. |
| 上田-73 | 2020 | Minoura K, Abe K, Maeda Y, Nishikawa H, Shimamura T. CYBERTRACK2.0: zero-inflated model-based cell clustering and population tracking method for longitudinal mass cytometry data. <i>Bioinformatics</i> . 2020 Oct 14:btaa873. doi: 10.1093/bioinformatics/btaa873. Online ahead of print. |
| 上田-74 | 2020 | Chen S, Kiguchi T, Nagata Y, Tamai Y, Ikeda T, Kajiya R, Ono T, Sugiyama D, Nishikawa H, Akatsuka Y. A simple method to distinguish residual elotuzumab from monoclonal paraprotein in immunofixation assays for multiple myeloma patients. <i>Int J Hematol</i> . 2021 Apr;113(4):473-479. doi: 10.1007/s12185-021-03088-9. Epub 2021 Jan 28. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 上田-75 | 2020 | Kashima Y, Togashi Y, Fukuoka S, Kamada T, Irie T, Suzuki A, Nakamura Y, Shitara K, Minamide T, Yoshida T, Taoka N, Kawase T, Wada T, Inaki K, Chihara M, Ebisuno Y, Tsukamoto S, Fujii R, Ohashi A, Suzuki Y, Tsuchihara K, Nishikawa H, Doi T. Potentiality of multiple modalities for single-cell analyses to evaluate the tumor microenvironment in clinical specimens. Sci Rep. 2021 Jan 11;11(1):341. doi: 10.1038/s41598-020-79385-w. |
| 上田-76 | 2020 | Muramatsu T, Noguchi T, Sugiyama D, Kanada Y, Fujimaki K, Ito S, Gotoh M, Nishikawa H. Newly emerged immunogenic neoantigens in established tumors enable hosts to regain immunosurveillance in a T-cell-dependent manner. Int Immunol. 2021 Jan 1;33(1):39-48. doi: 10.1093/intimm/dxaa049. |
| 上田-77 | 2020 | Watanabe S, Goto Y, Yasuda H, Kohno T, Motoi N, Ohe Y, Nishikawa H, Kobayashi SS, Kuwano K, Togashi Y. HSP90 inhibition overcomes EGFR amplification-induced resistance to third-generation EGFR-TKIs. Thorac Cancer. 2021 Mar;12(5):631-642. doi: 10.1111/1759-7714.13839. Epub 2021 Jan 20. |
| 上田-78 | 2020 | Kumagai S, Koyama S, Nishikawa H. Antitumour immunity regulated by aberrant ERBB family signalling. Nat Rev Cancer. 2021 Mar;21(3):181-197. doi: 10.1038/s41568-020-00322-0. Epub 2021 Jan 18. |
| 上田-79 | 2020 | Arakawa A, Ichikawa H, Kubo T, Motoi N, Kumamoto T, Nakajima M, Yonemori K, Noguchi E, Sunami K, Shiraishi K, Kakishima H, Yoshida H, Hishiki T, Kawakubo N, Kuroda T, Kiyokawa T, Yamada K, Yanaihara N, Takahashi K, Okamoto A, Hirabayashi S, Hasegawa D, Manabe A, Ono K, Matsuoka M, Arai Y, Togashi Y, Shibata T, Nishikawa H, Aoki K, Yamamoto N, Kohno T, Ogawa C. Vaginal Transmission of Cancer from Mothers with Cervical Cancer to Infants. N Engl J Med. 2021 Jan 7;384(1):42-50. doi: 10.1056/NEJMoa2030391. |
| 上田-80 | 2020 | Seo W, Jerin C, Nishikawa H. Transcriptional regulatory network for the establishment of CD8+ T cell exhaustion. Exp Mol Med. 2021 Feb;53(2):202-209. doi: 10.1038/s12276-021-00568-0. Epub 2021 Feb 24. |
| 上田-81 | 2020 | Nozaki K, Fujioka Y, Sugiyama D, Ishikawa J, Iida M, Shibata M, Kosugi S, Nishikawa H, Shibayama H. Flow cytometry analysis of peripheral Tregs in patients with multiple myeloma under lenalidomide maintenance. Int J Hematol. 2021 Feb 8. doi: 10.1007/s12185-021-03093-y. Online ahead of print. |
| 上田-82 | 2020 | Inamori K, Togashi Y, Fukuoka S, Akagi K, Ogasawara K, Irie T, Motooka D, Kobayashi Y, Sugiyama D, Kojima M, Shiiya N, Nakamura S, Maruyama S, Suzuki Y, Ito M, Nishikawa H. Importance of lymph node immune responses in MSI-H/dMMR colorectal cancer. JCI Insight. 2021 Mar 23:137365. doi: 10.1172/jci.insight.137365. Online ahead of print. |
| 上田-83 | 2020 | H. Kagamu, S. Kitano, O. Yamaguchi, K. Yoshimura, K. Horimoto, M. Kitazawa, K. Fukui, A. Shiono, A. Mouri, F. Nishihara, Y. Miura, K. Hashimoto, Y. Murayama, K. Kaira and K. Kobayashi: CD4+ T-cell immunity in the peripheral blood correlates with anti-PD-1 antibody therapy response. Cancer Immunology Research, 334-344, 8(3), 2020 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 上田-84 | 2020 | M. Kitazawa, T. Hatta, Y. Sasaki, K. Fukui, K. Ogawa, E. Fukuda, N. Goshima, N. Okita, Y. Yamada, H. Nakagama, T. Natsume, K. Horimoto: Promotion of the Warburg effect is associated with poor benefit from adjuvant chemotherapy in colorectal cancer. <i>Cancer Sci.</i> 111(2): 658–666, 2020 |
| 上田-85 | 2020 | Manabe, T., Yasuda, H., Terai, H., Kagiwada, H., Hamamoto, J., Ebisudani, T., Kobayashi, K., Masuzawa, K., Ikemura, S., Kawada, I., Hayashi, Y., Fukui, K., Horimoto, K., Fukunaga, K., Soejima, K.: IGF2 autocrine-mediated IGF1R activation is a clinically relevant mechanism of osimertinib resistance in lung cancer. <i>MOL CANCER RES</i> , 549-559, 18, 2020. |
| 上田-86 | 2020 | T. Tomonari, Y. Sato, H. Tanaka, T. Tanaka, Y. Fujino, Y. Mitsui, A. Hirao, K. Okamoto, H. Miyamoto, N. Muguruma, H. Kagiwada, M. Kitazawa, K. Fukui, K. Horimoto, T. Takayama: Potential use of lenvatinib for patients with unresectable hepatocellular carcinoma including after treatment with sorafenib: Real-world evidence and in vitro assessment via protein phosphorylation array. <i>Oncotarget</i> , 11(26): 2531–2542, 2020. |
| 上田-87 | 2020 | Zuazo, M., Arasan, H., Bocanegra, A., Chocarro, L., Vera, R., Escors, D., Kagamu, H., and Kochan, G. (2020). Systemic CD4 immunity: A powerful clinical biomarker for PD-L1/PD-1 immunotherapy. <i>EMBO Mol Med</i> 12, e12706. |
| 上田-88 | 2020 | 河村大輔, 石川俊平, AIと病理診断、腫瘍内科 2021, 27, 114-119. |
| 上田-89 | 2020 | 河村大輔, 石川俊平, Deep learning、炎症と免疫 2021, 29, 88-92. |
| 上田-90 | 2020 | Kagamu H. [Antitumor Immunity Evaluated via the Peripheral Blood]. <i>Gan To Kagaku Ryoho</i> . Mar 2021;48(3):315-319. |
| 上田-91 | 2021 | Takai E, Omata W, Totoki Y, Nakamura H, Shiba S, Takahashi A, Namikawa K, Mori T, Yamazaki N, Shibata T, Yachida S. Clonal dynamics of circulating tumor DNA during immune checkpoint blockade therapy for melanoma. <i>Cancer Sci.</i> 2021 Nov;112(11):4748-4757. doi: 10.1111/cas.15088. Epub 2021 Sep 22. |
| 上田-92 | 2021 | Pareira ES, Shibuya M, Ohara K, Nakagawa Y, Kanazawa T, Kamamoto D, Kato Y, Arai E, Aimonio E, Yoshida K, Nishihara H, Kanai Y, Sasaki H. The oligodendroglial histological features are not independently predictive of patient prognosis in lower-grade gliomas. <i>Brain Tumor Pathol.</i> 2022, doi: 10.1007/s10014-022-00426- |
| 上田-93 | 2021 | Hatanaka Y, Kuwata T, Morii E, Kanai Y, Ichikawa H, Kubo T, Hatanaka KC, Sakai K, Nishio K, Fujii S, Okamoto W, Yoshino T, Ochiai A, Oda Y. The Japanese Society of Pathology Practical Guidelines on the handling of pathological tissue samples for cancer genomic medicine. <i>Pathol Int.</i> 2021, 71, 725-40, doi: 10.1111/pin.13170. |
| 上田-94 | 2021 | Matsubara E, Komohara Y, Shinchi Y, Mito R, Fujiwara Y, Ikeda K, Shima T, Shimoda M, Kanai Y, Sakagami T, Suzuki M. CD163-positive cancer cells are a predictor of a worse clinical course in lung adenocarcinoma. <i>Pathol Int.</i> 2021, 71, 666-73, doi: 10.1111/pin.13144. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-95 | 2021 | Ikebata A, Shimoda M, Okabayashi K, Uraoka T, Maehata T, Sugimoto S, Mutaguchi M, Naganuma M, Kameyama K, Yahagi N, Kanai T, Kitagawa Y, Kanai Y, Iwao Y. Demarcated redness associated with increased vascular density/size: a useful marker of flat-type dysplasia in patients with ulcerative colitis. Endosc Int Open. 2021, 9, E552-61, doi: 10.1055/a-1352-2709. |
| 上田-96 | 2021 | Furukawa K, Hatakeyama K, Terashima M, Nagashima T, Urakami K, Ohshima K, Notsu A, Sugino T, Yagi T, Fujiya K, Kamiya S, Hikage M, Tanizawa Y, Bando E, Kanai Y, Akiyama Y, Yamaguchi K. Molecular classification of gastric cancer predicts survival in patients undergoing radical gastrectomy based on project HOPE. Gastric Cancer. 2022, 25, 138-48, doi: 10.1007/s10120-021-01242-0. |
| 上田-97 | 2021 | Tanaka Y, Chiwaki F, Kojima S, Kawazu M, Komatsu M, Ueno T, Inoue S, Sekine S, Matsusaki K, Matsushita H, Boku N, Kanai Y, Yatabe Y, Sasaki H, Mano H. Multi-omic profiling of peritoneal metastases in gastric cancer identifies molecular subtypes and therapeutic vulnerabilities. Nat Cancer. 2021, 2, 962-77, doi: 10.1038/s43018-021-00240-6. |
| 上田-98 | 2021 | Endo Y, Fujimoto M, Ito N, Takahashi Y, Kitago M, Gotoh M, Hiraoka N, Yoshida T, Kitagawa Y, Kanai Y, Arai E. Clinicopathological impacts of DNA methylation alterations on pancreatic ductal adenocarcinoma: prediction of early recurrence based on genome-wide DNA methylation profiling. J Cancer Res Clin Oncol. 2021, 147, 1341-54, doi: 10.1007/s00432-021-03541-6. |
| 上田-99 | 2021 | Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Takeshita M, Iwasaki H, Yonekura K, Tashiro Y, Ito A, Kusumoto S, Iida S, Utsunomiya A, Ueda R, Inagaki H. Clinicopathological significance of CD28 overexpression in adult T-cell leukemia/lymphoma. Cancer Sci. 2022 ;113(1):349-361. |
| 上田-100 | 2021 | Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Takeshita M, Iwasaki H, Kentaro Yonekura K, Tashiro Y, Ito A, Kusumoto S, Utsunomiya A, Iida S, Ueda R, Inagaki H. Clinical significance of CD28 gene-related activating alterations in adult T-cell leukemia/lymphoma. Br J Haematol. 2021 Jan;192(2):281-291. (corresponding author) |
| 上田-101 | 2021 | Fujii K, Sakamoto Y, Masaki A, Murase T, Tashiro Y, Yonekura K, Utsunomiya A, Ito A, Kusumoto S, Iida S, Ueda R, Ishida T, Inagaki H. Immunohistochemistry for CCR4 C-terminus predicts CCR4 mutations and mogamulizumab efficacy in adult T-cell leukemia/lymphoma. J Pathol Clin Res. 2021 Jan;7(1):52-60. (corresponding author) |
| 上田-102 | 2021 | Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Murase T, Takeshita M, Muto R, Iwasaki H, Ito A, Kusumoto S, Nakano N, Tokunaga M, Yonekura K, Tashiro Y, Iida S, Utsunomiya A, Ueda R, Inagaki H. Clinical significance of TP53 mutations in adult T-cell leukemia/lymphoma. Br J Haematol. 2021;195(4):571-584. (corresponding author) |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-103 | 2021 | Nosaka K, Kusumoto S, Nakano N, Choi I, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Hidaka M, Sasaki H, Makiyama J, Ohtsuka E, Jo T, Ogata M, Ito A, Yonekura K, Tatetsu H, Kato T, Kawakita T, Suehiro Y, Ishitsuka K, Iida S, Matsutani T, Utsunomiya A, Ueda R, Ishida T. Clinical significance of the immunoglobulin G heavy-chain repertoire in peripheral blood mononuclear cells of adult T-cell leukaemia-lymphoma patients receiving mogamulizumab. Br J Haematol. 2022 Feb;196(3):629-638. (corresponding author) |
| 上田-104 | 2021 | Tanaka N, Mori S, Kiyotani K, Ota Y, Gotoh O, Kusumoto S, Nakano N, Suehiro Y, Ito A, Choi I, Ohtsuka E, Hidaka M, Nosaka K, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Iida S, Utsunomiya A, Noda T, Nishikawa H, Ueda R, Ishida T. Genomic determinants impacting the clinical outcome of mogamulizumab treatment for adult T-cell leukemia/lymphoma. Haematologica. 2022 Apr 14. doi: 10.3324/haematol.2021.280352. Online ahead of print. (corresponding author) |
| 上田-105 | 2021 | Koyama K, Hayashi G, Ueda H, Ota S, Nagae G, Aburatani H, Okamoto A. Base-resolution analysis of 5-hydroxymethylcytidine by selective oxidation and reverse transcription arrest. Org Biomol Chem. 2021, 19(29):6478-6486. |
| 上田-106 | 2021 | Miyakuni K, Nishida J, Koinuma D, Nagae G, Aburatani H, Miyazono K, Ehata S. Genome-wide analysis of DNA methylation identifies the apoptosis-related gene UQCRH as a tumor suppressor in renal cancer. Mol Oncol. 2021 Jun 16. doi: 10.1002/1878-0261.13040. |
| 上田-107 | 2021 | Fujii Y, Sato Y, Suzuki H, Kakiuchi N, Yoshizato T, Lenis AT, Maekawa S, Yokoyama A, Takeuchi Y, Inoue Y, Ochi Y, Shiozawa Y, Aoki K, Yoshida K, Kataoka K, Nakagawa MM, Nannya Y, Makishima H, Miyakawa J, Kawai T, Morikawa T, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Nagae G, Sanada M, Sugihara E, Sato TA, Nakagawa T, Fukayama M, Ushiku T, Aburatani H, Miyano S, Coleman JA, Homma Y, Solit DB, Kume H, Ogawa S. Molecular classification and diagnostics of upper urinary tract urothelial carcinoma. Cancer Cell 2021, |
| 上田-108 | 2021 | Shirai K, Nagae G, Seki M, Kudo Y, Kamio A, Hayashi A, Okabe A, Ota S, Tsutsumi S, Fujita T, Yamamoto S, Nakaki R, Kanki Y, Osawa T, Midorikawa Y, Tateishi K, Ichinose M, Aburatani H. TET1 upregulation drives cancer cell growth through aberrant enhancer hydroxymethylation of HMGA2 in hepatocellular carcinoma. Cancer Sci. 2021, 112(7):2855-2869. |
| 上田-109 | 2021 | Nagae G, Yamamoto S, Fujita M, Fujita T, Nonaka A, Umeda T, Fukuda S, Tatsuno K, Maejima K, Hayashi A, Kurihara S, Kojima M, Hishiki T, Watanabe K, Ida K, Yano M, Hiyama Y, Tanaka Y, Inoue T, Ueda H, Nakagawa H, Aburatani H, Hiyama E. Genetic and epigenetic basis of hepatoblastoma diversity. Nat Commun. 2021, 12(1):5423. |
| 上田-110 | 2021 | Komura D, Kawabe A, Fukuta K, Sano K, Umezaki T, Koda H, Suzuki R, Tominaga K, Ochi M, Konishi H, Masakado F, Saito N, Sato Y, Onoyama T, Nishida S, Furuya G, Katoh H, Yamashita H, Kakimi K, Seto Y, Ushiku T, Fukayama M, Ishikawa S. Universal encoding of pan-cancer histology by deep texture representations. Cell Rep. 2022 Mar 1;38(9):110424. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-111 | 2021 | Miyai Y, Sugiyama D, Hase T, Asai N, Taki T, Nishida K, Fukui T, Chen-Yoshikawa TF, Kobayashi H, Mii S, Shiraki Y, Hasegawa Y, Nishikawa H, Ando Y, Takahashi M, Enomoto A. Meflin-positive cancer-associated fibroblasts enhance tumor response to immune checkpoint blockade. Life Sci Alliance. 2022 Mar 2;5(6):e202101230. doi: 10.26508/lsa.202101230. Print 2022 Jun. |
| 上田-112 | 2021 | Hasegawa H, Shitara K, Takiguchi S, Takiguchi N, Ito S, Kochi M, Horinouchi H, Kinoshita T, Yoshikawa T, Muro K, Nishikawa H, Suna H, Kodera Y. A multicenter, open-label, single-arm phase I trial of neoadjuvant nivolumab monotherapy for resectable gastric cancer. Gastric Cancer. 2022 Mar 7. doi: 10.1007/s10120-022-01286-w. Online ahead of print |
| 上田-113 | 2021 | Nagasaki J, Inozume T, Sax N, Ariyasu R, Ishikawa M, Yamashita K, Kawazu M, Ueno T, Irie T, Tanji E, Morinaga T, Honobe A, Ohnuma T, Yoshino M, Iwata T, Kawase K, Sasaki K, Hanazawa T, Kochin V, Kawamura T, Matsue H, Hino M, Mano H, Suzuki Y, Nishikawa H, Togashi Y. PD-1 blockade therapy promotes infiltration of tumor-attacking exhausted T cell clonotypes. Cell Rep. 2022 Feb 1;38(5):110331. doi: 10.1016/j.celrep.2022.110331. |
| 上田-114 | 2021 | Kumagai S, Koyama S, Itahashi K, Tanegashima T, Lin YT, Togashi Y, Kamada T, Irie T, Okumura G, Kono H, Ito D, Fujii R, Watanabe S, Sai A, Fukuoka S, Sugiyama E, Watanabe G, Owari T, Nishinakamura H, Sugiyama D, Maeda Y, Kawazoe A, Yukami H, Chida K, Ohara Y, Yoshida T, Shinno Y, Takeyasu Y, Shirasawa M, Nakama K, Aokage K, Suzuki J, Ishii G, Kuwata T, Sakamoto N, Kawazu M, Ueno T, Mori T, Yamazaki N, Tsuboi M, Yatabe Y, Kinoshita T, Doi T, Shitara K, Mano H, Nishikawa H. Lactic acid promotes PD-1 expression in regulatory T cells in highly glycolytic tumor microenvironments. Cancer Cell. 2022 Feb 14;40(2):201-218.e9. doi: 10.1016/j.ccell.2022.01.001. Epub 2022 Jan 28. |
| 上田-115 | 2021 | Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Togashi Y, Koyama S, Kotani D, Fukuoka S, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Taketomi A, Uemura M, Kato T, Fukui M, Wakabayashi M, Nakamura N, Kojima M, Kawachi H, Kirsch R, Yoshida T, Suzuki Y, Sato A, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T. Preoperative Chemoradiotherapy plus Nivolumab before Surgery in Patients with Microsatellite Stable and Microsatellite Instability-High Locally Advanced Rectal Cancer. Clin Cancer Res. 2022 Jan 21. doi: 10.1158/1078-0432.CCR-21-3213. Online ahead of print. |
| 上田-116 | 2021 | Aokage K, Tsuboi M, Zenke Y, Horinouchi H, Nakamura N, Ishikura S, Nishikawa H, Kumagai S, Koyama S, Kanato K, Kataoka T, Wakabayashi M, Fukutani M, Fukuda H, Ohe Y, Watanabe SI; Lung Cancer Surgical Study Group of the Japan Clinical Oncology Group. Study protocol for JCOG1807C (DEEP OCEAN): a interventional prospective trial to evaluate the efficacy and safety of durvalumab before and after operation or durvalumab as maintenance therapy after chemoradiotherapy against superior sulcus non-small cell lung cancer. Jpn J Clin Oncol. 2022 Jan 7;hyab208. doi: 10.1093/jjco/hyab208. Online ahead of print. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-117 | 2021 | Maeda Y, Wada H, Sugiyama D, Saito T, Irie T, Itahashi K, Minoura K, Suzuki S, Kojima T, Kakimi K, Nakajima J, Funakoshi T, Iida S, Oka M, Shimamura T, Doi T, Doki Y, Nakayama E, Ueda R, Nishikawa H. Depletion of central memory CD8 + T cells might impede the antitumor therapeutic effect of Mogamulizumab. <i>Nat Commun.</i> 2021 Dec 14;12(1):7280. doi: 10.1038/s41467-021-27574-0. |
| 上田-118 | 2021 | Fujioka Y, Sugiyama D, Matsumura I, Minami Y, Miura M, Atsuta Y, Ohtake S, Kiyoi H, Miyazaki Y, Nishikawa H, Takahashi N. Regulatory T Cell as a Biomarker of Treatment-Free Remission in Patients with Chronic Myeloid Leukemia. <i>Cancers (Basel).</i> 2021 Nov 24;13(23):5904. doi: 10.3390/cancers13235904. |
| 上田-119 | 2021 | Saito T, Kurose K, Kojima T, Funakoshi T, Sato E, Nishikawa H, Nakajima J, Seto Y, Kakimi K, Iida S, Doki Y, Oka M, Ueda R, Wada H. Phase Ib study on the humanized anti-CCR4 antibody, KW-0761, in advanced solid tumors. <i>Nagoya J Med Sci.</i> 2021 Nov;83(4):827-840. doi: 10.18999/nagjms.83.4.827. |
| 上田-120 | 2021 | Takeuchi Y, Tanegashima T, Sato E, Irie T, Sai A, Itahashi K, Kumagai S, Tada Y, Togashi Y, Koyama S, Akbay EA, Karasaki T, Kataoka K, Funaki S, Shintani Y, Nagatomo I, Kida H, Ishii G, Miyoshi T, Aokage K, Kakimi K, Ogawa S, Okumura M, Eto M, Kumanogoh A, Tsuboi M, Nishikawa H. Highly immunogenic cancer cells require activation of the WNT pathway for immunological escape. <i>Sci Immunol.</i> 2021 Nov 12;6(65):eabc6424. doi: 10.1126/sciimmunol.abc6424. Epub 2021 Nov 12. |
| 上田-121 | 2021 | Kawashima S, Inozume T, Kawazu M, Ueno T, Nagasaki J, Tanji E, Honobe A, Ohnuma T, Kawamura T, Umeda Y, Nakamura Y, Kawasaki T, Kiniwa Y, Yamasaki O, Fukushima S, Ikehara Y, Mano H, Suzuki Y, Nishikawa H, Matsue H, Togashi Y. TIGIT/CD155 axis mediates resistance to immunotherapy in patients with melanoma with the inflamed tumor microenvironment. <i>J Immunother Cancer.</i> 2021 Nov;9(11):e003134. doi: 10.1136/jitc-2021-003134. |
| 上田-122 | 2021 | Kitahara M, Shigeno Y, Shime M, Matsumoto Y, Nakamura S, Motooka D, Fukuoka S, Nishikawa H, Benno Y. <i>Vescimonas</i> gen. nov., <i>Vescimonas coprocola</i> sp. nov., <i>Vescimonas fastidiosa</i> sp. nov., <i>Pusillimonas</i> gen. nov. and <i>Pusillimonas faecalis</i> sp. nov. isolated from human faeces. <i>Int J Syst Evol Microbiol.</i> 2021 Nov;71(11). doi: 10.1099/ijsem.0.005066. |
| 上田-123 | 2021 | Watanabe K, Nishikawa H. Engineering strategies for broad application of TCR-T- and CAR-T-cell therapies. <i>Int Immunol.</i> 2021 Oct 29;33(11):551-562. doi: 10.1093/intimm/dxab052. |
| 上田-124 | 2021 | Kawazu M, Ueno T, Saeki K, Sax N, Togashi Y, Kanaseki T, Chida K, Kishigami F, Sato K, Kojima S, Otsuka M, Kawazoe A, Nishinakamura H, Yuka M, Yamamoto Y, Yamashita K, Inoue S, Tanegashima T, Matsubara D, Tane K, Tanaka Y, Inuma H, Hashiguchi Y, Hazama S, Khor SS, Tokunaga K, Tsuboi M, Niki T, Eto M, Shitara K, Torigoe T, Ishihara S, Aburatani H, Haeno H, Nishikawa H, Mano H. HLA Class I Analysis Provides Insight Into the Genetic and Epigenetic Background of Immune Evasion in Colorectal Cancer With High Microsatellite Instability. <i>Gastroenterology.</i> 2022 Mar;162(3):799-812. doi: 10.1053/j.gastro.2021.10.010. Epub 2021 Oct 21. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-125 | 2021 | Kawazoe A, Itahashi K, Yamamoto N, Kotani D, Kuboki Y, Taniguchi H, Harano K, Naito Y, Suzuki M, Fukutani M, Higuchi T, Ikeno T, Wakabayashi M, Sato A, Koyama S, Nishikawa H, Shitara K. TAS-116 (Pimipib), an Oral HSP90 Inhibitor, in Combination with Nivolumab in Patients with Colorectal Cancer and Other Solid Tumors: An Open-Label, Dose-Finding, and Expansion Phase Ib Trial (EPOC1704). Clin Cancer Res. 2021 Dec 15;27(24):6709-6715. doi: 10.1158/1078-0432.CCR-21-1929. Epub 2021 Sep 30. |
| 上田-126 | 2021 | Isoyama S, Mori S, Sugiyama D, Kojima Y, Tada Y, Shitara K, Hinohara K, Dan S, Nishikawa H. Cancer immunotherapy with PI3K and PD-1 dual-blockade via optimal modulation of T cell activation signal. J Immunother Cancer. 2021 Aug;9(8):e002279. doi: 10.1136/jitc-2020-002279. |
| 上田-127 | 2021 | Satoh K, Kobayashi Y, Fujimaki K, Hayashi S, Ishida S, Sugiyama D, Sato T, Lim K, Miyamoto M, Kozuma S, Kadokura M, Wakita K, Hata M, Hirahara K, Amano M, Watanabe I, Okamoto A, Tuettenberg A, Jonuleit H, Tanemura A, Maruyama S, Agatsuma T, Wada T, Nishikawa H. Novel anti-GARP antibody DS-1055a augments anti-tumor immunity by depleting highly suppressive GARP+ regulatory T cells. Int Immunol. 2021 Jul 23;33(8):435-446. doi: 10.1093/intimm/dxab027. |
| 上田-128 | 2021 | Nishikawa H, Koyama S. Mechanisms of regulatory T cell infiltration in tumors: implications for innovative immune precision therapies. J Immunother Cancer. 2021 Jul;9(7):e002591. doi: 10.1136/jitc-2021-002591. |
| 上田-129 | 2021 | Kelkka T, Savola P, Bhattacharya D, Huuhtanen J, Lönnberg T, Kankainen M, Paalanen K, Tyster M, Lepistö M, Ellonen P, Smolander J, Eldfors S, Yadav B, Khan S, Koivuniemi R, Sjöwall C, Elo LL, Lähdesmäki H, Maeda Y, Nishikawa H, Leirisalo-Repo M, Sokka-Isler T, Mustjoki S. Corrigendum: Adult-Onset Anti-Citrullinated Peptide Antibody-Negative Destructive Rheumatoid Arthritis Is Characterized by a Disease-Specific CD8+ T Lymphocyte Signature. Front Immunol. 2021 May 31;12:710831. doi: 10.3389/fimmu.2021.710831. eCollection 2021. |
| 上田-130 | 2021 | Yasuda Y, Iwama S, Sugiyama D, Okuji T, Kobayashi T, Ito M, Okada N, Enomoto A, Ito S, Yan Y, Sugiyama M, Onoue T, Tsunekawa T, Ito Y, Takagi H, Hagiwara D, Goto M, Suga H, Banno R, Takahashi M, Nishikawa H, Arima H. CD4 + T cells are essential for the development of destructive thyroiditis induced by anti-PD-1 antibody in thyroglobulin-immunized mice. Sci Transl Med. 2021 May 12;13(593):eabb7495. doi: 10.1126/scitranslmed.abb7495. |
| 上田-131 | 2021 | Kobayashi T, Iwama S, Sugiyama D, Yasuda Y, Okuji T, Ito M, Ito S, Sugiyama M, Onoue T, Takagi H, Hagiwara D, Ito Y, Suga H, Banno R, Nishikawa H, Arima H. Anti-pituitary antibodies and susceptible human leukocyte antigen alleles as predictive biomarkers for pituitary dysfunction induced by immune checkpoint inhibitors. J Immunother Cancer. 2021 May;9(5):e002493. doi: 10.1136/jitc-2021-002493. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-132 | 2021 | Minoura K, Abe K, Maeda Y, Nishikawa H, Shimamura T. CYBERTRACK2.0: zero-inflated model-based cell clustering and population tracking method for longitudinal mass cytometry data. <i>Bioinformatics</i> . 2021 Jul 12;37(11):1632-1634. doi: 10.1093/bioinformatics/btaa873. |
| 上田-133 | 2021 | Kim Y, Kobayashi E, Suehara Y, Ito A, Kubota D, Kitano S, et al. Immunological status of peripheral blood is associated with prognosis in patients with bone and soft-tissue sarcoma. <i>Oncol Lett</i> . 2021;21(3):212. doi: 10.3892/ol.2021.12473. |
| 上田-134 | 2021 | Shirasawa M, Yoshida T, Horinouchi H, Kitano S, Arakawa S, Kitano S, et al. Prognostic impact of peripheral blood neutrophil to lymphocyte ratio in advanced-stage pulmonary large cell neuroendocrine carcinoma and its association with the immune-related tumour microenvironment. <i>Br J Cancer</i> . 2021;124(5):925-32. doi: 10.1038/s41416-020-01188-7. |
| 上田-135 | 2021 | Sakaguchi A, Horimoto Y, Onagi H, Ikarashi D, Nakayama T, Kitano S, et al. Plasma cell infiltration and treatment effect in breast cancer patients treated with neoadjuvant chemotherapy. <i>Breast Cancer Res</i> . 2021;23(1):99. doi: 10.1186/s13058-021-01477-w. |
| 上田-136 | 2021 | Ikarashi D, Okimoto T, Shukuya T, Onagi H, Hayashi T, Kitano S, et al. Comparison of Tumor Microenvironments Between Primary Tumors and Brain Metastases in Patients With NSCLC. <i>JTO Clin Res Rep</i> . 2021;2(10):100230. doi: 10.1016/j.jtocrr.2021.100230. |
| 上田-137 | 2021 | Yanai Y, Kosaka T, Mikami S, Hongo H, Yasumizu Y, Kitano S, et al. CD8-positive T cells and CD204-positive M2-like macrophages predict postoperative prognosis of very high-risk prostate cancer. <i>Sci Rep</i> . 2021;11(1):22495. doi: 10.1038/s41598-021-01900-4. |
| 上田-138 | 2021 | Ikarashi D, Kitano S, Tsuyukubo T, Takenouchi K, Nakayama T, Onagi H, et al. Pretreatment tumour immune microenvironment predicts clinical response and prognosis of muscle-invasive bladder cancer in the neoadjuvant chemotherapy setting. <i>Br J Cancer</i> . 2022;126(4):606-14. doi: 10.1038/s41416-021-01628-y. |
| 上田-139 | 2021 | Ueno T, Kitano S, Masuda N, Ikarashi D, Yamashita M, Chiba T, et al. Immune microenvironment, homologous recombination deficiency, and therapeutic response to neoadjuvant chemotherapy in triple-negative breast cancer: Japan Breast Cancer Research Group (JBCRG)22 TR. <i>BMC Med</i> . 2022;20(1):136. doi: 10.1186/s12916-022-02332-1 |
| 上田-140 | 2021 | Yuriko Minegishi, Kazuma Kiyotani, Kensaku Nemoto, Yoshikage Inoue, Yoshimi Haga, Risa Fujii, Naomi Saichi, Satoshi Nagayama, Koji Ueda, Comprehensive-immunopeptidomics analysis reveals presentation of potential neoantigens carrying cancer driver mutations., <i>bioRxiv</i> 2021.04.09.439118, doi: https://doi.org/10.1101/2021.04.09.439118 |
| 上田-141 | 2021 | T. Amemiya, K. Horimoto, K. Fukui: Application of multiple omics and network projection analyses to drug repositioning for pathogenic mosquito-borne viruses, <i>Sci Rep</i> 11, 10136, 2021. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-142 | 2021 | H. Kagiwada, T. Kiboku, H. Matsuo, M. Kitazawa, K. Fukui, K. Horimoto: Assessing the activation/inhibition of tyrosine kinase-related pathways with a newly developed platform, Proteomics, 21(16):e2000251, 2021. |
| 上田-143 | 2021 | Morikawa K, Tanaka H, Itani H, Takata S, Watanabe S, Kishi K, Soejima K, Kaira K, Kagamu H et al. Hypothesis generative head-to-head study comparing efficacy of afatinib and osimertinib based on immunological biomarkers in Japanese NSCLC patients with EGFR mutations (Heat on Beat study). Ther Adv Med Oncol 2020;12:1758835920967254 doi 10.1177/1758835920967254. |
| 上田-144 | 2021 | Asahina H, Tanaka K, Morita S, Maemondo M, Seike M, Okamoto I, Oizumi S, Kagamu H et al. A Phase II Study of Osimertinib Combined With Platinum Plus Pemetrexed in Patients With EGFR-Mutated Advanced Non-Small-cell Lung Cancer: The OPAL Study (NEJ032C/LOGIK1801). Clin Lung Cancer 2021;22(2):147-51 doi 10.1016/j.clcc.2020.09.023. |
| 上田-145 | 2021 | Abe T, Saito S, Iino M, Aoshika T, Ryuno Y, Ohta T, Igari M, Hirai R, Kumazaki Y, Miura Y, Kaira K, Kagamu H et al. Effect of durvalumab on local control after concurrent chemoradiotherapy for locally advanced non-small cell lung cancer in comparison with chemoradiotherapy alone. Thorac Cancer 2021;12(2):245-50 doi 10.1111/1759-7714.13764. |
| 上田-146 | 2021 | Kaira K, Kuji I, Kagamu H. Value of (18)F-FDG-PET to predict PD-L1 expression and outcomes of PD-1 inhibition therapy in human cancers. Cancer Imaging 2021;21(1):11 doi 10.1186/s40644-021-00381-y. |
| 上田-147 | 2021 | Kaira K, Kobayashi K, Shiono A, Yamaguchi O, Hashimoto K, Mouri A, Shiomiya S, Miura Y, Imai H and Kagamu H. Effectiveness of EGFR-TKI rechallenge immediately after PD-1 blockade failure. Thorac Cancer 2021;12(6):864-73 doi 10.1111/1759-7714.13864. |
| 上田-148 | 2021 | Imai H, Yamaguchi O, Mori K, Hashimoto K, Akagami T, Shinomiya S, Miura S, Shiono A, Mouri A, Kaira K, Kobayashi K and Kagamu H. Clinical impact of post-progression survival on overall survival in patients receiving nivolumab monotherapy as a second-line treatment for advanced non-small cell lung cancer. Thorac Cancer 2021;12(8):1171-9 doi 10.1111/1759-7714.13886. |
| 上田-149 | 2021 | Shinomiya S, Kaira K, Mouri A, Kagamu H. Synchronous dilemma of sarcoid-like reaction and drastic response after PD-1 blockade administration in lung cancer. Jpn J Clin Oncol 2021;51(7):1179-80 doi 10.1093/jjco/hyab043. |
| 上田-150 | 2021 | Kagamu H. [Antitumor Immunity Evaluated via the Peripheral Blood]. Gan To Kagaku Ryoho 2021;48(3):315-9. |
| 上田-151 | 2021 | Mouri A, Kaira K, Yamaguchi O, Hashimoto K, Miura Y, Shiono A, Shinomiya S, Akagami T, Imai H, Kobayashi K, Kagamu H. Efficacy and Feasibility of Programmed Death-1/Programmed Death Ligand-1 Blockade Therapy in Non-Small Cell Lung Cancer Patients With High Antinuclear Antibody Titers. Front Oncol 2021;11:610952 doi 10.3389/fonc.2021.610952. |
| 上田-152 | 2021 | Kaira K, Imai H, Kagamu H. Perspective of Immune Checkpoint Inhibitors in Thymic Carcinoma. Cancers (Basel) 2021;13(5) doi 10.3390/cancers13051065. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-153 | 2021 | Naganuma K, Imai H, Yamaguchi O, Hashimoto K, Akagami T, Shinomiya S, Miura Y, Shiono A, Mouri A, Kaira K, Kobayashi K, Minato K, Kagamu H. Efficacy and Safety of Anti-Programed Death-1 Blockade in Previously Treated Large-Cell Neuroendocrine Carcinoma. Chemotherapy 2021;66(3):65-71 doi 10.1159/000514841. |
| 上田-154 | 2021 | Saito S, Abe T, Iino M, Aoshika T, Ryuno Y, Ohta T, Igari M, Hirai R, Kumazaki Y, Yamaguchi O, Kaira K, Kagamu H et al. Incidence and risk factors for pneumonitis among patients with lung cancer who received immune checkpoint inhibitors after palliative thoracic radiotherapy. J Radiat Res 2021;62(4):669-75 doi 10.1093/jrr/rrab051. |
| 上田-155 | 2021 | Imai H, Kishikawa T, Minemura H, Yamada Y, Ibe T, Mori K, Yamaguchi O, Mouri A, Hamamoto Y, Kanazawa K, Kasai T, Kaira K, Kaburagi T, Minato K, Kobayashi K, Kagamu H. Post-Progression Survival Influences Overall Survival among Patients with Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Undergoing First-Line Pembrolizumab Monotherapy. Oncology 2021;99(9):562-70 doi 10.1159/000516745. |
| 上田-156 | 2021 | Abe T, Iino M, Saito S, Aoshika T, Ryuno Y, Ohta T, Igari M, Hirai R, Kumazaki Y, Miura Y, Kaira K, Kagamu H et al. Feasibility of intensity modulated radiotherapy with involved field radiotherapy for Japanese patients with locally advanced non-small cell lung cancer. J Radiat Res 2021;62(5):894-900 doi 10.1093/jrr/rrab063. |
| 上田-157 | 2021 | Imai H, Kaira K, Hashimoto K, Nitanda H, Taguchi R, Yanagihara A, Umesaki T, Yamaguchi O, Mouri A, Kawasaki T, Yasuda M, Kobayashi K, Sakaguchi H, Kuji I, Kagamu H. Tumor immunity is related to (18) F-FDG uptake in thymic epithelial tumor. Cancer Med 2021;10(18):6317-26 doi 10.1002/cam4.4176. |
| 上田-158 | 2021 | Kagamu H. [Role of Immune Checkpoint Inhibitors in the Treatment of Lung Cancer]. Gan To Kagaku Ryoho 2021;48(8):1023-6. |
| 上田-159 | 2021 | Imai H, Kishikawa T, Minemura H, Yamada Y, Ibe T, Yamaguchi O, Mouri A, Hamamoto Y, Kanazawa K, Kasai T, Kaira K, Kaburagi T, Minato K, Kobayashi K and Kagamu H. Pretreatment Glasgow prognostic score predicts survival among patients with high PD-L1 expression administered first-line pembrolizumab monotherapy for non-small cell lung cancer. Cancer Med 2021;10(20):6971-84 doi 10.1002/cam4.4220. |
| 上田-160 | 2021 | Mouri A, Kaira K, Yamaguchi O, Hashimoto K, Miura Y, Shiono A, Shinomiya S, Imai H, Kobayashi K and Kagamu H. Effect of Systemic Steroid Use for Immune-Related Adverse Events in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Receiving PD-1 Blockade Drugs. J Clin Med 2021;10(16) doi 10.3390/jcm10163744. |
| 上田-161 | 2021 | Abe T, Ryuno Y, Iino M, Saito S, Aoshika T, Ohta T, Igari M, Hirai R, Kumazaki Y, Kaira K and Kagamu H. A 54 Gy in three fractions of stereotactic body radiotherapy using CyberKnife for T1b-2aN0M0 pathologically confirmed non-small cell lung cancer. Jpn J Clin Oncol 2021;51(12):1723-8 doi 10.1093/jjco/hyab154. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-162 | 2021 | Kobayashi K, Kaira K, Iemura H, Shinomiya S, Hashimoto K, Miura Y, Shiono A, Nishihara T and Kagamu H. Combination of immune check inhibitor and immunomodulatory arabinomannan extracted from Mycobacterium tuberculosis: A case report. Mol Clin Oncol 2021;15(5):227 doi 10.3892/mco.2021.2390. |
| 上田-163 | 2021 | Kaira K, Imai H, Yamaguchi O, Mouri A, Kagamu H. Salvage Chemotherapy in Patients with Previously Treated Thymic Carcinoma. Cancers (Basel) 2021;13(21) doi 10.3390/cancers13215441. |
| 上田-164 | 2021 | Kaira K, Imai H, Mouri A, Yamaguchi O, Kagamu H. Clinical Effectiveness of Immune Checkpoint Inhibitors in Non-Small-Cell Lung Cancer with a Poor Performance Status. Medicina (Kaunas) 2021;57(11) doi 10.3390/medicina57111273. |
| 上田-165 | 2021 | 喜多久美子、山内英子. リスク低減乳房切除術の現状と課題. 日本外科学会雑誌 122 (3) : 320-324 2021 |
| 上田-166 | 2021 | 名倉直美、岩平佳子、松井瑞子、山内英子. 当院におけるリスク低減乳房切除術後の乳房再建. 形成外科 64 (5) : 570-576 2021 |
| 上田-167 | 2021 | 名倉直美、喜多久美子、山内英子. HBOC患者の乳がん治療と乳房再建. PEPARS 183 30-38 2022 |
| 上田-168 | 2021 | Shibata T. [Diverse Molecular Mechanisms for Immune Evasion in Gastrointestinal Cancer]. Gan To Kagaku Ryoho. 2022 Mar;49(3):243-247. |
| 上田-169 | 2021 | 熊谷尚悟、西川博嘉：制御性T細胞と代謝，がん免疫ペディア ～腫瘍免疫学・がん免疫療法の全てをまるごと理解！：205-206, 2022/3/10 |
| 上田-170 | 2021 | 小山正平、西川博嘉：制御性T細胞による免疫応答調節，腫瘍内科29(2):168-172, 2022/2/28 |
| 上田-171 | 2021 | 種子島時祥、小山正平、西川博嘉：ヒトがん免疫療法の発展と課題 CD8+ T細胞からの視点, 実験医学40(1): 15-20, 2022/1/1 |
| 上田-172 | 2021 | 杉山大介、西川博嘉：マサイトメトリーによる腫瘍浸潤リンパ球のマルチカラー解析, 実験医学別冊 新世代フローサイトメトリー活用スタンダード: 176-187, 2021/12/15 |
| 上田-173 | 2021 | 福岡聖大、西川博嘉：がん免疫応答と腸内細菌, 医学のあゆみ278(9): 773-777, 2021/8/28 |
| 上田-174 | 2021 | 板橋耕太、西川博嘉：3.免疫抑制性腫瘍内微小環境の構築にかかわる制御性T細胞, 実験医学39(12): 102(1910)-107(1915), 2021/8/1 |
| 上田-175 | 2021 | 熊谷尚悟、西川博嘉：がん遺伝子変異が制御性T細胞を腫瘍微小環境に誘導する機構に関する代謝的観点からの検討, 臨床免疫・アレルギー科75(5): 597-601, 2021/5/25 |
| 上田-176 | 2022 | Komaki S, Nagata M, Arai E, Otomo R, Ono K, Abe Y, Ohmomo H, Umekage S, Shinozaki NO, Hachiya T, Sutoh Y, Otsuka-Yamasaki Y, Arai Y, Hirose N, Yoneyama A, Okano H, Sasaki M, Kanai Y, Shimizu A. Epigenetic profile of Japanese supercentenarians: a cross-sectional study. Lancet Healthy Longev. 2023, 4, e83-e90. doi: 10.1016/S2666-7568(23)00002-8. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-177 | 2022 | Komura D, Onoyama T, Shinbo K, Odaka H, Hayakawa M, Ochi M, Herdiantoputri R, Endo H, Katoh H, Ikeda T, Ushiku T, Ishikawa S. Restaining-based annotation for cancer histology segmentation to overcome annotation-related limitations among pathologists, <i>Patterns</i> . 2023, 4, 100688-100688, doi:10.1016/j.patter.2023.100688. |
| 上田-178 | 2022 | Haga Y, Minegishi Y, Ueda K. Frontiers in mass spectrometry-based clinical proteomics for cancer diagnosis and treatment. <i>Cancer Sci</i> . 2023, 114, 1783-1791, doi: 10.1111/cas.15731. |
| 上田-179 | 2022 | Kondo A, Shinozaki-Ushiku A, Rokutan H, Kunita A, Ikemura M, Yamashita H, Seto Y, Nagae G, Tatsuno K, Aburatani H, Koinuma D, Ushiku T. Loss of viral genome with altered immune microenvironment during tumour progression of Epstein-Barr virus-associated gastric carcinoma. <i>J Pathol</i> . 2023, Feb 18. doi: 10.1002/path.6067. |
| 上田-180 | 2022 | Yoshimitsu M, Ando K, Ishida T, Yoshida S, Choi I, Hidaka M, Takamatsu Y, Gillings M, Lee GT, Onogi H, Tobinai K. Oral histone deacetylase inhibitor HBI-8000 (tucidinostat) in Japanese patients with relapsed or refractory non-Hodgkin's lymphoma: phase I safety and efficacy, <i>Jpn J Clin Oncol</i> . 2022, 52, 1014-1020. |
| 上田-181 | 2022 | Ong JZL, Yokomori R, Wong RWJ, Tan TK, Ueda R, Ishida T, Iida S, Sanda T. Requirement for TP73 and genetic alterations originating from its intragenic super-enhancer in adult T-cell leukemia, <i>Leukemia</i> . 2022, 36, 2293-2305. |
| 上田-182 | 2022 | Sakamoto Y, Ishida T, Masaki A, Murase T, Ohtsuka E, Takeshita M, Muto R, Iwasaki H, Ito A, Kusumoto S, Nakano N, Tokunaga M, Yonekura K, Tashiro Y, Iida S, Utsunomiya A, Ueda R, Inagaki H. CCR7 alterations associated with inferior outcome of adult T-cell leukemia/lymphoma under mogamulizumab treatment, <i>Hematol Oncol</i> . 2022, 40, 876-884. |
| 上田-183 | 2022 | Pereira ES, Shibuya M, Ohara K, Nakagawa Y, Kanazawa T, Kamamoto D, Kato Y, Arai E, Aimono E, Yoshida K, Nishihara H, Kanai Y, Sasaki H. The oligodendroglial histological features are not independently predictive of patient prognosis in lower-grade gliomas. <i>Brain Tumor Pathol</i> . 2022, 39, 79-87. doi: 10.1007/s10014-022-00426-5. |
| 上田-184 | 2022 | Hirano T, Arai E, Fujimoto M, Nakayama Y, Tian Y, Ito N, Makabe T, Yamagami W, Susumu N, Aoki D, Kanai Y. Prognostication of early-onset endometrioid endometrial cancer based on genome-wide DNA methylation profiles. <i>J Gynecol Oncol</i> . 2022, 33, e74. doi: 10.3802/jgo.2022.33.e74. |
| 上田-185 | 2022 | Kuramoto J, Arai E, Fujimoto M, Tian Y, Yamada Y, Yotani T, Makiuchi S, Tsuda N, Ojima H, Fukai M, Seki Y, Kasama K, Funahashi N, Udagawa H, Nammo T, Yasuda K, Taketomi A, Kanto T, Kanai Y. Quantification of DNA methylation for carcinogenic risk estimation in patients with non-alcoholic steatohepatitis. <i>Clin Epigenetics</i> . 2022, 14, 168. doi: 10.1186/s13148-022-01379-4. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-186 | 2022 | Isobe T, Takagi M, Sato-Otsubo A, Nishimura A, Nagae G, Yamagishi C, Tamura M, Tanaka Y, Asada S, Takeda R, Tsuchiya A, Wang X, Yoshida K, Nannya Y, Ueno H, Akazawa R, Kato I, Mikami T, Watanabe K, Sekiguchi M, Seki M, Kimura S, Hiwatari M, Kato M, Fukuda S, Tatsuno K, Tsutsumi S, Kanai A, Inaba T, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Kotecha RS, Cruickshank MN, Ishikawa F, Morio T, Eguchi M, Deguchi T, Kiyokawa N, Arakawa Y, Koh K, Aoki Y, Ishihara T, Tomizawa D, Miyamura T, Ishii E, Mizutani S, Wilson NK, Göttgens B, Miyano S, Kitamura T, Goyama S, Yokoyama A, Aburatani H, Ogawa S, Takita J. Multi-omics analysis defines highly refractory RAS burdened immature subgroup of infant acute lymphoblastic leukemia. Nat Commun. 2022, 13, 4501. doi: 10.1038/s41467-022-32266-4. |
| 上田-187 | 2022 | Watanabe K, Kimura S, Seki M, Isobe T, Kubota Y, Sekiguchi M, Sato-Otsubo A, Hiwatari M, Kato M, Oka A, Koh K, Sato Y, Tanaka H, Miyano S, Kawai T, Hata K, Ueno H, Nannya Y, Suzuki H, Yoshida K, Fujii Y, Nagae G, Aburatani H, Ogawa S, Takita J. Identification of the ultrahigh-risk subgroup in neuroblastoma cases through DNA methylation analysis and its treatment exploiting cancer metabolism. Oncogene. 2022, 41, 4994-5007. doi: 10.1038/s41388-022-02489-2. |
| 上田-188 | 2022 | Minegishi Y, Kiyotani K, Nemoto K, Inoue Y, Haga Y, Fujii R, Saichi N, Nagayama S, Ueda K. Differential ion mobility mass spectrometry in immunopeptidomics identifies neoantigens carrying colorectal cancer driver mutations. Commun Biol. 2022, 5, 1-13, doi:10.1038/s42003-022-03807-w. |
| 上田-189 | 2022 | Wada H, Sato Y, Fujimoto S, Okamoto K, Bando M, Kawaguchi T, Miyamoto H, Muguruma N, Horimoto K, Matsuzawa Y, Mutoh M, Takayama T. Resveratrol inhibits development of colorectal adenoma via suppression of LEF1; comprehensive analysis with connectivity map. Cancer Sci. 2022, 113, 4374-4384, doi: 10.1111/cas.15576. |
| 上田-190 | 2022 | Kagamu H, Yamasaki S, Kitano S, Yamaguchi O, Mouri A, Shiono A, Nishihara F, Miura Y, Hashimoto K, Imai H, Kaira K, Kobayashi K, Kanai Y, Shibata T, Horimoto K. Single-cell analysis reveals a CD4 ^b T-cell cluster that correlates with PD-1 blockade efficacy. Cancer Res. 2022, 82, 4641-4653, doi: 10.1158/0008-5472.CAN-22-01. |
| 上田-191 | 2022 | Kagiwada H, Motono C, Horimoto K, Fukui K. Phosprof: pathway analysis database of drug response based on phosphorylation activity measurements. Database. 2022, 2022, 1-7, doi: 10.1093/database/baac072. |
| 上田-192 | 2022 | Sugiyama D, Hinohara K, Nishikawa H. Significance of regulatory T cells in cancer immunology and immunotherapy. Exp Dermatol. 2023, 32, 256-263, doi: 10.1111/exd.14721. Epub 2022 Dec 12. |
| 上田-193 | 2022 | Tsuda N, Tian Y, Fujimoto M, Kuramoto J, Makiuchi S, Ojima H, Gotoh M, Hiraoka N, Yoshida T, Kanai Y, Arai E. DNA methylation status of the SPHK1 and LTB genes underlies the clinicopathological diversity of non-alcoholic steatohepatitis-related hepatocellular carcinomas. J Cancer Res Clin Oncol. 2022, Nov 8. doi: 10.1007/s00432-022-04445-9. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-194 | 2022 | Itahashi K, Irie T, Yuda J, Kumagai S, Tanegashima T, Lin Y-Z, Watanabe S, Goto Y, Suzuki J, Aokage K, Tsuboi M, Minami Y, Ishii G, Ohe Y, Ise W, Kurosaki T, Suzuki Y, Koyama S, Nishikawa H. BATF epigenetically and transcriptionally controls the activation program of regulatory T cells in human tumors. Sci Immunol. 2022, 7, eabk0957, doi: 10.1126/sciimmunol.abk0957. Epub 2022 Oct 7. |
| 上田-195 | 2022 | Kobayashi T, Kumagai S, Doi R, Afonina E, Koyama S, Nishikawa H, Isolation of tumor-infiltrating lymphocytes from preserved human tumor tissue specimens for downstream characterization. STAR Protoc. 2022, 3, 101557, doi: 10.1016/j.xpro.2022.101557. Epub 2022 Jul 18. |
| 上田-196 | 2022 | Itahashi K, Irie T, Nishikawa H. Regulatory T-cell development in the tumor microenvironment. Eur J Immunol. 2022, 52, 1216-1227, doi: 10.1002/eji.202149358. Epub 2022 Jul 25. |
| 上田-197 | 2022 | 尾張拓也, 小山正平, 西川博嘉: 解説_がん免疫療法 バイオマーカー研究の進展, 腫瘍内科, 31(3): 375-380, 2023年3月28日 |
| 上田-198 | 2022 | 西川博嘉: 実験医学別冊 もっとよくわかる! 腫瘍免疫学 発がん〜がんの進展〜治療 がん免疫応答の変遷がストーリーでわかる, 羊土社, 2023年3月15日 |
| 上田-199 | 2022 | 福田滉仁, 熊谷尚悟, 西川博嘉: 解糖系が亢進した腫瘍微小環境における制御性T細胞, がん分子標的治療 2022.12 Vol.20 No.1: 102-105, 2022年12月31日 |
| 上田-200 | 2022 | 野村幸太郎, 板橋耕太, 西川博嘉: 免疫治療の進歩を拓く研究, 日本臨床 第80巻 増刊号8 (通巻第1225号) 「最新臨床肺癌学 -診断・治療の最新動向-」:71-77, 2022年12月31日 |
| 上田-201 | 2022 | 板橋耕太, 西川博嘉: 免疫療法の耐性克服は未だ重要な課題のままです。免疫療法の耐性についての最近のトピックと耐性克服の最新情報について教えてください。 , Thoracic Oncology Perspectives 第20号, 2022年11月 |
| 上田-202 | 2022 | 岩澤智裕, 熊谷尚悟, 西川博嘉: 抑制性細胞の抗腫瘍免疫応答への影響, 実験医学 40(16)10月号2022 [通巻704号] , 2573-2579, 2022年10月1日 |
| 上田-203 | 2022 | 種子島時祥, 小山正平, 西川博嘉: 高度の遺伝子変異数を有するがん細胞は、WNT/b-cateninシグナルの活性化を介して免疫逃避する, 臨床免疫・アレルギー科 77(6), 744-750, 2022年6月25日 |
| 上田-204 | 2022 | 永江 玄太: 小児肝芽腫発症に関与する分化制御因子, 生化学 94(3) 438-442 2022年6月 |
| 上田-205 | 2022 | 小山正平, 西川博嘉: がん免疫療法のバイオマーカー・コンパニオン診断法の探索, 医学のあゆみ281(5), 548-553, 2022年4月30日 |
| 上田-206 | 2022 | 種子島時祥, 小山正平, 西川博嘉: PD-1経路阻害治療における効果予測バイオマーカー, 感染・炎症・免疫52(1), 48-51, 2022年4月15日 |
| 上田-207 | 2022 | 永江 玄太: 泌尿器科領域におけるシングルセル解析の可能性, 泌尿器科 15(4) 465-471 2022年4月 |
| 上田-208 | 2022 | 永江 玄太: 【がんゲノム医療時代の分子腫瘍学】(第1部)がんの分子病理学(序論) 解析法 ヒトゲノム研究におけるマイクロアレイ解析(CGH・SNP・メチル化など), 病理と臨床 40(臨増) 057-063 2022年4月 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-209 | 2023 | Tsubosaka A, Komura D, Kakiuchi M, Katoh H, Onoyama T, Yamamoto A, Abe H, Seto Y, Ushiku T, Ishikawa S. Stomach encyclopedia: Combined single-cell and spatial transcriptomics reveal cell diversity and homeostatic regulation of human stomach. <i>Cell Reports</i> 2023;42:113236. |
| 上田-210 | 2023 | Totoki Y, Saito-Adachi M, Shiraishi Y, Komura D, Nakamura H, Suzuki A, Tatsuno K, Rokutan H, Hama N, Yamamoto S, Ono H, Arai Y, Hosoda F, Katoh H, Chiba K, Iida N, Nagae G, Ueda H, Shihang C, Sekine S, Abe H, Nomura S, Matsuura T, Sakai E, Ohshima T, Rino Y, Yeoh KG, So J, Sanghvi K, Soong R, Fukagawa A, Yachida S, Kato M, Seto Y, Ushiku T, Nakajima A, Katai H, Tan P, Ishikawa S, Aburatani H, Shibata T. Multiancestry genomic and transcriptomic analysis of gastric cancer. <i>Nat Genet.</i> 55(4):581-594, 2023 |
| 上田-211 | 2023 | Morihiro K, Morita S, Harada N, Baba M, Yum J, Naito M, Miyata K, Nagae G, Okamoto A. RNA Oncological Therapeutics: Intracellular Hairpin RNA Assembly Enables MicroRNA-Triggered Anticancer Functionality. <i>J Am Chem Soc.</i> 146(2):1346-1355, 2024. |
| 上田-212 | 2023 | Neyazi S, Yamazawa E, Hack K, Tanaka S, Nagae G, Kresbach C, Umeda T, Eckhardt A, Tatsuno K, Pohl L, Hana T, Bockmayr M, Kim P, Dorostkar MM, Obrecht D, Takami T, Suwala AK, Takai K, Godbole S, Komori T, Wefers AK, Otani R, Neumann JE, Higuchi F, Schweizer L, Nakanishi Y, Monoranu C, Takami H, Engertsberger L, Yamada K, Ruf V, Nomura M, Mohme T, Mukasa A, Herms J, Takayanagi S, Mynarek M, Matsuura R, Lamszus K, Ishii K, Kluwe L, Imai H, Deimling A, Koike T, Benesch M, Kushihara Y, Snuderl M, Nambu S, Frank S, Ichimura K, Hagel C, Omura T, Mautner VF, Kugasawa K, Rutkowski S, Aburatani H, Saito N, Schüller U. Transcriptomic and epigenetic dissection of spinal ependymoma (SP-EPN) identifies clinically relevant subtypes enriched for tumors with and without NF2 mutation. <i>Acta Neuropathologica.</i> 147(1):22, 2024. |
| 上田-213 | 2023 | Pire A, Hirsch TZ, Morcrette G, Imbeaud S, Gupta B, Pilet J, Cornet M, Fabre M, Guettier C, Branchereau S, Brugières L, Guerin F, Laithier V, Coze C, Nagae G, Hiyama E, Laurent-Puig P, Rebouissou S, Sarnacki S, Chardot C, Capito C, Faure-Contier C, Aerts I, Taque S, Fresneau B, Zucman-Rossi J. Mutational signature, cancer driver genes mutations and transcriptomic subgroups predict hepatoblastoma survival. <i>Eur J Cancer.</i> 200:113583, 2024. |
| 上田-214 | 2023 | Hana T, Mukasa A, Nomura M, Nagae G, Yamamoto S, Tatsuno K, Ueda H, Fukuda S, Umeda T, Tanaka S, Nejo T, Kitagawa Y, Yamazawa E, Takahashi S, Koike T, Kushihara Y, Takami H, Takayanagi S, Aburatani H, Saito N. Region-specific DNA hydroxymethylation along the malignant progression of IDH-mutant gliomas. <i>Cancer Sci.</i> in press. doi: 10.1111/cas.16127. |
| 上田-215 | 2023 | Roehrig A, Hirsch TZ, Pire A, Morcrette G, Gupta1 B, Marcaillou C, Imbeaud S, Chardot C, Gonzales E, Jacquemin E, Sekiguchi M, Takita J, Nagae G, Hiyama E, Guérin1 F, Fabre M, Aerts I, Taque S, Laithier V, Branchereau S, Guettier C, Brugières L, Fresneau B, Zucman-Rossi J, Letouzé E. Single-cell multiomics reveals the interplay of clonal evolution and cellular plasticity in hepatoblastoma. <i>Nat Commun.</i> in press. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-216 | 2023 | Ozato Y, Kojima Y, Kobayashi Y, Hisamatsu Y, Toshima T, Yonemura Y, Masuda T, Kagawa K, Goto Y, Utou M, Fukunaga M, Gamachi A, Imamura K, Kuze Y, Zenkoh J, Suzuki A, Niida A, Hirose H, Hayashi S, Koseki J, Oki E, Fukuchi S, Murakami K, Tobo T, Nagayama S, Uemura M, Sakamoto T, Oshima M, Doki Y, Eguchi H, Mori M, Iwasaki T, Oda Y, Shibata T, Suzuki Y, Shimamura T, Mimori K. Spatial and single-cell transcriptomics decipher the cellular environment containing HLA-G+ cancer cells and SPP1+ macrophages in colorectal cancer. Cell Rep. 2023 Jan 31;42(1):111929. |
| 上田-217 | 2023 | Kobayashi Y, Niida A, Nagayama S, Saeki K, Haeno H, Takahashi KK, Hayashi S, Ozato Y, Saito H, Hasegawa T, Nakamura H, Tobo T, Kitagawa A, Sato K, Shimizu D, Hirata H, Hisamatsu Y, Toshima T, Yonemura Y, Masuda T, Mizuno S, Kawazu M, Kohsaka S, Ueno T, Mano H, Ishihara S, Uemura M, Mori M, Doki Y, Eguchi H, Oshima M, Suzuki Y, Shibata T, Mimori K. Subclonal accumulation of immune escape mechanisms in microsatellite instability-high colorectal cancers. Br J Cancer. 2023 Oct;129(7):1105-1118. |
| 上田-218 | 2023 | Fukagawa A, Hama N, Totoki Y, Nakamura H, Arai Y, Saito-Adachi M, Maeshima A, Matsui Y, Yachida S, Ushiku T, Shibata T. Genomic and epigenomic integrative subtypes of renal cell carcinoma in a Japanese cohort. Nat Commun. 2023 Dec 16;14(1):8383. doi: 10.1038/s41467-023-44159-1. |
| 上田-219 | 2023 | Feng, L., Chen, X., Sheng, G., Li, Y., Li, Y., Zhang, Y., Yao, K., Wu, Z., Zhang, R., Kiboku, T. Kawasaki, A., Horimoto, K., Tang, Y., Sun, M., Han, F., Chen, D. : Synthesis and Bioevaluation of 3-(Arylmethylene) indole Derivatives: Discovery of a Novel ALK Modulator with Anti-glioblastoma Activities. Journal of Medicinal Chemistry, 2023, 66, 21, 14609-14622. |
| 上田-220 | 2023 | Kawaguchi, T., Okamoto, K., Fujimoto, S., Bando, M., Wada, H., Miyamoto, H., Sato, Y., Muguruma, N., Horimoto, K., Takayama, T. : Lansoprazole Inhibits the Development of Sessile Serrated Lesions by Inducing G1 Arrest via Skp2/p27 Signaling Pathway. Journal of Gastroenterology. 2024 Jan;59(1):11-23. |
| 上田-221 | 2023 | Horimoto, K., Suyama, Y., Sasaki, T., Fukui, K., Sun, M., Feng, L., Tang, Y., Zhang, Y., Chen, D., Han F. : Phosphorylated protein chip combined with artificial intelligence tools for precise drug screening. The Journal of Biomedical Research. DOI: 10.7555/JBR.37.20230082, (in press) |
| 上田-222 | 2023 | Yanagihara, A., Yamasaki, S., Hashimoto, K., Taguchi, R., Umesaki, T., Imai, H., Kaira, K., Nitanda, H., Sakaguchi, H., Ishida, H., Kobayashi, K., Horimoto, K., Kagamu, H. : A Th1-like CD4+ T-cell Cluster that Predicts Disease-free Survival in Early-Stage Lung Cancer. Cancer Research Communications, (2023) 3 (7): 1277–1285. |
| 上田-223 | 2023 | Yamaguchi, O., N. Kasahara, H. Soda, H. Imai, I. Naruse, H. Yamaguchi, M. Itai, K. Taguchi, M. Uchida, N. Sunaga, T. Maeno, K. Minato, H. Tomono, D. Ogawara, H. Mukae, Y. Miura, A. Shiono, A. Mouri, H. Kagamu, and K. Kaira. 2023. Predictive significance of circulating tumor DNA against patients with T790M-positive EGFR-mutant NSCLC receiving osimertinib. Sci Rep 13:20848. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-224 | 2023 | Yamaguchi, O., K. Atarashi, K. Yoshimura, A. Shiono, A. Mouri, F. Nishihara, Y. Miura, K. Hashimoto, Y. Miyamoto, H. Uga, N. Seki, T. Matsushima, N. Kikukawa, K. Kobayashi, K. Kaira, and H. Kagamu. 2022. Establishing a whole blood CD4(+) T cell immunity measurement to predict response to anti-PD-1. BMC Cancer 22:1325. |
| 上田-225 | 2023 | Saito, R., S. Sugawara, R. Ko, K. Azuma, R. Morita, M. Maemondo, S. Oizumi, K. Takahashi, H. Kagamu, Y. Tsubata, M. Seike, T. Kikuchi, I. Okamoto, M. Satoshi, H. Asahina, K. Tanaka, K. Sugio, and K. Kobayashi. 2023. Phase 2 study of osimertinib in combination with platinum and pemetrexed in patients with previously untreated EGFR-mutated advanced non-squamous non-small cell lung cancer: The OPAL Study. Eur J Cancer 185:83-93. |
| 上田-226 | 2023 | Kagamu, H. 2024. Immunotherapy for non-small cell lung cancer. Respir Investig 62:307-312. |
| 上田-227 | 2023 | Takata S, Morikawa K, Tanaka H, Itani H, Ishihara M, Horiuchi K, Kato Y, Ikemura S, Nakagawa H, Nakahara Y, Seki Y, Bessho A, Takahashi N, Hayashi K, Endo T, Takeyama K, Maekura T, Takigawa N, Kawase A, Endoh M, Nemoto K, Kishi K, Soejima K, Okuma Y, Yoshimura K, Saigusa D, Kanai Y, Ueda K, Togashi A, Matsutani N, Seki N. Prospective exosome-focused translational research for afatinib (EXTRA) study of patients with nonsmall cell lung cancer harboring EGFR mutation: an observational clinical study. Ther Adv Med Oncol. 2023;15:17588359231177021. |
| 上田-228 | 2023 | Tsuda N, Tian Y, Fujimoto M, Kuramoto J, Makiuchi S, Ojima H, Gotoh M, Hiraoka N, Yoshida T, Kanai Y, Arai E. DNA methylation status of the SPHK1 and LTB genes underlies the clinicopathological diversity of non-alcoholic steatohepatitis-related hepatocellular carcinomas. J Cancer Res Clin Oncol. 2023;149:5109-5125. |
| 上田-229 | 2023 | Kuramoto J, Kobayashi K, Hirai I, Nakamura Y, Funakoshi T, Kanai Y. Clinicopathological significance of androgen receptor expression in extramammary Paget disease: An analysis of 92 patients. Pathol Res Pract. 2023;249:154775. |
| 上田-230 | 2023 | Makiuchi S, Tian Y, Fujimoto M, Kuramoto J, Tsuda N, Ojima H, Gotoh M, Hiraoka N, Yoshida T, Kanai Y, Arai E. DNA methylation alterations of ADCY5, MICAL2, and PLEKHG2 during the developmental stage of cryptogenic hepatocellular carcinoma. Hepatol Res. 2024;54:284-299. |
| 上田-231 | 2023 | Kanai Y. Molecular pathological approach to cancer epigenomics and its clinical application. Pathol Int. in press, 2024. |
| 上田-232 | 2023 | Fujii K, Inagaki A, Masaki A, Sugiura M, Suzuki T, Ishida T, Kusumoto S, Iida S, Inagaki H. Nomogram for predicting survival of patients with diffuse large B-cell lymphoma. Ann Hematol. 2024 Feb 27. doi: 10.1007/s00277-024-05669-0. Online ahead of print. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-233 | 2023 | Kameda K, Yanagiya R, Miyatake Y, Carreras J, Higuchi H, Murayama H, Ishida T, Ito A, Iida S, Fukuhara N, Harigae H, Fujioka Y, Takahashi N, Wada H, Ishida F, Nakazawa H, Ishihara R, Murakami Y, Tagawa H, Matsuura T, Nakagawa S, Iwabuchi S, Hashimoto S, Imadome KI, Nakamura N, Ishizawa K, Kanda Y, Ando K, Kotani A. The hepatic niche leads to aggressive natural killer cell leukemia proliferation through the transferrin-transferrin receptor 1 axis. <i>Blood</i> . 2023;142:352-364. |
| 上田-234 | 2023 | Hiramatsu H, Nosaka K, Kusumoto S, Nakano N, Choi I, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Hidaka M, Sasaki H, Makiyama J, Ohtsuka E, Jo T, Ogata M, Ito A, Yonekura K, Tatetsu H, Kato T, Kawakita T, Suehiro Y, Ishitsuka K, Iida S, Matsutani T, Nishikawa H, Utsunomiya A, Ueda R, Ishida T. Landscape of immunoglobulin heavy chain γ gene class switch recombination in patients with adult T-cell leukemia-lymphoma. <i>Haematologica</i> . 2023;108(4):1173-1178. |
| 上田-235 | 2023 | Kato S, Maeda Y, Sugiyama D, Watanabe K, Nishikawa H, Hinohara K.: The cancer epigenome: non-cell autonomous player in tumor immunity. <i>Cancer Sci</i> . 2023 Mar;114(3):730-740. doi: 10.1111/cas.15681. Epub 2022 Dec 18. |
| 上田-236 | 2023 | Nishiwaki S, Sugiura I, Sato T, Kobayashi M, Osaki M, Sawa M, Adachi Y, Okabe M, Saito S, Morishita T, Kohno A, Nishiyama T, Iida H, Kurahashi S, Kuwatsuka Y, Sugiyama D, Ito S, Nishikawa H, Kiyoi H.: Autologous peripheral blood stem cell transplantation for Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia is safe but poses challenges for long-term maintenance of molecular remission: Results of the Auto-Ph17 study. <i>EJHaem</i> . 2023 Mar 20;4(2):358-369. doi: 10.1002/jha2.677. eCollection 2023 May. |
| 上田-237 | 2023 | Barakat C, Inagaki Y, Mizuno S, Nishio N, Katsuyama N, Sato Y, Kobayashi M, Ozeki K, Iida H, Tomita A, Sawa M, Demachi-Okamura A, Takahashi Y, Nishikawa H, Akatsuka Y.: Development of TCR-T cell therapy targeting mismatched HLA-DPB1 for relapsed leukemia after allogeneic transplantation. <i>Int J Hematol</i> . 2023 Aug;118(2):252-266. doi: 10.1007/s12185-023-03621-y. Epub 2023 Jun 13. |
| 上田-238 | 2023 | Habu T, Kumanishi R, Ogata T, Fujisawa T, Mishima S, Kotani D, Kadowaki S, Nakamura M, Hojo H, Fujiwara H, Kumagai S, Koyama S, Fujita T, Kinoshita T, Nishikawa H, Yano T, Tajika M, Muro K, Mitsunaga S, Kojima T, Bando H.: Complete response to definitive chemoradiotherapy in unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma. <i>Esophagus</i> . 2023 Jul;20(3):533-540. doi: 10.1007/s10388-023-00987-0. Epub 2023 Feb 8. |
| 上田-239 | 2023 | Harusato A, Seo W, Abo H, Nakanishi Y, Nishikawa H, Itoh Y.: Impact of particulate microplastics generated from polyethylene terephthalate on gut pathology and immune microenvironments. <i>iScience</i> . 2023 Mar 25;26(4):106474. doi: 10.1016/j.isci.2023.106474. eCollection 2023 Apr 21. |
| 上田-240 | 2023 | Ito M, Iwama S, Sugiyama D, Yasuda Y, Okuji T, Kobayashi T, Zhou X, Yamagami A, Onoue T, Miyata T, Sugiyama M, Hagiwara D, Suga H, Banno R, Nishikawa H, Arima H.: Anti-tumor effects of anti-programmed cell death-1 antibody treatment are attenuated in streptozotocin-induced diabetic mice. <i>Sci Rep</i> . 2023 Apr 12;13(1):5939. doi: 10.1038/s41598-023-33049-7. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-241 | 2023 | Okuma HS, Watanabe K, Tsuchihashi K, Machida R, Sadachi R, Hirakawa A, Ariyama H, Kanai M, Kamikura M, Anjo K, Hiramitsu A, Sekine S, Okita N, Mano H, Nishikawa H, Nakamura K, Yonemori K.: Phase 2 trial of nivolumab in metastatic rare cancer with dMMR or MSI-H and relation with immune phenotypic analysis (the ROCK trial). Clin Cancer Res. 2023 Dec 15;29(24):5079-5086. doi: 10.1158/1078-0432.CCR-23-1807. |
| 上田-242 | 2023 | Hiramatsu H, Yokomori R, Shengyi L, Tanaka N, Mori S, Kiyotani K, Gotoh O, Kusumoto S, Nakano N, Suehiro Y, Ito A, Choi I, Ohtsuka E, Hidaka M, Nosaka K, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Iida S, Utsunomiya A, Noda T, Nishikawa H, Ueda R, Sanda T, Ishida T.: Clinical landscape of TP73 structural variants in ATL patients. Leukemia. 2023 Dec;37(12):2502-2506. doi: 10.1038/s41375-023-02059-9. Epub 2023 Oct 20. |
| 上田-243 | 2023 | Harusato A, Seo W, Abo H, Nakanishi Y, Nishikawa H, Itoh Y.: Protocol for acquiring samples to assess the impact of microplastics on immune microenvironments in the mouse intestine. STAR Protoc. 2023 Oct 21;4(4):102648. doi: 10.1016/j.xpro.2023.102648. Online ahead of print. |
| 上田-244 | 2023 | Shiraishi K, Takahashi A, Momozawa Y, Daigo Y, Kaneko S, Kawaguchi I, Kunitoh H, Matsumoto S, Horinouchi H, Goto A, Honda T, Shimizu K, Torasawa M, Takayanagi D, Saito M, Saito A, Ohe Y, Watanabe SI, Goto K, Tsuboi M, Tsuchihara K, Takata S, Aoi T, Takano A, Kobayashi M, Miyagi Y, Tanaka K, Suzuki H, Maeda D, Yamaura T, Matsuda M, Shimada Y, Mizuno T, Sakamoto H, Yoshida T, Goto Y, Yoshida T, Yamaji T, Sonobe M, Toyooka S, Yoneda K, Masago K, Tanaka F, Hara M, Fuse N, Nishizuka SS, Motoi N, Sawada N, Nishida Y, Kumada K, Takeuchi K, Tanno K, Yatabe Y, Sunami K, Hishida T, Miyazaki Y, Ito H, Amemiya M, Totsuka H, Nakayama H, Yokose T, Ishigaki K, Nagashima T, Ohtaki Y, Imai K, Takasawa K, Minamiya Y, Kobayashi K, Okubo K, Wakai K, Shimizu A, Yamamoto M, Iwasaki M, Matsuda K, Inazawa J, Shiraishi Y, Nishikawa H, Murakami Y, Kubo M, Matsuda F, Kamatani Y, Hamamoto R, Matsuo K, Kohno T.: Identification of telomere maintenance gene variations related to lung adenocarcinoma risk by genome-wide association and whole genome sequencing analyses. Cancer Commun (Lond). 2024 Feb;44(2):287-293. doi: 10.1002/cac2.12498. Epub 2023 Oct 26. |
| 上田-245 | 2023 | Xiao M, Kondo S, Nomura M, Kato S, Nishimura K, Zang W, Zhang Y, Akashi T, Viny A, Shigehiro T, Ikawa T, Yamazaki H, Fukumoto M, Tanaka A, Hayashi Y, Koike Y, Aoyama Y, Ito H, Nishikawa H, Kitamura T, Kanai A, Yokoyama A, Fujiwara T, Goyama S, Noguchi H, Lee SC, Toyoda A, Hinohara K, Abdel-Wahab O, Inoue D.: BRD9 determines the cell fate of hematopoietic stem cells by regulating chromatin state. Nat Commun. 2023 Dec 15;14(1):8372. doi: 10.1038/s41467-023-44081-6. |
| 上田-246 | 2023 | Kondo M, Kumagai S, Nishikawa H.: Metabolic advantages of regulatory T cells dictated by cancer cells. Int Immunol. 2024 Feb 14;36(2):75-86. doi: 10.1093/intimm/dxad035. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-247 | 2023 | 竹原 侑里, 松田 直子, 林 直輝, 竹井 淳子, 鹿股 直樹, 角田 博子, 山内 英子, 吉田 敦. 乳腺若年性乳頭腫症の1例. 日本臨床外科学会雑誌. 2023;84(10):1570-5. |
| 上田-248 | 2023 | 竹原 侑里, 吉田 敦, 名倉 直美, 岩平 佳子, 八木下 和代, 角田 博子, 鹿股 直樹, 山内 英子. 乳房再建術後12年で発症した乳房インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫の1例. Oncoplastic Breast Surgery. 2023;8(1):22-7. |
| 上田-249 | 2023 | 鹿股 直樹. 【乳腺診断のエッセンス】生検検体診断の要点. 病理と臨床. 2023;41(9):0914-8. |
| 上田-250 | 2023 | 山本 奈美, 牛草 健, 鈴木 高祐, 林 直輝, 山内 英子, 吉田 正行, 秋山 太, 鹿股 直樹. 変異型IDH2陽性の乳腺tall cell carcinoma with reversed polarityの1例. 診断病理. 2023;40(1):79-83. |
| 上田-251 | 2023 | Takehara Y., Matsuda N., Kobayashi D., Yoshida A., Takei J., Kanomata N., Tsunoda H., Yamauchi H., Hayashi N. Radiation-induced angiosarcoma of the breast: individual participant meta-analysis of Japanese population. Breast Cancer. 2023;30(5):739-4710.1007/s12282-023-01466-1. |
| 上田-252 | 2023 | Seki A., Tsunoda H., Takei J., Suzuki M., Kanomata N., Yamauchi H. Clinicopathological and imaging features of ductal carcinoma in situ in BRCA1/2 mutation carriers. Breast Dis. 2023;42(1):5-1510.3233/BD-220006. |
| 上田-253 | 2023 | Mukai K., Tsunoda H., Imai R., Numata A., Kida K., Oba K., Yagishita K., Yamauchi H., Kanomata N., Kurihara Y. The location of unilateral axillary lymphadenopathy after COVID-19 vaccination compared with that of metastasis from breast cancer without vaccination. Jpn J Radiol. 2023;41(6):617-2410.1007/s11604-023-01387-1. |
| 上田-254 | 2023 | Ikejima K., Tokioka S., Yagishita K., Kajiura Y., Kanomata N., Yamauchi H., Kurihara Y., Tsunoda H. Clinicopathological and ultrasound characteristics of breast cancer in BRCA1 and BRCA2 mutation carriers. J Med Ultrason. 2023;50(2):213-2010.1007/s10396-023-01296-w. |
| 上田-255 | 2023 | Hanamura T, Yokoyama K, Kitano S, Kagamu H, Yamashita M, Terao M, Okamura T, Kumaki N, Hozumi K, Iwamoto T, Honda C, Kurozumi S, Richer JK, Niikura N. Investigating the immunological function of alpha-2-glycoprotein 1, zinc-binding in regulating tumor response in the breast cancer microenvironment. Cancer Immunol Immunother. 2024 Feb 13;73(3):42. |
| 上田-256 | 2023 | Kanzawa M, Shichi H, Kanie K, Yamamoto M, Yamamoto N, Kitano S, et al. Effects of the cortisol milieu on tumor-infiltrating immune cells (TIICs) in corticotroph tumors. Endocrinology. 2024 Feb 20;165(4):bqae016. |
| 上田-257 | 2023 | Ikarashi D, Kitano S, Tsuyukubo T, Yamashita M, Matsuura T, Maekawa S, et al. Pathological complete response to neoadjuvant chemotherapy may improve antitumor immune response via reduction of regulatory T cells in muscle-invasive bladder cancer. Sci Rep. 2024;14(1):1442. |
| 上田-258 | 2023 | Hirose S, Mashima T, Yuan X, Yamashita M, Kitano S, Torii S, et al. Interleukin-4 induced 1-mediated resistance to an immune checkpoint inhibitor through suppression of CD8(+) T cell infiltration in melanoma. Cancer Sci. 2024. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-259 | 2023 | Hanamura T, Kitano S, Kagamu H, Yamashita M, Terao M, Okamura T, et al. Expression of hormone receptors is associated with specific immunological profiles of the breast cancer microenvironment. Breast Cancer Res. 2023;25(1):13. |
| 上田-260 | 2023 | Aoki K, Nishito Y, Motoi N, Arai Y, Hiraoka N, Shibata T, Sonobe Y, Kayukawa Y, Hashimoto E, Takahashi M, Fujii E, Nishizawa T, Fukuda H, Ohashi K, Arai K, Mizoguchi Y, Yoshida Y, Watanabe SI, Yamashita M, Kitano S, Sakamoto H, Nagata Y, Mitsumori R, Ozaki K, Niida S, Kanai Y, et al. Tumor-infiltrating Leukocyte Profiling Defines Three Immune Subtypes of NSCLC with Distinct Signaling Pathways and Genetic Alterations. Cancer Res Commun. 2023;3(6):1026-40. |
| 金子-1 | 2021 | Yamashita T, Koshikawa N, Shimakami T, Terashima T, Nakagawa M, Nio K, Horii R, Iida N, Kawaguchi K, Arai K, Sakai Y, Yamashita T, Mizukoshi E, Honda M, Kitao A, Kobayashi S, Takahara S, Imai Y, Yoshimura K, Murayama T, Nakamoto Y, Yoshida E, Yoshimura T, Seiki M, Kaneko S. Serum Laminin γ 2 Monomer as a Diagnostic and Predictive Biomarker for Hepatocellular Carcinoma. Hepatology. 2021, 74: 760-775, doi: 10.1002/hep.31758. |
| 金子-2 | 2021 | Yamashita T, Kaneko S. Liver cancer stem cells: Recent progress in basic and clinical research. Regen Ther. 2021, 17: 34-37, doi: 10.1016/j.reth.2021.03.002. |
| 金子-3 | 2021 | Okanoue T, Shima T, Mitsumoto Y, Umemura A, Yamaguchi K, Itoh Y, Yoneda M, Nakajima A, Mizukoshi E, Kaneko S, Harada K. Artificial intelligence/neural network system for the screening of nonalcoholic fatty liver disease and nonalcoholic steatohepatitis. Hepatol Res. 2021, 51: 554-569, doi: 10.1111/hepr.13628. |
| 金子-4 | 2021 | Okanoue T, Shima T, Mtsumoto Y, Umemura A, Yamaguchi K, Itoh Y, Yoneda M, Nakajima A, Mizukoshi E, Kaneko S, Harada K. Novel artificial intelligent/neural network system for staging of nonalcoholic steatohepatitis. Hepatol Res. 2021, 51:1044-1057, doi: 10.1111/hepr.13681. |
| 金子-5 | 2021 | Hoshino D, Kato H, Fukumura K, Mayeda A, Miyagi Y, Seiki M, Koshikawa N. Novel LAMC2 fusion protein has tumor-promoting properties in ovarian carcinoma. Cancer Sci. 2021, 112(12):4957-4967, doi: 10.1111/cas.15149. |
| 金子-6 | 2022 | Shimizu T, Sawada T, Asai T, Kanetsuki Y, Hirota , Moriguchi M, Nakajima T, Miyazaki T, Okanoue T. Hepatocellular carcinoma diagnosis using a novel electrochemiluminescence immunoassay targeting serum IgM-free AIM. Clin J Gastroenterol. 2022, 15(1):41-51, doi: 10.1007/s12328-021-01567-4. |
| 金子-7 | 2023 | Karashima T, Umemoto S, Kishida T, Osaka K, Nakagawa M, Yoshida E, Yoshimura T, Sakaguchi M, Nishimoto H, Tai M, Inoue K, Seiki M, Koshikawa N, Shuin T. Clinical evaluation of urine laminin- γ 2 monomer as a potent biomarker for non-muscle invasive bladder cancer. Cancer Med, 2023 (3):2453-2462. doi: 10.1002/cam4.5087. |
| 金子-8 | 2024 | Funahashi N, Okada H, Kaneko R, Nio K, Yamashita T, Koshikawa N. Hepatocyte transformation is induced by laminin gamma2 monomer. Cancer Sci. 2024 Sep;115(9):2972-2984. doi: 10.1111/cas.16265. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|------|------|--|
| 金子-9 | 2024 | Nio K, Shimakami T, Terashima T, Yanagi M, Toyama T, Koshikawa N, Nakagawa M, Yoshida E, Yoshimura T, Seiki M, Honda M, Yamashita T. Serum laminin γ 2 monomer as a predictive biomarker for hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis B virus infection: a retrospective cohort study. Scientific Reports In Press. |
| 笹田-1 | 2020 | Jikuya R, Kishida T, Sakaguchi M, Yokose T, Yasui M, Hashizume A, Tatenuma T, Mizuno N, Muraoka K, Umemoto S, Kawai M, Yoshihara M, Nakamura Y, Miyagi Y, Sasada T. Galectin-9 expression as a poor prognostic factor in patients with renal cell carcinoma. Cancer Immunol Immunother. 69(10):2041-2051, 2020. |
| 笹田-2 | 2020 | Noguchi G, Nakaigawa N, Umemoto S, Kobayashi K, Shibata Y, Tsutsumi S, Yasui M, Ohtake S, Suzuki T, Osaka K, Muraoka K, Hasumi H, Kondo K, Igarashi Y, Sasada T, Kishida T, Yao M. C-reactive protein at 1 month after treatment of nivolumab as a predictive marker of efficacy in advanced renal cell carcinoma. Cancer Chemother Pharmacol. 86(1):75-85, 2020. |
| 笹田-3 | 2020 | Nagashima T, Oshima T, Hiroshima Y, Yokose T, Woo T, Rino Y, Masuda M, Miyagi Y, Ito H, Nakayama H. Clinical Significance of Tumour CD44v and MIST1 Expression in Patients With Non-small-cell Lung Cancer. Anticancer Res 40(11):6407-6416, 2020. |
| 笹田-4 | 2020 | Onozawa H, Saito H, Sunami K, Kubo T, Yamamoto N, Kasajima R, Ohtsu T, Hiroshima Y, Kanamori H, Yokose T, Miyagi Y. Lung adenocarcinoma in a patient with a cis EGFR L858R-K860I doublet mutation identified using NGS-based profiling test: Negative diagnosis on initial companion test and successful treatment with osimertinib. Thorac Cancer 11(12):3599-3604, 2020. |
| 笹田-5 | 2020 | Manabe S, Kasajima R, Murakami S, Miyagi Y, Yokose T, Kondo T, Saito H, Ito H, Kaneko T, Yamada K. Analysis of targeted somatic mutations in pleomorphic carcinoma of the lung using next-generation sequencing technique. Thorac Cancer 11(8):2262-2269, 2020. |
| 笹田-6 | 2020 | Ito K, Murotani K, Kubo A, Kunii E, Taniguchi H, Shindoh J, Asada K, Imaizumi K, Takahashi K, Karayama M, Okuno M, Inui N, Hataji O, Morikawa S, Hayai S, Suda T, Abe T, Tsuda T, Yamaguchi T, Kimura T, Oya Y, Yoshida T, Hida T. Propensity score analysis of overall survival between first- and second-generation EGFR-TKIs using real-world data. Cancer Sci. 111(10):3705-3713, 2020. |
| 笹田-7 | 2020 | Takada K, Toyokawa G, Kinoshita F, Jogo T, Kohashi K, Wakasu S, Ono Y, Tanaka K, Oba T, Osoegawa A, Tagawa T, Azuma K, Okamoto I, Shimokawa M, Oda Y, Mori M. Expression of PD-L1, PD-L2, and IDO1 on tumor cells and density of CD8-positive tumor-infiltrating lymphocytes in early-stage lung adenocarcinoma according to histological subtype. J Cancer Res Clin Oncol. 146(10):2639-2650, 2020. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 笹田-8 | 2020 | Shiraishi Y, Kishimoto J, Tanaka K, Sugawara S, Daga H, Hirano K, Azuma K, Hataji O, Hayashi H, Tachihara M, Mitsudomi T, Seto T, Nakagawa K, Yamamoto N, Okamoto I. Treatment Rationale and Design for APPLE (WJOG11218L): A Multicenter, Open-Label, Randomized Phase 3 Study of Atezolizumab and Platinum/Pemetrexed With or Without Bevacizumab for Patients With Advanced Nonsquamous Non-Small-Cell Lung Cancer. Clin Lung Cancer, 21(5):472-476, 2020. |
| 笹田-9 | 2020 | Ono T., Azuma K., Kawahara A., Kakuma T., Sato F., Kawaguchi T., Akiba J., Umeno H. Changes in immune parameters between pre-treatment and recurrence after (chemo) radiation therapy in patients with head and neck cancer. Sci Rep. 10:11973, 2020. |
| 笹田-10 | 2020 | Hagiwara A, Nakamura Y, Nishimoto R, Ueno S, Miyagi Y. Induction of tryptophan hydroxylase in the liver of subcutaneous tumor model of prostate cancer. Cancer Sci 111(4):1218-1227, 2020. |
| 笹田-11 | 2021 | Matsuo N, Azuma K, Kojima T, Ishii H, Tokito T, Yamada K, Hoshino T. Comparative incidence of immune-related adverse events and hyperprogressive disease in patients with non-small cell lung cancer receiving immune checkpoint inhibitors with and without chemotherapy. Invest New Drugs. 39(4):1150-1158, 2021. |
| 笹田-12 | 2021 | Hotta K, Nishio M, Saito H, Okamoto I, Nakahara Y, Hayashi H, Laud P, Jiang H, Paz-Ares L, Azuma K. First-line durvalumab plus platinum-etoposide in extensive-stage small-cell lung cancer: CASPIAN japan subgroup analysis. Int J Clin Oncol. 26(6):1073-1082, 2021. |
| 笹田-13 | 2021 | Ishii H, Azuma K, Kawahara A, Matsuo N, Tokito T, Hoshino T. Atezolizumab plus carboplatin and etoposide in small cell lung cancer patients previously treated with platinum-based chemotherapy. Invest New Drugs. 39(1):269-271, 2021. |
| 笹田-14 | 2021 | Suzuki M, Kasajima R, Yokose T, Ito H, Shimizu E, Hatakeyama S, Yokoyama K, Yamaguchi R, Furukawa Y, Miyano S, Imoto S, Yoshioka E, Washimi K, Okubo Y, Kawachi K, Sato S, Miyagi Y. Comprehensive molecular analysis of genomic profiles and PD-L1 expression in high-grade fetal lung adenocarcinoma. Transl Lung Cancer Res. 10(3):1292-1304, 2021. |
| 笹田-15 | 2021 | Murakami K, Sasaki H, Nishiyama A, Kurotaki D, Kawase W, Ban T, Nakabayashi J, Kanzaki S, Sekita Y, Nakajima H, Ozato K, Kimura T, Tamura T. A RUNX-CBF β -driven enhancer directs the Irf8 dose-dependent lineage choice between DCs and monocytes. Nat Immunol. 22: 301-311, 2021. |
| 笹田-16 | 2021 | Murakami S, Usui R, Nakahara Y, Kondo T, Kato T, Saito H. Readministration of Pembrolizumab after Treatment of Tuberculosis Activated by Initial Pembrolizumab Therapy. Intern Med. 60(11), 1743-1746, 2021. |
| 笹田-17 | 2021 | Harada I, Sasaki H, Murakami K, Nishiyama A, Nakabayashi J, Ichino M, Miyazaki T, Kumagai K, Matsumoto K, Hagihara M, Kawase W, Tachibana T, Tanaka M, Saito T, Kanamori H, Fujita H, Fujisawa S, Nakajima H, Tamura T. Compromised anti-tumor-immune features of myeloid cell components in chronic myeloid leukemia patients. Sci Rep. 11, 18046, 2021. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 笹田-18 | 2021 | Inagaki K, Kanda M, Nakanishi K, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y. Accurate Prediction of Prognosis After Radical Resection of Gastric Cancer by the Modified Systemic Inflammation Score; a Multicenter Dataset Analysis. <i>World J Surg.</i> 45(8), 2513-2520, 2021. |
| 笹田-19 | 2021 | Sato S, Oshima Y, Matsumoto Y, Seto Y, Yamashita H, Hayano K, Kano M, Ono HA, Mitsumori N, Fujisaki M, Kunisaki C, Akiyama H, Endo I, Ichikawa Y, Urakami H, Kubo H, Nagaoka S, Shimada H. The new prognostic score for unresectable or recurrent gastric cancer treated with nivolumab A multi-institutional cohort study. <i>Ann Gastroenterol Surg.</i> 5(6), 794-803, 2021. |
| 笹田-20 | 2021 | Hasegawa S, Kobayashi N, Okubo N, Tokuhisa M, Goto A, Kurita Y, Hosono K, Endo I, Nakajima A, Ichikawa Y. Pathological Findings of the Host Immune Reaction in the Tumor Microenvironment of Gastroenteropancreatic Neuroendocrine Neoplasms. <i>Intern Med.</i> 60(7), 977-983, 2021. |
| 笹田-21 | 2021 | Nakahara Y, Matsutani T, Igarashi Y, Matsuo N, Himuro H, Saito H, Yamada K, Murotani K, Hoshino T, Azuma K, Sasada T. Clinical significance of peripheral TCR and BCR repertoire diversity in EGFR/ALK wild-type NSCLC treated with anti-PD-1 antibody. <i>Cancer Immunol Immunother.</i> 70(10):2881-2892, 2021. |
| 笹田-22 | 2022 | Ushio R, Murakami S, Saito H. Predictive Markers for Immune Checkpoint Inhibitors in Non-Small Cell Lung Cancer. <i>J Clin Med.</i> 11(7), 1855, 2022. |
| 笹田-23 | 2022 | Murata D, Azuma K, Tokisawa S, Tokito T, Hoshino T. A case of cytokine release syndrome accompanied with COVID-19 infection during treatment with immune checkpoint inhibitors for non-small cell lung cancer. <i>Thorac Cancer.</i> 13(20):2911-2914, 2022. |
| 笹田-24 | 2022 | Shimomura K, Yamaguchi T, Oya Y, Uchida K, Murotani K. Impact of Corticosteroids for IrAEs on the Clinical Outcome of Immunotherapy in Patients With NSCLC. <i>Anticancer Res.</i> 42(12):5961-5969, 2022. |
| 笹田-25 | 2022 | Igawa S, Fukui T, Kasajima M, Ono T, Ozawa T, Kakegawa M, Kusuhara S, Sato T, Nakahara Y, Hisashi M, Sasaki J, Naoki K. First-line osimertinib for poor performance status patients with EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer: A prospective observational study. <i>Invest New Drugs.</i> 40(2):430-437, 2022. |
| 笹田-26 | 2022 | Fujii H, Nagakura H, Kobayashi N, Kubo S, Tanaka K, Watanabe K, Horita N, Hara Y, Nishikawa M, Miura K, Koizumi H, Ito Y, Tsubakihara M, Miyazawa N, Kudo M, Shinkai M, Kaneko T. Liquid biopsy for detecting epidermal growth factor receptor mutation among patients with non-small cell lung cancer treated with afatinib: a multicenter prospective study. <i>BMC cancer</i> 22(1):1035, 2022. |
| 笹田-27 | 2022 | Azuma K, Xiang H, Tagami T, Kasajima R, Kato Y, Karakawa S, Kikuchi S, Imaizumi A, Matsuo N, Ishii H, Tokito T, Kawahara A, Murotani K, Sasada T, Miyagi Y, Hoshino T. Clinical significance of plasma-free amino acids and tryptophan metabolites in patients with non-small cell lung cancer receiving PD-1 inhibitor: a pilot cohort study for developing a prognostic multivariate model. <i>J Immunother Cancer.</i> 10(5):e004420, 2022. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 笹田-28 | 2023 | Wei F, Azuma K, Nakahara Y, Saito H, Matsuo N, Tagami T, Kouro T, Igarashi Y, Tokito T, Kato T, Kondo T, Murakami S, Usui R, Himuro H, Horaguchi S, Tsuji K, Murotani K, Ban T, Tamura T, Miyagi Y, Sasada T. Machine learning for prediction of immunotherapeutic outcome in non-small-cell lung cancer based on circulating cytokine signatures. <i>J. Immunother. Cancer.</i> 11(7):e006788, 2023. |
| 笹田-29 | 2023 | Himuro H, Nakahara Y, Igarashi Y, Kouro T, Higashijima N, Matsuo N, Murakami S, Wei F, Horaguchi S, Tsuji K, Mano Y, Saito H, Azuma K, Sasada T. Clinical roles of soluble PD-1 and PD-L1 in plasma of NSCLC patients treated with immune checkpoint inhibitors. <i>Cancer Immunol Immunother.</i> 72(8):2829-2840, 2023. |
| 笹田-30 | 2023 | Murata D, Azuma K, Murotani K, Matsuo N, Matama G, Tokito T, Sasada T, Hoshino T. Survival and soluble immune mediators of immune checkpoint inhibitor-induced interstitial lung disease in patients with non-small cell lung cancer. <i>Lung Cancer.</i> 184:107351, 2023. |
| 笹田-31 | 2023 | Murata D, Azuma K, Matsuo N, Murotani K, Matama G, Kawahara A, Sasada T, Tokito T, Hoshino T. Survival and biomarkers for cachexia in non-small cell lung cancer receiving immune checkpoint inhibitors. <i>Cancer Med.</i> 12(19):19471-19479, 2023. |
| 笹田-32 | 2023 | Shibata Y, Kishida T, Kouro T, Wei F, Igarashi Y, Himuro H, Noguchi T, Koizumi M, Suzuki T, Osaka K, Saigusa Y, Sasada T. Immune mediators as predictive biomarkers for anti-PD-1 antibody therapy in urothelial carcinoma. <i>Front Pharmacol.</i> 14:1269935, 2023. |
| 笹田-33 | 2023 | Shigeta N, Murakami S, Yokose T, Miyagi Y, Saito H. Case report: anaplastic lymphoma kinase (ALK) rearranged adenocarcinoma with high level of microsatellite instability response to pembrolizumab. <i>Front Oncol.</i> 11:13:1110638, 2023. |
| 笹田-34 | 2023 | Wang X, Xiang H, Toyoshima Y, Shen W, Shichi S, Nakamoto H, Kimura S, Sugiyama K, Homma S, Miyagi Y, Taketomi A, Kitamura H. Arginase-1 inhibition reduces migration ability and metastatic colonization of colon cancer cells. <i>Cancer Metab.</i> 11(1):1, 2023. |
| 笹田-35 | 2023 | Matsuo N, Azuma K, Murotani K, Murata D, Matama G, Kawahara A, Kojima T, Tokito T, Hoshino T. Prognostic effect of cachexia in patients with non-small cell lung cancer receiving immune checkpoint inhibitors. <i>Thorac Cancer.</i> 14(15):1362-1367, 2023. |
| 笹田-36 | 2023 | Murata D, Azuma K, Matama G, Zaizen Y, Matsuo N, Murotani K, Tokito T, Hoshino T. Clinical significance of interstitial lung abnormalities and immune checkpoint inhibitor-induced interstitial lung disease in patients with non-small cell lung cancer. <i>Thorac Cancer.</i> 14(1):73-80, 2023. |
| 笹田-37 | 2023 | Kasajima M, Igawa S, Manaka H, Yamada K, Akazawa Y, Manabe H, Yagami Y, Yamamoto H, Ito H, Kaizuka N, Nakahara Y, Sato T, Mitshufuji H, Yokoba M, Kubota M, Sasaki J, Naoki K. The Glasgow Prognostic Score Predicts Outcomes of Pembrolizumab or Atezolizumab Monotherapy in Patients with Pretreated Non-Small Cell Lung Cancer. <i>Oncology.</i> 101(1):69-76, 2023. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 笹田-38 | 2023 | Matsumoto H, Kobayashi N, Shinoda S, Goto A, Kaneko A, Fukuda N, Kamimaki C, Kubo S, Watanabe K, Horita N, Hara Y, Ishikawa Y, Kaneko T. Regional differences in epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor therapy in lung cancer treatment using a national database in Japan. <i>Sci Rep.</i> 13(1):5208, 2023. |
| 笹田-39 | 2023 | Kobayashi N, Miura K, Kaneko A, Matsumoto H, Somekawa K, Hirose T, Kajita Y, Tanaka A, Teranishi S, Sairenji Y, Kawashima H, Yumoto K, Tsukahara T, Fukuda N, Nishihira R, Kudo M, Miyazawa N, Kaneko T. Tailoring Therapeutic Strategies in Non-Small-Cell Lung Cancer: The Role of Genetic Mutations and Programmed Death Ligand-1 Expression in Survival Outcomes. <i>Cancers (Basel).</i> 15(21):5248, 2023. |
| 笹田-40 | 2023 | Kubo S, Kobayashi N, Matsumoto H, Somekawa K, Kaneko A, Hashimoto H, Teranishi S, Watanabe K, Horita N, Hara Y, Kudo M, Kaneko T. Atezolizumab addition to platinum doublet: evaluating survival outcomes for patients with extensive disease small cell lung cancer. <i>J Cancer Res Clin Oncol.</i> 149(19):17419-17426, 2023. |
| 笹田-41 | 2023 | Matsumoto H, Somekawa K, Horita N, Ueda S, Kaneko M, Kaneko A, Fukuda N, Izawa A, Kamimaki C, Tanaka K, Murohashi K, Fuji H, Tagami Y, Aoki A, Watanabe K, Hara Y, Kobayashi N, Kaneko T. Adverse events induced by durvalumab and tremelimumab combination regimens: a systematic review and meta-analysis. <i>Ther Adv Med Oncol.</i> 15:17588359231198453, 2023. |
| 笹田-42 | 2024 | Nagasaka H, Kishida T, Kouro T, Igarashi Y, Takebe S, Yamamoto S, Kondo T, Koizumi M, Terao H, Suzuki T, Nakaigawa N, Himuro H, Wei F, Sasada T. MMP1, IL-1 β , sTNFR1, and IL-6 are prognostic factors for patients with unresectable or metastatic renal cell carcinoma treated with immune checkpoint inhibitors. <i>Jpn J Clin Oncol.</i> 29(6):832-839, 2024. |
| 笹田-43 | 2024 | Nakahara Y, Kouro T, Motoyama S, Miura M, Fujita K, Igarashi Y, Higashijima N, Matsuo N, Himuro H, Wei F, Horaguchi S, Tsuji Y, Mano Y, Komahashi M, Saito H, Azuma K, Sasada T. Circulating IL-6 and not its circulating signaling components sIL-6R and sgp130 demonstrate clinical significance in NSCLC patients treated with immune checkpoint inhibitors. <i>Front. Cell Dev. Biol.</i> 11:1324898, 2024. |
| 笹田-44 | 2024 | Wei F, Sasada T. Circulating cytokine signatures as a soluble biomarker of immune checkpoint inhibitor therapy in non-small-cell lung cancer. <i>Genes Immun.</i> 25(1):89-91, 2024. |
| 笹田-45 | 2024 | Horaguchi S, Nakahara Y, Igarashi Y, Kouro T, Wei F, Murotani K, Udagawa S, Higashijima N, Matsuo N, Murakami S, Kato T, Kondo T, Xiang H, Kasajima R, Himuro H, Tsuji K, Mano Y, Komahashi M, Miyagi Y, Saito H, Azuma K, Uehara S, Sasada T. Prognostic Significance of Plasma Neutrophil Extracellular Trap Levels in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Immune Checkpoint Inhibitors. <i>Biomedicines.</i> 12(8):1831, 2024. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 笹田-46 | 2024 | Murata D, Azuma K, Murotani K, Kawahara A, Nishii Y, Tokito T, Sasada T, Hoshino T. Characterization of pre- and on-treatment soluble immune mediators and the tumor microenvironment in NSCLC patients receiving PD-1/L1 inhibitor monotherapy. <i>Cancer Immunol Immunother</i> . 73(11):214, 2024. |
| 笹田-47 | 2024 | XiangH, Kasajima R, Azuma K, Tagami T, Hagiwara A, Nakahara Y, Saito H, Igarashi Y, Wei F, Ban T, Yoshihara M, Nakamura Y, Sato S, Koizume S, Tamura T, Sasada T, Miyagi Y. Multi-omics analysis-based clinical and functional significance of a novel prognostic and immunotherapeutic gene signature derived from amino acid metabolism pathways in lung adenocarcinoma. <i>Front Immunol</i> , 2024, in press. |
| 中村-1 | 2019 | Ito K :Toyama H, Li Y, Hatazawa J, Huang G, Kubota K (eds): PET/CT for inflammatory diseases: basic sciences, typical cases, and review ingapore: Springer Nature Singapore Pte Ltd., 2020, 233 pages, Hardcover, 169.99 ?. <i>Annals of Nuclear Medicine</i> (2020) 34:377, Mar 28 2020. doi: 10.1007/s12149-020-01459-6. |
| 中村-2 | 2019 | 加藤隆司, 竹中章倫, 木村泰之, 中村昭範, 伊藤健吾. アルツハイマー病 In:認知症の画像診断～ルーチン検査から最新の画像診断まで～, <i>RadFan</i> 17(13):18-21, 2019 |
| 中村-3 | 2019 | 加藤隆司, 竹中章倫, 木村泰之, 中村昭範, 伊藤健吾. 2節 PETによる認知症の早期および鑑別診断、1章 認知症早期発見へ向けた診断技術とその高精度化, 「認知症の早期診断技術と進行抑制／予防薬・機能性食品の開発」, (株)技術情報協会, 2019年4月26日発行 |
| 中村-4 | 2019 | Yamamoto Y, Kondo S, Matsuzaki J, Esaki M, Okusaka T, Shimada K, Murakami Y, Enomoto M, Tamori A, Kato K, Aoki Y, Takizawa S, Sakamoto H, Niida S, Takeshita F, Ochiya T. Highly sensitive circulating microRNA panel for accurate detection of hepatocellular carcinoma in patients with liver disease. <i>Hepatol Commun</i> . 2019 Dec 19;4(2):284-297. doi:10.1002/hep4.1451 |
| 中村-5 | 2019 | Shigemizu D, Akiyama S, Asanomi Y, Boroevich KA, Sharma A, Tsunoda T, Sakurai T, Ozaki K, Ochiya T, Niida S. A comparison of machine learning classifiers for dementia with Lewy bodies using miRNA expression data. <i>BMC Med Genomics</i> . 2019 Oct 30;12(1):150. doi: 10.1186/s12920-019-0607-3. |
| 中村-6 | 2019 | Asanomi Y, Shigemizu D, Miyashita A, Mitsumori R, Mori T, Hara N, Ito K, Niida S, Ikeuchi T, Ozaki K. A rare functional variant of SHARPIN attenuates the inflammatory response and associates with increased risk of late-onset Alzheimer's disease. <i>Mol. Med</i> . 2019 Jun 20;25(1):20. doi.org/10.1186/s10020-019-0090-5 |
| 中村-7 | 2019 | Sudo K, Kato K, Matsuzaki J, Boku N, Abe S, Saito Y, Daiko H, Takizawa S, Aoki Y, Sakamoto H, Niida S, Takeshita F, Fukuda T, Ochiya T. Development and validation of an esophageal squamous cell carcinoma detection model by large-scale microRNA profiling. <i>JAMA Network</i> 2019 May; 3;2(5):e194573. doi:10.1001/jamanetworkopen.2019.4573 |
| 中村-8 | 2019 | 中村昭範. 血液超早期診断の進歩. 臨床現場で役立つ最新の治療 カレントセラピー Vol.37 No.8 P81, 2019年8月 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 中村-9 | 2019 | 中村昭範, 岩田香織, 加藤隆司, 新畑豊, 伊藤健吾. アルツハイマー病における中潜時体性感覚誘発脳磁場波形増大の病態メカニズムの解析. 日本生体磁気学会誌 Vol 32-1, pp200-201, 2019 |
| 中村-10 | 2019 | Okada Y, Kato T, Iwata K, Kimura Y, Nakamura A, Hattori H, Toyama H, Ishii K, Ishii K, Senda M, Ito K, Iwatsubo T; Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative. Evaluation of PiB visual interpretation with CSF A β and longitudinal SUVR in J-ADNI study. Ann Nucl Med. 2020 Feb;34(2):108-118. doi: 10.1007/s12149-019-01420-2. |
| 中村-11 | 2019 | Nishita Y, Nakamura A, Kato T, Otsuka R, Iwata K, Tange C, Ando F, Ito K, Shimokata H, Arai H. Links Between Physical Frailty and Regional Gray Matter Volumes in Older Adults: A Voxel-Based Morphometry Study. Journal of the American Medical Directors Association, Volume 20, Issue 12, December 2019, Pages 1587-1592.e7 |
| 中村-12 | 2020 | 加藤隆司: C-11 PiBを用いたアミロイドPET In 特集「脳アミロイドPET診療を開始するに当たって」. 臨床放射線 2020; 65;1177-1183. |
| 中村-13 | 2020 | 加藤隆司, 中村昭範, 伊藤健吾: 認知予備能. 老年内科、科学評論社、Vol2.No.4, 458-463、2020年10月28日 |
| 中村-14 | 2020 | Kimura Y, Kato T, Ito K, Ichise M.: SPECT and PET of the Brain. Clinical Nuclear Medicine 2nd Ed., Chapter 4. p. 211-231, Springer 2020 |
| 中村-15 | 2020 | Matsuda H, Ito K, Ishii Ka Shimosegawa E, Okazawa H, Mishina M, Mizumura S, Ishii Ke, Okita K, Shigemoto Y, Kato T, Takenaka A, Kaida H, Hanaoka K, Matsunaga K, Hatazawa J, Ikawa M, Tsujikawa T, Morooka M, Ishibashi K, Kameyama M, Yamao T, Miwa K, Ogawa M, Sato N: Quantitative Evaluation of 18F-Flutemetamol PET in Patients With Cognitive Impairment and Suspected Alzheimer's Disease: A Multicenter Study. Front Neurol. 2021 Jan 13;11:578753. doi: 10.3389/fneur.2020.578753. eCollection 2020. |
| 中村-16 | 2020 | Ogata A, Kimura Y, Ikenuma H, Yamada T, Abe J, Koyama H, Suzuki M, Ichise M, Kato T, Ito K: Brain pharmacokinetics and biodistribution of 11C-labeled isoproterenol in rodents. Nuclear Medicine and Biology, 2020 Jul-Aug;86-87:52-58. doi: 10.1016/j.nucmedbio.2020.06.002. Epub 2020 Jun 5. |
| 中村-17 | 2020 | Minamizaki T, Nakao Y, Irie Y, Ahmed F, Itoh S, Sarmin N, Yoshioka H, Nobukiyo A, Fujimoto C, Niida S, Sotomaru Y, Tanimoto K, Kozai K, Sugiyama T, Bonnelye E, Takei Y, Yoshiko Y. The matrix vesicle cargo miR-125b accumulates in the bone matrix, inhibiting bone resorption in mice. Commun Biol. 2020 Jan 16;3(1):30. doi: 10.1038/s41598-020-59392-7. |
| 中村-18 | 2020 | Watanabe Y, Hirao Y, Kasuga K, Tokutake T, Kitamura K, Niida S, Ikeuchi T, Nakamura K, Yamamoto T: Urinary apolipoprotein C3 is a potential biomarker for Alzheimer's disease. Dement Geriatr Cogn Dis Extra 2020; 10(3):94 doi: 10.1159/000509561.eCollection2020 Sep-Dec. |
| 中村-19 | 2020 | Mitsumori R, Sakaguchi K, Shigemizu D, Mori T, Akiyama S, Ozaki K, Niida S, Shimoda N: Lower DNA methylation levels in CpG island shores of CR1, CLU, and PICALM in the blood of Japanese Alzheimer's disease patients. PLoS One 2020; 15(9):e0239196 doi:10.1371/journal.pone.0239196 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 中村-20 | 2020 | Saji N, Murotani K, Hisada T, Kunihiro T, Tsuduki T, Sugimoto T, Kimura A, Niida S, Toba K, Sakurai T: The association between cerebral small vessel disease and the gut microbiome: a cross-sectional analysis J Stroke Cerebrovasc Dis. 2021 Mar;30(3):105568. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2020.105568. |
| 中村-21 | 2020 | Sugimoto T, Ono R, Kimura A, Sakai T, Saji N, Niida S, Toba K, Sakurai T: Impact of frailty on activities of daily living, cognitive function, and conversion to dementia in older adults with mild cognitive impairment. J Alzheimers Dis. 2020 Aug 04 ; 76(3):895-903 doi:10.3233/JAD-191135 |
| 中村-22 | 2020 | Shigemizu D, Mori T, Akiyama S; Higaki S, Watanabe H, Sakurai T, Niida S, Ozaki K: Identification of potential blood biomarkers for early diagnosis of Alzheimer's disease through RNA-sequencing analysis Alzheimer's Research & Therapy, 2020 Jul 16;12(1):87.doi:10.1186/s13195-020-00654-x |
| 中村-23 | 2020 | Saji N, Murotani K, Hisada T, Kunihiro T, Tsuduki T, Sugimoto T, Kimura A, Niida S, Toba K, Sakurai T: The relationship between dementia and metabolites attribute to gut microbiome: a cross-sectional sub-analysis study conducted in Japan. Sci Rep. 2020 May 18;10(1):8088. doi: 10.1038/s41598-020-65196-6. |
| 中村-24 | 2020 | 田中誠也, 鈴木啓介, 馬田美和, 柏田舞波, 本田愛, 前田真弓, 佐藤弥生, 伊藤健吾, 鷺見幸彦, Case Report : 研究者主導臨床試験における限られたリソースで実現可能なモニタリング体制の有用性と効率性に関する検討. 薬理と治療. 2020年 48巻 増刊2号、2020年12月16日 |
| 中村-25 | 2020 | 中村昭範 : アルツハイマー病における血液バイオマーカーの展望, CLINICIAN, vol 67, No. 680, 132-137, 2020. |
| 中村-26 | 2020 | 中村昭範 : 認知症のバイオマーカーとしての脳磁図の可能性. 日本生体磁気学会会誌Vol33(1), 77-79, 2020 |
| 中村-27 | 2020 | 中村昭範 : 認知症の血液バイオマーカー開発の現状. 老年内科、科学評論社 Vol2.No.4 453-457, 2020. |
| 中村-28 | 2020 | Yasuno F, Nakamura A, Kato T, Iwata K, Sakurai T, Arahata Y, Washimi Y, Hattori H, Ito K, The evaluation of the amyloid cascade model with in-vivo PET imaging. Psychogeriatrics, 2021 Jan;21(1):14-23 doi: 10.1111/psyg.12589. |
| 中村-29 | 2020 | Otsuka R, Nishita Y, Nakamura A, Kato T, Iwata K, Tange C, Tomida M, Kinoshita K, Nakagawa T, Ando F, Shimokata H, Arai H. Dietary diversity is associated with longitudinal changes in hippocampal volume among Japanese community dwellers. Eur J Clin Nutr, 02 September 2020 |
| 中村-30 | 2020 | Yen Ying Lim, Paul Maruff, Kaneko N, James Doecke, Christopher Fowler, Vicotr L Villemagne, Kato T, Christopher C Rowe, Arahata Y, Iwamoto S, Ito K, Tanaka K, Yanagisawa K, Colin L Masters, Nakamura A: Plasma A β biomarker associated with cognitive decline in preclinical Alzheimer's disease. J Alzheimer Dise. 2020;77(3):1057-1065. |
| 中村-31 | 2021 | 徳田隆彦. 認知症と神経変性疾患のバイオマーカー. 老年期認知症研究会誌. 2021; 23(9): 52-57. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 中村-32 | 2021 | Muraoka S, DeLeo AM, Yang Z, Tatebe H, Yukawa-Takamatsu Ko, Ikezu S, Tokuda T, Issadore D, Stern RA, Ikezu T. Proteomic Profiling of Extracellular Vesicles Separated from Plasma of Former National Football League Players at Risk for Chronic Traumatic Encephalopathy. Aging Dis. 2021 Sep 1;12(6):1363-1375. |
| 中村-33 | 2021 | Sugimoto T, Araki A, Fujita H, Honda K, Inagaki N, Ishida T, Kato J, Kishi M, Kobayashi K, Kouyama K, Noma H, Ohishi M, Satoh-Asahara N, Shimada H, Sugimoto K, Suzuki S, Takeya Y, Tamura Y, Tokuda H, Umegaki H, Watada H, Yamada Y, Sakurai T. The multi-domain intervention trial in older adults with diabetes mellitus for prevention of dementia in Japan: study protocol for a multi-center, randomized, 18-month controlled trial. Front Aging Neurosci. 2021 Jul 12;13:680341. doi: 10.3389/fnagi.2021.680341. |
| 中村-34 | 2021 | Ogama N, Endo H, Satake S, Niida S, Arai H, Sakurai T. Impact of regional white matter hyperintensities on specific gait function in Alzheimer's disease and mild cognitive impairment. J Cachexia Sarcopenia Muscle.2021 Dec;12(6):2045-2055. doi: 10.1002/jcsm.12807.7 |
| 中村-35 | 2021 | Satoh Y, Kawamoto M, Kubota K, Murakami K, Hosono M, Senda M, Sasaki M, Momose T, Ito K, Okamura T, Oda K, Kuge Y, Sakurai M, Tateishi U, Fujibayashi Y, Magata Y, Yoshida T, Waki A, Kato K, Hashimoto T, Uchiyama M, Kinuya S, Higashi T, Magata Y, Machitori A, Maruno H, Minamimoto R, Yoshinaga K.: Clinical practice guidelines for high-resolution breast PET, 2019 edition. Ann Nucl Med. 2021 Mar;35(3):406-414. doi: 10.1007/s12149-021-01582-y. Epub 2021 |
| 中村-36 | 2021 | Yasuno F, Nakamura A, Kato T, Iwata K, Sakurai T, Arahata Y, et al. An evaluation of the amyloid cascade model using in vivo positron emission tomographic imaging. Psychogeriatrics. 2021;21(1):14-23.doi 10.1111/psyg.12589. |
| 中村-37 | 2021 | Shigemizu D, Mitsumori R, Akiyama S, Miyashita A, Morizono T, Higaki S, Asanomi Y, Hara N, Tamiya G, Kinoshita K, Ikeuchi T, Niida S, Ozaki K: Ethnic and trans-ethnic genome-wide association studies identify new loci influencing Japanese Alzheimer's disease risk.?Transl Psychiatry 2021; 11:151. doi: 10.1038/s41398-021-01272-3. |
| 中村-38 | 2021 | Asanomi Y, Shigemizu D, Akiyama S, Sakurai T, Ozaki K, Ochiya T, Niida S, Dementia subtype prediction models constructed by penalized regression methods for multiclass classification using serum microRNA expression data, Scientific Reports 2021 Oct 22;(1):20947. Doi:10.1038/s41598-021-00424-1. |
| 中村-39 | 2021 | 重水大智, 新飯田俊平: 認知症のゲノム解析 (2021). 医学のあゆみ, Vol.279, No.5, 22360-22364. |
| 中村-40 | 2021 | 重水大智、新飯田俊平：生化学的バイオマーカー 4)血中マイクロRNAの現状. Geriat Med 59, 2021. |
| 中村-41 | 2021 | Asanomi Y, Shigemizu D, Akiyama S, Miyashita A, Mitsumori R, Hara N, Ikeushi T, Niida S, Ozaki K: A functional variant of SHARPIN confers increased risk of late-onset Alzheimer's disease. J Hum Genet 67:203-8, 2021. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 中村-42 | 2021 | Akiyama S, Higaki S, Ochiya T, Ozaki K, Niida S, Shigemizu D: JAMIR-eQTL: Japanese genome-wide identification of microRNA expression quantitative trait loci across dementia types. Database (Oxford) 2021(2021):baab072, 2021. |
| 中村-43 | 2021 | Ogama N, Endo H, Satake S, Niida S, Arai H, Sakurai T: Impact of regional white matter hyperintensities on specific gait function in Alzheimer's disease and mild cognitive impairment. J Cachexia Sarcopenia Muscle 12(6):2045-2055, 2021. |
| 中村-44 | 2021 | 中村昭範：生化学的バイオマーカー アミロイドβ特集 認知症のバイオマーカー, Geriatric Medicine (老年医学), Vol59(2), 147-151, 2021. |
| 中村-45 | 2021 | 中村昭範. 認知症のバイオマーカー -アルツハイマー病の血液バイオマーカーを中心に. 医学のあゆみ Vol.279 No.5 P390-395, 2021年10月30日 |
| 中村-46 | 2021 | 中村昭範. [Colum] 期待される血液バイオマーカー. 第II章 実践! 認知症の包括的診療. 認知症サポート医・認知症初期集中支援チームのための認知症診療ハンドブック 南江堂、P76-77、2021年4月15日発行 |
| 中村-47 | 2021 | 中村昭範. アルツハイマー病の早期診断に資するバイオマーカーの開発. 日本認知症学会誌 Dementia Japan 35:435-447, 2021年9月15日発行 |
| 中村-48 | 2021 | Uchida Y, Nishita Y, Otsuka R, Sugiura S, Sone M, Yamasoba T, Kato T, Iwata K, Nakamura A. Aging Brain and Hearing: A Mini-Review. Frontiers in Aging Neuroscience, 2022 Jan 13;13:791604. doi: 10.3389/fnagi.2021.791604. eCollection 2021. |
| 中村-49 | 2021 | Pannee J, Shaw LM, Korecka M, Waligorska T, Teunissen CE, Stoops E, Vanderstichele HM, Mauroo K, Verberk IMW, Keshavan A, Pesini P, Sarasa L, Pascual-Lucas M, Fandos N, Allu? JA, Portelius E, Andreasson U, Yoda R, Nakamura A, Kaneko N, Yang SY, Liu HC, Palme S, Bittner T, Mawuenyega KG, Ovod V, Bollinger J, Bateman RJ, Li Y, Dage JL, Stomrud E, Hansson O, Schott JM, Blennow K, Zetterberg H The Global Alzheimer's Association Round Robin Study on Plasma Amyloid β Methods. Alzheimers Dement (Amst) . 2021 Oct 14;13(1):e12242. doi: 10.1002/dad2.12242. eCollection 2021. |
| 中村-50 | 2021 | Zhang S, Otsuka R, Nishita Y, Nakamura A, Kato T, Iwata K, Tange C, Tomida M, Ando F, Shimokata H, Arai H. Green tea consumption is associated with annual changes in hippocampal volumes: A longitudinal study in community-dwelling middle-aged and older Japanese individuals. Archives of Gerontology and Geriatrics, Sep-Oct 2021;96:104454. doi: 10.1016/j.archger.2021.104454. Epub 2021 Jun 1 |
| 中村-51 | 2021 | Sexton CE, Anstey KJ, Baldacci F, Barnum CJ, Barron AM, Blennow K, Brodaty H, Burnham S, Elahi FM, G?tz J, Jeon YH, Koronyo-Hamaoui M, Landau SM, Lautenschlager NT, Laws SM, Lipnicki DM, Lu H, Masters CL, Moyle W, Nakamura A, Pasinetti GM, Rao N, Rowe C, Sachdev PS, Schofield PR, Sigurdsson EM, Smith K, Srikanth V, Szeke C, Tansey MG, Whitmer R, Wilcock D, Wong TY, Bain LJ, Carrillo MC. Alzheimer's disease research progress in Australia: The Alzheimer's Association International Conference Satellite Symposium in Sydney. Alzheimers Dement., 2022 Jan;18(1):178-190. doi: 10.1002/alz.12380. Epub 2021 May 31. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 中村-52 | 2021 | 中村昭範. アルツハイマー病のバイオマーカー. SRL宝函 Vol.42, No.4 P4-12、2022年1月発行 |
| 中村-53 | 2022 | TRACES: A Lightweight Browser for Liquid Chromatography-Multiple Reaction Monitoring-Mass Spectrometry Chromatograms. Kita Y, Tokuoka SM, Oda Y, Shimizu T. Metabolites. 2022 Apr 15;12(4):354. doi: 10.3390/metabo12040354.. |
| 中村-54 | 2022 | Imamura K, Izumi Y, Nagai M, Nishiyama K, Watanabe Y, Hanajima R, Egawa N, Ayaki T, Oki R, Fujita K, Uozumi R, Morinaga A, Hirohashi T, Fujii Y, Yamamoto T, Tatebe H, Tokuda T, Takahashi N, Morita S, Takahashi R, Inoue H. Safety and tolerability of bosutinib in patients with amyotrophic lateral sclerosis (iDReAM study): A multicentre, open-label, dose-escalation phase 1 trial. EClinicalMedicine. 2022 Oct 25; 53: 101707. doi: 10.1016/j.eclinm.2022.101707. |
| 中村-55 | 2022 | Endo H, Tagai K, Ono M, Ikoma Y, Oyama A, Matsuoka K, Kokubo N, Hirata K, Sano Y, Oya M, Matsumoto H, Kurose S, Seki C, Shimizu H, Kakita A, Takahata K, Shinotoh H, Shimada H, Tokuda T, Kawamura K, Zhang MR, Oishi K, Mori S, Takado Y, Higuchi M. A Machine Learning-Based Approach to Discrimination of Tauopathies Using [18F]PM-PBB3 PET Images. Mov Disord. 2022 Nov; 37(11): 2236-2246. doi: 10.1002/mds.29173. |
| 中村-56 | 2022 | Baba T, Takeda A, Murakami A, Koga T, Isomura T, Mori E; DASH-PD study group. Effect of donepezil for dementia prevention in Parkinson's disease with severe hyposmia (The DASH-PD study): A randomized long-term placebo-controlled trial. EClinicalMedicine. 2022 Jul 14; 51: 101571. doi: 10.1016/j.eclinm.2022.101571. |
| 中村-57 | 2022 | 徳田隆彦. 認知症のバイオマーカーはどこに向かうのか. 体液バイオマーカーの進歩と臨床応用の課題. 老年精神医学雑誌. 2022; 33(7): 663-671. |
| 中村-58 | 2022 | 徳田隆彦, 建部陽嗣. 認知症診療の新潮流：近未来の認知症診療に向けて. 血液検査によるアルツハイマー病診断の可能性. 精神医学. 2022; 64(6): 867-875. |
| 中村-59 | 2022 | 徳田隆彦, 建部陽嗣. 認知症研究の最前線：世界はgame changerを待っている. 血液バイオマーカー. 診断と治療. 2022; 110(5): 605-609. |
| 中村-60 | 2022 | Wagatsuma K, Ishibashi K, Kameyama M, Sakata M, Miwa K, Kamitaka Y, Ishii K. Decreased imaging time of amyloid PET using [18F]florbetapir can maintain quantitative accuracy. Radiological Physics and Technology. 2022 Jun;15(2):116-124, Doi:10.1007/s12194-00653-7 |
| 中村-61 | 2022 | Imabayashi E, Tamamura N, Yamaguchi Y, Kamitaka Y, Sakata M, Ishii K. Automated semi-quantitative amyloid PET analysis technique without MR images for Alzheimer's disease. Ann Nucl Med 2022 Oct;36(10):865-875. doi: 10.1007/s12149-022-01769-x. |
| 中村-62 | 2022 | Saji N, Murotani K, Sato N, Tsuduki T, Hisada T, Shinohara M, Sugimoto T, Niida S, Toba K, Sakurai T. Relationship Between Plasma Neurofilament Light Chain, Gut Microbiota, and Dementia: A Cross-Sectional StudyJ Alzheimers Dis. 2022;86(3):1323-1335. doi: 10.3233/JAD-215141. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 中村-63 | 2022 | Kishino Y, Sugimoto T, Kimura A Kuroda Y, Uchida K, Matsumoto N, Saji N, Niida S, Sakurai T. Longitudinal association between nutritional status and behavioral and psychological symptoms of dementia in older women with mild cognitive impairment and early-stage Alzheimer's disease. Clin Nutr. 2022 Sep;41(9):1906-1912.doi: 10.1016/j.clnu.2022.06.035. Epub 2022 Jul 2. |
| 中村-64 | 2022 | Yasuno F, Kimura Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minami H, Nihashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Ichise M, Sakurai T, Ito K, Kato T. Kinetic modeling and non-invasive approach of translocator protein quantification with 11C-DPA-713. Nucl Med Biol 2022 Mar 12; 108-109:76-84. doi: 10.1016/j.nucmedbio.2022.02.005. |
| 中村-65 | 2022 | 加藤隆司, 岡田祐介, 二橋尚志, 櫻井圭太, 木村泰之, 伊藤健吾. 認知症のATN核医学画像診断 - アミロイド, タウ, FDG PET -. MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY 2022;40(3):88-93 |
| 中村-66 | 2022 | 加藤隆司, 岡田祐介, 櫻井圭太, 二橋尚志, 木村泰之. 【核医学を考える】 閾値下アミロイドPET集積の評価とその意義. 脳神経内科, 2022年4月 |
| 中村-67 | 2022 | Sakurai K, Kaneda D, Morimoto S, Uchida Y, Inui S, Kimura Y, Cai C, Kato T, Ito K, Hashizume Y. Diverse limbic comorbidities cause limbic and temporal atrophy in lewy body disease. Parkinsonism Relat D. 2022;105:52?57. doi: 10.1016/j.parkreldis.2022.11.001. Epub 2022 Nov 4 |
| 中村-68 | 2022 | Sakurai K, Kaneda D, Morimoto S, Uchida Y, Inui S, Kimura Y, Kato T, Ito K, Hashizume Y. Clinicoradiological features in progressive supranuclear palsy comorbid with argyrophilic grains. Mov Disord Clin Pract. 2022 May 2;9(4):484-488. doi: 10.1002/mdc3.13455. eCollection 2022 May |
| 中村-69 | 2022 | Saji N, Murotani K, Sato N, Tsuduki T, Hisada T, Shinohara M, Sugimoto T, Niida S, Toba K, Sakurai T. Relationship Between Plasma Neurofilament Light Chain, Gut Microbiota, and Dementia: A Cross-Sectional Study. J Alzheimers Dis. 2022, 86, 1323-35. |
| 中村-70 | 2022 | Shigemizu D, Asanomi Y, Akiyama S, Mitsumori R, Niida S, Ozaki K. Whole-genome sequencing reveals novel ethnicity-specific rare variants associated with Alzheimer's disease. Mol Psychiatry. 2022, 27, 2554-62. |
| 中村-71 | 2022 | Ando T, Uchida K, Sugimoto T, Kimura A, Saji N, Niida S, Sakurai T. ApoE4 Is Associated with Lower Body Mass, Particularly Fat Mass, in Older Women with Cognitive Impairment. Nutrients. 2022, 14, 539. |
| 中村-72 | 2022 | Shigemizu D, Asanomi Y, Akiyama S, Higaki S, Sakurai T, Ito K, Niida S, Ozaki K. Network-based meta-analysis and the candidate gene association studies reveal novel ethnicity-specific variants in MFSD3 and MRPL43 associated with dementia with Lewy bodies. Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 2022, 189(5):139-150, doi:10.1002/ajmg.b.32908. |
| 中村-73 | 2022 | Shigemizu D, Akiyama S, Mitsumori R, Niida S, Ozaki K. Identification of potential blood biomarkers for early diagnosis of Alzheimer's disease through immune landscape analysis. NPJ Aging. 2022, 4;8(1):15. |
| 中村-74 | 2022 | 中村昭範. 質量分析による血液A β の測定とその実用化への過程. 認知症学会誌 DEMENTIA JAPAN Vol.37 P2-12, 2023年1月15日 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 中村-75 | 2022 | Pedrini S, Chatterjee P, Nakamura A, Tegg M, Hone E, Rainey-Smith SR, Rowe CC, Dore V, Villemagne VL, Ames D, Kaneko N, Gardener SL, Taddei K, Fernando B, Martins I, Bharadwaj P, Sohrabi HR, Masters CL, Brown B, Martins RN on behalf of the AIBL Research Group. The Association Between Alzheimer's Disease-Related Markers and Physical Activity in Cognitively Normal Older Adults Front. Aging Neurosci., 28 March 2022 https://doi.org/10.3389/fnagi.2022.771214 |
| 中村-76 | 2022 | Chen WL, Nishita Y, Nakamura A, Kato T, Nakagawa T, Zhang S, Shimokata H, Otsuka R, Su KP, Arai H. Hemoglobin concentration is associated with the hippocampal volume in community-dwelling adults Archives of Gerontology and Geriatrics. Volume 101, July-August 2022, 104668 |
| 中村-77 | 2022 | 中村昭範. トピックス 血液バイオマーカー. 特集“認知症+併存疾患”アプローチの最前線. 内科、臨床雑誌Vol.129 No.6 P1345-1348、南江堂、2022年6月1日 |
| 中村-78 | 2022 | Brand AL, Lawler PE, Bollinger JG, Li Y, Schindler SE, Li M, Lopez S, Ovod V, Nakamura A, Shaw LM, Zetterberg H, Hassan O, Bateman RJ. The performance of plasma amyloid beta measurements in identifying amyloid plaques in Alzheimer's disease: a literature review. Alzheimer's Research & Therapy. 2022 Dec 27;14(1):195. doi: 10.1186/s13195-022-01117-1. |
| 中村-79 | 2022 | Tokuda H, Horikawa C, Nishita Y, Nakamura A, Kato T, Kaneda Y, Obata H, Rogi T, Nakai M, Shimokata H, Otsuka R. The association between long-chain polyunsaturated fatty acid intake and changes in brain volumes among older community-dwelling Japanese people. Neurobiol Aging. 2022 Sep;117:179-188. doi: 10.1016/j.neurobiolaging.2022.05.008. Epub 2022 Jun 3. |
| 中村-80 | 2022 | Otsuka R, Nishita Y, Nakamura A, Kato T, Ando F, Shimokata H, Arai H. Basic lifestyle habits and volume change in total gray matter among community dwelling middle-aged and older Japanese adults. Prev. Med. 2022 Aug;161:107149. doi: 10.1016/j.ypmed.2022.107149. Epub 2022 Jul 6. |
| 中村-81 | 2022 | Fujisawa C, Saji N, Takeda A, Kato T, Nakamura A, Sakurai K, Asanomi Y, Ozaki K, Takada K, Umegaki H, Kuzuya M, Sakurai T. Early-onset Alzheimer's Disease Associated with Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder. Alzheimer Dis Assoc Disord. 2022 Jul 18. doi: 10.1097/WAD.0000000000000517. |
| 中村-82 | 2022 | Sakurai K, Nishita Y, Kimura Y, Iwata K, Ikenuma H, Arahata Y, Okamura N, Yanai K, Akagi A, Ito K, Kato T, Nakamura A, Mulniad Study Group. Age-related increase of monoamine oxidase B in amyloid-negative cognitively unimpaired elderly subjects. Ann Nucl Med. 2022;36(8):777-784. doi: 10.1007/s12149-022-01760-6. Epub 2022 Jul 4. |
| 中村-83 | 2022 | Kato T, Nishita Y, Otsuka R, Inui Y, Nakamura A, Kimura Y, Ito K, SEAD-J Study Group. Effect of cognitive reserve on amnesic mild cognitive impairment due to Alzheimer's disease defined by fluorodeoxyglucose-positron emission tomography. Front. Aging Neurosci. 2022 Aug 10;14:932906. doi: 10.3389/fnagi.2022.932906. eCollection 2022. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 中村-84 | 2023 | Analysis of spontaneous speech in Parkinson's disease by natural language processing. Yokoi K, Iribe Y, Kitaoka N, Tsuboi T, Hiraga K, Satake Y, Hattori M, Tanaka Y, Sato M, Hori A, Katusno M. Parkinsonism Relat Disord. 2023. 国外. |
| 中村-85 | 2023 | Clinico-imaging features of subjects at risk of Lewy body disease in NaT-PROBE baseline analysis. Hattori M, Hiraga K, Satake Y, Tsuboi T, Tamakoshi D, Sato M, Yokoi K, Suzuki K, Arahata Y, Hori A, Kawashima M, Shimizu H, Matsuda H, Kato k, Washimi Y, Katsuno M. NPJ Parkinson Dis. 2023. 国外. |
| 中村-86 | 2023 | 徳田隆彦, 建部陽嗣. 体液バイオマーカーの進歩, 臨床への実用化に向けて. 超高感度 digital ELISAによる血液バイオマーカーの定量. Dementia Japan. 2023; 37(1): 24- |
| 中村-87 | 2023 | Regional cerebral THK5351 accumulations correlate with neuropsychological test scores in Alzheimer continuum. Im S, Hanaoka K, Yamada T, Ishii K. Asia Ocean J Nucl Med Biol. 2023; 11: 37-43.国外 |
| 中村-88 | 2023 | 高分解能PET装置で高精細画像取得. 石井一成. Isotope News. 2023;790: 6-8.国内 |
| 中村-89 | 2023 | 特発性正常圧水頭症の最新画像診断 高橋竜一, 石井一成. BRAIN and NERVE. 2024; 76: 145-150. |
| 中村-90 | 2023 | Differential diagnosis of MCI with Lewy bodies and MCI due to Alzheimer's disease by visual assessment of occipital hypoperfusion on SPECT images. Nakata T, Shimada K, Iba A, Oda H, Terashima A, Koide Y, Kawasaki R, Yamada T, Ishii K. Jpn J Radiol. 2024; 2024 Mar;42(3):308-318. |
| 中村-91 | 2023 | 石井賢二. 認知症疾患の神経画像バイオマーカー診断. 脳神経内科 2023;98(2):179-187 |
| 中村-92 | 2023 | Clinico-imaging features of subjects at risk of Lewy body disease in NaT-PROBE baseline analysis. Hattori M, Hiraga K, Satake Y, Tsuboi T, Tamakoshi D, Sato M, Yokoi K, Suzuki K, Arahata Y, Hori A, Kawashima M, Shimizu H, Matsuda H, Kato K, Washimi Y, Katsuno M. NPJ Parkinsons Dis.2023;9(1):67.. doi:10.1038/s41531-023-00507-y. (国外) |
| 中村-93 | 2023 | Prediction of Nursing Home Admission Using the FRAIL-NH Scale Among Older Adults in Post-Acute Care Settings. Yasuoka M, Shinozaki M, Kinoshita K, Li J, Takemura M, Yamaoka A, Arahata Y, Kondo I, Arai H, Satake S. J Nutr Health Aging. 2023;27(3):213-8. (国外) |
| 中村-94 | 2023 | Moderating effect of age on the relationship between physical health loss and emotional distress post-acute care in Japanese older hospitalized patients. Shinozaki M, Gondo Y, Satake S, Tanimoto M, Yamaoka A, Takemura M, Kondo I, Arahata Y. BMC Geriatr. 2024 Mar 2;24(1):214. doi: 10.1186/s12877-024-04814-8. (国外) |
| 中村-95 | 2023 | Yasuno F, Kimura Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minamia M, Nihashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Watanabe A, Kasuga K, Ikeuchi T, Takeda A, Sakurai T, Ito K, Kato T. Neuroimaging biomarkers of glial activation for predicting the annual cognitive function decline in patients with Alzheimer's diseaseBrain Behav Immun. 2023 Nov;114:214-220. doi: 10.1016/j.bbi.2023.08.027. (IF19.227) |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 中村-96 | 2023 | Shigemizu D, Fukunaga K, Yamakawa A, Suganuma M, Fujita K, Kimura T, Mushiroda T, Sakurai T, Niida S, Ozaki K. The HLA-DRB1*09:01-DQB1*03:03 haplotype is associated with the risk for late-onset Alzheimer's disease in APOE ε 4?negative Japanese adults. NPJ Aging. 2024 Jan 2;10(1):3. doi: 10.1038/s41514-023-00131-3. |
| 中村-97 | 2023 | Fujita K, Sugimoto T, Noma H, Kuroda Y, Matsumoto N, Uchida K, Kishino Y, Sakurai T. Postural control characteristics in Alzheimer's disease, dementia with Lewy bodies, and vascular dementia J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2024 Feb 27;glae061. doi: 10.1093/gerona/gle061. |
| 中村-98 | 2023 | Sakurai K, Kaneda D, Morimoto S, Uchida Y, Inui S, Kimura Y, Kan H, Kato T, Ito K, Hashizume Y. Voxel-based and Surface-based Morphometry Analysis in Patients with Pathologically Confirmed Argyrophilic Grain Disease and Alzheimer's Disease. J Alzheimers Dis. 2023 Mar 25. doi: 10.3233/JAD-230068. Online ahead of print. |
| 中村-99 | 2023 | Ogata A, Yamada T, Hattori S, Ikenuma H, Abe J, Tada M, Ichise M, Suzuki M, Ito K, Kato T, Amaike K, Hirota T, Kakita A, Itami K, Kimura Y. Development of a novel PET ligand, [11C]GO289 targeting CK2 expressed in the brain. Bioorg Med Chem Lett. 2023 Jun 15;90:129327. doi: 10.1016/j.bmcl.2023.129327. Epub 2023 |
| 中村-100 | 2023 | Yasuno F, Kimura Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minami H, Nihashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Watanabe A, Kasuga K, Ikeuchi T, Takeda A, Sakurai T, Ito K, Kato T. Neuroimaging biomarkers of glial activation for predicting the annual cognitive function decline in patients with Alzheimer's disease. Brain Behav Immun. 2023 Aug 28;114:214-220. doi: 10.1016/j.bbi.2023.08.027. |
| 中村-101 | 2023 | Sakai T, Hattori S, Ogata A, Yamada T, Abe J, Ikenuma H, Ichise M, Suzuki M, Ito K, Kato T, Kimura Y. Noradrenaline transporter PET reflects neurotoxin-induced noradrenaline level decrease in the rat hippocampus. EJNMMI Res. 2023 Sep 15;13(1):82. doi: 10.1186/s13550-023-01032-y. |
| 中村-102 | 2023 | Sakurai K, Kaneda D, Morimoto S, Uchida Y, Inui S, Kimura Y, Kato T, Ito K, Hashizume Y. Asymmetric Cerebral Peduncle Atrophy: A Simple Diagnostic Clue for Distinguishing Frontotemporal Lobar Degeneration from Alzheimer's Disease. J Alzheimers Dis. 2023 Sep 14. doi: 10.3233/JAD-230441. |
| 中村-103 | 2023 | Ikenuma H, Ogata A, Koyama H, Ji B, Ishii H, Yamada T, Abe J, Seki C, Nagai Y, Ichise M, Minamimoto T, Higuchi M, Zhang MR, Kato T, Ito K, Suzuki M, Kimura Y. Synthesis and evaluation of a novel PET ligand, a GSK'963 analog, aiming at autoradiography and imaging of the receptor interacting protein kinase 1 in the brain. EJNMMI Radiopharm Chem. 2023 Oct 18;8(1):31. doi: 10.1186/s41181-023-00217-z. |
| 中村-104 | 2023 | Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Yamada T, Hattori S, Ichise M, Suzuki M, Kato T, Kimura Y. Radiosynthesis of [11C]MNS for PET imaging of NLRP3 Inflammasome with [11C]nitromethane in One-Pot and its Evaluation in Rat Brains. J. Radioanal. Nucl. Chem. 2023;332:4591-5. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 中村-105 | 2023 | Sakai T, Ogata A, Ikenuma H, Yamada T, Hattori S, Abe J, Imamura S, Ichise M, Tada M, Kakita A, Koyama H, Suzuki M, Kato T, Ito K, Kimura Y. A novel PET probe to selectively image heat shock protein 90 α/β isoforms in the brain.EJNMMI Radiopharm Chem. 9, 19 (2024). |
| 中村-106 | 2023 | Zhang S, Sala G, Nakamura A, Kato T, Furuya K, Shimokata H, Gao X, Nishita Y, Otsuka R. Associations of dietary patterns and longitudinal brain-volume change in Japanese community-dwelling adults: results from the national institute for longevity sciences-longitudinal study of aging. Nutrition Journal, 2024 Mar 12;23(1):34. doi: 10.1186/s12937-024-00935-3. |
| 中村-107 | 2023 | 中村昭範. 認知症の血液バイオマーカー 特集によせて. 日本老年医学会雑誌 vol.61, 1, 2024 日本老年医学会 2024年1月25日発行 |
| 中村-108 | 2023 | 金子直樹、中村昭範. 質量分析を用いた血液バイオマーカー測定法の開発. 医学のあゆみ Vol.287 No.13 P931-936、2023年12月30日 |
| 中村-109 | 2023 | 中村昭範. 髄液・血液バイオマーカー. 月刊臨床神経科学 CLINICAL NEUROSCIENCE Vol41 No.9 P1162-1166、中外医学社、2023年9月1日発行 |
| 中村-110 | 2023 | 加藤隆司、二橋尚志、櫻井圭太、木村泰之、中村昭範、伊藤健吾. 4.画像 1.タウ PETによる認知症イメージング. Annual Review 神経2023、P40-45、中外医学社、2023年6月10日発行 |
| 中村-111 | 2023 | Zhang S, Sala G, Nakamura A, Kato T, Furuya K, Shimokata H, Gao X, Nishita Y, Otsuka R. Associations of dietary patterns and longitudinal brain-volume change in Japanese community-dwelling adults: results from the national institute for longevity sciences-longitudinal study of aging. Nutrition Journal, 2024 Mar 12;23(1):34. doi: 10.1186/s12937-024-00935-3. |
| 中村-112 | 2024 | Sugimoto T, Sakurai T, Uchida K, Kuroda Y, Tokuda H, Omura T, Noguchi T, Komatsu A, Nakagawa T, Fujita K, Matsumoto N, Ono R, Crane PK, Saito T.Impact of type 2 diabetes and glycated hemoglobin levels within the recommended target range on mortality in older adults with cognitive impairment receiving care at a memory clinic: NCGG-STORIES. Diabetes Care 2024 May 1;47(5):864-872. |
| 中村-113 | 2024 | Uchida K, Sugimoto T, Murotani K, Tsujimoto M, Kishino Y, Kuroda Y, Matsumoto N, Fujita K, Suzuki K, Ono R,Akisue T, Arai H,Toba K, Sakurai T. A combined index using the Mini-Mental State Examination and Lawton Index to discriminate between Clinical Dementia Rating scores of 0.5 and 1: A development and validation study. J Clin Psychiatry. 2024 May 20;85(2):23m15101. |
| 中村-114 | 2024 | Sugimoto T, Saji N, Omura T, Tokuda H, Miura H, Kawashima S, Ando T, Nakamura A, Uchida K, Matsumoto N, Fujita K, Kuroda Y, Crane PK, Sakurai T.Cross-sectional association of continuous glucose monitoring-derived metrics with cerebral small vessel disease in older adults with type 2 diabetes.Diabetes Obes Metab. 2024 May 19. doi: 10.1111/dom.15659. Online ahead of print. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 中村-115 | 2024 | Niimi Y, Janelidze S, Sato K, Tomita N, Tsukamoto T, Kato T, Yoshiyama K, Kowa H, Iwata A, Ihara R, Suzuki K, Kasuga K, Ikeuchi T, Ishii K, Ito K, Nakamura A, Senda M, Day TA, Burnham SC, Iaccarino L, Pontecorvo MJ, Hansson O, Iwatsubo T. Combining plasma A β and p-tau217 improves detection of brain amyloid in non-demented elderly. <i>Alzheimers Res Ther.</i> 2024 May 23;16(1):115. doi: 10.1186/s13195-024-01469-w. |
| 中村-116 | 2024 | Sakurai T, Sugimoto T, Akatsu H, Doi T, Fujiwara Y, Hirakawa A, Kinoshita F, Kuzuya M, Lee S, Matsumoto N, Matsuo K, Michikawa M, Nakamura A, Ogawa S, Otsuka R, Sato K, Shimada H, Suzuki H, Suzuki H, Takechi H, Takeda S, Uchida K, Umegaki H, Wakayama S, Arai H; J - MINT study group. Japan-Multimodal Intervention Trial for the Prevention of Dementia: A randomized controlled trial. <i>Alzheimers Dement.</i> 2024 Jun;20(6):3918-3930. doi: 10.1002/alz.13838. Epub 2024 Apr 22. |
| 中村-117 | 2024 | Hiraga K, Hattori M, Satake Y, Tamakoshi D, Fukushima T, Uematsu T, Tsuboi T, Sato M, Yokoi K, Suzuki K, Arahata Y, Washimi Y, Hori A, Yamamoto M, Shimizu H, Wakai M, Tatebe H, Tokuda T, Nakamura A, Niida S, Katsuno M. Plasma biomarkers of neurodegeneration in patients and high risk subjects with Lewy body disease. <i>NPJ Parkinsons Dis.</i> 2024 Jul 31;10(1):135. doi: 10.1038/s41531-024-00745-8. |
| 中村-118 | 2024 | Uematsu T, Tsuboi T, Hiraga K, Tamakoshi D, Fukushima T, Sato M, Nishida K, Yokota H, Katsuno M. Differential impact of fixation characteristics on 3D perception via texture gradient recognition in Parkinson's disease. <i>Parkinsonism Relat Disord.</i> 2024 Aug 26;128:107116. doi: 10.1016/j.parkreldis.2024.107116. |
| 中村-119 | 2024 | Ishii K, Yamada T, Hanaoka K, Kaida H, Kojita Y, Kono A, Hanada K, Saigoh K, Sakuta S, Hashimoto M, Kato T, Nakamura A, BATON Study Group. Regional differences in glucose metabolic decline and tau deposition in the Alzheimer's continuum brain. <i>Journal of Alzheimer's Disease.</i> 13 Aug 2024, Vol. 102(1) 228–236, DOI: 10.1177/13872877241284314 |
| 中村-120 | 2024 | Yamada T, Hanaoka K, Morimoto-Ishikawa D, Yamakawa Y, Kumakawa S, Ohtani A, Mizuta T, Kaida H, Ishii K. Crossover evaluation of time-of-flight-based attenuation correction in brain 18F-FDG and 18F-flutemetamol PET. <i>Annals of Nuclear Medicine.</i> 23 Sep 2024 |
| 中村-121 | 2024 | Takenaka A, Nishihashi T, Sakurai K, Notomi K, Ono H, Inui Y, Ito S, Arahata Y, Takeda A, Ishii K, Ishii K, Ito K, Toyama H, Nakamura A, Kato T, BATON Study Group. Interrater agreement and variability in visual reading of [18F] flutemetamol PET images. <i>Ann Nucl Med.</i> 2024 Sep 24. doi: 10.1007/s12149-024-01977-7. Online ahead of print. |
| 中村-122 | 2024 | Tokuda H, Horikawa C, Nishita Y, Nakamura A, Kato T, Kaneda Y, Izumo T, Nakao Y, Shimokata H, Otsuka R. Association of open skill exercise and long-chain polyunsaturated fatty acid intake with brain volume changes among older community-dwelling Japanese individuals. <i>Arch Gerontol Geriatr.</i> 2024 Sep 7;128:105620. doi: 10.1016/j.archger.2024.105620. Online ahead of print. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 中村-123 | 2024 | Suzumi M.Tokuoka, Fumie Hamano, Ayako Kobayashi, ShungoAdachi, TomohiroAndou, Tohru Natsume ,Yoshiya Oda.Plasma proteomics and lipidomics facilitate elucidation of the link between Alzheimer’s disease development and vessel wall fragility, Sci Rep . 2024 Aug 27;14(1):19901. |
| 夏目-1 | 2020 | Tokuoka SM*, Kita Y, Sato M, Shimizu T, Yatomi Y, Oda Y. Development of Tandem Mass Tag Labeling Method for Lipid Molecules Containing Carboxy and Phosphate Groups, and Their Stability in Human Serum. Metabolites. 2020;11(1):19, doi:10.3390/metabo11010019 |
| 夏目-2 | 2024 | Suzumi M. Tokuoka , Fumie Hamano, Ayako Kobayashi, Shungo Adachi, Tomohiro Andou, Tohru Natsume & Yoshiya Oda*, Plasma proteomics and lipidomicsfacilitate elucidation of the linkbetween Alzheimer’s diseasedevelopment and vessel wallfragility, Scientific Reports. 2024 Aug 27;14(1):19901. doi: 10.1038/s41598-024-71097-9. |

別添2. 発表リスト

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 上田-1 | 2019 | 金井弥栄. がんの病理組織検体を用いたエピゲノム解析: 個別化医療開発への展開. シンポジウム4 毒性評価における病理・イメージングの新展開. 第2回医薬品毒性機序研究会, 2020/1/24, 国内, 口頭. |
| 上田-2 | 2019 | 金井弥栄. 前がん状態のエピゲノム異常: 発がんにおける意義と臨床応用. シンポジウム1 早期がん研究の現状と将来. 第65回 日本病理学会秋期特別総会. 2019/11/7, 国内, 口頭. |
| 上田-3 | 2019 | 金井弥栄. 個別化医療開発を目指したデータ駆動型研究の展開. 特別講演. 第69回日本電気泳動学会シンポジウム. 2019/10/25, 国内, 口頭. |
| 上田-4 | 2019 | 金井弥栄. 病理学会規程に基づくゲノム研究・診療のための病理組織検体の取扱い. 茨城がんゲノムセミナー. 2019/10/4, 国内, 口頭. |
| 上田-5 | 2019 | 北爪賀子、新井恵吏、松田厚志、角田修一、尾原健太郎、前島亜希子、久野敦、吉田 輝彦、金井弥栄. 腎発がん過程におけるタンパク質の糖鎖修飾変化. 第78回日本癌学会総会. 2019/9/28, 国内, ポスター. |
| 上田-6 | 2019 | 田迎, 新井恵吏, 牧内里美, 津田昇, 藏本純子, 尾島英知, 高橋順子, 平岡伸介, 吉田輝彦, 金井弥栄. 非アルコール性脂肪性肝炎関連肝発がん過程におけるゲノム網羅的DNAメチル化解析. 第78回日本癌学会総会. 2019/9/27, 国内, ポスター. |
| 上田-7 | 2019 | 津田昇, 新井恵吏, 牧内里美, 田迎, 藏本純子, 高橋順子, 平岡伸介, 吉田輝彦, 金井弥栄. 非アルコール性脂肪性肝炎由来肝細胞がんの組織学的多様性に関わるDNAメチル化異常. 第78回日本癌学会総会. 2019/9/26, 国内, ポスター. |
| 上田-8 | 2019 | 牧内里美, 新井恵吏, 田迎, 津田昇, 藏本純子, 尾島英知, 高橋順子, 平岡伸介, 吉田輝彦, 金井弥栄. 非炎症性病因不明肝細胞がんの発生過程におけるエピゲノム異常. 第78回日本癌学会総会. 2019/9/26, 国内, ポスター. |
| 上田-9 | 2019 | 藤本真央、新井恵吏、津村功志、前島亜希子、藤元博行、吉田 輝彦、金井弥栄. DNAメチル化プロファイルに基づく上部尿路がん診断基準の確立. 第78回日本癌学会総会. 2019/9/26, 国内, ポスター. |
| 上田-10 | 2019 | 金井弥栄. ゲノム解析のための病理組織検体の品質管理. 日本癌学会・日本病理学会・日本臨床検査医学会 合同シンポジウム: がんゲノム医療における品質・精度管理. 第78回日本癌学会総会. 2019/9/26, 国内, 口頭. |
| 上田-11 | 2019 | 金井弥栄. 日本病理学会『ゲノム研究用・診療用病理組織検体取扱い規程』に込めた思い. シンポジウム10 がんゲノム医療に向きあう. 第68回 日本医学検査学会. 2019/5/19, 国内, 口頭. |
| 上田-12 | 2019 | 草苅優, 新井恵吏, 津村功志, 田迎, 藤本真央, 前島亜希子, 藤元博之, 吉田輝彦, 金井弥栄. ゲノム網羅的DNAメチル化解析に基づく尿路上皮がん筋層浸潤予測診断基準の開発. 第108回日本病理学会総会. 2019/5/11, 国内, ポスター. |
| 上田-13 | 2019 | 上田優加子, 新井恵吏, 津村功志, 藤本真央, 尾健太郎, 前島亜希子, 藤元博之, 吉田輝彦, 金井弥栄. 尿路上皮がんマイクロダイセクション検体におけるゲノム網羅的DNAメチル化解析. 第108回日本病理学会総会. 2019/5/11, 国内, ポスター. |
| 上田-14 | 2019 | 藤本真央, 新井恵吏, 津村功志, 前島亜希子, 藤元博行, 吉田輝彦, 金井弥栄. ゲノム網羅的DNAメチル化解析に基づく上部尿路上皮がん診断指標開発. 第108回日本病理学会総会. 2019/5/10, 国内, ポスター. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 上田-15 | 2019 | 北爪賀子, 新井恵吏, 松田厚志, 角田修一, 伊藤菜々子, 尾原健太郎, 前島亜希子, 久野敦, 吉田輝彦, 金井弥栄. 腎発がん過程における蛋白の糖鎖修飾変化. 第108回日本病理学会総会. 2019/5/10, 国内, ポスター. |
| 上田-16 | 2019 | 津田昇, 新井恵吏, 藏本純子, 田迎, 牧内里美, 尾島英知, 高橋順子, 平岡伸介, 吉田輝彦, 金井弥栄. 非アルコール性脂肪性肝炎由来肝細胞がんにおけるエピゲノム異常. 第108回日本病理学会総会. 2019/5/9, 国内, ポスター. |
| 上田-17 | 2019 | 牧内里美, 新井恵吏, 藏本純子, 田迎, 津田昇, 深町幸宏, 高橋順子, 平岡伸介, 吉田輝彦, 金井弥栄. 組織学的に特記すべき所見を示さない肝に発生する病因不明の肝細胞がんのエピゲノム異常. 第108回日本病理学会総会. 2019/5/9, 国内, ポスター. |
| 上田-18 | 2019 | 金井弥栄. 腎がん・尿路上皮がんの病理形態像とエピゲノムプロファイルの多様性. 第5回 岩手腎泌尿器病理研究会学術講演会. 2019/4/13, 国内, 口頭. |
| 上田-19 | 2019 | 上皮系腫瘍における TET1の機能的役割と制御, 永江玄太, 第42回分子生物学会年会, 2019/12/5, 国内, 口頭 |
| 上田-20 | 2019 | Molecular landscape of hepatoblastoma, Nagae G, Yamamoto S, Fujita M, Tatsuno K, Nakagawa H, Hiyama E, Aburatani H, 第78回日本癌学会総会, 2019/9/26, 国内, 口頭 |
| 上田-21 | 2019 | 病理組織情報の抽象化とがんゲノム情報との統合, 石川俊平, 日本顕微鏡学会第62回シンポジウム, 2019/11/30, 国内, 口頭 |
| 上田-22 | 2019 | 人工知能による病理組織像の汎用的な数値化, 石川俊平, 第65回日本病理学会秋期特別総会, 2019/11/8, 国内, 口頭 |
| 上田-23 | 2019 | Simple and efficient HLAp-ligandomics by using high-field asymmetric waveform ion mobility spectrometry (FAIMS), Yuriko Minegishi, Kazuma Kiyotani, and Koji Ueda, 18th Human Proteome Organization (HUPO) World Congress, 2019/9/15, 国外, 口頭. |
| 上田-24 | 2019 | Tsuge A, Togashi Y, Shitara K, Nishikawa H: A Novel Regulatory T Cell-Targeted Immunotherapy by targeting their Crucial Signal by HSP90 Inhibitors. SITC2019, Nov 2019 Natiional Harbor ポスター |
| 上田-25 | 2019 | 柘植彩花、西川博嘉：制御性T細胞の生存特性シグナルを標的としたがん免疫治療の開発, 口頭, 日本免疫学会きぼうプロジェクト採択者口頭発表会, 2019/11/13, 国内 口頭 |
| 上田-26 | 2019 | 柘植彩花、富樫庸介、西川博嘉：A novel regulatory T cell-targeted immunotherapy via meddling the crucial signal by HSP90 inhibitors. ポスター, 第48回日本免疫学会学術集会, 2019/12/11, 国内 ポスター |
| 上田-27 | 2019 | Kato T, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Uemura M, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Kotani D, Fukuoka S, Sasaki T, Nishizawa Y, Nakamura N, Wakabayashi M, Kojima M, Togashi Y, Sato A, Nishikawa H, Yoshino T, Ito M: VOLTAGE-B Study: Nivolumab monotherapy and subsequent curative surgery following preoperative chemoradiotherapy in patients with locally recurrent rectal cancer (LRR) without previous radiotherapy. 2020 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2020/1/23-25, San Francisco ポスター |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 上田-28 | 2019 | Hara H, Kawazoe A, Kuboki Y, Komatsu Y, Nishina T, Shinozaki E, Yuki S, Takahashi K, Mikamoto Y, Hirano N, Nomura S, Togashi Y, Nishikawa H, Sato A, Ohtsu A, Yoshino T: Scoop: Multicenter phase I/II trial of BBI608 and pembrolizumab in patients with metastatic colorectal cancer, 2020 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2020/1/23-25, San Franciscoポスター |
| 上田-29 | 2019 | Shitara K, Hara H, Takahashi N, Kojima T, Kawazoe A, Asayama M, Yoshii T, Kotani D, Tamura H, Mikamoto Y, Hirano N, Wakabayashi M, Nomura S, Sato A, Nishikawa H, Fukuoka S: Updated results from a phase Ib trial of regorafenib plus nivolumab in patients with advanced colorectal or gastric cancer, 2020 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2020/1/23-25, San Franciscoポスター |
| 上田-30 | 2019 | Checking of signal transduction pathway before and after drug treatment by a new phosphorylation array system, Kitazawa, M. and Horimoto, K., Cell Symposium: Hallmarks of Cancer, 2019/11/17, 海外、ポスター |
| 上田-31 | 2019 | 日本肺癌学会シンポジウム, CD4+ T-cell immunity in the peripheral blood correlates with anti-PD-1 antibody therapy response, Hiroshi Kagamu, 大阪国際会議場, 2019/12/8, 国内, 口頭 |
| 上田-32 | 2019 | European Society for Medical Oncology, Immunological impact of surgery in NSCLC patients, Akitoshi Yanagihara, Hiroshi Kagamu, Barcelona convention center, 2019/9/28, 国外, ポスター |
| 上田-33 | 2019 | European Society for Medical Oncology, Effector CD4+ T-cell induction by thoracic radiotherapy for NSCLC patients, Yu Miura, Hiroshi Kagamu, Barcelona convention center, 2019/9/28, 国外, ポスター |
| 上田-34 | 2019 | 日本臨床腫瘍学会 Efficacy and feasibility of PD-1 blockade therapy in NSCLC patients who had pre-existing antinuclear antibody, Atsuto Mouri, Hiroshi Kagamu, 京都国際会議場, 2019/7/18, 国内, 口頭 |
| 上田-35 | 2019 | 日本臨床腫瘍学会 小細胞肺癌患者の抗腫瘍免疫に抗がん剤が及ぼす影響, 西原冬実, 各務博, 京都国際会議場, 2019/7/18, 国内, 口頭 |
| 上田-36 | 2019 | American Society of Clinical Oncology, CD4+ T-cell immunity predicted long-surviving NSCLC patients after PD-1 blockade therapy, Kyoichi Kaira, Hiroshi Kagamu, McCormick Place, 2019/6/3, 国外, ポスター |
| 上田-37 | 2019 | 日本呼吸器学会教育講演 肺癌の免疫療法, 各務博, 東京国際フォーラム, 2019/4/13, 国内, 口頭 |
| 上田-38 | 2019 | 日本呼吸器学会シンポジウム 免疫チェックポイント阻害薬治療における免疫機能評価, 各務博, 東京国際フォーラム, 2019/4/13, 国内, 口頭 |
| 上田-39 | 2020 | 藤本真央, 新井恵吏, 松田厚志, 前島亜希子, 藤元博行, 久野敦, 吉田輝彦, 金井弥栄. 尿路上皮がんにおける糖鎖発現異常ならびに糖転移酵素のDNA メチル化異常. 第79 回日本癌学会学術総会, 2020/10/1-10/3 (web), 国内, ポスター. |
| 上田-40 | 2020 | 津田昇, 新井恵吏, 藏本純子, 田迎, 牧内里美, 尾島英知, 高橋順子, 平岡伸介, 吉田輝彦, 金井弥栄. 非アルコール性脂肪性肝炎由来肝細胞がんの組織学的多様性に関わるエピゲノム異常. 第79 回日本癌学会学術総会, 2020/10/1-10/3 (web), 国内, ポスター. |
| 上田-41 | 2020 | 牧内里美, 新井恵吏, 藏本純子, 田迎, 津田昇, 尾島英知, 高橋順子, 平岡伸介, 吉田輝彦, 金井弥栄. 非炎症性病因不明肝細胞がんの発生過程におけるエピゲノム異常. 第79 回日本癌学会学術総会, 2020/10/1-10/3 (web), 国内, ポスター. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 上田-42 | 2020 | 藤本真央, 新井恵吏, 松田厚志, 前島亜希子, 藤元博行, 久野敦, 吉田輝彦, 金井弥栄. 尿路上皮がんにおける糖鎖発現異常ならびに糖転移酵素のDNAメチル化異常. 第109 回日本病理学会総会, 2020/7/1-7/31 (web), 国内, ポスター. |
| 上田-43 | 2020 | 津田昇, 新井恵吏, 藏本純子, 田迎, 牧内里美, 尾島英知, 高橋順子, 平岡伸介, 吉田輝彦, 金井弥栄. 非アルコール性脂肪性肝炎由来肝細胞がんの組織学的多様性に関わるDNAメチル化異常. 第109 回日本病理学会総会, 2020/7/1-7/31 (web), 国内, ポスター. |
| 上田-44 | 2020 | 金井弥栄. がんゲノム研究からがんゲノム医療へ: 病理学研究者/病理医の役割. 第109 回日本病理学会総会, 2020/7/1-7/31 (web), 国内, 口頭. |
| 上田-45 | 2020 | Mao Fujimoto, Eri Arai, Koji Tsumura, Takuya Yotani, Yuriko Yamada, Yoriko Takahashi, Akiko Miyagi Maeshima, Hiroyuki Fujimoto, Teruhiko Yoshida, Yae Kanai. Establishment of diagnostic criteria for upper urinary tract urothelial carcinoma based on genome-wide DNA methylation analysis. American Association for Cancer Research Annual Meeting 2020, 2020/4/22-24 (web), 米国, 口頭. |
| 上田-46 | 2020 | Distinct subgroups of hepatoblastoma related to prolonged Wnt-signal activation and “cell of origin” methylation signatures, Nagae G, Yamamoto S, Fujita M, Nakagawa H, Aburatani H, Hiyama E, The 79th Japan Cancer Association Annual Meeting, Hiroshima (Japan)., Sept., 2020 |
| 上田-47 | 2020 | 病理における人工知能活用の最前線、石川俊平、第40回日本画像医学会学術集会、2021/2/19、国内、口頭. |
| 上田-48 | 2020 | 深層テキストチャを用いたがん病理組織画像解析システム、河村大輔, 河辺昭宏, 梅崎敏和, 鈴木良平, 石川俊平, 第109回 日本病理学会総会, 2020/7/1-2020/7/31、国内, ポスター(Web開催) |
| 上田-49 | 2020 | Inamori K, Togashi Y, Bando H, Tsukada Y, Suzuki A, Suzuki Y, Kotani D, Fukuoka S, Kojima M, Fukui M, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Uemura M, Kato T, Ito M, Nishikawa H, Yoshino T: Translational research of voltage-A1: Efficacy predictors of preoperative chemoradiotherapy and subsequent nivolumab monotherapy in patients with microsatellite-stable locally advanced rectal cancer. 2020 ASCO annual meeting, Poster Session, 2020/5/29-6/2, Virtual. |
| 上田-50 | 2020 | Yuki S, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Komatsu Y, Homma S, Uemura M, Kato T, Kotani D, Fukuoka S, Nakamura N, Fukui M, Wakabayashi M, Kojima M, Togashi Y, Sato A, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T: Short-term results of VOLTAGE-A: Nivolumab monotherapy and subsequent radical surgery following preoperative chemoradiotherapy in patients with microsatellite stable and microsatellite instability-high locally advanced rectal cancer., 2020 ASCO annual meeting, Poster Session, 2020/5/29-6/2, Virtual |
| 上田-51 | 2020 | Kawazoe A, Yamamoto N, Kotani D, Kuboki Y, Taniguchi H, Harano K, Naito Y, Suzuki M, Fukutani M, Shima H, Higuchi T, Wakabayashi M, Nomura S, Sato A, Nishikawa H, Shitara K: TAS-116, an oral HSP90 inhibitor, in combination with nivolumab in patients with colorectal cancer and other solid tumors: An open-label, dose-finding, and expansion phase Ib trial (EPOC1704)., 2020 ASCO annual meeting, Poster Session, 2020/5/29-6/2, Virtual |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 上田-52 | 2020 | Sugiyama D, Muramatsu T, Kobayashi Y, Sassa N, Maruyama S, Goto M, Akatsuka Y and Nishikawa H: The status of the tumor microenvironment changes dynamics of the balance of CD8+ T cells and Treg cells in renal cell carcinoma. AACR Annual Meeting 2020, Poster, 2020/6/24, Philadelphia |
| 上田-53 | 2020 | Yuki S, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Komatsu Y, Homma S, Uemura M, Kato T, Kotani D, Fukuoka S, Nakamura N, Fukui M, Wakabayashi M, Kojima M, Togashi Y, Sato A, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T: SO-37: Short-Term Results of VOLTAGE-A: Nivolumab Monotherapy and Subsequent Radical Surgery Following Preoperative Chemoradiotherapy in Patients with Microsatellite Stable and Microsatellite Instability- High Locally Advanced Rectal Cancer (EPOC 1504)., the ESMO 22nd World Congress on Gastrointestinal Cancer(22wcgic), Poster, 2020/7/1-4, Barcelona |
| 上田-54 | 2020 | 日野原邦彦、西川博嘉：腫瘍内不均一性から紐解くがん免疫療法への耐性メカニズム. 口頭 International Sessions, 第79回日本癌学会学術総会, 2020/10/1, 広島 |
| 上田-55 | 2020 | 河津正人、岸上史士、上野敏秀、波江野洋、石原聡一郎、西川博嘉、間野博行：マイクロサテライト高度不安定性大腸がんにおけるクラスⅠHLA 変異解析と免疫学的状態の分類. 口頭 International Sessions, 第79回日本癌学会学術総会, 2020/10/1, 広島 |
| 上田-56 | 2020 | 西塔拓郎、山下公太郎、田中晃司、山本和義、牧野知紀、高橋剛、黒川幸典、山崎誠、和田尚、西川博嘉、坂口志文、江口英利、土岐祐一郎：大腸直腸癌に浸潤する活性型制御性T細胞の予後への影響. 口頭, 第79回日本癌学会学術総会, 2020/10, 広島 |
| 上田-57 | 2020 | 種子島時祥、竹内美子、江藤正俊、西川博嘉：免疫原性の高い癌細胞は免疫から逃避するために発癌経路の活性化を必要とする. 口頭, 第79回日本癌学会学術総会, 2020/10, 広島 |
| 上田-58 | 2020 | 長谷川裕高、杉山大介、神田光郎、林真路、田中千恵、山田 豪、中山吾郎、小池聖彦、野本周嗣、藤原道隆、小寺泰弘、西川博嘉：抗 PD-1 抗体と抗 PD-L1 抗体を用いた新規がん免疫療法の開発. ポスター, 第79回日本癌学会学術総会, 2020/10, 広島 |
| 上田-59 | 2020 | 西川博嘉：免疫抑制機構を標的としたバイオマーカーと新規治療法開発, 口頭, 指定演題, 第79回日本癌学会学術総会, 2020/10/2, 広島 |
| 上田-60 | 2020 | 西川博嘉：免疫ゲノム解析に基づくがん免疫併用療法の開発, 口頭, ランチョンセミナー, 第79回日本癌学会学術総会, 2020/10/3, 広島 |
| 上田-61 | 2020 | 西川博嘉：腫瘍微小環境の免疫抑制機構を標的とした次世代がん免疫療法, 口頭, モーニングレクチャー, 第79回日本癌学会学術総会, 2020/10/3, 広島 |
| 上田-62 | 2020 | 西川博嘉：Immune suppression in the tumor microenvironment, 口頭, 基調講演, 第24回日本がん免疫学会総会, 2020/10/7, 札幌 |
| 上田-63 | 2020 | 河津正人、岸上史士、波江野洋、石原聡一郎、西川博嘉、間野博行：クラスⅠHLA変異に基づいたマイクロサテライト高度不安定性大腸がんの免疫学的状態の分類. 口頭ワークショップ, 第24回日本がん免疫学会総会, 2020/10/8, 札幌 |
| 上田-64 | 2020 | 赤塚美樹、楫屋良子、西尾信博、一戸辰夫、岡村文子、西川博嘉：不適合HLA-DP抗原を標的とする同種造血細胞移植後の養子免疫療法の開発. 口頭, 第24回日本がん免疫学会総会 2020/10, 札幌 |
| 上田-65 | 2020 | 西川博嘉：がん免疫応答と腸内細菌叢の関連, 口頭, シンポジウム, 第48回日本臨床免疫学会総会, 2020/10/15, web |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 上田-66 | 2020 | Hiroyoshi Nishikawa : Regulatory T cells: Biology and targeting, 口頭 invited Speaker, ESMO Immuno-Oncology Virtual Congress 2020, 2020/12/12, web |
| 上田-67 | 2020 | 西川博嘉：基礎免疫学の観点から考える複合免疫療法の有用性, 口頭, ランチョンセミナー, 第108回日本泌尿器科学会総会, 2020/12/22, 神戸 |
| 上田-68 | 2020 | Inamori K, Togashi Y, Bando H, Tsukada Y, Fukuoka S, Suzuki A, Suzuki Y, Kotani D, Kojima M, Fukui M, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Taketomi A, Uemura M, Kato T, Ito M, Nishikawa H, Yoshino T: Translational Research of VOLTAGE-A: Efficacy Predictors of Preoperative Chemoradiotherapy and Consolidation Nivolumab in Patients with both Microsatellite Stable and Microsatellite Instability-High Locally Advanced Rectal Cancer.(EPOC1504). The 2021 Gastrointestinal Cancers Symposium, Poster session, 2021/1/15-17, Virtual |
| 上田-69 | 2020 | 西川博嘉：がん細胞および免疫応答解析に基づくがん免疫療法効果予測診断法の確立, 口頭, 令和2年度HTLV-1関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2021/2/13, web |
| 上田-70 | 2020 | 解明される腫瘍免疫のメカニズム, 各務博, がん分子標的治療学会, 2020/10/8, 国内, 口頭 |
| 上田-71 | 2020 | 腫瘍免疫の理解～single cell RNAseqで何がわかるか～, 各務博, 日本癌学会, 2020/10/2, 国内, 口頭 |
| 上田-72 | 2020 | がん免疫療法におけるバイオマーカーと複合免疫療法, 各務博, 日本泌尿器科学会シンポジウム, 2020/12/23, 国内, 口頭 |
| 上田-73 | 2020 | 免疫チェックポイント阻害薬のバイオマーカー, 各務博, 日本肺癌学会シンポジウム, 2020/11/14, 国内, 口頭 |
| 上田-74 | 2021 | 非アルコール性脂肪性肝炎由来肝細胞がんの多段階発生過程におけるDNAメチル化異常, 金井弥栄, Diabetes Scientific Meeting 2021, 2021/10/19, 国内, 口頭. |
| 上田-75 | 2021 | がんの病理組織検体における多層オミックス統合解析, 金井弥栄, 第80回日本癌学会学術総会 シンポジウム がん研究におけるビッグデータ, 2021/10/01, 国内, 口頭. |
| 上田-76 | 2021 | 個別化治療・予防を目指した病理組織検体におけるエピゲノム解析, 金井弥栄, 第80回日本癌学会学術総会 特別シンポジウム がん研究における女性研究者, 2021/09/30, 国内, 口頭. |
| 上田-77 | 2021 | 前がん段階のエピゲノム異常とがん予防, 金井弥栄, 第28回がん予防学会総会 イブニングセミナー, 2021/09/10, 国内, 口頭. |
| 上田-78 | 2021 | 病理検体のゲノム・エピゲノム解析で見えるがんの本態: 個別化医療開発に向けて, 金井弥栄, 千里ライフサイエンス新適塾「難病への挑戦」第46回会合, 2021/05/12, 国内, 口頭. |
| 上田-79 | 2021 | 多段階発がん過程におけるエピゲノム解析: 病理形態から個別化医療開発へ, 金井弥栄, 第110回日本病理学会総会 シンポジウム 病理形態とエピゲノムの統合的解析によるがんの病態解明, 2021/04/21, 国内, 口頭. |
| 上田-80 | 2021 | PHITT2, the JPLT view, Nagae G, SIOPEL Annual Meeting, 2022/3/18, 国外, 口頭. |
| 上田-81 | 2021 | Enhancer dysfunction related to the heterogeneity of liver and gastric malignancy, 永江玄太, 第80回癌学会総会, 2021/10/1, 国内, 口頭. |
| 上田-82 | 2021 | 「深層テクスチャによるがん病理組織像の数値化」、石川俊平. 第25回 日本がん分子標的治療学会学術総会、オンライン、2021/5/27、国内、口頭. |
| 上田-83 | 2021 | 「病理組織形態の人工知能による構造化」、石川俊平. 第38回 日本毒性病理学会総会、神戸、2022/1/27、国内、口頭. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 上田-84 | 2021 | Kumanishi R, Ogata T, Habu T, Bando H, Fujisawa T, Kumagai S, Fujiwara H, Mishima S, Kotani D, Nakamura M, Hojo H, Koyama S, Nishikawa H, Yano T, Fujita T, Kadowaki S, Kinoshita T, Tajika M, Muro K, Kojima T: Efficacy and safety of definitive chemoradiotherapy in patients with unresectable locally advanced esophageal SCC. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会(JSMO2022), 京都, 2022/2/17, 口頭 |
| 上田-85 | 2021 | Habu T, Kumanishi R, Ogata T, Fujisawa T, Mishima S, Kotani D, Kadowaki S, Nakamura M, Hojo H, Fujiwara H, Kumagai S, Koyama S, Fujita T, Kinoshita T, Nishikawa H, Yano T, Tajika M, Muro K, Kojima T, Bando H: Efficacy and safety of definitive chemoradiotherapy in patients with unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, 2022/1/20, ポスター |
| 上田-86 | 2021 | 西川博嘉：腫瘍微小環境での制御性T細胞による免疫抑制. 第34回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 和歌山, 2021/12/17, 口頭 |
| 上田-87 | 2021 | Nishikawa H：Immunosuppression by regulatory T cells in the tumor microenvironment. 第50回日本免疫学会学術集会, 奈良, 2021/12/9, 口頭 |
| 上田-88 | 2021 | Okumura G, Koyama S, Nishikawa H: Establishment of novel immunotherapy targeting NK cells in metastatic colorectal cancer. 第50回日本免疫学会学術集会, 奈良, 2021/12/9, 口頭 |
| 上田-89 | 2021 | Kumagai S, Koyama S, Nishikawa H: Lactic acid signaling induces the expression of immune checkpoints by regulatory T cells in the tumor microenvironment. 第50回日本免疫学会学術集会, 奈良, 2021/12/8, 口頭 |
| 上田-90 | 2021 | 西川博嘉：がん免疫微小環境に基づくがん免疫療法の展開, 第109回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 2021/12/8, 口頭 |
| 上田-91 | 2021 | 西川博嘉：免疫ゲノム解析に基づく新たながん免疫プレシジョン医療の展開, 第32回日本消化器癌発生学会総会／第10回国際消化器癌発生会議, web, 2021/11/27, 口頭 |
| 上田-92 | 2021 | 西川博嘉：免疫ゲノム解析による新たながん免疫複合療法の展開, 第59回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2021/10/22, 口頭 |
| 上田-93 | 2021 | Tsukada Y, Bando H, Inamori K, Togashi Y, Koyama S, Kotani D, Fukuoka S, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Taketomi A, Uemura M, Kato T, Fukui M, Wakabayashi M, Nakamura N, Kojima M, Sato A, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T: Preoperative Chemoradiotherapy plus Consolidation Immune-Checkpoint Inhibitor followed by Radical Surgery for Locally Advanced Rectal Cancer. 第59回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2021/10/21, 口頭 |
| 上田-94 | 2021 | Yamaguchi J, Hinohara K, Nishikawa H: Epigenetic roles of the chromatin remodeller ATRX and its synthetic lethal targets in astrocytoma. 第80回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021/10/2, ポスター |
| 上田-95 | 2021 | Yamano K, Kato S, Hinohara K, Nishikawa H: Deciphering cancer dynamics toward therapeutic resistance to immune checkpoint inhibitors by using barcode technology. 第80回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021/10/2, ポスター |
| 上田-96 | 2021 | Nishikawa H：Tumor-infiltrating lymphocytes as a new biomarker. Electronic scientific and practical conference, web, 2021/10/2, 口頭 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-97 | 2021 | Nishikawa H : Current status and future prospects of the cancer immunotherapy; focus on the relationship between cancer cells and immune cells. 第80回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021/10/1, 口頭 |
| 上田-98 | 2021 | Sugiyama E, Togashi Y, Takeuchi Y, Shinya S, Tada Y, Kataoka K, Tane K, Sato E, Ishii G, Goto K, Shinntani Y, Okumura M, Tsuboi M, Nishikawa H: Novel concept of EGFR-signal contribution to unique immunological status in EGFR-mutated NSCLC. 第80回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021/10/1, 口頭 |
| 上田-99 | 2021 | Sugiyama D, Muramatsu T, Noguchi T, Kato S, Hinohara K, Nishikawa H: Immune responses against immunogenic neoantigens enable to break the resistance to immune checkpoint inhibitors. 第80回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021/9/30, 口頭 |
| 上田-100 | 2021 | Sato D, Koyama S, Kumagai S, Sai A, Sunakawa H, Kotani D, Kawazoe A, Sakashita S, Yoda Y, Shitara K, Kuwata T, Nishikawa H, Yano T: Prediction of tumor microenvironment using Oxygen saturation endoscopic imaging. 横浜, 2021/9/30, 口頭 |
| 上田-101 | 2021 | Chen T, Kato S, Hinohara K, Nishikawa H: The role of histone methyltransferase G9a in tumor immune response. 第80回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021/9/30, ポスター |
| 上田-102 | 2021 | Nishikawa H : Immunosuppression by regulatory T cells in the tumor microenvironment. 2021JCA-AACR Precision Cancer Medicine International Conference, web, 2021/9/12, 口頭 |
| 上田-103 | 2021 | 西川博嘉：基礎から考えるがん免疫療法 Now & Future：臓器特異性をどう考えるか？ 第28回肝細胞研究会, 淡路, 2021/9/11, 口頭 |
| 上田-104 | 2021 | 西川博嘉：基礎から考えるがん免疫療法 Now & Future - 臓器特異性をどう考えるか -. 第57回日本肝癌研究会, 鹿児島, 2021/7/22, 口頭 |
| 上田-105 | 2021 | 西川博嘉：がん免疫研究の現状と展望 -肝癌治療への展開-. 第57回日本肝癌研究会, 鹿児島, 2021/7/22, 口頭 |
| 上田-106 | 2021 | 西川博嘉：非小細胞肺癌に対する免疫応答：臓器特異性をどう考えるか？ 第127回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会・第97回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2021/7/10, 口頭 |
| 上田-107 | 2021 | 西川博嘉：免疫ゲノム解析による新たながん免疫療法の展開. 第58回日本消化器免疫学会総会, 京都, 2021/7/3, 口頭 |
| 上田-108 | 2021 | 林新子、古林陽一、藤巻加於梨、佐藤一紀、石田さおり、杉山大介、佐藤貴彦、林庚澤、宮本恵美、門倉慶知、脇田賢一、秦真人、平原一樹、天野正人、岡本敦之、種村篤、丸山彰一、我妻利紀、和田悌司、西川博嘉：抗 GARP 抗体 DS-1055a の GARP 陽性制御性 T 細胞除去によるがん免疫賦活化作用, 第25回日本がん免疫学会総会, 和歌山, 2021/7/3, ポスター |
| 上田-109 | 2021 | 西川博嘉：免疫ゲノム解析を基盤としたがん免疫療法. 第25回日本がん免疫学会総会, 和歌山, 2021/7/2 |
| 上田-110 | 2021 | Lin YT, Nishikawa H, Koyama S: Gut microbiome-mediated immunity associates with clinical response to anti-PD-1 immunotherapy in solid tumor patients. 第25回日本がん免疫学会総会, 和歌山, 2021/7/2, 口頭 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-111 | 2021 | 熊谷尚悟、鎌田貴裕、富樫庸介、小山正平、川添彬人、河津正人、青景圭樹、名嘉眞健太、吉田達哉、山崎直也、大江裕一郎、坪井正博、設樂紘平、間野博行、西川博嘉：腫瘍局所における代謝機構を介した制御性 T 細胞の新規 PD-1 発現機構の解明. 第25回日本がん免疫学会総会, 和歌山, 2021/7/2, 口頭 |
| 上田-112 | 2021 | 種子島時祥、河津正人、小山正平、武内在雄、塩田真己、猪口淳一、西川博嘉、江藤正俊：腫瘍微小環境で制御性 T 細胞の活性化を誘導する遺伝子異常の発見. 第25回日本がん免疫学会総会, 和歌山, 2021/7/2, 口頭 |
| 上田-113 | 2021 | 西川博嘉：免疫ゲノム解析による新たながん免疫療法の展開. 第29回日本乳癌学会学術総会, web, 2021/7/1, 口頭 |
| 上田-114 | 2021 | 西川博嘉：がん免疫療法と腸内細菌. 第21回日本抗加齢医学会総会, 京都, 2021/6/25, 口頭 |
| 上田-115 | 2021 | Nishikawa H : Immune suppression by regulatory T cells in the tumor microenvironment. 国際がんフォーラム2021(IAAO2021), web, 2021/6/20, 口頭 |
| 上田-116 | 2021 | Nishikawa H : Immune suppression in the tumor microenvironment. The 27th International Symposium on Molecular Cell Biology of Macrophages(MMCB2021), 大阪, 2021/6/16 , 口頭 |
| 上田-117 | 2021 | Kelkka T, Tyster M, Lundgren S, Kerr C, Hosokawa K, Huuhtanen J, Keränen M, Feng X, Kawakami T, Maeda Y, Nieminen O, Kasanen T, Aronen P, Yadav B, Rajala H, Nakazawa H, Jaatinen T, Ogawa S, Ishida F, Nishikawa H, Young N, Nakao S, Maciejewski J, Mustjoki S: Anti-cox-2 autoantibody as a novel diagnostic marker in aplastic anemia. European Hematology Association Congress 2021(EHA2021), web, 2021/6/9-17, ポスター |
| 上田-118 | 2021 | Takiguchi S, Shitara K, Takiguchi N, Ito S, Kochi M, Horinouchi H, Kinoshita T, Muro K, Yoshikawa T, Hasegawa H, Nishikawa H, Kodera Y: Neoadjuvant Nivolumab Monotherapy in Patients With Resectable Gastric Cancer: Preliminary Results From a Multicenter Study. the 2021 ASCO Annual Meeting, web, 2021/6/4-8, ポスター |
| 上田-119 | 2021 | Minamide T, Kashima Y, Irie T, Koyama S, Togashi Y, Suzuki A, Yamashita H, Nakamura Y, Shitara K, Tanaka H, Yoshida T, Inaki K, Chihara M, Wada T, Nishimura K, Nakamura A, Murai S, Ohashi A, Suzuki Y, Tsuchihara K, Nishikawa H, Yano T, Doi T: Dissecting Transcriptomic Heterogeneity In Primary Esophageal Squamous Cell Carcinoma By Single-Cell RNA Sequencing. Digestive Disease Week (DDW) 2021, web, 2021/5/23, ポスター |
| 上田-120 | 2021 | 西川博嘉：非小細胞肺癌に対する免疫療法の今後の展開. 第61回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2021/4/24, 口頭 |
| 上田-121 | 2021 | 西川博嘉：非小細胞肺癌に対する免疫応答：肝転移をどう考えるか？ 第61回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2021/4/23, 口頭 |
| 上田-122 | 2021 | Satoh K, Kobayashi Y, Fujimaki K, Hata M, Hayashi S, Ishida S, Sugiyama D, Sato T, Lim K, Miyamoto M, Kozuma S, Kadokura M, Wakita K, Hirahara K, Amano M, Watanabe I, Okamoto A, Tuettenberg A, Jonuleit H, Tanemura A, Maruyama S, Agatsuma T, Wada T, Nishikawa H: Anti-GARP antibody DS-1055a augments antitumor immunity by depleting highly suppressive GARP+regulatory T cells. AACR 2021, Virtual, 2021/4/10, ポスター |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-123 | 2021 | 免疫チェックポイント阻害剤の耐性機序とその 克服に向けて 北野滋久 第62回日本肺癌学会学術集会 シンポジウム11 Resistant mechanisms of immune chckpoint inhibitors 2021年11月27日 国内（横浜）口頭 |
| 上田-124 | 2021 | 複合がん免疫療法の開発状況と課題 北野滋久 会長企画シンポジウム 9 第59回日本がん治療学会総会 2021年10月22日 国内（横浜）口頭 |
| 上田-125 | 2021 | 併用療法のrationaleとバイオマーカー 北野滋久 教育シンポジウム 免疫チェックポイント阻害剤の併用療法 第59回日本がん治療学会総会 2021年10月22日 国内（横浜）口頭 |
| 上田-126 | 2021 | Global immunopeptidomics by differential ion mobility mass spectrometry for identification of patient specific HLA-presented antigens directly from clinical tissues., Yuriko MINEGISHI, Kazuma KIYOTANI, Kensaku NEMOTO, Satoshi NAGAYAMA, Koji UEDA, Human Proteome Organization (HUPO) World Congress 2021, 2021/11/16, 国外, Poster & Oral |
| 上田-127 | 2021 | Personalized profiling of neoantigens from resected colorectal cancer tissues., Koji Ueda, Human Proteome Organization-Human Immunopeptidome Project (HUPO-HIPP) webinar, 2022/1/27, 国外, 口頭 |
| 上田-128 | 2021 | 抗腫瘍免疫の理解からIO-IO時代の進行期肺癌薬物療法を考える, 各務博, 日本肺癌学会学術集会, 2021/11/28, 国内, 口頭 |
| 上田-129 | 2021 | がん患者の免疫と腫瘍免疫・QOLの関係, 各務博, 日本癌治療学会, 2021/10/23, 国内, 口頭 |
| 上田-130 | 2021 | single cellベース分子発現解析が拓く免疫の理解, 各務博, 日本アレルギー学会学術大会, 2021/10/10, 国内, 口頭 |
| 上田-131 | 2021 | 新時代を迎える非小細胞肺癌ICI治療, 各務博, 日本呼吸器学会関東地方会, 2021/7/10, 国内, 口頭 |
| 上田-132 | 2021 | PD-1阻害薬と抗CTLA-4抗体により拓かれる抗腫瘍免疫の理解, 各務博, 日本がん免疫学会, 2021/7/1, 国内, 口頭 |
| 上田-133 | 2021 | Unsupervised clusteringで明らかになる抗腫瘍免疫T細胞クラスター, 各務博, 日本血液疾患免疫療法学会, 2021/6/19, 国内, 口頭 |
| 上田-134 | 2021 | 悪液質とがん薬物療法, 各務博, 日本がん薬剤学会(JSOPP)学術大会, 2021/5/29 |
| 上田-135 | 2021 | 抗腫瘍免疫のメカニズムと末梢血バイオマーカー, 各務博, がん分子標的治療学会, 2021/5/27, 国内, 口頭 |
| 上田-136 | 2021 | 新時代を迎える免疫チェックポイント阻害薬治療, 各務博, 日本呼吸器学会学術総会, 2021/4/23, 口頭 |
| 上田-137 | 2022 | 日本発の治療薬開発とATL 病態解析研究の最前線, 石田高司, 第38回日本臨床皮膚科医会総会, 2022年4月24日, 国内, 口頭. |
| 上田-138 | 2022 | 肺腺がんのDNAメチル化プロファイルに対する免疫微小環境の影響, 河原徹, 藤本真央, 下田将之, 浅村尚生, 金井弥栄, 新井恵吏, 第81回日日本癌学会学術総会, 2022年9月29日, 国内, ポスター |
| 上田-139 | 2022 | 諸臓器の多段階発がん過程早期に普遍的なDNAメチル化プロファイル. 第81回日日本癌学会学術総会, 中山雄二, 新井恵吏, 藤本真央, 津田昇, 牧内里美, 田迎, 藏本純子, 金井弥栄, 2022/9/29, 国内, ポスター |
| 上田-140 | 2022 | 全血由来DNAにおけるエピゲノム関連解析による淡明細胞型腎細胞がんの検出に有用なDNAメチル化バイオマーカー候補の同定, 大桃秀樹, 新井恵吏, 吉田輝彦, 金井弥栄, 清水厚志, 第81回日日本癌学会学術総会, 2022/9/29, 国内, ポスター. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-141 | 2022 | 誘導性CRISPR/dCas9を用いたC19MC肝内胆管癌オルガノイドの分化における役割の解明, 葉子祥, 松崎潤太郎, 及川千尋, 金井弥栄, 齋藤義正, 第81回日本癌学会学術総会, 2022/9/29, 国内, 口頭. |
| 上田-142 | 2022 | 非アルコール性脂肪性肝炎由来肝細胞がんにおけるSPHK1ならびにLTB遺伝子のDNAメチル化異常, 津田昇, 田迎, 藤本真央, 藏本純子, 牧内里美, 尾島英知, 後藤政広, 平岡伸介, 吉田輝彦, 金井弥栄, 新井恵史, 第81回日本癌学会学術総会, 2022/9/29, 国内, 口頭. |
| 上田-143 | 2022 | 中山雄二, 新井恵史, 藤本真央, 津田昇, 牧内里美, 田迎, 藏本純子, 金井弥栄, 諸臓器の多段階発がん過程早期に普遍的なDNAメチル化プロファイル, 第111回日本病理学会総会, 2022/4/15, 国内, ポスター. |
| 上田-144 | 2022 | 非アルコール性脂肪性肝炎由来肝細胞がんの組織学的多様性に関わるDNAメチル化異常, 津田昇, 新井恵史, 藏本純子, 田迎, 牧内里美, 尾島英知, 高橋順子, 平岡伸介, 吉田輝彦, 金井 弥栄, 第111回日本病理学会総会, 2022/4/14, 国内, 口頭. |
| 上田-145 | 2022 | DNAメチル化状態を指標とする非アルコール性脂肪性肝炎からの肝発がんリスク予測, 藏本純子, 新井恵史, 藤本真央, 田迎, 牧内里美, 津田昇, 尾島英知, 山田有理子, 奥谷卓也, 高橋順子, 深井原, 関洋介, 笠間和典, 舟橋伸昭, 宇田川陽秀, 南茂隆生, 安田和基, 武富紹信, 考藤達哉, 金井弥栄, 第111回日本病理学会総会, 2022/4/14, 国内, 口頭. |
| 上田-146 | 2022 | Quantification of DNA methylation for carcinogenic risk estimation in patients with non-alcoholic steatohepatitis, Junko Kuramoto, Eri Arai, Mao Fujimoto, Ying Tian, Yuriko Yamada, Takuya Yotani, Satomi Makiuchi, Noboru Tsuda, Hidenori Ojima, Moto Fukai, Yosuke Seki, Kazunori Kasama, Nobuaki Funahashi, Haruhide Udagawa, Takao Nammo, Kazuki Yasuda, Akinobu Taketomi, Tatsuya Kanto, Yae Kanai, America Association for Cancer Research Annual Meeting 2022, 2022年4月(オンデマンド), 海外, ポスター. |
| 上田-147 | 2022 | 免疫ゲノム解析が明らかにした腫瘍微小環境の免疫抑制機構, 西川博嘉, 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022/4/14, 熊本, 口頭. |
| 上田-148 | 2022 | がん微小環境の免疫抑制機構に基づくがん免疫療法の開発, 西川博嘉, 先端治療薬研究会第8回学術集会 特別講演, 2022/5/13, 東京, 口頭. |
| 上田-149 | 2022 | Immunosuppression by regulatory T cells in the tumor microenvironment, 西川博嘉, 第40回札幌国際がんシンポジウム, 2022/6/25, 札幌, 口頭. |
| 上田-150 | 2022 | Immune suppression in the tumor microenvironment, Nishikawa H, The 7th JCA-AACR Special Joint Conference, 2022/7/10, Kyoto, oral. |
| 上田-151 | 2022 | 腫瘍組織の免疫モニタリングの新手法 -臨床試験への応用-, 西川博嘉, 第81回日本癌学会学術総会 ランチョンセミナー, 2022/9/30, 横浜, 口頭. |
| 上田-152 | 2022 | 制御性 T 細胞を標的とした免疫ゲノムプレシジョン医療, 西川博嘉, JCA-AACR Joint Symposia, 第81回日本癌学会学術総会, 2022/9/30, 横浜, 口頭. |
| 上田-153 | 2022 | Cytek Aurora を用いた超多色フローサイトメトリーによるヒト肝臓常在免疫細胞の解析 -肝臓悪性腫瘍での免疫細胞の変異, 西川博嘉, 第81回日本癌学会学術総会 ランチョンセミナー, 2022/9/30, 横浜, 口頭. |
| 上田-154 | 2022 | がん免疫療法の今後の展望と、今必要な取り組み, 西川博嘉, Special Programsがん克服2022, 第81回日本癌学会学術総会, 2022/9/30, 横浜, 口頭. |
| 上田-155 | 2022 | 治療抵抗性機序の解明に基づく理想的ながん免疫複合療法の開発, 西川博嘉, 第81回日本癌学会学術総会 ランチョンセミナー, 2022/10/1, 横浜, 口頭. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-156 | 2022 | 腫瘍微小環境の免疫抑制から考えるがん免疫療法, 西川博嘉, 第60回 日本癌治療学会学術集会 会長企画シンポジウム, 2022/10/20, 神戸, 口頭. |
| 上田-157 | 2022 | Immune suppression by regulatory T cells in the tumor microenvironment, Nishikawa H, KAI(The Korean Association of Immunologists) International Meeting 2022, 2022/11/5, Korea, oral. |
| 上田-158 | 2022 | がん免疫の基礎とがん免疫療法について, 西川博嘉, 第48回日本臓器保存生物医学会学術集会 ランチョンセミナー, 2022/11/5, 広島, 口頭. |
| 上田-159 | 2022 | 腫瘍微小環境の免疫抑制機構に着目した免疫ゲノム医療, 西川博嘉, 第95回日本生化学会大会 シンポジウム, 2022/11/10, 名古屋, 口頭. |
| 上田-160 | 2022 | Immune-genome precision medicine targeting regulatory (Treg) T cells, Nishikawa H, The 31st Hot Spring Harbor International Symposium 「Expanding views on Systems biology and Immunology」, 2022/11/17, web, oral. |
| 上田-161 | 2022 | 腫瘍微小環境の免疫制御機構の解明と新規がん免疫療法への展開, 西川博嘉, 第51回日本免疫学会学術集会_第9回日本免疫学会ヒト免疫研究賞授賞式, 2022/12/7, 熊本, 口頭. |
| 上田-162 | 2022 | Integrated multiomics profiling identifies the differentiation program of regulatory T cells in human tumors, Irie T, Itahashi K, Yuda J, Kumagai S, Tanegashima T, Lin Y, Watanabe S, Koyama S, Nishikawa H, 第51回日本免疫学会学術集会, 2022/12/8, 熊本, ポスター. |
| 上田-163 | 2022 | Immune suppression by regulatory T cells in the tumor microenvironment, Nishikawa H, The 12th AACR-JCA Joint Conference, 2022/12/11, Maui, oral. |
| 上田-164 | 2022 | Immunosuppressive mechanisms in the tumor microenvironment uncovered by immune-genome analysis, Nishikawa H, Dana-Farber Cancer Immunology Seminar Series, 2023/3/27, web, oral. |
| 上田-165 | 2022 | 抗PD-1療法の奏効を予測する末梢血CD4+T細胞免疫の簡易な測定法確立, 新和之, 山口央, 菊川紀弘, 各務博, 第63回日本肺癌学会学術集会, 2022/12/2, 国内, 口頭. |
| 上田-166 | 2022 | 小児肝がんの統合的ゲノム・エピゲノム解析による病態理解と患者層別化, 永江玄太, 第17回日田関東小児がんセミナー, 2022.6, ウェブワークショップ, 招待講演. |
| 上田-167 | 2022 | Long-read DNA methylation analysis of hepatoblastoma genomes using a nanopore sequencing, Nagae G, Umeda T, Ueda H, Aburatani H.The 81th Japan Cancer Association Annual Meeting, 2022.9, Yokohama (Symposia), Oral. |
| 上田-168 | 2022 | メチル化パネルアッセイによる血中腫瘍DNA検出系の開発, 永江玄太, 第42回日本分子腫瘍マーカー研究会, 2022.10, 国内ウェブシンポジウム, 招待講演. |
| 上田-169 | 2022 | 小児肝がんの統合的ゲノム・エピゲノム解析による病態理解と患者層別化, 永江 玄太, 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.10, 神戸, 招待講演. |
| 上田-170 | 2022 | Surrogate methylation marker to stratify the precision therapy of hepatoblastoma, Nagae G, SIOPEL annual meeting, 2023.3, Utrecht, invited speaker. |
| 上田-171 | 2022 | ディープラーニングを用いた細胞セグメンテーションのための癌病理組織画像データセット, 河村大輔, 斧山巧, 新保幸輝, 小高滉人, 遠藤春哉, 越智三枝子, 加藤洋人, 牛久哲男, 石川俊平, 第81回日本癌学会学術総会, 2022/9/29, 国内, ポスター. |
| 上田-172 | 2022 | 深層学習による癌病理組織像の構造化, 石川俊平, 第81回日本癌学会学術総会, 2022/9/30, 国内, 口頭. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-173 | 2022 | 同一標本に対するH&E染色と免疫染色を利用した細胞セグメンテーションのための癌病理組織像データセットの開発, 河村大輔, 斧山匠, 新保幸輝, 小高滉人, 遠藤春哉, 越智三枝子, 加藤洋人, 牛久哲男, 石川俊平, 第68回日本病理学会 秋季特別総会, 2022/11/17, 国内, ポスター. |
| 上田-174 | 2022 | がん病理組織像の数値化による病理学の新しい展開, 石川俊平, 第63回日本肺癌学会 学術集会, 2022/12/3, 国内, 口頭. |
| 上田-175 | 2022 | Explore the immunopeptidome for shared neoantigens by Differential Ion Mobility- Mass spectrometry, Yuriko Minegishi, Yoshimi Haga, Kazuma Kiyotani, Satoshi Nagayama, Koji Ueda, 第81回日本癌学会学術総会, 2022/9/30, 国内, 口頭. |
| 上田-176 | 2022 | 周術期の末梢血CD4+T細胞免疫評価による非小細胞肺癌術後の無病生存期間の予測, 柳原章寿, 山崎智, 橋本康佑, 田口亮, 梅咲徹也, 今井久雄, 解良恭一, 二反田博之, 坂口浩三, 石田博徳, 小林国彦, 堀本勝久, 各務博, 日本肺癌学会, 2022/12/2, 国内, 口頭. |
| 上田-177 | 2022 | Correlation of peripheral blood and tumor micro-immune environment by single cell based analysis, Hiroshi Kagamu, 日本癌学会, 2022/10/30, 国内, 口頭. |
| 上田-178 | 2022 | Correlation between T-cell immunity and EGFR-TKI treatment in patients harboring EGFR driver mutation, Atsuto Mouri, Hiroshi Kagamu, Ou Yamaguchi, Ayako Shiono, Yu Miura, Kosuke Hashimoto, Hisao Imai, Kyoichi Kaira, and Kunihiro Kobayashi, European Society for Medical Oncology, 2022/9/12, Paris, ポスター. |
| 上田-179 | 2022 | Discovery of a new CD4+ T cell cluster that correlates PD-1 blockade efficacy, Hiroshi Kagamu, Satoshi Yamasaki, Katsuhisa Horimoto, Shigehisa Kitano, Ou Yamaguchi, Atsuhito Mouri, Ayako Shiono, Yu Miura, Kosuke Hashimoto, Hisao Imai, Kyoichi Kaira, and Kunihiro Kobayashi, European Society for Medical Oncology, 2022/9/12, Paris, |
| 上田-180 | 2023 | 病理組織像のデジタル化とがんの統合解析（病理組織像のデジタル化とがんの統合解析）、石川俊平、パシフィコ横浜（第61回日本がん治療学会学術集会）、2023年10月21日、国内、口頭. |
| 上田-181 | 2023 | 胃粘膜におけるシングルセルおよび空間的発現の統合解析(Integrated single-cell RNA sequencing and spatial transcriptomic analyses of human normal and metaplastic gastric mucosa)、坪坂歩、垣内美和子、河村大輔、加藤洋人、牛久哲男、石川俊平、Cold Spring Harbor, NY (Single Cell Analysis meeting)、2023年11月10日、国外、ポスター. |
| 上田-182 | 2023 | がんの分子マーカーによる予後予測解析（メチル化パネルアッセイによる多がん種同時検査システムの開発）、永江玄太、第8回Liquid Biopsy研究会、2024年2月3日、国内、口頭. |
| 上田-183 | 2023 | がん組織におけるシングルセルおよび空間的発現の統合的解析（Spatial dissection of cellular heterogeneity in human cancer tissues）、永江玄太、第46回日本分子生物学会年会、2023年12月1日、国内、口頭. |
| 上田-184 | 2023 | 小児肝がんのゲノム・エピゲノム異常の解析（小児肝がん（肝芽腫）の発症機序の解明 エピジェネティックスの役割）、永江玄太、日本肉腫学会年次総会2023、2023年11月25日、国内、口頭. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-185 | 2023 | がん組織にみられるエピゲノム異常の解析（ロングリードシーケンサーを用いた新たながんエピゲノム異常の解明）、永江玄太、第38回Wakoワークショップ、2023年11月22日、国内、口頭. |
| 上田-186 | 2023 | がん組織にみられるエピゲノム異常の複雑なパターンの解析（Understanding the complex patterns of DNA modification in cancer）、永江玄太、Human Genetics Asia 2023、2023年10月13日、国内、口頭. |
| 上田-187 | 2023 | がん組織におけるゲノム高次構造およびエピゲノム異常の解析（Direct detection of DNA modifications in human cancer genomes）、永江玄太、NCM2023, Singapore、2023年9月27日、国外、口頭. |
| 上田-188 | 2023 | がん組織におけるゲノム高次構造およびエピゲノム異常の解析（Long-read DNA methylation analysis of whole cancer genomes using a nanopore sequencing）、永江玄太、第83回日本癌学会学術総会、2023年9月21日、国内、口頭. |
| 上田-189 | 2023 | Discovery of drug and its target identification by drug repurposing、Katsuhisa HORIMOTO、The 10th International Conference of Translational Informatics、December 16, 2023、国外、口頭. |
| 上田-190 | 2023 | Analysis Platform for disease oriented drug discovery by drug repurposing、Katsuhisa HORIMOTO、The 12 th World Congress of Microcirculation、September 20, 2023、国外、口頭. |
| 上田-191 | 2023 | がん治癒をもたらす抗腫瘍免疫メカニズム、各務 博、第5回日本呼吸器外科学会学術セミナー、2023年12月2日、国内、口頭. |
| 上田-192 | 2023 | Nivolumab Plus Ipilimumab in Relapsed Stage III Non-small Cell Lung Cancer after Durvalumab Following Chemoradiotherapy、Takaaki Tokito, Atsuto Mouri, Satoshi Watanabe, Yoshiaki Nagai, Hisao Imai, Ou Yamaguchi, Yu Saida, Kunihiro Kobayashi, Kyoichi Kaira, and Hiroshi Kagamu、WCLC annual meeting、国外、ポスター. |
| 上田-193 | 2023 | 抗腫瘍免疫を司る2つのTh1-like CD4+ T-cell clusters、各務 博、第64回日本肺癌学会学術集会ワークショップ、2023年11月3日、国内、口頭. |
| 上田-194 | 2023 | scRNAseqが明らかにするがん免疫サイクルCD4+ T細胞クラスター、各務博、山崎智、柳原章寿、二反田博之、橋本康佑、今井久雄、解良恭一、田口亮、梅崎徹也、坂口浩三、石田博徳、小林国彦、堀本勝久、第63回日本呼吸器学会学術総会（学術部会最優秀演題賞）、2023年4月28日、国内、口頭. |
| 上田-195 | 2023 | 進化する免疫療法への挑戦 ～非小細胞肺癌における治療効果予測～、各務 博、第82回日本癌学会総会、2023年9月23日、国内、口頭. |
| 上田-196 | 2023 | 新規Th1-like CD4+ T細胞クラスターが予測する抗腫瘍免疫、各務 博、バイオセラピー学会シンポジウム、2023年12月13日、国内、口頭. |
| 上田-197 | 2023 | 日米の非アルコール性脂肪性肝炎由来肝細胞がんにおけるゲノム網羅的 DNA メチル化解析、藏本 純子、新井 恵史、藤本 真央、牧内 里美、津田 昇、安田 和基、平岡伸介、吉田 輝彦、Evason Kimberley、金井 弥栄、第112回日本病理学会総会、2023年4月13日、国内、口頭. |
| 上田-198 | 2023 | 発がんエピゲノム機構にかかる分子病理学研究（宿題報告Japan Pathology Award Lecture 1）、金井 弥栄、第112回日本病理学会総会、2023年4月13日、国内、口頭. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-199 | 2023 | 高速液体クロマトグラフィーによる DNA メチル化解析に基づく上部尿路がん新規非侵襲的診断法開発、藤本 真央、新井 恵吏、菊島 卓也、西山 直隆、中村 知史、山田 有理子、太平 博暁、與谷 卓也、北村 寛、金井 弥栄、第112回日本病理学会総会、2023年4月14日、国内、ポスター。 |
| 上田-200 | 2023 | 肺腺がんの DNA メチル化プロファイルに対する免疫微小環境の影響、河原 徹、藤本 真央、下田 将之、浅村 尚生、金井 弥栄、新井 恵吏、第112回日本病理学会総会、2023年4月14日、国内、ポスター。 |
| 上田-201 | 2023 | DNA methylation diagnostics for upper urinary tract urothelial carcinoma using newly developed high-performance liquid chromatography、Mao Fujimoto, Eri Arai, Takuya, Kikushima, Naotaka Nishiyama, Tomofumi Nakamura, Yuriko Yamada, Hiroaki Taira, Takuya Yotani, Hiroshi Kitamura, Yae Kanai、America Association for Cancer Research Annual Meeting 2023、2023年4月19日、国外、ポスター。 |
| 上田-202 | 2023 | Genome-wide DNA methylation analysis of non-alcoholic steatohepatitis in Japanese and American cohorts、藏本 純子、新井 恵吏、藤本 真央、田 迎、牧内里美、津田 昇、安田 和基、平岡 伸介、吉田 輝彦、Evason J Kimberley、金井 弥栄、第82回日本癌学会学術総会、2023年9月22日、国内、口頭。 |
| 上田-203 | 2023 | 泌尿器がんにおけるエピゲノム異常の意義と臨床応用 (教育講演)、金井 弥栄、第88回 日本泌尿器科学会 東部総会、2023年10月6日、国内、口頭。 |
| 上田-204 | 2023 | 超百寿者・スーパーセンテナリアンのゲノム網羅的DNA メチル化解析、中山 雄二、新井 恵吏、小巻 翔平、藤本 真央、津田 昇、牧内 里美、田 迎、藏本 純子、新井 康通、清水 厚志、金井 弥栄、第113回日本病理学会総会、2024年3月28日、国内、ポスター。 |
| 上田-205 | 2023 | EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者の血中セルフリーDNAを用いたエピゲノム解析、中島 真、安田 浩之、松谷 哲行、田 迎、藤本 真央、新井 恵吏、富樫 亮、関 順彦、金井 弥栄、第113回日本病理学会総会、2024年3月28日、国内、ポスター。 |
| 上田-206 | 2023 | 肺腺がんのDNAメチル化プロファイルに対する腫瘍微小環境の影響、河原 徹、藤本 真央、下田 将之、浅村 尚生、金井 弥栄、新井 恵吏、第113回日本病理学会総会、2024年3月28日、国内、ポスター。 |
| 上田-207 | 2023 | 日米のコホートをを用いた非アルコール性脂肪性肝炎関連肝発がんにかかるゲノム網羅的DNAメチル化解析、藏本 純子、新井 恵吏、藤本 真央、田 迎、牧内 里美、津田 昇、安田 和基、平岡 伸介、吉田 輝彦、Evason J Kimberley、金井 弥栄、第113回日本病理学会総会、2024年3月28日、国内、口頭。 |
| 上田-208 | 2023 | 免疫治療とゲノム医療との融合、西川博嘉、第109回日本消化器病学会総会、2023/4/6、国内、口頭。 |
| 上田-209 | 2023 | Final results from a phase I study to evaluate the safety and efficacy of a telomerase-specific oncolytic adenovirus (OBP-301) with pembrolizumab in patients with advanced solid tumors (EPOC1505)、Kojima T, Fujiwara T, Tanabe S, Kadota T, Ono H, Tsukamoto K, Ikeno T, Wakabayashi M, Sato A, Kondo M, Kumagai S, Koyama S, Nishikawa H, Doi T、AACR Annual meeting2023、2023/4/18、国外、口頭。 |
| 上田-210 | 2023 | 免疫チェックポイント阻害剤治療の新時代：ゲノム医療との融合、西川博嘉、第31回日本医学会総会、2023/4/22、国内、口頭。 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 上田-211 | 2023 | Pembrolizumab and Ramucirumab Neoadjuvant Therapy for PD-L1-Positive Stage IB-III A Lung Cancer (EPOC1710: EAST ENERGY)、Aokage K, Shimada Y, Yoh K, Wakabayashi M, Fukutani M, Furuya H, Nomura K, Miyoshi T, Tane K, Samejima J, Kumagai S, Koyama S, Nishikawa H, Taki T, Hayashi T, Matsubayashi J, Ishii G, Ikeda N, Tsuboi M、ASCO Annual meeting 2023、 |
| 上田-212 | 2023 | Predictive value of tumor-infiltrating lymphocyte (TIL) dynamics in the tumor microenvironment (TME) during preoperative chemoradiotherapy (CRT) on pathologic complete response (pCR) in microsatellite-stable (MSS) locally advanced rectal cancer (LARC)、Imai M, Bando H, Tsukada Y, Kato T, Komatsu Y, Uemura M, Yuki S, Taketomi A, Fujisawa T, Nakamura Y, Kojima M, Koyama S, Oum C, Shin S, Ock C, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T、ASCO Annual meeting 2023、2023/6/5、国外、口頭. |
| 上田-213 | 2023 | deficient mismatch repair (dMMR) 大腸癌における近傍リンパ節の免疫学的特徴、稲守宏治、富樫庸介、小笠原康悦、鈴木穰、小嶋基寛、入江拓磨、伊藤雅昭、西川博嘉、第47回日本リンパ学会総会、2023/6/10、国内、口頭. |
| 上田-214 | 2023 | がん微小環境の免疫抑制機構を標的とした新規がん免疫複合療法、西川博嘉、第32回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会、2023/7/6、国内、口頭. |
| 上田-215 | 2023 | 腫瘍微小環境の免疫抑制の克服による新規がん免疫療法の開発、西川博嘉、第27回日本がん免疫学会総会_珠玖洋教授追悼記念シンポジウム、2023/7/21、国内、口頭. |
| 上田-216 | 2023 | Effect of spatial transcriptomics on tumor immune microenvironment resistant to immune checkpoint inhibitors in metastatic urothelial carcinoma、Iwasawa T, Tanaka N, Itahashi K, Matsumoto K, Koyama S, Nishikawa H, Oya M、the 2023 ASCO Breakthrough、2023/8/3、国内、口頭. |
| 上田-217 | 2023 | 肝臓における微小環境の免疫抑制機構に基づいたがん免疫療法、西川博嘉、第30回肝細胞研究会、2023/8/25、国内、口頭. |
| 上田-218 | 2023 | 免疫ゲノム解析による腫瘍微小環境の免疫抑制機構の解明、西川博嘉、千里ライフサイエンスセミナーV3 第9回がんシリーズ、2023/9/12、国内、口頭. |
| 上田-219 | 2023 | 新規 CSF1R 阻害剤 FF-10101 による、免疫抑制性腫瘍関連マクロファージの阻害と抗腫瘍免疫応答の誘導、佐藤貴彦、杉山大介、小嶋泰弘、服部諭美、曾根一輝、石川裕一、西川博嘉、清井仁、第82回日本癌学会学術総会、2023/9/21、国内、口頭. |
| 上田-220 | 2023 | 頭頸部扁平上皮がんに対するニボルマブ単剤治療の多重免疫染色を用いたバイオマーカー探索、星裕太、榎田智弘、奥村元紀、田中伸和、岡野晋、藤澤孝夫、竹下直宏、翁長龍太郎、小山正平、坂下信悟、篠崎剛、松浦一登、林隆一、西川博嘉、田原信、第82回日本癌学会学術総会、2023/9/21、国内、口頭. |
| 上田-221 | 2023 | がん免疫療法の抵抗性克服に向けた試み、西川博嘉、第82回日本癌学会学術総会、2023/9/21、国内、口頭. |
| 上田-222 | 2023 | 腸内細菌による免疫制御が、固形がんに対する抗 PD-1 抗体の臨床効果に与えるメカニズムの解明、林怡孜、福岡聖大、小山正平、西川博嘉、第82回日本癌学会学術総会、2023/9/22、国内、口頭. |
| 上田-223 | 2023 | ここまで進んだがん免疫療法ー適切ながん免疫療法を受けるには？ー、西川博嘉、第82回日本癌学会学術総会／第42回日本癌学会市民公開講座、2023/9/23、国内、口頭 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-224 | 2023 | 免疫ゲノム解析による腫瘍微小環境の免疫抑制機序の解明、西川博嘉、第43回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会、2023/10/7、国内、口頭. |
| 上田-225 | 2023 | がん微小環境の免疫抑制機構に基づいたがん免疫療法、西川博嘉、第61回日本癌治療学会、2023/10/20、国内、口頭. |
| 上田-226 | 2023 | PD-L1 陽性 IB-IIIA 期 NSCLC に対する pembrolizumab+ramucirumab 導入療法と手術による集学的治療（第 II 相試験）（EPOC1710: EAST ENERGY）、嶋田善久、青景圭樹、葉清隆、若林将史、福谷美紀、古谷秀樹、野村幸太郎、熊谷尚悟、小山正平、西川博嘉、滝哲郎、林大久生、松林純、石井源一郎、池田徳彦、坪井正博、第64回日本肺癌学会学術集会、2023/11/2、国内、口頭. |
| 上田-227 | 2023 | がん微小環境における免疫抑制機構の解明と治療への応用、西川博嘉、第34 回日本消化器癌発生学会総会、2023/11/24、国内、口頭. |
| 上田-228 | 2023 | 腫瘍微小環境における免疫抑制機構の解明と臨床展開、西川博嘉、第10回JCRベシックリサーチカンファレンス、2023/11/24、国内、口頭. |
| 上田-229 | 2023 | Prospective study on eribulin efficacy in advanced and metastatic breast cancer: changes in TGF- β compared to other standard chemotherapy agents (KBCSG - TR 2018, POTENTIAL). San Antonio Breast Cancer Symposium 2023 (SABCS2023)、Nakayama T, Yoshinami T, Fujisawa F, Nishino M, Yamanaka T, Yamashita T, Oshiro C, Izui A, Tomioka N, Maeda H, Shimoda M, Shimazu K, Tsuneizumi M, Matsunuma R, Bando H, Ueda A, Yasojima H, Okada K, Inoue K, Kai Y, Yoshidome K, Kawaguchi H, Nagahashi M, Oshima K, Kashiwagi S, Iwasa T, Taruno K, Tsuyuki S, Tsukamoto F, Morimoto T, Kittaka N, Higuchi T, Naito Y, Saita R, Nishikawa H, Sugiyama D, Miyoshi Y, Uchida Y, Yamada T, Masuda N、San Antonio Breast Cancer Symposium 2023 (SABCS2023)、2023/12/6、国外、口頭. |
| 上田-230 | 2023 | Enriched specific subset of immune cells nearby tumor associated macrophage (TAM) is correlated with pathologic complete response (pCR) of concurrent chemoradiotherapy followed by nivolumab in locally advanced rectal cancer (LARC)、Imai M, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Kato T, Komatsu Y, Uemura M, Yuki S, Taketomi A, Fujisawa T, Nakamura Y, Kojima M, Koyama S, Song S, Ock CY, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T、the 2024 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium (ASCO GI 2024)、2024/1/18-20、国外、ポスター. |
| 上田-231 | 2023 | A novel image flow cytometry for analyzing cell phenotypes during cell-cell interactions、Nishikawa H、第52回日本免疫学会総会、2024/1/18、国内、口頭. |
| 上田-232 | 2023 | Impact of PET-derived microplastics on gut immune microenvironments、Harusato A, Seo W, Nakanishi Y, Abo H, Nishikawa H, Itoh Y、第52回日本免疫学会総会、2024/1/18、国内、ポスター. |
| 上田-233 | 2023 | Roles of Satb1 in the maintenance of the functional fitness of regulatory and cytotoxic T lymphocytes、Seo W, Zou C, Shimizu K, Setoguchi R, Kakugawa K, Nair K, Hori S, Fujii S, Nishikawa H, Taniuchi I、第52回日本免疫学会総会、2024/1/19、国内、ポスター. |
| 上田-234 | 2023 | Immune-genome precision medicine targeting immune suppression in the tumor microenvironment、Nishikawa H、第52回日本免疫学会総会、2024/1/19、国内、口頭. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 上田-235 | 2023 | がん免疫療法の成功における免疫ゲノムプレジジョン医療の重要性、西川博嘉、第33回泌尿器科分子・細胞研究会、2024/2/16、国内、口頭。 |
| 上田-236 | 2023 | The biomarker analysis of atezolizumab following definitive chemoradiotherapy for unresectable locally advanced ESCC (EPOC1802)、Bando H, Kumagai S, Kotani D, Mishima S, Habu T, Tsushima T, Hara H, Kadowaki S, Kato K, Chin K, Yamaguchi K, Kageyama S, Hojo H, Nakamura M, Tachibana H, Wakabayashi M, Fukui M, Fuse N, Nishikawa H, Kojima T、第21回日本臨床腫瘍学会学術集会、2024/2/24、国内、口頭。 |
| 上田-237 | 2023 | 乳腺FNACのLBC検体を用いたゲノム変異の研究、小穴 良保, 五月女 恵一, 黒沼 智, 三階 貴, 大井 恭代, 鹿股 直樹, 大森 昌子, 永澤 慧, 土屋 眞一, 前田 一郎、第64回日本臨床細胞学会総会春期大会、2023/06/11、国内、口頭。 |
| 上田-238 | 2023 | 乳腺細胞診ホルマリン再固定法における免疫染色Her2スコアの比較検討、恒田 直人, 小川 命子, 石黒 弘美, 三田 尚子, 平林 陽介, 小林 ひとみ, 金子 あゆみ, 金澤 卓也, 吉田 光希, 鹿股 直樹、第64回日本臨床細胞学会総会春期大会、2023/06/10、国内、口頭。 |
| 上田-239 | 2023 | 早期乳癌におけるLAMP法を用いた25遺伝子発現プロファイリングの臨床的有用性 (Clinical utility of twenty-five gene-expression profiling using LAMP method in early stage breast cancer)、土田 寧恵, 上田 隆晶, 長竹 由佳, 道行 悟, 服部 未来, 佐藤 正樹, 富田 憲弘, 鹿股 直樹, 山内 英子、第31回日本乳癌学会学術総会、2023/06/30、国内、口頭。 |
| 上田-240 | 2023 | RetroBC-HER2L研究 日本人集団解析、林 直輝, 徳永 えり子, 熊木 伸枝, 鹿股 直樹, 田口 健一, Varghese Della, James Gareth D., 山崎 駿介, 高田 武彦, Livingston Andrew, 新倉 直樹、第31回日本乳癌学会学術総会、2023/06/29、国内、口頭。 |
| 金子-1 | 2021 | 血清LG2mを用いたC型肝炎SVR後の発がん予測：前向き多施設共同研究、山下太郎、島上哲朗、金子周一、第107回日本消化器病学会総会、2021/4/16、国内、口頭 |
| 金子-2 | 2021 | 血清LG2mを用いたC型肝炎SVR後患者の発がん予測研究：前向き多施設共同研究、山下太郎、島上哲朗、金子周一、第57回日本肝臓学会総会、2021/6/18、国内、口頭 |
| 金子-3 | 2021 | 血清LG2mを用いた高転移性肝細胞癌診断、山下太郎、丹尾幸樹、金子周一、第57回日本肝臓学会総会、2021/6/18、国内、口頭 |
| 金子-4 | 2021 | 血清LG2mによる肝癌診断、C型肝炎SVR後の発がん予測：前向き多施設共同研究、山下太郎、島上哲朗、金子周一、第57回日本肝臓学会、2021/7/21、国内、口頭 |
| 金子-5 | 2021 | Recent progress in basic and clinical research of liver cancer stem cells: correlation of liver cancer stem cells with molecular hepatocellular carcinoma subclasses、山下太郎、7th Asian Conference on Tumor Ablation、2021/10/15、国内、口頭 |
| 金子-6 | 2021 | 血清LG2mを用いた肝癌診断、C型肝炎SVR後の発癌予測：前向き多施設共同研究、山下太郎、島上哲朗、金子周一、第44回日本肝臓学会西部会、2021/12/9、国内、口頭 |
| 金子-7 | 2021 | Recent progress in basic and clinical research of liver cancer stem cells、山下太郎、APASL Oncology 2021、2021/12/18、国内、口頭 |
| 金子-8 | 2021 | AI/neural networkシステムを用いたASH スクリーニングとNASH線維化診断、岡上武、光本保英、島俊英、JDDW 2021、2021/11/5、国内、口頭 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 金子-9 | 2021 | 新たな肝細胞がんを予測する新たなバイオマーカーとしての血清ラミニン γ 2モノマー、越川直彦、第80回日本癌学会学術総会、2021/10/1、国内、口頭 |
| 金子-10 | 2021 | 肝がんにおけるLn- γ 2mの機能解析、舟橋伸昭、第80回日本癌学会学術総会、2021年10月1日、国内、口頭 |
| 金子-11 | 2021 | ラミニン γ 2単鎖が肝がんに関与する新たな機能の解析、舟橋伸昭、第30回日本がん転移学会学術集会、2021年07月29日、国内、口頭 |
| 金子-12 | 2022 | ラミニン γ 2単鎖をバイオマーカーとした肝がん、遠隔転移の予測を可能とする新たな診断法の構築、第72回日本電気泳動学会シンポジウム-生命科学と電気泳動-2022年11月2日、国内、口頭 |
| 金子-13 | 2022 | 新規ラミニン γ 2融合遺伝子による悪性化進展の分子機序の解明、19. 越川直彦、山下太郎、中川将利、吉田栄作、吉村徹、金子周一、第26回 日本がん分子標的治療学会学術集会、2022年7月1日、国内、口頭 |
| 金子-14 | 2022 | Identification of LAMC2-fusion gene as an oncoprotein produced by chromosomal translocation、15. Naohiko Koshikawa, Daisuke Hoshino, Yohei Miyagi、第81回日本癌学会総会、2022年9月30日、国内、口頭 |
| 金子-15 | 2023 | 新たな肝がん腫瘍マーカー、ラミニン γ 2単鎖測定の意味、山下太郎、第88回日本内科学会北陸支部生涯教育講演会、2023年3月5日、国内、口頭 |
| 金子-16 | 2023 | 肝炎・肝がんにおけるラミニン γ 2単鎖発現の意味、山下太郎、第374回日本消化器病学会関東支部例会、特別講演、2023年4月22日、国内、口頭 |
| 金子-17 | 2023 | 新たな肝がん腫瘍マーカー、ラミニン γ 2単鎖の有用性、山下太郎、第48回日本消化器病学会北陸支部教育講演会、2023年6月4日、国内、口頭 |
| 金子-18 | 2024 | 細胞外マトリックス融合遺伝子が肺がん細胞の悪性形質の獲得に及ぼす影響の検討、兼子峻、岸本悠理、舟橋伸昭、越川直彦、第83回日本癌学会総会 2023年9月21日、国内、口頭 |
| 金子-19 | 2024 | 肝細胞の形質転換はLm- γ 2 monomer/EGFR/c-Jun 経路により誘導される、2. 舟橋伸昭、岡田光、山下太郎、越川直彦、第83回日本癌学会総会 2023年9月21日、国内、ポスター |
| 笹田-1 | 2019 | ALK検査法がALK阻害剤の効果におよぼす影響、中原善朗、臼井亮、村上修司、近藤哲郎、加藤晃史、斎藤春洋、山田耕三、第60回日本肺癌学会学術集会、2019/12/06 |
| 笹田-2 | 2019 | ペムブロリズマブによる初回治療と抗核抗体との関係、村上修司、中原善朗、臼井亮、近藤哲郎、加藤晃史、斎藤春洋、山田耕三、第60回日本肺癌学会学術集会、2019/12/06 |
| 笹田-3 | 2019 | 当院で進行非小細胞肺癌に対してPD-1阻害薬投与によって発症した副腎皮質機能低下症の2例、臼井亮、中原善朗、村上修司、近藤哲郎、加藤晃史、斎藤春洋、山田耕三、第60回日本肺癌学会学術集会、2019/12/06 |
| 笹田-4 | 2019 | 肺癌治療耐性獲得後再生検におけるT790M遺伝子検出に関与する因子解析、近藤哲郎、臼井亮、中原善朗、村上修司、加藤晃史、斎藤春洋、山田耕三、第60回日本肺癌学会学術集会、2019/12/06 |
| 笹田-5 | 2019 | 免疫チェックポイント阻害剤に対してMixed responseを示した症例の検討、斎藤春洋、中原善朗、臼井亮、村上修司、近藤哲郎、加藤晃史、山田耕三、第60回日本肺癌学会学術集会、2019/12/08 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 笹田-6 | 2020 | 胎児性肺癌における遺伝子ネットワーク解析. 笠島理加, 鈴木理樹, 玉田嘉紀, 新井田厚司, 山口類, 井元清哉, 古川洋一, 宮野悟, 横瀬智之, 宮城洋平. 第79回日本癌学会総会. 2020/10 |
| 笹田-7 | 2020 | 非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害剤治療前後での末梢血TCR/BCRレパトア解析の有用性. 五十嵐友香, 中原善朗, 松尾規和, 東公一, 笹田哲朗. 第24回日本がん免疫学会総会. 2020/10/8 |
| 笹田-8 | 2021 | 肺腺癌におけるアミノ酸代謝に関わる新規予後関連シグネチャーの構築. 項慧慧, 宮城洋平. コホート・生体試料支援プラットフォーム. 2020年度・若手支援研究成果発表会. 2021/2/9 |
| 笹田-9 | 2021 | 免疫チェックポイント阻害薬治療中にcollagenous colitisを発症した進行肺癌の1例. 片倉誠悟, 古田光寛, 品田佳那子, 牛尾良太, 村上修司, 近藤哲郎, 加藤晃史, 横瀬智之, 齋藤 春洋. 671回日本内科学会関東地方会, 2021.9.12 |
| 笹田-10 | 2021 | IRF5 as a target of treatment for systemic lupus erythematosus. Tamura T. Cytokines 2021, 2021/10/19, |
| 笹田-11 | 2021 | 進展型小細胞肺癌に対するPD-L1阻害薬維持療法の治療効果の実際. 牛尾良太, 加藤晃史, 品田佳那子, 片倉誠悟, 村上修司, 近藤哲郎, 齋藤春洋. 第62回日本肺癌学会学術集会, 2021/11/26 |
| 笹田-12 | 2021 | Myeloid cells: new developmental mechanisms and functions. Tamura T. 第50回日本免疫学会学術集会, 2021/12/10 |
| 笹田-13 | 2021 | The transcription factor IRF8 and chromatin in the regulation of myeloid cell development. Tamura T. 第50回日本免疫学会学術集会, 2021/12/10 |
| 笹田-14 | 2021 | A novel prognostic gene signature of amino acid metabolism in lung adenocarcinoma. Xiang H, Kasajima R, Sasada T, Miyagi Y. 第80回日本癌学会学術総会. 2021/10/1 |
| 笹田-15 | 2021 | Changes of peripheral TCR/BCR repertoire are predictive biomarker for the efficacy of ICI in NSCLC. Nakahara Y, Matsutani T, Igarashi Y, Matsuo N, Himuro H, Saito H, Yamada K, Murotani K, Hoshino T, Azuma K, Sasada T. 第80回日本癌学会学術総会. 2021/10/2 |
| 笹田-16 | 2022 | Significance of concentrations of Plasma Free Amino Acids and Tryptophan Metabolites in NSCLC receiving PD-1 inhibitor. Azuma K, Xiang H, Tagami T, Kasajima R, Kato Y, Karakawa S, Kikuchi S, Imaizumi A, Matsuo N, Ishii H, Tokito T, Kawahara A, Murotani K, Sasada T, Miyagi Y, Hoshino T. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2022/2/19. |
| 笹田-17 | 2022 | トリプトファン代謝物一斉分析法の開発と生体試料分析への応用 唐川幸聖, 西本瑠美, 川崎美佳, 田上智行, 北村明彦, 長尾健児, 中山 聡. 第29回クロマトグラフィーシンポジウム. 2022/6/9 |
| 笹田-18 | 2022 | 機械学習を用いた末梢血サイトカインに基づくがん免疫治療層別化予測ツールの開発. 魏 菲菲, 東 公一, 中原善朗, 齋藤春洋, 紅露 拓, 氷室秀知, 洞口 俊, 辻嘉代子, 笹田哲朗. 第81回日本癌学会総会記事. 2022/9/30. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 笹田-19 | 2022 | Significance of concentrations of Plasma Free Amino Acids and Tryptophan Metabolites in NSCLC receiving PD-1 inhibitor. Azuma K, Xiang H, Tagami T, Kasajima R, Kato Y, Karakawa S, Kikuchi S, Imaizumi A, Matsuo N, Ishii H, Tokito T, Kawahara A, Murotani K, Sasada T, Miyagi Y, Hoshino T. 第63回日本肺癌学会総会. 2022/12/2. |
| 笹田-20 | 2022 | A novel prognostic gene signature of amino acid metabolism pathways under lung adenocarcinoma tumor immune microenvironment. Xiang H, Kasajima R, Sasada T, Miyagi Y. 第51回日本免疫学会学術集会. 2022/12/8. |
| 笹田-21 | 2022 | The transcription factor IRF8 and chromatin in myeloid cell development. Tamura T. JSPS Core to Core Program Symposium, 2022/1/13 |
| 笹田-22 | 2022 | PD-L1未発現肺腺癌でのCBDCA+PEM+PembrolizumaとCBDCA+PEM+Ipilimumab+Nivolumabの検討, 永山博一, 寺西周平, 杉本千尋, 瀬川渉, 宮坂 篤史, 廣俊太郎, 増本菜美, 長原慶典, 平馬 暢之, 小林信明, 山本昌樹, 工藤 誠, 金子 猛, 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022/4 |
| 笹田-23 | 2022 | 当院での非小細胞肺癌に対するマルチ遺伝子検査の検討, 宮坂篤史, 寺西周平, 杉本千尋, 永山博一, 瀬川渉, 増本菜美, 長原慶典, 平馬暢之, 小林信明, 山本昌樹, 工藤誠, 金子猛, 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022/4 |
| 笹田-24 | 2022 | EGFR変異陽性肺腺癌に対する第三世代EGFR-TKIの治療効果にPD-L1発現率が及ぼす影響, 杉本千尋, 寺西周平, 永山博一, 瀬川渉, 宮坂篤史, 廣俊太郎, 増本菜美, 長原慶典, 平馬暢之, 小林 信明, 山本昌樹, 工藤誠, 金子猛, 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022/4 |
| 笹田-25 | 2022 | FDG-PETのNSCLCに対する細胞障害性抗がん剤+免疫チェックポイント阻害剤併用療法の効果予測因子としての有用性, 染川弘平, 小林信明, 井澤亜美, 金子彩美, 田中克志, 関健一, 藤井裕明, 田上陽一, 青木絢子, 渡邊恵介, 原 悠, 金子猛, 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022/4 |
| 笹田-26 | 2022 | トリプトファン代謝物一斉分析法の開発と生体試料分析への応用, 唐川幸聖, 西本瑠美, 川崎美佳, 田上智行, 北村明彦, 長尾健児, 中山 聡, 第29回クロマトグラフィーシンポジウム, 2022/6/9 |
| 笹田-27 | 2022 | 肺腺癌におけるアミノ酸代謝経路に関連する新規予後・免疫治療遺伝子シグネチャーのマルチオミクス解析. 項 慧慧, 笠島理加, 笹田哲朗, 宮城洋平. 第81回日本癌学会総会. 2022/9/30 |
| 笹田-28 | 2022 | MP3, Fractalkine and MIF are Associated with Clinical Outcomes in Locally Advanced NSCLC Treated with Chemoradiotherapy and Durvalumab. 中原善朗, 齋藤春洋, 紅露拓, 氷室秀知, 笹田哲朗, 猶木克彦, IASLC 2022 Asia Conference on Lung Cancer, 2022/10/28 |
| 笹田-29 | 2022 | 進行非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬(ICI)併用療法の検討, 金子彩美, 小林信明, 福田信彦, 寺西周平, 工藤誠, 金子猛, 第63回日本肺癌学会学術集会, 2022/11 |
| 笹田-30 | 2022 | 当院における切除不能進行・再発胃癌に対する免疫チェックポイント阻害剤を使用した治療戦略と今後の展望, 山田哲平, 林貴臣, 橋本恭弘, 島岡秀樹, 榎研二, 吉村文博, 吉田陽一郎, 長谷川傑, 第84回日本臨床外科学会, 2022/11/24 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 笹田-31 | 2023 | 切除不能進行・再発食道癌に対する免疫チェックポイント阻害剤使用後のサルベージ化学療法に関する検討. 鈴田龍太郎、山田哲平、花岡勝蔵、富永孝亮、林貴臣、橋本恭弘、島岡秀樹、榎研二、吉村文博、吉田陽一郎、長谷川傑. 第123回 日本外科学会定期学術集会, 2023/4/27 |
| 笹田-32 | 2023 | Thyroid Disorder After Immune Checkpoint Blockade In Real-world Is More Frequent Than In Clinical Trials. Nobuaki Kobayashi, Megumi Kaneko, Suguru Muraoka, Ami Izawa, Ayami Kaneko, Nobuhiko Fukuda, Hiromi Matsumoto, Chisato Kamimaki, Kouta Murohashi, Yoichi Tagami, Ayako Aoki, Keisuke Watanabe, Nobuyuki Horita, Yu Hara, Takeshi Kaneko. 第63回日本呼吸器学会総会, 2023/4 |
| 笹田-33 | 2023 | 末梢血IFN- γ 産生細胞数はICI治療の効果予測因子である. 神巻千聡, 小林信明, 村岡傑, 青木絢子, 渡邊恵介, 原悠, 工藤誠, 金子猛. 第63回日本呼吸器学会総会, 2023/4 |
| 笹田-34 | 2023 | 進行非小細胞肺癌に対するニボルマブとイピリムマブを含む併用療法の実臨床における安全性の検討. 金子彩美, 小林信明, 松本大海, 渡邊恵介, 堀田信之, 原悠, 三浦健次, 宮沢直幹, 小泉晴美, 山本昌樹, 工藤誠, 金子猛. 第63回日本呼吸器学会総会, 2023/4 |
| 笹田-35 | 2023 | 1次治療で抗PD-L1抗体と細胞傷害性抗癌剤を投与された進展型小細胞肺癌 (ES-SCLC) 患者のPFSとOSに影響を及ぼす因子の検討. 梶田至仁, 寺西周平, 長岡悟史, 久保創介, 小林信明, 山本昌樹, 工藤誠, 金子猛. 第63回日本呼吸器学会総会, 2023/4 |
| 笹田-36 | 2023 | 胃癌に対する免疫チェックポイント阻害剤使用における新規バイオマーカー. 山田哲平、吉村 文博、林貴臣、橋本恭弘、島岡秀樹、榎研二、吉田陽一郎、長谷川傑. 第48回 日本外科系連合学会学術集会、2023/6/8 |
| 笹田-37 | 2023 | RMH scoreを用いた切除不能進行・再発胃癌に対する免疫チェックポイント阻害療法. 山田 哲平、吉村文博、林貴臣、橋本恭弘、島岡秀樹、榎研二、吉田陽一郎、長谷川 傑. 第20回日本免疫治療学会学術集会、2023/6/10 |
| 笹田-38 | 2023 | キヌレニナーゼの肺がん組織における発現動態の解析. 項 慧慧, 笠島理加, 笹田哲朗, 宮城洋平. 第40回分子病理学研究会クラークシンポジウム 札幌、2023/7 |
| 笹田-39 | 2023 | 免疫チェックポイント阻害剤で治療された非小細胞肺癌患者における血漿中可溶性PD-1およびPD-L1の臨床的意義. 氷室秀知、中原喜朗、五十嵐友香、紅露拓、村上修司、魏菲菲、洞口俊、辻嘉代子、眞野恭伸、齋藤春洋、東公一、笹田哲朗. 第27回日本がん免疫学会総会、2023/7 |
| 笹田-40 | 2023 | Plasma soluble PD-1 and PD-L1 for prediction of clinical outcomes in NSCLC patients treated with ICI. 氷室秀知、中原喜朗、五十嵐友香、紅露拓、村上修司、魏 菲菲、洞口俊、辻嘉代子、眞野恭伸、齋藤春洋、東公一、笹田哲朗. 第82回日本癌学会学術総会、2023/9 |
| 笹田-41 | 2023 | 肺腺癌患者のOS予後に関連する腫瘍特異的アミノ酸代謝遺伝子に基づく新規シグネチャーの再検討. 項 慧慧, 笠島理加, 笹田哲朗, 宮城洋平. 第82回日本癌学会学術総会、2023/9 |
| 笹田-42 | 2023 | Further study on a novel signature based on tumor-specific amino acid metabolism genes associated with OS prognosis. Xiang H, Kasajima R, Sasada T, Miyagi Y. AACR Annual Meeting 2023. 2023/4/14-19. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 笹田-43 | 2023 | Clinical significance of soluble PD-1 and PD-L1 in plasma of NSCLC patients treated with immune checkpoint inhibitors . Nakahara Y, Himuro H, Igarashi Y, Kouro T, Higashijima N, Matsuo N. Murakami S, Wei F, Horaguchi S, Tsuji K, Mano Y, Saito H, Azuma K, Naoki K, Sasada T. IASLC 2023 World Conference on Lung Cancer (WCLC 2023). 2023/9/9-12 |
| 笹田-44 | 2023 | ICI治療における血漿中Neutrophil extracellular trapsの効果予測因子としての意義. 中原善朗、洞口俊、東公一、紅露拓、氷室秀知、魏菲菲、眞野恭伸、辻嘉代子、神谷郁也、猶木克彦、笹田哲朗. 第64回日本肺癌学会学術集会. 2023/11/3. |
| 中村-1 | 2020 | 健康診断の結果を用いたParkinson病の発症前バイオマーカーの検索、ポスター,横井克典、服部誠、佐竹勇紀、平川晃弘、勝野雅央,第61回日本神経学会学術大会,2020/8/31-9/2,国内 |
| 中村-2 | 2020 | Clinical features of at-risk subjects for Lewy body disease、口頭,服部誠、横井克典、佐竹勇紀、佐藤茉紀、川島基、堀明洋、勝野雅央,第61回日本神経学会学術大会,2020/8/31-9/2,国内 |
| 中村-3 | 2020 | Clinical features of at-risk subjects of Lewy body disease、口頭,Hattori M, Yokoi K, Satake Yuki, Hiraga K, Tsuboi T, Sato M, Kawashima M, Hori A, Katsuno M,15th International Conference on Alzheimer's & Parkinson's disease,2021/3/9-14,国外 |
| 中村-4 | 2020 | 血中miRNA測定による海馬萎縮の評価（ポスター）,大森 智織, 日本認知症学会, 2020/11/27, 国内 |
| 中村-5 | 2020 | 認知症の多項目血液バイオマーカー, 徳田隆彦, 日本認知症学会学術集会(第39回), 2020.11.26., 国内 |
| 中村-6 | 2020 | Blood-based biomarkers for MSA, Tokuda T, 7th International Congress of Multiple System Atrophy, 2021.2.26., 国内 |
| 中村-7 | 2020 | 櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、岩田香織、木村泰之、武田章敬、中村昭範、伊藤健吾.非アルツハイマー型認知症の神経画像の特徴 ?病型診断困難例を中心とした画像提示-. 第39回日本認知症学会学術集会、2020年12月、オンデマンド |
| 中村-8 | 2020 | 岩田香織、加藤隆司、新畑豊、櫻井孝、文堂昌彦、田中美香、服部英幸、鷺見幸彦、伊藤健吾、中村昭範、MULNIAD Study Group.アルツハイマー病continuumにおける病態進行とネットワーク機能変化の関連. 第39回日本認知症学会学術集会、2020年11月26日、名古屋<第39回日本認知症学会学術集会 学会奨励賞受賞> |
| 中村-9 | 2020 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、岩田香織、木村泰之、鈴木啓介、山岡朗子、辻本昌史、武田章敬、新畑 豊、文堂昌彦、中村昭範、伊藤健吾、MULNIAD Study Group.アルツハイマー病、軽度認知障害、認知機能正常高齢者のTHK-5351 PET集積. 第39回日本認知症学会学術集会、2020年11月26日、名古屋 |
| 中村-10 | 2020 | 岩田香織、加藤隆司、牧野圭太郎、竹中章倫、木村泰之、東智史、李 相侖、島田裕之、伊藤健吾.地域住民におけるAmyvidアミロイドPET陽性率と数値集積指標の検討. 第60回日本核医学会学術集会、2020年11月13日、神戸 |
| 中村-11 | 2020 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、岩田香織、池沼宏、木村泰之、武田章敬、中村昭範、伊藤健吾、Group ADSAT Study.原発性進行性失語の神経画像診断：FDG, THK-5351, PiB PETおよびMRIによる症例提示. 第60回日本核医学会学術総会、2020年11月13日、神戸 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 中村-12 | 2020 | Nakamura A, Kato T, Okada Y, Ishii K, Ishii K, Ito K, Arahata Y, Kaneko N, Iwamoto S, Tanaka K, Ikeuchi T, Yanagisawa K, Iwatsubo T, Toba K, J-ADNI and ORANGE registry study groups. Performances of the plasma A β biomarker in longitudinal data Alzheimer's Association International Conference (AAIC 2020)-virtual event, July 28, 2020 |
| 中村-13 | 2020 | An introduction to radionuclide imaging of neurodegenerative dementia (変性認知症診断における核医学 (入門編)) 第79回日本医学放射線学会総会WEB開催、教育講演 核医学 1 2020年5月15日 (金) ~6月14日 (日) 17時 |
| 中村-14 | 2020 | 櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、岩田香織、木村泰之、武田章敬、中村昭範、伊藤健吾. 非アルツハイマー型認知症の神経画像の特徴 - 病型診断困難例を中心とした画像提示 -. 第39回日本認知症学会学術集会、2020年12月、オンデマンド |
| 中村-15 | 2020 | 西田裕紀子、中村昭範、大塚礼、加藤隆司、Kersten Diers、岩田香織、丹下智香子、安藤富士子、下方浩史、荒井秀典. 地域一般住民における海馬容積の加齢変化とAPOE ϵ 4の影響: 10年間の追跡. 第39回日本認知症学会学術集会、2020年11月26日、名古屋. <第39回日本認知症学会学術集会 学会奨励賞受賞> |
| 中村-16 | 2020 | 岩田香織、加藤隆司、新畑豊、櫻井孝、文堂昌彦、田中美香、服部英幸、鷺見幸彦、伊藤健吾、中村昭範、MULNIAD Study Group. アルツハイマー病continuumにおける病態進行とネットワーク機能変化の関連. 第39回日本認知症学会学術集会、2020年11月26日、名古屋 <第39回日本認知症学会学術集会 学会奨励賞受賞> |
| 中村-17 | 2020 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、岩田香織、木村泰之、鈴木啓介、山岡朗子、辻本昌史、武田章敬、新畑 豊、文堂昌彦、中村昭範、伊藤健吾、MULNIAD Study Group. アルツハイマー病、軽度認知障害、認知機能正常高齢者のTHK-5351 PET集積. 第39回日本認知症学会学術集会、2020年11月26日、名古屋 |
| 中村-18 | 2020 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、岩田香織、池沼宏、木村泰之、武田章敬、中村昭範、伊藤健吾、Group ADSAT Study. 原発性進行性失語の神経画像診断: FDG, THK-5351, PiB PETおよびMRIによる症例提示. 第60回日本核医学会学術総会、2020年11月13日、神戸 |
| 中村-19 | 2020 | Nakamura A (脳機能画像診断開発部) Links Between Sensory Deterioration and Changes in Regional Brain Volume after Middle Age. The Sixth ICAH-NCGG Symposium, Oct 21, 2020 (online event) |
| 中村-20 | 2020 | Nakamura A, Kato T, Okada Y, Ishii K, Ishii K, Ito K, Arahata Y, Kaneko N, Iwamoto S, Tanaka K, Ikeuchi T, Yanagisawa K, Iwatsubo T, Toba K, J-ADNI and ORANGE registry study groups (バイオマーカー開発研究部) Performances of the plasma A β biomarker in longitudinal data Alzheimer's Association International Conference (AAIC 2020)-virtual event, July 28, 2020 |
| 中村-21 | 2020 | 認知症学会学会賞受賞講演, 中村昭範 (バイオマーカー開発研究部) アルツハイマー病の早期診断に資するバイオマーカーの探索. 第39回日本認知症学会学術集会、2020年11月28日、名古屋 |
| 中村-22 | 2020 | 中村昭範 (バイオマーカー開発研究部) 血液バイオマーカー: 実用化への課題と展望シンポジウム 2 血液バイオマーカーの進歩. 第39回日本認知症学会学術集会、2020年11月26日、名古屋 |
| 中村-23 | 2020 | 中村昭範 (バイオマーカー開発研究部) 血液バイオマーカーによる認知症研究の新潮流. 第62回日本老年医学会学術集会、2020年8月5日 (Web 開催) |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 中村-24 | 2020 | 中村昭範（脳機能画像診断開発部）認知症のバイオマーカーとしての脳磁図の可能性. 第35回日本生体磁気学会、2020年7月3日～7月4日、誌上開催 |
| 中村-25 | 2021 | アルツハイマー病のバイオマーカーの探索及びその分子基盤の解明に向けたアプローチ；血漿プロテオミクスとリポドミクスを統合したパイロット研究, 徳岡涼美、浜野文三江、北芳博、夏目徹、小田吉哉, 第69回質量分析総合討論会, 2021/5/19 - 21, 国内 |
| 中村-26 | 2021 | アルツハイマー病バイオマーカー探索と疾患の分子機構 解明に向けた複合オミクスのパイロット研究, 徳岡涼美、浜野文三江、安藤智宏、足達俊吾、伊井雅幸、夏目徹、小田吉哉,, 日本プロテオーム学会2021年大会, 2021/7/19-21, 国内 |
| 中村-27 | 2021 | スループットと信頼性の向上を志向した血清・血漿リポドミクス, 徳岡涼美、北芳博、小田吉哉, 第13回メタボロームシンポジウム, 2021/10/14 -15, 国内 |
| 中村-28 | 2021 | パーキンソン病患者の血中神経由来エクソソームmicroRNA発現プロファイルの検討、ポスター, 平賀経太、服部誠、横井克典、佐竹勇紀、鈴木啓介、新畑豊、鷺見幸彦、勝野雅央, 第62回日本神経学会学術大会, 2021/5/19-22, 国内 |
| 中村-29 | 2021 | レビー小体病患者における尿中p75ECD濃度の上昇と認知機能との関連、ポスター、佐竹勇紀、服部誠、横井克典、平賀経太、佐藤茉紀、鷺見幸彦、新畑豊、鈴木啓介、堀明洋、勝野雅央, 第62回日本神経学会学術大会, 2021/5/19-22, 国内 |
| 中村-30 | 2021 | Longitudinal analysis of at-risk cohort of Lewy body disease、口頭, 服部誠、横井克典、佐竹勇紀、平賀経太、坪井崇、佐藤茉紀、川島基、堀明洋、若井正一、鈴木啓介、新畑豊、鷺見幸彦、松川則之、勝野雅央, 第62回日本神経学会学術大会, 2021/5/19-22, 国内 |
| 中村-31 | 2021 | Longitudinal analysis of at-risk cohort of Lewy body disease、口頭, Hattori M, Satake Y, Hiraga K, Tsuboi T, Sato M, Kawashima M, Hori A, Wakai M, Yokoi K, Suzuki K, Arahata Y, Washimi Y, Matsukawa N, Katsuno M, Next Gen DLB meeting, 2021/6/12, 国外 |
| 中村-32 | 2021 | レビー小体病患者における尿中p75ECD濃度の上昇と認知機能との関連、ポスター、佐竹勇紀、服部誠、横井克典、平賀経太、佐藤茉紀、鷺見幸彦、新畑豊、鈴木啓介、堀明洋、勝野雅央, 第15回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 2021/7/1-3, 国内 |
| 中村-33 | 2021 | レビー小体病ハイリスク者コホートの縦断解析、ポスター, 服部誠、横井克典、佐竹勇紀、平賀経太、坪井崇、佐藤茉紀、川島基、堀明洋、若井正一、鈴木啓介、新畑豊、鷺見幸彦、松川則之、勝野雅央, 第15回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 2021/7/1-3, 国内 |
| 中村-34 | 2021 | アルツハイマー病における脳神経系発現microRNAの変動（口頭）、大森 智織, 日本認知症学会, 2021/11/26, 国内 |
| 中村-35 | 2021 | 超高感度digital ELISAによる血液バイオマーカーの定量, 徳田隆彦, 建部陽嗣, 日本認知症学会学術集会(第40回), 2021.11.26., 国内 |
| 中村-36 | 2021 | Blood-based biomarkers for brain pathologies other than amyloid accumulation: beyond the ATN system., Tokuda T, The 16th International Symposium on Geriatrics and Gerontology, 2021.12.18., 国内 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 中村-37 | 2021 | Semi-quantitative assay for Neurogranin peptides using IP-MALDI-MS,ポスター, Naoki Kaneko, Ryota Takahashi, Akihito Korenaga, Ritsuko Yoda, Sadanori Sekiya, Shinichi Iwamoto, Koichi Tanaka, Alzheimer's Association International Conference(AAIC)2021, 2021/7/26~30, 国外 |
| 中村-38 | 2021 | Semi-quantitative assay for Neurogranin peptides using IP-MALDI-MS,ポスター, 金子直樹・高橋亮太・伊永章史・依田里都子・関谷禎規・岩本慎一・田中耕一, 第40回 日本認知症学会学術集会, 2021/11/26~28, 国内 |
| 中村-39 | 2021 | 認知機能が低下している高齢女性患者におけるAPOE-ε4と体重・身体組成との関連一病型ごとの検討一(ポスター), 内田一彰、安藤貴史、杉本大貴、木村藍、佐治直樹、新飯田俊平、櫻井孝, 第42回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会(横浜・WEB), 2022.3.26-27, 国内 |
| 中村-40 | 2021 | 岩田香織、加藤隆司、鈴木啓介、辻本昌史、二橋尚志、櫻井圭太、木村泰之、西尾正美、小島明洋、中村昭範、井狩彌彦、新美芳樹、石井賢二、千田道雄、伊藤健吾、岩坪 威、J-TRC Study Group. フルテメタモルPET 検査の撮像収集時間の違いがSUVR 値, Centiloid scale 値に与える影響. 第40回日本認知症学会学術集会、2021年11月26-28日、東京、国内、ポスター発表 |
| 中村-41 | 2021 | 岩田香織、加藤隆司、新畑 豊、田中美香、鈴木啓介、櫻井 孝、新飯田俊平、伊藤健吾、中村昭範、BATON Study Group. 認知機能正常者における脳の機能的連結変化と血液Aβバイオマーカーの関係. 第40回日本認知症学会学術集会、2021年11月26-28日、東京、国内、ポスター発表 |
| 中村-42 | 2021 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑豊、中村昭範、伊藤健吾、ADSAT Study GROUP. AD continuum における18FMK6240 の集積分布 初期使用経験. 第40回日本認知症学会学術集会、2021年11月26-28日、東京、国内、ポスター発表 |
| 中村-43 | 2021 | 池沼 宏、古山浩子、小懸 綾、季斌、山田貴史、永井裕司、阿部潤一郎、市瀬正則、加藤隆司、鈴木正昭、木村泰之. RIPK1を標的とした新規PETリガンド開発の試みと有効性の評価. 第61回日本核医学会学術総会、2021年11月4-6日、名古屋市、国内、ポスター発表 |
| 中村-44 | 2021 | Ikenuma H, Ogata A, Koyama H, Yamada T, Abe J, Ichise M, Kato T, Suzuki M, Ito K, Kimura Y. Development of a novel PET ligand for receptor-interacting protein kinase 1 in brain. NRM 2021 MAPPING NEURORECEPTORS AT WORK. 14 Dec 2021, online、国外、ポスター発表 |
| 中村-45 | 2021 | Ogata A, Yamada T, Abe J, Ichise M, Ikenuma H, Koyama H, Suzuki M, Kato T, Ito K, Kimura Y. PET imaging of [11C]NCGG401 for colony stimulating factor 1 receptor. NRM 2021 MAPPING NEURORECEPTORS AT WORK. 14 Dec 2021, online、国外、ポスター発表 |
| 中村-46 | 2021 | Sakai T, Yamada T, Ikenuma H, Ogata A, Ichise M, Hattori S, Abe J, Suzuki M, Ito K, Kato T, Imamura S, Kimura Y. Development of novel PET ligands to image the Receptor Interacting Protein Kinase 1. NRM 2021 MAPPING NEURORECEPTORS AT WORK, 14 Dec 2021, online、国外、ポスター発表 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 中村-47 | 2021 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑豊、中村昭範、伊藤健吾、ADSAT Study GROUP. 認知症診断における[18F]MK-6240の使用初期経験. 第61回日本核医学会学術総会、2021年11月4-6日、名古屋市、国内、口演 |
| 中村-48 | 2021 | 櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑豊、中村昭範、伊藤健吾、ADSAT Study Group. 認知症における18F-MK-6240の集積分布 - 視覚的評価を中心に?. 第61回日本核医学会学術総会、2021年11月4-6日、名古屋市、国内、口演 |
| 中村-49 | 2021 | 境 崇行、服部沙織、小縣 綾、山田貴史、阿部潤一郎、池沼 宏、市瀬正則、鈴木正昭、加藤隆司、伊藤健吾、木村泰之. PETイメージングを用いたラット脳内NET密度測定とNE濃度に関する研究. 第61回日本核医学会学術総会、2021年11月4-6日、名古屋市、国内、口演 |
| 中村-50 | 2021 | 小縣 綾、山田貴史、服部沙織、池沼 宏、阿部潤一郎、鈴木正昭、加藤隆司、伊藤健吾、木村泰之. 脳内に発現するCasein kinase 2を標的とした新規PETリガンドの開発. 第61回日本核医学会学術総会、2021年11月4-6日、名古屋市、国内、口演 |
| 中村-51 | 2021 | 大島禎生、古山浩子、小縣 綾、池沼 宏、木村泰之、加藤隆司、鈴木正昭. 中枢神経保護作用をもつギンセノシド類の11C標識化とPETイメージング. 第52回中部化学関係学協会支部連合秋季大会、2021年10月30-31日、静岡市、国内、口演 |
| 中村-52 | 2021 | 加藤隆司. シンポジウム：Centiloid scale によるアミロイドPET の半定量評価. 治験即応コホート. 第40回日本認知症学会学術集会、2021年11月28日、東京、国内、シンポジウム |
| 中村-53 | 2021 | 加藤隆司. 講演：IMP脳血流SPECTによる認知症診断. 第61回日本核医学会学術総会、2021年11月5日、名古屋市、国内、講演 |
| 中村-54 | 2021 | 岩田香織、加藤隆司、鈴木啓介、辻本昌史、二橋尚志、櫻井圭太、木村泰之、西尾正美、小島明洋、中村昭範、井狩彌彦、新美芳樹、石井賢二、千田道雄、伊藤健吾、岩坪 威、J-TRC Study GroupフルテメタモルPET 検査の撮像収集時間の違いがSUVR 値、Centiloid scale 値に与える影響. 第40回日本認知症学会学術集会、2021年11月26-28日、東京 |
| 中村-55 | 2021 | 岩田香織、加藤隆司、新畑 豊、田中美香、鈴木啓介、櫻井 孝、新飯田俊平、伊藤健吾、中村昭範、BATON Study Group認知機能正常者における脳の機能的連結変化と血液A β バイオマーカーの関係. 第40回日本認知症学会学術集会、2021年11月26-28日、東京 |
| 中村-56 | 2021 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑豊、中村昭範、伊藤健吾、ADSAT Study GROUP.AD continuum における18FMK6240 の集積分布 初期使用経験. 第40回日本認知症学会学術集会、2021年11月26-28日、東京 |
| 中村-57 | 2021 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑豊、中村昭範、伊藤健吾、ADSAT Study GROUP.認知症診断における[18F]MK-6240の使用初期経験. 第61回日本核医学会学術総会、2021年11月4-6日、名古屋市 |
| 中村-58 | 2021 | 櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑豊、中村昭範、伊藤健吾、ADSAT Study Group.認知症における18F-MK-6240の集積分布 - 視覚的評価を中心に?. 第61回日本核医学会学術総会、2021年11月4-6日、名古屋市 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 中村-59 | 2021 | 中村昭範.認知症の血液バイオマーカー: 現状及び今後の展望. 認知症における血液バイオマーカーとPET画像診断の将来展望. 第40回日本認知症学会学術集会 アフタヌーンセミナー6、2021年11月27日、東京 |
| 中村-60 | 2021 | 中村昭範. 質量分析による血液A β の測定とその実用化への過程. シンポジウム: 体液バイオマーカーの進歩、臨床への実用化に向けて第40回日本認知症学会学術集会、2021年11月26日、東京 |
| 中村-61 | 2021 | 中村昭範.アルツハイマーにおける血液バイオマーカーの最先端. 日本脳神経外科学会第80回学術総会、2021年10月29日、横浜市 |
| 中村-62 | 2021 | 中村昭範. 認知症のバイオマーカー: 血液バイオマーカー開発の現状と今後の展望を中心. 北海道脳神経外科認知症研究会、2021年10月21日、online |
| 中村-63 | 2021 | 中村昭範.血液バイオマーカーによるアルツハイマー病診断最前線. Nomuraスピーカーシリーズ、2021年9月30日、online |
| 中村-64 | 2021 | 中村昭範 認知症バイオマーカー: 血液による診断評価という新時代血液バイオマーカー開発の現状と認知症医療への貢献の可能性. 第117回日本精神神経学会学術総会、2021年9月19日、京都市 (web参加) |
| 中村-65 | 2021 | 中村昭範 アルツハイマー病のバイオマーカー. 第68回全国国立大学法人病院検査部会議、2021年6月25日、鹿児島市 (web参加) |
| 中村-66 | 2021 | 中村昭範 脳『機能』ドックの可能性を探る-MEGを使った認知機能検査-. MEGによる認知症早期のバイオマーカー探索第30回日本脳ドック学会総会、2021年6月25日、伊勢市 (web参加) |
| 中村-67 | 2021 | 中村昭範,認知症の血液バイオマーカー: 現状及び今後の展望. 第80回日本医学放射線学会総会、2021年4月18日、横浜市 |
| 中村-68 | 2021 | Nakamura A. Plasma Amyloid β Biomarkers: Current status and future directionThe 16th International Symposium on Geriatrics and Gerontology, Dec 18, 2021, online |
| 中村-69 | 2021 | .Plasma Amyloid- β Biomarker using the Immunoprecipitation-Mass Spectrometry AssayKorean Association for Geriatric Psychiatry Annual Meeting 2021, Symposium 1. Blood biomarkers for Alzheimer's disease, Nov 19, 2021, Seoul (online) |
| 中村-70 | 2022 | ワイドターゲットLC-MRM-MS法によるトリグリセリドのプロファイリング, 北芳博,徳岡涼美,Toinon Doriane, 山田真希, 小田吉哉, 第70回質量分析総合討論会, 2022/6/22 -24, 国内 |
| 中村-71 | 2022 | 情報技術を用いたレビー小体病の神経機能解明、口頭,植松 高史, 横田 秀夫, 勝野 雅央,13th バイオメディカルインターフェース・ワークショップ,2022/3/5-7,国内 |
| 中村-72 | 2022 | 質問紙調査でレビー小体病のprodromal症状を有さない健康診断受診者の臨床的特徴、ポスター,平賀経太、服部誠、佐竹勇紀、佐藤茉紀、志水英明、堀明洋、若井正一、勝野雅央,第63回日本神経学会学術大会,2022/5/18-21,国内 |
| 中村-73 | 2022 | パーキンソン病患者における尿中titin濃度の上昇とADLとの関連、ポスター,佐竹勇紀、服部誠、横井克典、平賀経太、坪井崇、佐藤茉紀、鷺見幸彦、新畑豊、鈴木啓介、堀明洋、勝野雅央,第63回日本神経学会学術大会,2022/5/18-21,国内 |
| 中村-74 | 2022 | 質問紙調査でレビー小体病のprodromal症状を有さない健康診断受診者の臨床的特徴、ポスター,平賀経太、服部誠、佐竹勇紀、佐藤茉紀、志水英明、堀明洋、若井正一、勝野雅央,第16回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres,2022/7/21-23,国内 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|---|
| 中村-75 | 2022 | パーキンソン病患者における尿中titin濃度の上昇とADLとの関連、ポスター、佐竹勇紀、服部誠、横井克典、平賀経太、坪井崇、佐藤茉紀、鷺見幸彦、新畑豊、鈴木啓介、堀明洋、勝野雅央、第16回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス、2022/7/21-23,国内 |
| 中村-76 | 2022 | レビー小体病患者における視覚認識機能の検討、ポスター、植松 高史、横田 秀夫、勝野 雅央、生体医工学シンポジウム2022 ,2022/9/9-10,国内 |
| 中村-77 | 2022 | Prodromal cohort of Lewy body disease for development of biomarkers and preventive therapies、口頭、Katsuno M,4th Japan-UK Neuroscience Symposium 2022,2022/9/19-22,国外 |
| 中村-78 | 2022 | Elucidation of neural function and cognitive enhancement in Lewy Body Disease using information technology、口頭、Uematsu T , Tsuboi T, Hiraga K, Satake Y, Tamakoshi D, Fukushima T, Sato M, Yokota H, K, Global Alliance of Medical Excellence The 6th Annual Meeting ,2022/11/3-4,国外 |
| 中村-79 | 2022 | International collaboration for at risk cohort of Lewy body disease、口頭、Katsuno M, Global Alliance of Medical Excellence The 6th Annual Meeting ,2022/11/3-4,国外 |
| 中村-80 | 2022 | Development of a novel diagnostic kit for dementia using blood-derived microRNA (口頭) , 須藤 裕子, 4 th UK-JP Neuroscience symposium, 2022/9/20, 国内 |
| 中村-81 | 2022 | 特別講演: DMT時代を見据えたアルツハイマー病診断・層別化バイオマーカー開発., 徳田隆彦, 日本認知症学会学術集会(第41回), 2022.11.27., 国内 |
| 中村-82 | 2022 | 認知症血液バイオマーカーの最新知見., 徳田隆彦, 日本認知症学会学術集会(第42回), 2022.11.24., 国内 |
| 中村-83 | 2022 | 神経変性疾患の血液バイオマーカーとしての細胞外小胞の有用性., 徳田隆彦, 日本認知症学会学術集会(第42回), 2022.11.24., 国内 |
| 中村-84 | 2022 | 多項目血液バイオマーカーによる認知症病態の層別化., 徳田隆彦, 日本認知症学会学術集会(第42回), 2022.11.26., 国内 |
| 中村-85 | 2022 | 神経変性バイオマーカー探索のための血漿Neurogranin比の解析, ポスター, 金子直樹、高橋亮太、加藤隆司、新畑豊、関谷禎規、岩本慎一、田中耕一、中村昭範、BATON study group, 第42回日本認知症学会学術集会, 2022/11/24~26, 国内 |
| 中村-86 | 2022 | IP-MALDI-MSを用いた血漿Neurogranin分析法の開発, ポスター, 金子直樹・高橋亮太・伊永章史・依田里都子・関谷禎規・岩本慎一・田中耕一, 第70回質量分析総合討論会, 2022/6/23, 国内 |
| 中村-87 | 2022 | IP-MSによる血漿中Neurograninバイオマーカーの探索, ポスター, 金子直樹・高橋亮太、加藤隆司、新畑豊、関谷禎規、岩本慎一、田中耕一、中村昭範、BATON study group, 第41回日本認知症学会学術集会, 2022/11/25~27, 国内 |
| 中村-88 | 2022 | MCIレジストリ (ORANGE-MCI) の解析 (ポスター) , 辻本昌史、鈴木啓介、佐治直樹、櫻井孝、伊藤健吾、鳥羽研二, 第63回日本神経学会学術大会 (東京) , 2022.5.19, 国内 |
| 中村-89 | 2022 | ニューロフィラメントLと認知機能・腸内細菌との関連 (口頭) , 佐治直樹、室谷健太、里 直行、久田貴義、都築 毅、篠原 充、杉本大貴)、新飯田俊平、鳥羽研二、櫻井 孝, 第63回日本神経学会学術大会 (東京) , 2022. 5.21, 国内 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 中村-90 | 2022 | 安野史彦、木村泰之、小縣綾、阿部潤一郎、南博之、二橋尚志、藤井克典、服部沙織、下田信義、渡邊淳、春日健作、池内健、武田章敬、櫻井孝、伊藤健吾、加藤隆司、神経炎症と認知症アジテーション症状との関係:生体内PETイメージング研究、第41回日本認知症学会学術集会、2022年11月26日、東京 |
| 中村-91 | 2022 | 田代学、平岡宏太良、富田尚希、石木愛子、小林良太、四月朔日聖一、メスフィンペリフ、武田和子、草場美津江、菊池昭夫、渡部浩司、麦倉俊司、古川勝敏、加藤隆司、石井賢二、川勝忍、原田龍一、古本祥三、岡村信行、認知症疾患の層別化における[18F]SMBT-1の有用性の検討プロジェクトの経過報告2022、第41回日本認知症学会学術集会、2022年11月26日、東京 |
| 中村-92 | 2022 | 櫻井圭太、金田大太、加藤隆司、木村泰之、岩田香織、伊藤健吾、橋詰良夫、嗜銀顆粒病、アルツハイマー病剖検例における脳萎縮分布 一画像統計解析による検討一、第41回日本認知症学会学術集会、2022年11月26日、東京 |
| 中村-93 | 2022 | 二橋尚志、徳田隆彦、櫻井圭太、建部陽嗣、新畑豊、武田章敬、加藤隆司、中村昭範、BATON Study Group、前頭側頭葉変性症とアルツハイマー型認知症の血液バイオマーカーを用いた鑑別診断能、第41回日本認知症学会学術集会、2022年11月26日、東京 |
| 中村-94 | 2022 | 岩田香織、徳田隆彦、加藤隆司、建部陽嗣、二橋尚志、櫻井圭太、新畑豊、武田章敬、中村昭範、BATON Study Group、ATN対応血液バイオマーカーと脳ネットワークの機能的連結との関連、第41回日本認知症学会学術集会、2022年11月26日、東京 |
| 中村-95 | 2022 | 新美芳樹、佐藤健一郎、富田尚希、岩田淳、塚本忠、加藤隆司、吉山顕次、古和久朋、春日健作、池内健、石井賢二、伊藤健吾、千田道雄、岩坪威、治験即応コホートJ-TRCにおける血漿アミロイドβ測定の有用性に関する検討、第41回日本認知症学会学術集会、2022年11月26日、東京 |
| 中村-96 | 2022 | 中村昭範、徳田隆彦、金子直樹、加藤隆司、建部陽嗣、二橋尚志、櫻井圭太、岩田香織、武田章敬、新畑豊、伊藤健吾、BATON Study Group、血液バイオマーカーによる"ATN"評価システムの可能性、第41回日本認知症学会学術集会、2022年11月26日、東京 |
| 中村-97 | 2022 | 金子直樹、高橋亮太、加藤隆司、新畑豊、関谷禎規、岩本慎一、田中耕一、中村昭範、BATON Study Group、IP-MSによる血漿中Neurograninバイオマーカーの探索、第41回日本認知症学会学術集会、2022年11月25日、東京 |
| 中村-98 | 2022 | 得田久敬、堀川千賀、西田裕紀子、中村昭範、加藤隆司、金田喜久、小畑秀則、櫛木智裕、中井正晃、下方浩史、大塚 礼、地域在住高齢者における脳容積の変化とドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸およびアラキドン酸摂取の関連、Neuro2022、2022年7月2日、沖縄県宜野湾市 |
| 中村-99 | 2022 | Suzuki K, Koyama H, Ogata A, Kimura Y, Ishii H, Nagai Y, Katsuki H, Kimura T, Kato T, Suzuki M.High brain permeability of 11C-labeled peretinoin, guiding to expose drug's novel CNS activity.The13th Congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology, Sep 7-11, 2022, Kyoto |
| 中村-100 | 2022 | Ogata A, Ikenuma H, Nihashi T, Yasuno F, Morishita H, Abe J, Ichise M, Kato T, Ito K, Kimura Y.First-in-Human PET imaging of [11C]NCGG401 for colony-stimulating factor 1 receptor.The13th Congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology, Sep 7-11, 2022, Kyoto |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 中村-101 | 2022 | 櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、中村昭範、伊藤健吾、BATON Study Group. 3DFLAIR法を併用したPETSURFER解析による嗅内野関心領域抽出の改善. 第62回日本核医学会、2022年9月10日、京都市 |
| 中村-102 | 2022 | 櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、中村昭範、伊藤健吾、BATON Study Group. 認知機能正常高齢者における18F-MK-6240の集積分布の評価. 第62回日本核医学会、2022年9月10日、京都市 |
| 中村-103 | 2022 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑 豊、中村昭範、伊藤健吾、BATON Study Group. AD continuumにおける18F-MK-6240の集積分布 第2報. 第62回日本核医学会、2022年9月10日、京都市 |
| 中村-104 | 2022 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、中村昭範、伊藤健吾、MULNIAD Study Group. 歩行習慣と脳内THK-5351, PiB PETの集積との関連. 第62回日本核医学会、2022年9月10日、京都市 |
| 中村-105 | 2022 | 加藤隆司画像ミニレクチャー：言語障害が初発症状の1例. 第17回認知症ファイヤーカンファレンス、2022年7月16日、名古屋 |
| 中村-106 | 2022 | 加藤隆司.疾患修飾薬の登場に向けた認知症画像診断の「課題」と「展望」：認知症分野における神経病理学イメージング：アミロイドとタウ. 第63回日本神経学会学術大会 ランチョンセミナー52、2022年5月21日、東京 |
| 中村-107 | 2022 | AD診断におけるCSF/血液バイオマーカー, 中村昭範, 第81回日本医学放射線学会総会, 2022/4/16, 国内, 口頭.ポスター(Web). |
| 中村-108 | 2022 | プレクリニカル/プロドローマル期アルツハイマー病の病態把握に資するバイオマーカーの開発, 中村昭範, 第17回認知症ファイヤーカンファレンス, 2022/7/16, 国内, 口頭(Web). |
| 中村-109 | 2022 | 認知症の血液バイオマーカーの可能性, 中村昭範, Fujita Bantane Neurosurgical Wednesday Web Seminar, 2022/8/10, 国内, 口頭(Web開催). |
| 中村-110 | 2022 | 3DFLAIR法を併用したPETSURFER解析による嗅内野関心領域抽出の改善, 櫻井圭太, 二橋尚志, 加藤隆司, 岩田香織, 池沼 宏, 木村泰之, 中村昭範, 伊藤健吾, BATON Study Group, 第62回日本核医学会, 2022/9/10, 国内, 口頭. |
| 中村-111 | 2022 | 認知機能正常高齢者における18F-MK-6240の集積分布の評価, 櫻井圭太, 二橋尚志, 加藤隆司, 岩田香織, 池沼 宏, 木村泰之, 中村昭範, 伊藤健吾, BATON Study Group, 第62回日本核医学会, 2022/9/10, 国内, 口頭. |
| 中村-112 | 2022 | AD continuumにおける18F-MK-6240の集積分布 第2報, 二橋尚志, 櫻井圭太, 加藤隆司, 岩田香織, 池沼 宏, 木村泰之, 武田章敬, 新畑 豊, 中村昭範, 伊藤健吾, BATON Study Group, 第62回日本核医学会, 2022/9/10, 国内, 口頭. |
| 中村-113 | 2022 | 歩行習慣と脳内THK-5351, PiB PETの集積との関連, 二橋尚志, 櫻井圭太, 加藤隆司, 岩田香織, 池沼 宏, 木村泰之, 中村昭範, 伊藤健吾, MULNIAD Study Group, 62回日本核医学会, 2022/9/10, 国内, 口頭. |
| 中村-114 | 2022 | アルツハイマー病のバイオマーカー –血液バイオマーカーを中心に–, 中村昭範, 第12回認知症イメージング研究会, 2022/10/22, 国内, 口頭(Web). |
| 中村-115 | 2022 | 前頭側頭葉変性症とアルツハイマー型認知症の血液バイオマーカーを用いた鑑別診断能, 二橋尚志, 徳田隆彦, 櫻井圭太, 建部陽嗣, 新畑 豊, 武田章敬, 加藤隆司, 中村昭範, BATON Study Group, 第41回日本認知症学会学術集会, 2022/11/26, 国内, ポスター. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 中村-116 | 2022 | ATN対応血液バイオマーカーと脳ネットワークの機能的連結との関連, 岩田香織, 徳田隆彦, 加藤隆司, 建部陽嗣, 二橋尚志, 櫻井圭太, 新畑 豊, 武田章敬, 中村昭範, BATON Study Group, 第41回日本認知症学会学術集会, 2022/11/26, 国内, ポスター. |
| 中村-117 | 2022 | 血液バイオマーカーによる"ATN"評価システムの可能性, 中村昭範, 徳田隆彦, 金子直樹, 加藤隆司, 建部陽嗣, 二橋尚志, 櫻井圭太, 岩田香織, 武田章敬, 新畑 豊, 伊藤健吾, BATON Study Group, 第41回日本認知症学会学術集会, 2022/11/26, 国内, ポスター. |
| 中村-118 | 2022 | IP-MSによる血漿中Neurograninバイオマーカーの探索, 金子直樹, 高橋亮太, 加藤隆司, 新畑 豊, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一, 中村昭範, BATON Study Group, 第41回日本認知症学会学術集会, 2022/11/25, 国内, ポスター. |
| 中村-119 | 2022 | アルツハイマー病の早期診断バイオマーカー, 中村昭範, 第34回日本臨床検査医学会関東・甲信越支部総会, 2022/12/3, 国内, 口頭(web). |
| 中村-120 | 2023 | ロボットと AI が実現する研究の自動化・遠隔化 (口頭), 夏目徹, 第22回日本再生医療学会総会, 2023/3/24, 国内 |
| 中村-121 | 2023 | ロボットと AI が実現する研究の自動化・遠隔化 (口頭), 夏目徹, 第97回日本感染症学会総会, 2023/4/28, 国内 |
| 中村-122 | 2023 | AI・ロボティックバイオロジーが切り拓く世界 (口頭), 夏目徹, 日本学術会議公開シンポジウム「研究の自動化とAIが切り拓く科学と社会」, 2023/9/1, 国内 |
| 中村-123 | 2023 | ロボットと AI が実現する研究の自動化・遠隔化 (口頭), 夏目徹, 2023年度産総研OPERANDO-OIL・COMS・量子ビーム計測クラブ合同研究会, 2023/11/29, 国内 |
| 中村-124 | 2023 | Elucidation of neural function and cognitive enhancement in Lewy body disease using information technology、ポスター,Uematsu T, Yokota H, Katsuno M,第4回CIBoGリトリート,2023/2/18,国内 |
| 中村-125 | 2023 | Elucidation of neural function and cognitive enhancement in Lewy body disease using information technorology、ポスター,Uematsu T, Tsuboi T, Hiraga K, Satake Y, Tamakoshi D, Fukushima T, Sato M, Yokota H, Katsuno M,第64回日本神経学会学術大会,2023/5/31-6/3,国内 |
| 中村-126 | 2023 | レビー小体病患者・レビー小体病ハイリスク者の嗅覚機能評価におけるNOS-DX1000の有用性の検討、ポスター,福島大喜、平賀経太、玉腰大悟、佐竹勇紀、服部誠、植松高史、佐藤茉紀、坪井崇、勝野雅央,第64回日本神経学会学術大会,2023/5/31-6/3,国内 |
| 中村-127 | 2023 | レビー小体病の非運動症状を有する集団における、レビー小体病前駆期患者検出の試み、ポスター,玉腰大悟、服部誠、佐竹勇紀、平賀経太、坪井崇、佐藤茉紀、志水英明、山本昌幸、若井正一、勝野雅央,第64回日本神経学会学術大会,2023/5/31-6/3,国内 |
| 中村-128 | 2023 | パーキンソン病のprodromal症状を有する集団における尿中titin濃度の上昇、ポスター,佐竹勇紀、服部誠、平賀経太、玉腰大悟、坪井崇、佐藤茉紀、志水英明、山本昌幸、若井正一、勝野雅央,第64回日本神経学会学術大会,2023/5/31-6/3,国内 |
| 中村-129 | 2023 | レビー小体病患者およびレビー小体病ハイリスク者における神経変性関連血液バイオマーカーに関する検討、ポスター,平賀経太、服部誠、佐竹勇紀、玉腰大悟、坪井崇、佐藤茉紀、志水英明、山本昌幸、若井正一、横井克典、鈴木啓介、新畑豊、鷲見幸彦、中村昭範、徳田隆彦、勝野雅央,第64回日本神経学会学術大会,2023/5/31-6/3,国内 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 中村-130 | 2023 | レビー小体病患者・レビー小体病ハイリスク者の嗅覚機能評価におけるNOS-DX1000の有用性の検討、ポスター,福島大喜、平賀経太、玉腰大悟、佐竹勇紀、服部誠、植松高史、佐藤茉紀、藤田修二、生熊良規、坪井崇、勝野雅央,第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres,2023/7/20-22,国内 |
| 中村-131 | 2023 | レビー小体病の非運動症状を有する集団における、レビー小体病前駆期患者検出の試み、ポスター,玉腰大悟、服部誠、佐竹勇紀、平賀経太、坪井崇、佐藤茉紀、志水英明、山本昌幸、若井正一、勝野雅央,第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres,2023/7/20-22,国内 |
| 中村-132 | 2023 | パーキンソン病のprodromal症状を有する集団での尿中titin濃度とDaT SPECTとの関連、ポスター,佐竹勇紀、服部誠、平賀経太、玉腰大悟、坪井崇、佐藤茉紀、志水英明、山本昌幸、若井正一、勝野雅央,第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres,2023/7/20-22,国内 |
| 中村-133 | 2023 | レビー小体病患者およびレビー小体病ハイリスク者における神経変性関連血液バイオマーカーに関する検討、ポスター,平賀経太、服部誠、佐竹勇紀、玉腰大悟、坪井崇、佐藤茉紀、志水英明、山本昌幸、若井正一、横井克典、鈴木啓介、新畑豊、鷺見幸彦、中村昭範、徳田隆彦、勝野雅央,第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres,2023/7/20-22,国内 |
| 中村-134 | 2023 | コホート研究の成果を踏まえた精神疾患と神経変性疾患との連続性、口頭,勝野雅央,第53回日本神経精神薬理学会年会,2023/9/7,国内 |
| 中村-135 | 2023 | Multimodal Analysis of Parkinson's Disease Using Information Technologies、口頭,Uematsu T、Tsuboi T、Hiraga K、Tamakoshi D、Fukushima T、Sato M、Yokota H、Katsuno M、Global Alliance of Medical Excellence The 7th Annual Meeting,2023/11/22-23,国外 |
| 中村-136 | 2023 | Clinico-imaging features of high-risk subjects for developing Lewy body disease and utility of plasma biomarkers of neurodegeneration、口頭,Hiraga K、Katsuno M、Global Alliance of Medical Excellence The 7th Annual Meeting,2023/11/22,国内 |
| 中村-137 | 2023 | International collaboration for at risk cohort of Lewy body disease、口頭,Katsuno M、Global Alliance of Medical Excellence The 7th Annual Meeting,2023/11/23-24,国外 |
| 中村-138 | 2023 | Elucidation of visual function in Parkinson's disease using information technology、ポスター,Uematsu T、Tsuboi T、Hiraga K、Tamakoshi D、Fukushima T、Sato M、Nishida K、Yokota H、Katsuno M、第5回CIBoGリトリート,2024/2/16,国内 |
| 中村-139 | 2023 | Biomarker analysis in prodromal cohort of Lewy body disease、口頭,Katsuno M、The 23rd "Takamatsu" International Symposium for PD & MD in TOKYO,2024/3/16,国外 |
| 中村-140 | 2023 | 血中マイクロRNAを用いた認知症疾患の層別化（ポスター）、須藤 裕子、日本認知症学会、2023/11/25、国内 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 中村-141 | 2023 | Development and Comparison of a Novel Mid-Region Directed p-Tau 181 Assay with Tau Positron Emission Tomography in Alzheimer's Disease., Tagai K, Tatebe H, Matsuura S, Hong Z, Kokubo N, Matsuoka K, Endo H, Oyama A, Hirata K, Shinotoh H, Kataoka Y, Matsumoto H, Oya M, Kurose S, Takahata K, Ichihashi M, Kubota M, Seki C, Shimada H, Takado Y, Kawamura K, Zhang MR, Higuchi M, Tokuda T., The Alzheimer's Association International Conference 2023 (AAIC23), 2023.7.17., 国外 |
| 中村-142 | 2023 | トークセッション4：認知症の体液バイオマーカー: overview., 徳田隆彦, AMED認知症研究者交流会（第1回）, 2024.2.23., 国内 |
| 中村-143 | 2023 | Validation of a Glucose Metabolism to Tau Deposition Ratio Image in the Alzheimer's Continuum・ポスター, K. Ishii, T. Yamada, K. Hanaoka, H. Kaida, K. Ishii, T. Kato, A. Nakamura, BATON Study Group., SNMMI 2023, 2023年6月24日, 国外 |
| 中村-144 | 2023 | Initial study of an algorithm for estimating the presence of amyloid accumulation from 18F-FDG PET images using machine learning.・ポスター, T. Yamada, K. Hanaoka, Hayato Kaida, K. Ishii., Brain & BrainPET 2023, 2023年6月12日-15日, 国外 |
| 中村-145 | 2023 | アミロイドPET撮像判断のための生成系AIによるFDG画像からのアミロイド画像合成の検討.・口頭, 本田実沙、山田誉大、永岡 隆、三上勝大、根本充貴、花岡宏平、甲斐田勇人、石井一成、木村裕一., 第5回 日本核医学会近畿支部会, 2023年7月8日, 国内 |
| 中村-146 | 2023 | AIで生成したアミロイド画像におけるスライス間の連続性の評価.・口頭, 渡邊 綾、山田誉大、永岡 隆、根本充貴、渡部浩、茨木正信、松原佳亮、花岡宏平、甲斐田勇人、石井一成、木村裕一., 第63回日本核医学会学術総会, 2023年11月17日, 国内 |
| 中村-147 | 2023 | 認知症のための脳核医学ー疾患修飾薬の発展を踏まえてー・口頭, 石井一成, 第63回日本核医学会学術総会, 2023年11月18日, 国内 |
| 中村-148 | 2023 | 松井 寛樹, 酒井 義人, 渡邊 剛, 若尾 典充, 長田 直祥, 金子 怜奈, 新畑 豊, 山岡 朗子. パーキンソン病患者における脊椎バランスの特徴. 第96回日本整形外科学会学術総会 2023.5.11 横浜 (ポスター) |
| 中村-149 | 2023 | 松井 寛樹, 酒井 義人, 若尾 典充, 長田 直祥, 新畑 豊, 山岡 朗子, 辻本 昌史. パーキンソン病における脊椎バランス, 骨格筋量の特徴 パーキンソン病患者データベースから. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2023.4.13 札幌 (ポスター) |
| 中村-150 | 2023 | 平賀 経太, 服部 誠, 佐竹 勇紀, 玉腰 大悟, 福島 大喜, 坪井 崇, 佐藤 茉紀, 志水 英明, 山本 昌幸, 若井 正一, 横井 克典, 鈴木 啓介, 新畑 豊, 鷺見 幸彦, 中村 昭範, 徳田 隆彦, 勝野 雅央. レビー小体病患者およびハイリスク者の神経変性関連血液バイオマーカーに関する検討. 第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres 2023.7.20 大阪 (ポスター) |
| 中村-151 | 2023 | 今井絵里子、横井克典、辻本昌史、鈴木啓介、山岡朗子、堀部賢太郎、武田章敬、新畑豊、鷺見幸彦. パーキンソン病の薬物治療開始時期と予後の検討. 第64回日本神経学会学術大会 2023.5.31 幕張 (ポスター) |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 中村-152 | 2023 | 平賀 経太, 服部 誠, 佐竹 勇紀, 玉腰 大悟, 坪井 崇, 佐藤 茉紀, 志水 英明, 山本 昌幸, 若井 正一, 横井 克典, 鈴木 啓介, 新畑 豊, 鷺見 幸彦, 中村 昭範, 徳田 隆, 勝野 雅央. レビー小体病患者およびハイリスク者の神経変性関連血液バイオマーカーに関する検討. 第64回日本神経学会学術大会2023.5.31 幕張 (ポスター) |
| 中村-153 | 2023 | 新畑 豊. 第10回メディカルスタッフセミナー 認知症の基礎知識 座長 第64回日本神経学会学術大会 2023.6.3 幕張 (口演) |
| 中村-154 | 2023 | Cai C, Kato T, Iwata K, Arahata Y, Nakamura A, MULNIAD study group. Altered functional connectivity between the primary visual cortex and cerebellum in Alzheimer's disease. IAGG-AOR 2023, 12 Jun 2023. Yokohama (口演) |
| 中村-155 | 2023 | Sinozaki M, Gondo Y, Miura R, Satake S, Takeda A, Arahata Y, Sakurai T. Exploration of neuropsychological test measures to discriminate between patients with subjective cognitive impairment who will and will not develop cognitive decline. IAGG-AOR2023, 12 Jun 2023. Yokohama (poster) |
| 中村-156 | 2023 | Sinozaki M, Gondo Y, Yasuoka M, Tanimoto M, Yamaoka A, Satake S, Kondo I, Arai H, Arahata Y. Frailty-related factors affecting the life expectancy of older hospitalized patients after acute care. IAGG-AOR2023, 12 Jun 2023. Yokohama (poster) |
| 中村-157 | 2023 | 常設展示「老い」(仮称)に関する監修(監修), 櫻井 孝, 国立研究開発法人科学技術振興機構日本科学未来館, 2023.4, 国内 |
| 中村-158 | 2023 | The multidomain intervention trial for prevention of dementia among older adults with type 2 diabetes: a multi-center, randomized, 18-month controlled trial. (ポスター), Sugimoto T, Araki A, Fujita H, Fujita K, Honda K, Inagaki N, Ishida T, Kato J, Kishi M, Kishino Y, Kobayashi K, Kouyama K, Kuroda Y, Kuwahata S, Matsumoto N, Noma H, Ogino J, Ogura M, Ohishi M, Shimada H, Sugimoto K, Takenaka T, Tamura Y, Tokuda H, Uchida K, Umegaki H, Sakurai T, and J-MIND-Diabetes study group., Alzheimer's Association International Conference (AAIC) 2023 Amsterdam, 2023.7.19, 国外 |
| 中村-159 | 2023 | The Japan-multimodal intervention trial for prevention of dementia (J-MINT): a multi-center, randomized, 18-month controlled trial. (口頭), Sakurai T, Arai H, 19th European Union Geriatric Medicine Society.Helsinki., 2023.9.20, 国外 |
| 中村-160 | 2023 | 一人暮らし、認知症「2025問題」に向き合う リスクを低減する行動とは? (執筆), 櫻井 孝, Wedge ONLINE, 2024.1.12, 国内 |
| 中村-161 | 2023 | シンポジウム「薬を使わない認知症の予防と今後の展開」(口頭), 櫻井 孝, 認知症医療介護推進フォーラム, 2024.1.21, 国内 |
| 中村-162 | 2023 | お薬を使わない認知症の発症予防 (口頭), 櫻井 孝, 国立長寿医療研究センター市民公開講座2024(愛知), 2024.2.24, 国内 |
| 中村-163 | 2023 | 岩崎千絵、大森智織、須藤裕子、平賀経太、勝野雅央、山田誉大、石井一成、新飯田俊平、文堂昌彦、加藤隆司、中村昭範. 血中マイクロ RNA を用いた認知症疾患の層別化. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月25日、奈良市 |
| 中村-164 | 2023 | 尚 聡、櫻井圭太、二橋尚志、岩田香織、加藤隆司、伊藤健吾、新畑 豊、武田章敬、中村昭範、BATON Study Group. 異なる解析法における Centiloid スケール一致性の検討—CapAIBL法とVIZCalc法の比較—. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月25日、奈良市 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 中村-165 | 2023 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、木村泰之、伊藤健吾、中村昭範、寺澤晃彦. アルツハイマー型認知症の診断に使用される血液 GFAP の臨床エビデンスマップ. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月24日、奈良市 |
| 中村-166 | 2023 | 金子直樹、高橋亮太、加藤隆司、新畑 豊、関谷禎規、岩本慎一、田中耕一、中村昭範、BATON Study Group. 神経変性バイオマーカー探索のための血漿 Neurogranin比の解析. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月24日、奈良市 |
| 中村-167 | 2023 | 田代 学、平岡宏太良、富田尚希、石木愛子、TEKEA Berihu、WU Yingying、原田龍一、菊池飛鳥、武田和子、草場美津江、菊池昭夫、古川勝敏、渡部浩司、麦倉俊司、小林良太、川勝 忍、石井賢二、加藤隆司、古本祥三、岡本信行. 新規PET薬剤[18F]SMBT-1を用いたAD疾患連続体の進行予後予測に関する早期観察結果. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月24日、奈良市 |
| 中村-168 | 2023 | 田代 学、平岡宏太良、富田尚希、小林良太、TEKEA Berihu、WU Yingying、原田龍一、菊池飛鳥、武田和子、草場美津江、菊池昭夫、古川勝敏、渡部浩司、麦倉俊司、川勝 忍、石井賢二、二橋尚志、加藤隆司、古本祥三、岡本信行. 認知症疾患の層別化における[18F]SMBT-1の有効性の検討プロジェクトの経過報告2023. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月24日、奈良市 |
| 中村-169 | 2023 | 小林良太、川勝 忍、森岡大智、平岡宏太良、富田尚希、四月朔日聖一、MESFIN Berihu、WU Yingying、武田和子、草場美津江、菊池昭夫、渡部浩司、麦倉俊司、古川勝敏、石井賢二、加藤隆司、原田龍一、古本祥三、岡本信行、田代 学. 前頭側頭葉変性症における[18F]AMBT-1 PET所見. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月24日、奈良市 |
| 中村-170 | 2023 | 安野忠彦、渡邊 淳、木村泰之、山内夢叶、小縣 綾、阿部潤一郎、南 博之、二橋尚志、横井克典、服部沙織、下田信義、春日健作、池内 健、武田章敬、櫻井孝、伊藤健吾、加藤隆司. アルツハイマー型認知症における精神行動症状と血漿IL-6濃度の関係について. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月24日、奈良市 |
| 中村-171 | 2023 | 岩田香織、櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、里 直行、新畑 豊、田中美香、新飯田俊平、中村昭範、BATON Study Group. 認知機能正常高齢者におけるTau病変の拡がりとはTNバイオマーカーとの関係. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月24日、奈良市 |
| 中村-172 | 2023 | Yasuno F, Kimura Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minami H, Nihashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Watanabe A, Kasuga K, Ikeuchi T, Takeda A, Sakurai T, Ito K, Kato T. Involvement of inflammation in the medial temporal region in the development of agitation in Alzheimer's disease: an in vivo positron emission tomography study. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023. June 14, 2023, Yokohama |
| 中村-173 | 2023 | 服部沙織、池沼 宏、山田貴史、小縣 綾、浜島 恵、戸次雄一、阿部潤一郎、市瀬正則、伊藤健吾、加藤隆司、木村泰之. アルツハイマー病モデルラットにおけるアミロイド β とミクログリアの経時的PETイメージング. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月18日、大阪市 |
| 中村-174 | 2023 | 境 崇行、池沼 宏、山田貴史、服部沙織、小縣 綾、戸次雄一、阿部潤一郎、市瀬正則、加藤隆司、伊藤健吾、木村泰之. ヒートショックプロテイン90を標的とする脳PETイメージングリガンドの開発研究. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 中村-175 | 2023 | 池沼 宏、木村泰之、戸次雄一、阿部潤一郎、原田龍一、岡村信行、古本祥三、田代 学、加藤隆司. [18F]SMBT-1のHPLC分析条件の最適化. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |
| 中村-176 | 2023 | 古山浩子、鈴木恵一、渡邊涼夏、木村泰之、小縣 綾、池沼 宏、椎名貴彦、高須蒼生、江坂幸宏、加藤隆司、鈴木正昭. 中枢神経活性11C標識非環式レチノイドの創製と脳内送達分子機構の解明. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |
| 中村-177 | 2023 | 櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑豊、伊藤健吾、中村昭範、BATON Study Group. アルツハイマー病連続体ATN因子におけるカットオフ値の決定 -各種画像検査を用いた検討-. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |
| 中村-178 | 2023 | 二橋尚志、徳田隆彦、金子直樹、櫻井圭太、建部陽嗣、新畑 豊、武田章敬、加藤隆司、伊藤健吾、中村昭範、BATON Study Group. 認知症診断における画像および血液バイオマーカーのカットオフ値の検討. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |
| 中村-179 | 2023 | 加藤隆司、納富恵至、小野北斗、石井賢二、石井一成、岩田香織、櫻井圭太、二橋尚志、中村昭範、BATON Study Group. FlutemetamolアミロイドPETの中央読影における読影者間一致率の検討. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |
| 中村-180 | 2023 | 櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑豊、伊藤健吾、中村昭範、BATON Study Group. 18F-MK6240PETによるアルツハイマー病連続体T (Tau) の評価 -部分容積効果補正の影響-. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |
| 中村-181 | 2023 | 小縣 綾、池沼 宏、二橋尚志、安野忠彦、市瀬正則、服部沙織、佐藤弥生、森下浩、伊藤健吾、加藤隆司、木村泰之. ミクログリア特異的に発現するCSF1Rを標的とした新規脳PET製剤[11C]NCGG401のFirst in human 試験. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |
| 中村-182 | 2023 | 櫻井圭太、加藤隆司、金田大太、橋詰良夫. 強迫神経症で発症し、紛らわしい画像所見を呈した認知症の1例. 第18回認知症ファイヤーカンファレンス、2023年7月1日、Web開催 |
| 中村-183 | 2023 | Cai C, Kato T, Iwata K, Arahata Y, Nakamura A, MULNIAD study group. Altered functional connectivity between the primary visual cortex and cerebellum in Alzheimer's disease. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, June 12, 2023. Yokohama |
| 中村-184 | 2023 | 加藤隆司. 核医学総論・脳. 第11回日本医学放射線学会放射線科レジデントセミナー、2023年12月17日、東京（WEB）（教育講演） |
| 中村-185 | 2023 | 加藤隆司. タウPETイメージング. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市（教育講演） |
| 中村-186 | 2023 | 加藤隆司. シンポジウム「疾患修飾薬の登場でアルツハイマー病診療はこう変わる」：アミロイドPET画像読影の要点と課題. 第39回 Brain Function Imaging Conference (web開催)、2023年10月7日（シンポジウム） |
| 中村-187 | 2023 | 加藤隆司. 変性性認知症のPETイメージング：アミロイド、タウ、神経変性. 第28回東海脳神経核医学研究会、2023年9月2日、名古屋市/Web（特別講演） |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|--|
| 中村-188 | 2023 | 加藤隆司. アミグイッドPETの検査と画像評価. 日本核医学会PET核医学分科会PETサマーセミナー2023、2023年8月26日、成田市（セッション） |
| 中村-189 | 2023 | Kato T.Amyloid, tau, and neuro-degenerative imaging of aging and dementia.Symposium: Innovative Neuroimaging for cognitive impairment and its related disorders.IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, June 13, 2023, Yokohama（シンポジウム講演） |
| 中村-190 | 2023 | 平賀経太、服部 誠、佐竹勇紀、玉腰大悟、坪井 崇、佐藤茉紀、志水英明、山本昌幸、若井正一、横井克典、鈴木啓介、新畑 豊、鷺見幸彦、中村昭範、徳田隆、勝野雅央. レビー小体病患者およびハイリスク者の神経変性関連血液バイオマーカーに関する検討. 第64回日本神経学会学術大会、2023年5月31日、千葉市 |
| 中村-191 | 2023 | Cai C, Kato T, Iwata K, Arahata Y, Nakamura A, MULNIAD study group.Alterd functional connectivity between the primary visual cortex and cerebellum in Alzheimer's disease. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, June 12, 2023. Yokohama |
| 中村-192 | 2023 | 中村昭範. アルツハイマー病の早期診断に役立つバイオマーカー. 第87回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム、2023年5月27日、オンライン開催 |
| 中村-193 | 2023 | 中村昭範. アルツハイマー病の血液診断の可能性. 実地医家スキルアップセミナー1 臨床家が知るべき新しい検査手法第23回日本抗加齢医学会総会、2023年6月11日、東京 |
| 中村-194 | 2023 | 平賀経太、服部誠、佐竹勇紀、玉腰大悟、福島大喜、坪井 崇、佐藤茉紀、志水英明、山本昌幸、若井正一、横井克典、鈴木啓介、新畑 豊、鷺見幸彦、中村昭範、徳田隆彦、勝野雅央. レビー小体病患者およびハイリスク者の神経変性関連血液バイオマーカーに関する検討. 第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres、2023年7月20日、大阪市 |
| 中村-195 | 2023 | 櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑豊、伊藤健吾、中村昭範、BATON Study Group. 18F-MK6240PETによるアルツハイマー病連続体T (Tau) の評価 -部分容積効果補正の影響-. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |
| 中村-196 | 2023 | 加藤隆司、納富恵至、小野北斗、石井賢二、石井一成、岩田香織、櫻井圭太、二橋尚志、中村昭範、BATON Study Group. FlutemetamolアミロイドPETの中央読影における読影者間一致率の検討. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |
| 中村-197 | 2023 | 二橋尚志、徳田隆彦、金子直樹、櫻井圭太、建部陽嗣、新畑 豊、武田章敬、加藤隆司、伊藤健吾、中村昭範、BATON Study Group. 認知症診断における画像および血液バイオマーカーのカットオフ値の検討. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |
| 中村-198 | 2023 | 櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、岩田香織、池沼 宏、木村泰之、武田章敬、新畑豊、伊藤健吾、中村昭範、BATON Study Group. アルツハイマー病連続体ATN因子におけるカットオフ値の決定 -各種画像検査を用いた検討-. 第63回日本核医学会学術総会、2023年11月16日、大阪市 |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|--------|------|---|
| 中村-199 | 2023 | 岩田香織、櫻井圭太、二橋尚志、加藤隆司、里 直行、新畑 豊、田中美香、新飯田俊平、中村昭範、BATON Study Group. 認知機能正常高齢者におけるTau病変の拡がり とATNバイオマーカーとの関係. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月24日、奈良市 |
| 中村-200 | 2023 | 金子直樹、高橋亮太、加藤隆司、新畑 豊、関谷禎規、岩本慎一、田中耕一、中村昭範、BATON Study Group. 神経変性バイオマーカー探索のための血漿 Neurogranin比の解析. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月24日、奈良市 |
| 中村-201 | 2023 | 二橋尚志、櫻井圭太、加藤隆司、木村泰之、伊藤健吾、中村昭範、寺澤晃彦. アルツハイマー型認知症の診断に使用される血液 GFAP の臨床エビデンスマップ. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月24日、奈良市 |
| 中村-202 | 2023 | 尚 聡、櫻井圭太、二橋尚志、岩田香織、加藤隆司、伊藤健吾、新畑 豊、武田章敬、中村昭範、BATON Study Group. 異なる解析法における Centiloid スケール一 致性の検討ー CapAIBL法とVIZCalc法の比較ー. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月25日、奈良市 |
| 中村-203 | 2023 | 岩崎千絵、大森智織、須藤裕子、平賀経太、勝野雅央、山田誉大、石井一成、新飯田俊平、文堂昌彦、加藤隆司、中村昭範. 血中マイクロ RNA を用いた認知症疾患の層別化. 第42回日本認知症学会学術集会、2023年11月25日、奈良市 |
| 夏目-1 | 2019 | バイオ未来予想図～イノベーションと社会基盤について～ 夏目徹*、橋田浩一*、瀬々潤*、中江裕樹* JMACシンポジウム 2020年1月24日（口頭） |
| 夏目-2 | 2020 | ロボットと人工知能で拓くライフサイエンスの未来, 夏目徹, 第124回日本眼科学会総会, 2020年4月, 口頭. |
| 夏目-3 | 2020 | ロボットと人工知能で拓くライフサイエンスの未来, 夏目徹, 第16回TOLICカンファレンス, 2020年7月 口頭. |
| 夏目-4 | 2020 | 医療MyDataの展望, 橋田浩一, 第79回日本癌学会学術総会, 2020年10月, 口頭. |
| 夏目-5 | 2020 | ロボットと人工知能で拓くライフサイエンスの未来, 夏目徹, 第69回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第67回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 2020年10月, 口頭. |
| 夏目-6 | 2020 | ロボットと人工知能で拓くライフサイエンスの未来, 夏目徹, CBI学会2020年大会, 2020年7月, 口頭. |
| 夏目-7 | 2020 | AI駆動型実験ロボットによる科学研究の加速, 夏目徹, 学術フォーラム「コロナとの共生の時代における分析化学の果たす役割」, 2020年10月, 口頭. |
| 夏目-8 | 2020 | 血漿プロテオミクスと血漿メタボロミクス・リポドミクスによる臨床検体解析, 小田吉哉, 徳岡涼美, 浜野文三江, 安藤 智宏, 伊井雅幸, 夏目 徹, 第5回 Liquid Biopsy 研究会, 2021年1月23日, 口頭. |
| 夏目-9 | 2020 | AI・ロボットで実現するライフサイエンスの自動化・遠隔化, 夏目徹, 2021年1月26日, 第8回JMACシンポジウム, 口頭. |
| 夏目-10 | 2020 | ロボットとAIが実現する研究の自動化・遠隔化, 夏目徹, 2021年第68回応用物理学会春季学術講演会, 2021年3月16日, 口頭. |
| 夏目-11 | 2020 | Decentralized Management and Utilization of Personal Data. Kôiti Hasida, SFDI2020: Fourth Workshop on Software Foundations for Data Interoperability, 2020-09-04. (招待講演), 口頭. |

| 番号 | 年度 | 題名 |
|-------|------|--|
| 夏目-12 | 2020 | 医療MyDataの展望. 橋田 浩一, 第79回日本癌学会学術総会 特別シンポジウム「ゲノム医療時代におけるビッグデータ」, 2020年10月1日, リーガロイヤルホテル広島. (招待講演), 口頭. |
| 夏目-13 | 2020 | PLRによるパーソナルデータの分散管理とヘルスケア等への応用. 橋田 浩一, 第30回日本乳癌検診学会学術総会, 2020年11月23日. (招待講演) 口頭. |
| 夏目-14 | 2020 | 臨床メタボロミクスによる層別化研究の実現に向けて, 安藤智広, 自社(Axcelead Drug Discovery Partners株式会社) WEBセミナー, 2021年3月, 口頭. |
| 夏目-15 | 2020 | “Ensuring quality and accuracy in genetic testing and the role of international standardization”, Hiroki NAKAE, AOAC 2020 Annual Meeting (Web), September 15, 口頭 |